

意識の国際比較における 連鎖的調査分析方法の 実用化に関する研究

——国民性の国際比較の為のマニュアル——

1995年3月

統計数理研究所

〒106 東京都港区南麻布4-6-7

当研究所では、

Annals of the Institute of Statistical Mathematics

統計数理

Computer Science Monographs

Research Memorandum

統計数理研究所研究リポート

統計計算技術報告

統計数理研究所共同研究リポート

を発行している。統計数理研究所研究リポートは、研究調査のデータの発表を目的とし、必要に応じて発行する。

All rights reserved. No part of this publication may be reproduced or transmitted in any form or by any means, electronic or mechanical, including photocopy, recording, or any information storage and retrieval system, without permission in writing from the institute.

統計数理研究所

〒106 東京都港区南麻布 4-6-7

TEL 03-3446-1501(代)

意識の国際比較における 連鎖的調査分析方法の 実用化に関する研究

—— 国民性の国際比較の為のマニュアル ——

1995年3月

統計数理研究所

〒106 東京都港区南麻布4-6-7

研究組織

研究代表者 :

(平成 4 年度) 鈴木 達三(統計数理研究所 名誉教授)
(平成 5 - 6 年度) 吉野 諒三(統計数理研究所 領域統計研究系 助教授)
研究分担者 : 林 知己夫(統計数理研究所 名誉教授)
研究分担者 : 三宅 一郎(神戸大学 法学部 教授)(1992-1993年度)
研究分担者 : 佐々木正道(兵庫教育大学 学校教育学部 教授)
研究分担者 : 村上 征勝(統計数理研究所 領域統計研究系 教授)
研究分担者 : 林 文(東洋英和女学院大学 人文学部 助教授)

目次

第1部 総論

- 1章 序
- 2章 国際比較調査の手続きの概要
- 3章 調査遂行上の注意

第2部 各論

- 1章 標本調査のデザイン
- 2章 翻訳と再翻訳
- 3章 質問票・共通ファイル形式と7ヶ国比較の単純集計表
- 4章 統計的分析例

- 付録
- 1. 海外調査の為の日本側代理店との契約について
 - 2. オランダ調査のために調査代理店へ提示した調査仕様書
 - 3. オランダ調査のための調査代理店との契約書
 - 4. 米国調査票

はしがき

この研究の目的は、異なる文化圏に属する人々の意識構造の比較研究のための方法論を確立し、それを具体的に適用して国際理解、国際協力の基礎となるべき知見を得ることである。連鎖的国際比較調査方法とそれに基づく統計的データ解析法が、この中心的役割をなす。この報告書は、1985-1989年度文部省科学研究費・特別推進研究「意識の国際比較方法論」の研究成果に基づき、これを発展、確立することを目指した1992-1994年度文部省科学研究費・試験研究(A)「意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究」の成果をとりまとめたものである。

特別推進研究では、調査対象の国としては、日本、イギリス、フランス、ドイツ、アメリカ（ハワイを含む）をとりあげ、国による比較のための連鎖を形成した。次に、質問内容に関して、連鎖的国際比較可能性を追求するため、対象国に関する情報を収集、各国に共通すると思われる質問群を構成し、各國同一の質問票を作成した。これを各国語に翻訳し、予備調査、再翻訳（バック・トランスレーション）、各国研究者との意見交換などを通して、検討を重ね、各國版の質問票を完成した。各々の国・場所における適切な標本計画を立て、これに基づいて標本を抽出し、1対1面接法により調査を実施した。得られた回答データから、比較のための共通フォーマットのファイルを作成し、種々の統計的データ分析を行った。

通常の分析法の他、ダイナミックな立場から考えの筋道を明らかにする数量化の方法等を用い、各国の意識の同じところ、異なっているところを明らかにした。ここで明らかになってきたことは、従来巷間に言われていたことの確認にとどまらず、さらに従来の考え方では考え及ばなかった深い知見が得られ、詳細な分析結果を得ることができた。こうして、国際比較の連鎖的調査分析法の有効性を確認することができ、連鎖的国際比較の方法論が確立した。

この成果を受けて、試験研究(A)では、さらにイタリアとオランダにおける調査を遂行し、われわれの連鎖的比較の方法を実用化するための研究を進め、その成果をここに報告する次第である。

つぎに、本研究の報告書の構成を説明しよう。内容は、7ヶ国の調査データをまとめて分析した「総合報告書」が第1分冊、将来、国際比較調査を遂行される方々への参考書としてまとめた「国民性の国際比較調査の為のマニュアル」が第2分冊、これに資料としてイタリアとオランダ調査の「回答コード・ブック」と「自由回答データ」をまとめたものが、各國毎に2冊ずつで、第3・4分冊、第5・6分冊となっている。

我々は、この研究を遂行していく中で、社会・人文分野の科学的研究にあっても、明確な方法論、データ獲得の方法とデータ分析の方法、それに基づく分析結果の上に立つ論述のほかに、追試の可能性の条件明示、将来の継続研究を可能にするための基本情報の記載があって初めて「科学的研究」としての意義があるという考えが重要であることを幾度となく認識してきた。今後、この成果を土台にし、これを越えた研究をさらに発展させる機縁として本報告が用いられれば幸いである。

研究組織

研究代表者：

(平成 4 年度)

鈴木 達三(統計数理研究所 認定教授)

(平成 5 - 6 年度)

吉野 諒三(統計数理研究所 領域統計研究系 助教授)

研究分担者：

研究分担者：

林 知己夫(統計数理研究所 認定教授)

研究分担者：

三宅 一郎(神戸大学 法学部 教授)(1992-1993年度)

研究分担者：

佐々木正道(兵庫教育大学 学校教育学部 教授)

研究分担者：

村上 征勝(統計数理研究所 領域統計研究系 教授)

研究分担者：

林 文(東洋英和女学院大学 人文学部 助教授)

科学研究費

平成 4 年度 1550 万円

平成 5 年度 1600 万円

平成 6 年度 690 万円

OUTLINE OF THE PROJECT

The purpose of this study was (a) to establish the analytic methods for comparing attitudinal structures among people residing in various cultural contexts, and (b) to utilize such methods to analyze both the existing and the new datasets and acquire basic knowledge that promotes understanding and cooperation among nations. The cultural-link-based international/cross-national comparative survey method and the statistical analytic methods based on it were key to accomplishing our goal. This report puts together the progress of our project "Cultural Link Survey Analytic Method for a Comparison of National Characters using Attitude Survey: Towards its Application" (funded by "Pilot Study (A)" section of the Fund for Scientific Research, by Ministry of Education, Japan, 1992-94). Central to this project were the further development and consolidation of the comparative method established in a previous project entitled "Methods for International Comparison of Attitudes" (funded by "specially promoted project" section of the Fund for Scientific Research, by Ministry of Education, Japan, 1985-89).

In this previous project ("specially promoted project"), Japan, United Kingdom, France, Germany and the United States (including Hawaii) were selected for the survey, and these five countries constituted a "chain" with cultural "linkages" among them. To render effective the cultural-link comparative analyses, the following procedure was followed. To establish the content of the questionnaire, researchers collected the necessary information on each nation and wrote questions that could be used identically or approximately identically across countries. The questions were then translated into each language from Japanese, pilot studies were undertaken, the questions were back-translated, and ideas and opinions were exchanged with researchers in each country, leading finally to the construction of the questionnaire to be used in each country. Samples were drawn via the sampling design most appropriate for each country; and face-to-face interviews were conducted in each of the five nations. Data files, containing questions common to the five nations, were compiled from the data thus collected and analyses undertaken.

In addition to conventional statistical analyses, the quantification method - which clarifies ways of thinking from a dynamic perspective - was used to detect the common and unique elements within each nation's attitudinal structures. Not only did the analysis confirm previous findings and claims, it also led to detailed results and in-depth knowledge not otherwise obtained through conventional analytic methods, confirming therefore the effectiveness of the cultural-link survey analytic method for international comparison.

In the present project ("Pilot Study (A)'), additional data were collected in Italy and the Netherlands, and effort was made to apply our cultural-link-based comparison.

This is rather large as a "report," but we think that it is necessary since a project can qualify as good scientific research, in the field of social sciences and humanities, if it has a clear methodology and provides a detailed and theoretically-informed description of the methods of data collection and data analyses, details of the analyses and of the conditions under which further tests should be conducted. Only when all this information is provided can a project facilitate the continuation of research. We will be very happy if this report is to be utilized to further develop this type of research, beyond the present one.

国民性の国際比較調査の為の
マニュアル

国民性の国際比較調査の為のマニュアル

目 次

第1部 総論	1
1章 序	3
2章 国際比較調査の手続きの概要	6
3章 調査遂行上の注意	12
第2部 各論	19
1章 標本調査のデザイン	21
2章 翻訳と再翻訳	56
3章 質問票・共通ファイル形式と7ヶ国比較の単純集計表	134
4章 統計的分析例	178
付録	261
1. 海外調査の為の日本側代理店との契約について	263
2. オランダ調査のために調査代理店へ提示した調査仕様書	265
3. オランダ調査のための調査代理店との契約書	269
4. 米国調査票	271

第 1 部

総 論

1 章 序

2 章 国際比較調査の手続きの概要

3 章 調査遂行上の注意

第1章 序論

1.1 目的

本書の目的は、過去数十年にわたり統計数理研究所が中心となって遂行してきた「国民性意識の国際比較研究」において積み重ねられてきた経験に基づいた知見を、国際比較調査の実践的ノウハウを必要とする方々に提供することである。

中心となる柱の一つは、「連鎖的比較の調査研究(Cultural Link Analysis)」と呼ばれる国際比較調査の実践的方法論を中心とする調査データの国際比較可能性に関する統計・数理的理論である。

1.2 統計数理研究所の国民性意識調査研究の歴史

統計数理研究所では、1953年以来、約40年にわたって、5年毎に成人の男女を対象に「日本人の国民性意識」に関する調査を継続してきた（水野他、1992、「第5 日本人の国民性」、出光書店を参照）。この研究は、戦後導入された標本抽出理論の実践的応用を進めながら、社会調査の方法論の確立をめざしたものであった。

当初は、必ずしも長年にわたる継続調査を意図していたわけではなかったが、研究の展開と同時に、日本の高度経済成長とそれに伴う日本人の社会意識の変化を目の当たりにし、継続調査の必要性が認識され、今日の研究へとつながるようになったのである。

この継続調査の発展に伴い、多くの実験調査が試みられ、県民性の比較、パネル調査、面接調査と自記式調査との比較、回答変動・回答誤差の統計分析等の研究が生まれた。また、調査回答のような定性的データに適用できる一連の多変量解析法も開発され、「数量化理論（林、1993、朝倉書店）」として確立されている。その他にも、この調査データの分析のために数々の統計・数理的分析法やモデルが提案、応用されたのであった。

この研究は、1970年代初め頃より、国民性をより深く考察する意図で、日本以外に住む日本人・日系人を初めとして、他の国の人々の国民性意識の調査へと拡張してきた。

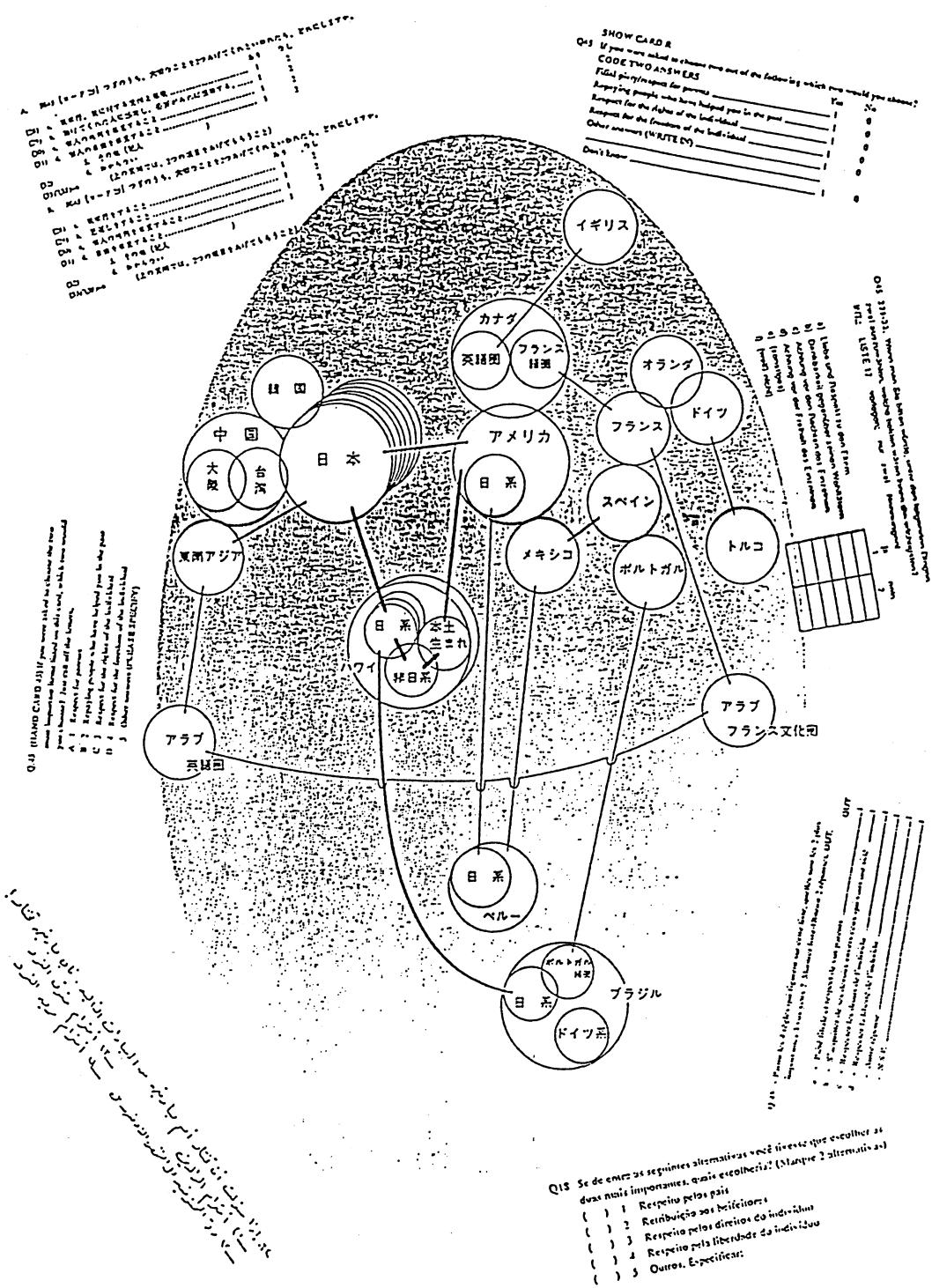
始めから全く異なる国々を比較しても、意味のある比較はできない。言語や民族の源など、何らかの大きな共通点がある国々を比較し、似ている点、異なる点を判明させることによって、はじめて「比較」の意味があるのである。この比較の環を徐々に繋げることによって、比較の連鎖を拡張し、やがてはグローバルな比較も可能になろう。われわれは、この方針の下で、国際比較調査研究を進めて、「連鎖的比較の調査研究(Cultural Link Analysis)」と呼ぶ方法論の確立をめざしてきた。

今までに、我々のグループがこの方法論のもとで調査した地域や国々には、ハワイ、ブラジル、アメリカ本土、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、オランダ、東南アジアの国々が含まれる。

＊＊＊図1＊＊＊

1.3 日欧米における国際比較調査 --- Cultural Link Analysis(CLA)の展開 ---

連鎖的調査法における対象社会の連鎖の図
CULTURAL LINK ANALYSIS FOR COMPARATIVE RESEARCH



「連鎖的比較の調査研究(CLA)」は、我々の1986-1990年度の文部省科学研究費補助による特別推進研究「意識の国際比較方法論の研究」において、本格的な方法論が展開されるようになった。この研究で調査されたのが日本、アメリカ合衆国、イギリス、西ドイツ（東西の統一前）、フランスの5ヶ国であった。調査結果と分析結果は、詳細に報告されている。（特別推進研究報告書20分冊、統計数理研究所レポート70, 71, 72, 73等）

さらに、この研究は、実質的に1992-1994年度の文部省科学研究費補助による試験研究(A)「意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究」として引き継がれ、新たにイタリアとオランダの調査が遂行されたのである。

1.4 本書の構成について

第1部では、総論として簡明に国際比較調査の手続きをまとめる。

1章は、この序論である。

2章では、国際比較調査の手続きのステップの概要を示す。

3章では、2章で示したステップに沿って、実践上の注意を説明する。

第2部では、さらに詳細に国際比較調査の遂行と分析に関する各論をまとめる。

1章では、特別推進研究での5ヶ国と、試験研究(A)のイタリアとオランダでの標本調査の手続きを解説する。

2章では、質問文の外国語翻訳と再翻訳（バック・トランスレーション）のプロセスを具体的に説明する。

3章では、我々の調査収集したデータの単純集計表（磁気フロッピイ・ディスクにいて付録として提供）を示す。

4章では、統計分析の具体例を示す。

付録として、「海外調査の為の日本側代理店との契約について」、オランダ調査のための日本側代理店へ提示した調査仕様書、その契約請負書、及び、米国調査票（英国調査票と異なる部分もある）を載せておく。

第2章 国際比較調査の手続きの概要

この章では、国際比較調査の手続きの概要を、われわれが実施したオランダ調査の場合と関連させて具体的に説明しよう。

このオランダ調査は、われわれの研究グループが、1992-1994年度に文部省科学研究補助金の援助による三ヵ年の試験研究を遂行する一貫として、第二年次にオランダ調査機関NIP0に委託して遂行したものである。したがって、オランダ調査の実施に至るまでの研究グループ内部での準備には、過去の関連する研究の流れ（1986-1990年度の文部省科学研究補助金による特別推進研究）もあり、またオランダ調査計画案が出されてからもメンバーの選定や費用調達等にもかなりの時間が費やされている。しかし、このマニュアルでは、調査費用調達などの諸問題は解決され、調査テーマも確定し、調査実施の具体的準備に入れる段階にある研究グループにとって参考となるべき諸点をまとめることにする。

調査計画の遂行は、主に次の図2のようなステップとして捉えることができよう。

＊＊＊ 図2 ＊＊＊

これらのステップを簡単に説明しよう。（ ）内は、オランダ調査において、われわれの実際に遂行した場合を記した。

ステップ1. ----- 日本語調査票の作成 -----

1.1 調査項目の選定

調査テーマに関連する国内・国外の調査資料を収集する。毎年、内閣総理大臣官房広報室が出版している「全国世論調査の現況」等を参考にし、関連する調査を探しだし、各調査の質問と回答データを収集する。国民性意識に関する調査であれば、統計数理研究所の「日本人の国民性意識調査」や我々の5ヶ国の比較調査等が参考になるであろう。それらを参考にして、そのまま使える質問を選択したり、必要であれば新たな質問文を作成する。新たな作成に当たっては、面接者や回答者の知識水準を考えて、可能な限り面接場面での誤解を避けるように、質問文や回答選択肢の簡易な口語表現を考える。質問によっては、回答者に選択肢を提示するための適当なサイズのカードを作成する。

1.2 調査票

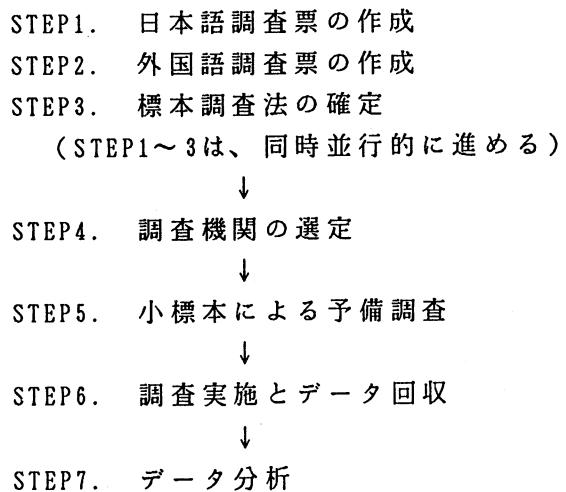
調査票の中で、各質問の順番は、関連する質問はふつうはまとめておくが、あえていくつかは散らせておいて、回答結果を分析し、その一貫性の有無からデータの信頼性を確認することも有り得る。いずれにせよ、この質問の「順番の効果」は少なくないことに注意する。

1.3 フェイス・シート

また、回答者の性別、年齢、職業区分、居住地の町村都市規模の大小区分等の「デモグラフィック・フィギュア（属性）」を記すための「フェイス・シート」をも作成する。契約した調査機関が通常定めているフォーマットをそのまま用いたり、それを一部修正して用いることが多い。また、この中の質問には、一部、調査の本来の質問と重複するものが出でてくることもあるが、重複が多すぎなければ、あえて加えておいて、回答の一貫性をチェックするために利用することもできよう。

（我々は、調査済みの日欧米の6ヶ国調査との比較のため、項目はほとんど、その共通質

第2図 国際比較社会調査の概略ステップ



(注.調査票作成においては、新しく作成された質問以外に、本来の質問が、日本や諸外国での既存の調査から選ばれたものもある。)

間にあわせた。日欧米の6ヶ国調査の項目作成において、主に参照した調査は、以下のとおりである。

フランス82：CREDOCの調査、79、82、84年調査
日本83：「日本人の国民性」83年調査
ハワイ83：ハワイ・ホノルル市民調査
アメリカ78：1978年アメリカ調査
ISR：ミシガン大学社会調査研究所調査
CSS：シカゴ大学NORC：一般社会調査
13ヶ国：1980年13ヶ国価値観調査
ヨーロッパ9ヶ国：ヨーロッパ9ヶ国価値観調査
V：国民性73年調査 II：国民性58年調査
VI：国民性78年調査
NSF：アメリカ1985年調査（科学技術に関する）
SOPRES：フランス1982年調査（同上）
科学技術87：日本1987年3月調査（同上）
Eurobarometer：1987（or 1973）
ALLBUS：1980年、1982年ドイツ一般社会調査

ステップ2. ——国際比較可能な外国語調査票の作成—— —— 調査項目の翻訳とバック・トランスレーション ——

（選びだした質問が、もともと調査該当国での既存の調査に用いられたのであれば、そのまま用いる。この場合は、日本語訳の方のチェックが重要となる。以下では、選び出された質問が本来、日本語であり、これを翻訳し、外国（オランダ）調査を行う場合を想定する。）

日本語とオランダ語に堪能な翻訳者を複数（少なくとも二名）探し、独立して、翻訳させる。この際、日本語質問票のみならず、既に日蘭語以外で表現された同一質問がある場合は、それも翻訳者に利用させるか否かは判断が必要である。一方の翻訳者にだけ、それも利用させるのも一案である。要は、後に、二人の翻訳文において、些末な表現の違いは別として、本質的な差異があるか否かの判別の手がかりが得られるようにすることである。本質的な差があれば、比較検討し、本来の質問の意図を表すように修正する。

複数の翻訳者がいる場合は、「バック・トランスレーション」を利用することも考えられる。即ち、一名が日本語質問をオランダ語に翻訳し、それを他の一名が日本語に翻訳しかえす。それを、本来の日本語質問文と比較検討し、些末な表現の差以上に異なる部分があれば、このバック・トランスレーションによる検討を必要なだけ繰り返すのである。

いずれにせよ、重要なのは、単に日本語をオランダ語に逐語訳することを目指すのではなく、この作業を通して日本とオランダの国情の違いが浮かび上がる部分もあり、比較研究のための知見が得られるということである。この意味で、経歴の異なる複数の翻訳者（なるべく現地人で日本語もかなり堪能で、日本での生活経験のある人）を得て、質問文そのものだけではなく、それに関するオランダの状況の説明や意見を聞くことも重要である。それらの人々の意見の一致を求めるのではなく、むしろ違いを手がかりとして、実状が分かることが多い。現地の調査の専門家の意見の方が、場合によっては的外れであったことであった。

（我々の場合、日本語・オランダ語の双方に堪能な人を探すことがかなり困難であった。通常は、外国語大学や各国の大蔵館、観光局などを通じて、適切な翻訳者を探すのであるが、結局、オランダ調査では、研究メンバーの個人的なコネクションで探し出された一名と、オランダ調査機関NIPPOの担当者の一名とがオランダ語翻訳作業に当たり、その日本語

へのバック・トランスレーションは、我々の日本側代理店R社の探し出した翻訳者〔大学教官〕が担当した。)

ステップ3. 標本調査法の確定

3.1 面接調査、留置調査、郵送法等のいずれの手段を用いるかを決定する。

それぞれの調査法には、手続きや労力、回答の信頼性等について一長一短あり、費用と調査の精度との兼ね合いも考えることが必要である。

郵便法は、コストは比較的少なく回答者にもバイアスがかかりにくいが、回答者が本当に回答したのかを確認しにくい。また、どの方法を探るにしても、実際に回収されるデータは回収率100%でない限り、何らかの偏りが出るものでありそれを考慮しない単純な%数値をそのまま解釈するのは危険である（コストは面接調査が最もかかるが、我々の7ヶ国調査では、面接法に揃えた）。

3.2 サンプリングを、実際にはどのようにするのかを確定する。

b)サンプリングは、通常、「ランダム・サンプリング法」を用いるのが基本で、全国調査のような大規模な調査の場合は、全国を地点区分して、その中から地点を抽出してから、各地点で戸籍や選挙人名簿を利用して回答者をランダム・サンプルするという「二（多）段抽出法」を用いることもある。また、性別、年齢、都市規模、職業区分などの属性カテゴリーごとに関して（確率比例）層別抽出することも多い。

ある属性に着目して、その属性に該当しないものとの比較のために、データに回答者数を考慮したウェイトをかけて分析をする事もある。しかし、当該の属性に該当する回答者が少なすぎると誤差も多くなるので、着目すべき属性があらかじめ分かっている場合は、標本抽出の段階で適切に確率抽出しておくべきである。

（我々は、それまでの日欧米の6ヶ国調査との比較のため同じ面接法を採用。但し、日本以外では標本抽出は欧州の国情により、その変形であるランダム・ルート・サンプリングが用いられた。〔第2部1章参照〕）

ステップ4. 調査機関の選定

比較調査する当該国での全国調査の経験が豊富である調査機関を選定する。例えば、ISSP (International Social Survey Program)という世界的な共通社会調査の各国の実施機関などが候補となろう。既存の機関のディレクトリーは、米国マーケティング協会(American Marketing Association)発刊のGreen Book, ESOMAR (European Society for Opinion and Research)発刊のESOMAR加盟調査機関ディレクトリー(Research Organizations)、英国The Market Research Society発刊のInternational Directory of Market Research Organizations等を参照。

候補が、複数あれば、意図する調査テーマに関連する調査にそれらの機関が慣れているかを検討する。また、同時に質問項目数を考慮して調査費用の見積りを提出させ、予算を考慮して検討する。外国の調査機関との直接交渉が不安な場合は、それらの日本の代理機関を通じて、交渉を進める。日本では、全国ネットワークを持ち、常時調査員を確保している調査会社として、詳しくは、財団法人・日本世論調査協会の会員リストを参照。各調査機関は得意とする調査の領域があるので、留意すべきである。

（オランダ調査では、国際的な調査ISSPのオランダを担当している調査機関NIP0を選択した。但し、契約は、日本のR社が代理となって遂行し、われわれはR社と直接契約を結び、NIP0との交渉にあたらせた。）

ステップ5. 小標本による予備調査

5.1 調査担当者との本調査のための最終打ち合わせ

現地調査担当者とは直接会い、その人のアカデミックなバック・グラウンドなどの経歴、および責任感、人柄を把握することも肝要である。そのため、食事をともにするなど、なるべく打ち解けた世間話ができるような雰囲気のなかで、その人物を判断することも、調査の実行、調査後に問題が上がってきた場合の対応などを考えると重要であろう。

5.2 予備調査の遂行

一応、調査実行計画が定まれば、本調査に先立ち（例えば、2週間前に）、いくつかの代表地点（大都市と、地方の一部など）で、少数の標本を用いて予備調査を遂行する。できれば、調査員に随行して面接の一部に立ち会うことが望ましい。但し、それがプライバシー保護の問題などで困難であれば、調査員の少なくとも一人がテープ・レコーダーを用いて面接の幾つかを録音させることも考えられる。

この時点で、調査担当者は、調査員に指示を与えるのであるが、できる限り立ち会って、その場の状況を把握すべきである。また、調査員や調査担当者から質問を受けることもあろう。

なお、調査員への指示は、

- Interviewer's Manual, ミシガン大学ISR出版
 - Le Manual de l'enquêteur, IFOP (フランス世論研究所) ETMAR出版
- のマニュアルが参考になろう。（本報告書第一分冊の第3章を参照）

5.3 調査員のディ・ブリーフィング（面接状況の説明）

予備調査遂行の結果、調査員から面接調査の状況（質問に誤解され易い表現はなかったか、回答者が理解し難い質問はなかったか、回答者は好意的に答えてくれたか等など）を聞き出す。調査員は、回答者の方から予想外の回答や質問を受けた場合にどのようにすべきかの指示を求めてくることもある。この間に、質問文や回答肢に誤植などの間違いが見いだされることも多い。これらの結果に基づいて、必要な変更をして、調査票（質問と回答肢、回答選択肢の提示カード）の最終版を確定する。また面接時に調査員が注意すべき点を確認する。

ステップ6. 調査実施とデータ回収

回収してきたデータの信頼性を確認するには、まず全質問項目を通して、回答者数が一貫しているか否かを確認する。もし問題があれば、該当する回答者を特定し、さらにその回答者の面接担当者を特定し、再度、回答の確認をさせる。

次に、まずデモグラフィック・データ等を手がかりに簡単な分析を行い、データ・クリーニングをしていく。例えば、学歴（在学年数）、職業、年齢のクロス集計表をつくる（SPSSなどのコンピューターの統計ソフト・パッケージを利用）。若い世代の弁護士、医者、大学教師などは学歴の高い方に属し、農業や漁業に従事する年齢の高い層は学歴の低い方となる傾向があろうから、これを確認する。ただし、注意すべきは、国による制度の違いで、日本の常識には合わないことも有り得るので注意する。いずれにせよ、理解しがたいことが発見されれば、現地調査担当者に説明を求め、不明の場合は該当する回答者に面接した調査員に確認をさせる。

不明な点を早急に発見し、現地調査担当者に説明を求めるることは、当方が詳細にデータ

分析を行おうとしていることを担当者の方にアピールし、それに応じた真摯な仕事の遂行が求められているのだということ認識させることになる。

ステップ7. データ分析

最初は、基本的に属性別の単純集計を詳細に分析する。次に、適当な項目間のクロス・テーブルを分析する事もある（林, 1993, 「行動計量学序説」, 朝倉書店, 参照）。さらに、進んだ分析を行う準備がある者は、数量化理論に基づくパターン分析などの利用も考えられる。（第二部第4章参照）

第3章 調査遂行上の注意

1 調査企画段階における注意

1.1 調査遂行を決意するに当たって

社会調査では、ただ思いついた面白そうな質問についての回答を調査して、数値データを分析するのがすべてではないことに注意。

まず、原則として、

「1回の調査の単問の回答分布だけからでは、意味があり、信頼性も高いことは、何ともいえない」、これに準じて、

「単問の回答分布の国際比較結果だけからでは、意味があり、信頼性も高いことは、何ともいえない」ということを念頭に入れておくべきである。

従って、

- 1) 過去の同様の質問結果と比較するか（時系列データの分析）
- 2) 複数の関連質問のセットの回答パターンを考察するか（例：複数の「人間関係」に関する項目から義理人情スケールの構成）
- 3) 文化の背景の近い国民間の比較をすること（我々の開発している文化の連鎖的調査方法[Cultural Link Analysis], CLAと略す）

等が必要である。

1)については、信頼できる他調査と重複するデータをできるだけ集めることが重要である。2)と3)については、我々の開発している研究（本報告書第一分冊の第二部や、本マニュアルの第二部4章）を参照。

質問票作成にあたっては項目とカード（回答選択肢）提示の有無やその仕方にも注意すること。

また、調査地域に住む複数の研究協力者を得ることも重要である。さらに、日本において直接アドバイスを受けることのできる現地からの留学生なども協力者として参加してもらうことが望ましい。

1.2 かかった費用や時間について

調査準備、調査の契約と遂行、データ分析の各段階で最低1年ぐらいずつの期間を見込んでいた方がよいであろう。数カ国の調査がある一年で遂行する場合は、当然、それ以前の準備段階で十分な時間が用意されているべきであろう。

全国調査では、無作為抽出の1000名の面接調査として、日本や欧米では、1000万円程度の費用が必要となろう。また、為替レートの変動や、調査国での物価上昇に注意が必要である。

我々と代理店との間の契約は、調査データ回収後、契約のとおり納品を確認した後で、一括して費用を払った。代理店と外国の調査機関との間では、為替変動による危険を避け、2回に分割して支払っていた（付録1参照）。

1.3 調査機関の選定

調査機関を選定する際には、以下の点に留意して遂行する調査の内容に即した適切な選択をする必要がある。

調査機関の特質

例えば、イタリアのPRAGMA社は調査方法を顧客の意向に沿って計画を進めるタイプであり、一方、オランダのNIP0社は自己の既成の方法（本来市場調査が専門）に固執するタイプである。こういった方針の違いは、調査計画遂行上色々な側面に影響してくるので注意が必要である。

調査担当者について

調査担当者に直接面会して、知識のバックグラウンドや性格をも含めて確認しておくべきである。意識調査のノウハウがあるか、市場調査のノウハウ（意識調査にプラスのこととも、マイナスのこともありうる）があるかを確認すべきである。例えば、質問文翻訳作成のときは、市場調査では、回答者が答易いことを念頭に置くが、意識調査では回答者に選択の難しい中からの回答を求めることがある。そのため、調査担当者が勝手に、回答選択肢に回答者が答易い「中間回答」を挿入してしまい、結果として国際比較の意味が失われた質問もある。一問あたりの費用を考えると、これは大きなミスとなる。

途中で担当者が代わることの可能性を考える。（我々の場合、代理店の担当者の交代のために、後に思わぬ行き違いに直面してしまった。民間機関・代理店との間の仕事は金銭が絡るので、計画の予想外の事態は、計画完成に、時間も含めて、大きな影響を与えることもありうる。）

なんらかの理由で、データや資料、報告書の納入期限が実質的に守れなくなる可能性もあり得るが、官公庁の機関では年度内の納入が基本であるので、注意が必要である。

また、納入後も、不明な点や不備な点は、調査会社が適切な対応をすべきであるが、実際は、当初の契約期限が切れた後は、極端に対応が遅くなる。また、場合によっては、調査会社側の責任による不備にもかかわらず、契約期限後の仕事として、新たに費用を請求してくることもあり、注意が必要である。場合によっては、法律的な対応も念頭に置いて対処すべきである。

契約している調査会社との連絡は、FAXの方が速く、双方でコピーを保管していくことによって、後日、連絡内容の確認もしやすい。

調査員について

面接調査用のマニュアルとして、次のものが参考になろう。

- Interviewer's Manual. ミシガン大学ISR(Institute for Social Research)発行

2 サンプリング方法の種々

2.1 ランダム・サンプリング

標本調査の理論的基礎は、調査対象の母集団の要素のすべて（例、日本人の成人男女）が記されているリストから、あらかじめ決められたサイズの回答者のサンプルを無作為に取り出す「ランダム・サンプリング」である。サンプル・サイズは、標本抽出にともなう統計誤差を考慮して決める。日本の全国調査では、予定サンプル・サイズは、通常1000人から3000人程度である。その時、標本誤差は、数%程度になると推定される（第2部第2章の標本誤差推定の計算例を参照）。

現実には、全国調査のように広範囲の調査では、回答者に接触するための種々のコストを考えて、「層別多段抽出」によるランダム・サンプリング法が採られることが多い。一例として、我々の研究所による日本の全国調査におけるサンプリング法の実際を簡単に示そう。

統計数理研究所による「第9回日本人の国民性意識調査（1992年10月）」の場合

まず全国の市町村を地方性と人口規模を考慮して層別して、各層より合計300地点を選ぶ。その300地点は、まず市町村を確率比例抽出し（第一段サンプリング）、選ばれた各市町村から投票区を確率抽出する（第二段サンプリング）。最後に、抽出した投票区の有権者名簿より、その地点に割り当てた人数（平均18）のサンプルを等間隔抽出で選ぶ（第三段サンプリング）。計画サンプル数は、全国で5400人である。多段抽出は、回答者と接触する費用、労力を減ずるための手段だが、サンプリング・エラーは増加する。一方、層別抽出は、意図しない標本のバイアスを除き、サンプリング・エラーを減ずる方策である。

先に述べたように、標本調査の理論的基礎はランダム・サンプリングであるが、現実には、今日では戸籍簿や整った選挙人名簿（但し、民間の人は必ずしも自由に閲覧することができない場合がある）のある日本ぐらいでしか可能でなくなりつつある。また日本でも、一般の人々の在宅時間の減少や治安のための回答拒否の増加による社会調査における「データの回収率」低下が大問題となり、社会調査の遂行そのものが危うくなっている。また、国によっても、歴史的発展の中で、上記のサンプリングとは異なる標本抽出法を利用し、そのノウハウを蓄積しているところもある。例えば、欧州の多くの国では、戸籍簿があるわけではなく、また労働者の国境を越えた移動も多く、日本のようなランダム・サンプリングを用いることは難しい。欧州では次節で説明するランダム・ルート・サンプリングを伝統的に利用する国も多い。

2.2 ランダム・ルート・サンプリング

ランダム・ルート・サンプリングは、サンプルにいかなるバイアスがあるのか必ずしも明確ではなく統計学的には好ましくないといわれているが、実質的にヨーロッパの多くの国で用いられているようである。しかし、同じランダム・ルート・サンプリングと称するサンプル抽出法であっても、国や調査機関の事情で多様であり、各場合に具体的手法を吟味する必要がある。以下は、一般論としての説明である。

欧州では、比較的小さな道にまで名称がついていて、その地図やリストが例えば、電話局や郵便局によって発行されている。これをを利用して、そのリストの中から、「道」をランダム・サンプリングし、抽出した道にそって住民を訪問し、あらかじめ決めておいた数の回答者を得る手続きをとることが、伝統的ななされているようである。

実際には、まず選ばれた道の始まり地点の家（例、道の左側）を訪問し、面接調査の許可を求める。ベースディ法（その家の人のうち、これから最初に誕生日を迎える人を選ぶ）などを用いて、その家の家族から回答者を求める。最初は、後日面接調査をするというアポイントメントをとりつけるにとどめることもある。回答を拒否された場合は、その抽出した道に沿って（例えば、道の左側に沿って進み、仮に交差点に出れば、左折する）、次の住民を訪問するのである。

この方法では、見かけ上は回収率が100%となるが、拒否率を考えると、実質上、ランダム・サンプリング流に考えた回収率は、イタリア、オランダ調査では、30-40%程度であっ

た。

全国調査では、まず地域区分地図で地点をランダム・サンプリングして、次に選ばれた各地点で、道のリストを利用してランダム・ルート・サンプリングをする二段抽出法が採られることが多い。

統計的推測の理論的観点からは、ランダム・ルート・サンプリングはあまり望ましくはないと言われているが、社会調査法にも地域や時代の影響があり、すでに歴史的なノウハウが蓄積されている方法として欧洲では利用されているようである。

より詳しくは、第2部1章の我々のイタリア調査（PRAGMA社）とオランダ調査（NIP0）の具体的方法の説明を参照のこと。

3 質問文の翻訳

質問文の翻訳については、一般に誤解も多い。もともとが日本語にせよ外国語にせよ、ある質問文を語学の達人が一語一語ていねいに翻訳すれば、国際比較調査のための質問文が完成されると思うのは、間違いである。単純な逐語訳では役に立たないところに、国際比較調査研究の難しい点があり、また、そこを手がかりに国々の比較が可能となることを認識するのが肝要である。

逐語訳の作業のレベルでも、語源は同じ単語でも違うニュアンスを持つ語があり、注意が必要である。

例：authoritat（仏）≠authority（英）

こういった差が、それぞれの国の社会制度、政治や歴史を反映していることが多いのである。こういった情報は、調査回答の結果の数値からだけでは分からぬものである。

結局、バック・トランスレーション（BT）の繰り返しを利用することが、望ましいと考えられる（第二部2章参照）。しかし、それでも問題は完全に解決されるわけではないし、逆に、その点に本当の文化の差が表れるともいえよう。

我々は、BTで完全に解決できない場合、少し表現の違う質問文を同質のサンプルに用いて比較したが、翻訳の違いによる差はせいぜい10～15%程度であった。（質問文は同じで回答カテゴリーの翻訳に差がある場合 c. f. 日本A調査とB調査の比較）

・最終的な調査結果の各国比較検討による異同の判明

例：「先祖を尊ぶか」ドイツ人には不可解な質問

「家系」 日本と他国では異なる受取り方

「心のやすらぎ」人によっては哲学的すぎて答えが難しい

また、我々の場合、調査票の作成時に、翻訳の仲介者によって回答肢に中間回答“both”を立案者の知らない間に入れられた。これは、回答者が答え易いようにという市場調査に慣れた者の意図であったが、我々の意図と全く逆のもので、他国との直接の比較を不能にしてしまった。一般に、回答カテゴリーの中に、中間的回答肢を挿入する場合としない場合の違いに注意しなければならない。つまり、それを考慮して教えてくれる場合といれないので場合を決定する必要がある。そもそも、一般に、特に日本の場合、回答者はまず「その他」や「分からない」或いは中間回答を選ぶ群と、明確な回答をする群とに分かれるのである。（「数量化」、朝倉書店、林、1994、P. 84参照）

回答カテゴリーにおける大小、強弱の順番は、国によって自然と思われる順番が異なることもありますので注意。その他、DKなどの取扱いも各国での既存の調査に寄せるこ

もあり得る。

また、回答者が答え易いように、各質問の回答選択肢をカードとして提示する場合と、提示しない場合の結果の差異についても注意が必要である。

より詳しくは、第2部2章を参考のこと。

4 データ収集段階の注意

質問票が完成したとして、さらにそれに面接員への指示書をつける必要がある。面接調査員への指示の中には、「訪問した回答者の家までの地図を描かせる」を含ませることによって、面接調査の履行を確実にさせる（調査員による偽造データ捏造を防ぐ）。

後の編集作業等を考えると、例えば、翻訳結果は互換性のあるディスク・フォーマットをして、テキスト形式でデータ入力してもらった方が好ましい。

調査機関のデータの送付の際は、後にデータの細部についてデータの確認が必要となるから、計算機による回答集計データ及び原稿のコピーを、調査実施担当者に保管させるべきである。

5 データ分析を通しての特性の把握

まず、フェイス・シートの分析により、回収されたデータのうちの各属性別の回答者の比率が、母集団である全国民における比率とほぼ同じような分布を示していることを確認すべきである。これにより、標本計画が成功しているか、否かを調べる。極端に偏っている場合は、適切にデータにウェイトをかけなければならないこともあるが、その場合は、対応する属性のサンプルの大きさが極端に小さいと信頼性が小さくなりすぎることもあるので注意。

また、面接時の回答の記入や、データ入力の正誤を確認する意味で、例えば、「医師、弁護士、教師等」の専門職に属する人の「学歴（あるいは、何年間学校へ通ったか）」の回答を調べることが考えられる。常識外の結果が見られる場合は、個票をチェックし、該当する回答者を面接した調査員に再確認させる。

一応、データ・クリーニングができたとして、まず通常は各質問毎の単純集計表を、各國毎に、SPSS等の統計ソフト・パッケージを用いて出力してみる。一般論として、同地域のほぼ同時期に複数の機関による調査の比較をしてみると、理論的には同じ調査方法を用いているにも拘らず、調査機関が異なると全体の傾向として回答分布に5~10%の差が出ることもある。しかし、個々の機関によって絶対値の%の数値は異なっても、各機関ごとの経時的变化の傾向性は一貫していて信頼できるといえよう。

次に一步進めて、クロス表分析（「行動計量学序説」、朝倉書店、「数量化」、朝倉書店、林、p.99参照）等もできる。

まず回答者の属性カテゴリー別（男女の性別、老若の年齢別、学歴の高低、職業別）ごとの、各質問に対する回答分布が比較研究できる。これによって、単純集計の一歩ふみ込んだ比較を行うことができるが、国際比較においては、属性の意味が各国必ずしも同じではないことは注意すべきである。

注) 職業、学歴等の属性カテゴリーは、各国の状況の差から単純には比べ難く、そもそも名目上のカテゴリーと実際が対応しないこともあるので注意する。例えば、英国でのskilled workerは「仕事に慣れた人」程度の意味であるが、ドイツでは「熟練の職人」となる等である(本報告書第1分冊第2部第4章林文の分析例参照)。なお、ヨーロッパの10数ヶ国で定期的(4回/年)に同時遂行されているEurobarometer(EU Committee主催)の調査では、質問文のみならずFace sheetにおける回答者の属性カテゴリー分類も共通となっているので、我々もこれを利用している。

次に、質問間のクロス表分析を行うことができる。例えば、質問1で“Yes”又は“No”と答えた人々は、質問2では、それぞれ何%が“Yes”又は“No”と答えていているか等を分析することである。このクロス分析により、見かけ上は二つの国で、各質問の回答の単純集計結果の全体の回答分布は同じであっても、実は、回答者個人のレベルでの回答パターンがかなり異なっているのを発見できることもある。実際、我々は、初めての海外調査であったハワイ日系人調査のデータ分析から、これを発見し、「考え方の筋道」の分析と称するようになった。(本報告書第1分冊第2部参照)

この単純集計表とクロス集計表だけからも、かなりの情報が得られるので、いたずらに十分理解できていない複雑な統計分析へ進むのは賢明ではない。特に、今日では、統計ソフトのパッケージの普及で、データの尺度の性質等を十分に理解していない者でも機械的に統計手法を用いて数値結果が出力できるのであるが、これは危険である。

より進んだ分析を進める必要がある場合、例えば、幾つもの質問の間の回答パターンをとらえるには、多変量解析を利用しての分析が考えられる。多変量解析(Multivariate Analysis)とは事象を規定する錯綜した複雑な要因が、その事象に作用する働きを見極めるために、事象そのものの多元的測定と、その事象の背後にあると想定される要因の多元的測定から、事象を簡潔に記述し、事象に対する要因の影響を査定し、要因効果の結合法則を探り当てるための一連の統計的手法の総称である。

多変量解析は多くの変数間の相関関係を分析する手法で、扱うデータの種類により以下のように分類される。

- 多変量解析の分類の際に本質的な基準として次の3つがあげられる。
- 1) 外的基準が与えられているか否か。
 - 2) 説明変数(独立変数)、即ち $Y=f(X)$ のXに相当する変数で基準変数(従属変数)であるYに作用し、その変動を説明する変数が序数尺度や名義尺度の非計量データか、比例尺度か間隔尺度の計量データか。
 - 3) 説明変数と基準変数(従属変数)のそれぞれに含まれる変数の数。

(次頁の表を参照)

さらに進んで、自分自身で、いたずらに複雑さへ走らないように、できるだけ簡明な計量・尺度の構成や数理モデルの構築をも試みることもある。但し、常に実証データの収集プロセスから、あまりに離れた机上の空論にならぬように注意することが肝要である。

「自由回答」の取り扱い方

以上は、数値データの分析であるが、「あなたにとって大切なものは何か?」のような質問で回答者に自由に答えさせて得られた「自由回答」データは、通常、いくつかのカテ

グリーに分類して処理、分析されることが多い。しかし、より深い分析を施そうとする時は、例えば「金」と「お金」のような2語も全く同じ回答として取り扱ってよいか否かの判断には慎重であるべきである（Yoshino, 1992 The BIGMT model 利用の分析を参照）。これには、例えば、「金」と答えた回答者の他の質問に対する回答パターンを、「お金」と答えた回答者の他の質問に対する回答パターンと比較分析して判断すること等が考えられよう。

また、L. Lebartは、自由回答データ中の「単語の出現頻度」を分析する手法（統計ソフトウェアSPAD利用）を考案している("Techniques de la Description Statistique Methodes et Logiciels pour L'analyse des Grands Tableaux" by Lebart, Morineau & Tabard, Dunod, Paris, 1977)。

しかし、いずれにせよ、「自由回答データ」分析については、十分に合理的で複雑な統計分析はいまだなく、原票や集計表を慎重に眺めて情報を得るのが良いであろう。

多変量解析法の分類

	説明(独立)変数	基準(従属)変数	
		名義尺度	間隔尺度
外的	重回帰分析	--	複数
基準	正準相関分析	--	複数
の	重判別分析(正準分析)	--	複数
ある	(線型)判別分析	--	複数
場合	数量化一類	複数	--
	数量化二類	複数	--
外的	主成分分析	--	複数
基準	特異値分解	--	複数
の	双対尺度法(数量化三類)	複数	--
ない	クラスター分析	--	(複数)
場合	因子分析	--	(複数)
類似性	数量化四類		
指標を	多次元尺度構成法		
用いる	最小次元解析		
	潜在構造分析		

(1)(複数)は説明変数であっても、基準変数であってもよいことを示す。

(2)因子分析はそのモデル構成において、一方は仮想的に与えられた潜在変数である。

(詳細は、例えば、「行動計量学序説」、朝倉書店、林著、1994、や「多変量解析法」、朝倉書店、柳井・高根著、1977、を参照。)

第 2 部

各 論

1章 標本調査のデザイン

2章 翻訳と再翻訳

3章 質問票・共通ファイル形式と7ヶ国比較の単純集計表

4章 統計的分析例

付録 1. 海外調査の為の日本側代理店との契約について

2. オランダ調査のために調査代理店へ提示した調査仕様書

3. オランダ調査のための調査代理店との契約書

4. 米国調査票

第1章 標本調査のデザイン

1 経過

ここで調査の対象として考える社会は、特別推進研究「連鎖的調査分析方法」のドイツ、フランス、イギリス、アメリカ、および日本の5カ国(1985-1989)と、試験的(A)「意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究」におけるイタリアとオランダの2ヶ国(1992-1994)である。

このうち、日本、アメリカについてはこれまで調査実施の経験があり、今回の研究調査実施計画においてもほとんど問題点はなかった。調査実施の時期とは逆になるが、以下、この二カ国についての概要からのべる。日本調査の標本抽出計画とアメリカ調査の標本抽出計画とは、10年前の1978年に実施した日米比較調査の際の標本抽出計画とはほぼ同様であり、安定した調査結果が得られるものと期待した。

一方、ヨーロッパの5ヶ国に対しては、それ以前に調査実施の経験はないが、1980年以来の研究交流の蓄積があり、現地の研究者および調査機関の研究者と調査実施に関する予備的検討を進め、慎重に準備を進めてきた。したがって、調査を計画実施する段階においてもほとんど問題はなく、計画を円滑に進めることができた。

まず、2節では特別推進研究で調査した5ヶ国について、3節では、試験研究(A)で調査した2ヶ国についての標本抽出計画と実施経過を、各調査機関から報告されたテクニカルレポートに従って、説明する。4節では、サンプリングの誤差推定の計算例について、具体的に例示する。

2 5ヶ国調査における標本抽出計画

2.1 1988年日本調査の標本抽出計画と調査実施の概要

日本の調査の場合は、対象となる社会の範囲、および対象者の範囲について、つぎのように定義すれば、標本抽出計画について極めて明確であり、何らの問題もないと考えられよう(但し、いくつかの問題点については、「標本抽出の計画と方法」鈴木、高橋、1991、放送大学出版、pp. 225-249参照)。

すなわち、表2-1の2の通りである。標本抽出計画は日本においては、まず、全国の行政単位を地方別(11分類)および人口規模別(4分類)に層別し、政令指定都市(11市)を各1つの層と考え、合計55層に層別する。つぎに、各層の18歳以上の人口を最近時の国勢調査資料および住民基本台帳資料により推計し、層人口に比例した割合で各層に標本($n=4500$)を割当てる。つぎに各層の割当標本数に応じて、1調査地点当たり標本数が(10~15)になるようにして各層の調査地点数を算出する。つぎに、各層ごとに国勢調査の調査区を調査区特性で層別した資料から、各層に割当てられた必要な数だけの調査区(調査地点)を確率比例抽出する。

調査対象個人の抽出は、抽出された調査区の該当する市区町村の町丁字番地から各調査地点ごとに住民基本台帳を利用して、割当標本数を等間隔抽出する。

1988年日本調査では、計画標本数4500で抽出地点数は、都市部：243地点、町村部：72地点 計315地点である。調査できた標本数はA調査2265、B調査1017、計3282で回収率は73%であった。（注。質問文の翻訳の問題、即ち、微妙な表現の差異の回答結果への影響をも調べるために、より日本語的表現の「日本調査B」と、国際比較用の「日本調査A」とに分けている。）（表2-1の5参照）

なお、標本抽出計画の詳細については特別推進研究報告書の第4部〔Ⅲ〕および資料1：「1988年日本調査のコードブック及び付属資料」を参照のこと。

第4部〔Ⅲ〕標本と翻訳の検討の§1には、1988年日本調査のうちA調査の結果（n=2265）を用いて全質問項目の標本誤差等を算出してある。また基本属性項目についてはA、B両調査を合わせた（n=3282）計算結果を示してある。この結果からみて、日本調査の調査データは代表性および標本精度について予期通りのものといえる。

国際比較研究を念頭においたとき、日本における標本抽出計画は、日本の社会のあり方にそって構成されており、その特徴は「日本人を母集団とする確率標本が容易に抽出できる」ということにある。

以下、他の比較調査対象社会における標本抽出計画を順に示すが、それらの諸計画と対比したとき、この点はよりはっきりしてくる。

表2-1 「意識の国際比較方法論の研究」の日本全国調査〔調査概要〕

1. 調査内容

政治、社会、文化、及び生活に関する意識：75項目および属性項目
(うち26項目についてはスプリット方式)

2. 調査対象

1) 母集団 全国の満18歳以上の個人
2) 標本数 4,500人(A, B調査2対1のスプリット割当)
3) 抽出法 層別2段無作為抽出法
4) 抽出枠 第1段：国勢調査の調査区、第1段：個人(住民基本台帳)

3. 調査時期

昭和63年10月6日～19日

4. 調査方法

調査員による個別面接聴取法

5. 回収結果

	全体	A調査	B調査
・有効回収数	3,282人(72.9%)	2,265人(73.2%)	1,017人(72.4%)
・調査不能数	1,218人(27.1%)	831人(26.8%)	387人(27.6%)

・設定標本数 4,500人(100.0%) 3,096人(100.0%) 1,404人(100.0%)

転居	114人(2.5%)	70人(2.3%)	44人(3.1%)
長期不在	105人(2.3%)	72人(2.3%)	33人(2.4%)
一時不在	436人(9.7%)	306人(9.9%)	130人(9.3%)
住所不明	33人(0.7%)	24人(0.8%)	9人(0.6%)
拒否	499人(11.1%)	335人(10.8%)	164人(11.7%)
その他	31人(0.7%)	24人(0.8%)	7人(0.5%)
計	1,218人(27.1%)	831人(26.8%)	387人(27.6%)

2.2 1988年アメリカ調査の標本抽出計画

アメリカにおける標本調査の標本抽出計画のうち、日本との相違点は、アメリカでは、調査対象者全体を網羅して記載してある、標本抽出台帳（リスト）として利用できるような名簿がないことである。したがって、調査地点として抽出された地域から、調査対象者個人を抽出するに当たり、調査対象に該当する者全部のリストティングをしなければならない。このようにして作成されたりストを利用して調査対象者の抽出をおこなうことになる。このため、標本抽出の過程が、日本の場合とくらべ、大変手間のかかる作業となる。このため、日本とは異なった標本計画が利用されることが多い。今回の1988年アメリカ調査で利用した標本抽出計画の大要を以下に述べる。

母集団：アメリカ合衆国在住の18歳以上の成人一般市民（病院や刑務所など施設にいる人を除く）

地域の層別：次のように人口規模×地方による。

1)（都市人口規模）：アメリカ全体を、1980年国勢調査資料に基づく都市人口規模別に次の7つの層に分ける

- a) 大都市圏の人口100万以上の市（または複合した市）域
- b) 大都市圏の人口25万から99万9999までの市（同上）域
- c) 大都市圏の人口5万から24万9999までの市（同上）域
- d) 都市圏でそれ以外の市街地域
- e) 都市圏以外の人口2500人以上の市域
- f) 2500以下の町村
- g) 町に含まれない農村部

2)（地方）：つぎにこれらの層を東部、中西部、南部、西部の4地方にわける。各地方の区分は、国勢調査資料の区分である。

このようにしてアメリカ全体は人口規模×地方の層に層別され、各層内を地理的順序に配列する。

調査地域の抽出：このように並べられた市郡人口を180の等しい人口の層（Zone）に分割し、各層から2調査地域を抽出する。各地域の抽出は、その地域の1980年国勢調査資料の人口規模に比例した確率比例抽出法による

調査地点の抽出：ブロック統計が利用できるところでは、調査地域から調査地点として、ブロックあるいはブロックの組を確率比例抽出する。それ以外のところでは、ブロックあるいは地域セグメントのランダム・サンプルをとる。

各調査地点では、調査地点を含む地域の地図上に、抽出されたブロックを取り囲む道路をワク取りし、その道路上にランダムに調査出発点を選定し、それ以降の調査経路、および方向を図示する。（道順の矢印はあらかじめランダムにきめる。）

調査の実施：調査は出発点における住宅の居住者の調査から始め、指示された道順に従ってそれ以降の調査を進め、初めに割当てられた数の調査が終了するまで調査を続ける。すなわち、調査は出発点の住宅から始め、在宅者のうち調査対象資格者（18歳以上）を、世帯について1人だけ次つぎ調査していく方式をとる。

調査は、各人の在宅率を考え、在宅する可能性の高い週末・休日、それに平

日の場合は女性に対しては午後4時以降、男性に対しては午後6時以降に訪問するよう調査員に指示してある。また不在者に対する再訪問をするよりも、在宅率で加重する方式をとった。すなわち、在宅で調査できた対象者には調査前3日間の該当時刻（調査実施可能な時間帯）における在宅の有無を質問し、属性、地域による在宅率を推定し、不在による偏りを減少せざる方式を用いた。
(cf. Politz, A. and Simmons, W., "An Attempt to Get the 'Not at Homes' into the Sample without Callbacks", JOURNAL OF THE AMERICAN STATISTICAL ASSOCIATION, Volume 44, [March, 1949], pp. 9-31.)

調査の概要：このようにして抽出された調査地点 360地点のうち、計画標本数1500に対応する322地点について、各調査地点当たり平均5人ずつ面接調査した。調査不備および調査実施後のチェックにより判明した不完全回答標本を除き、集計に利用したものは1563である。

2.3 1987年ドイツ調査の標本抽出計画

標本抽出計画はドイツの場合もアメリカとほぼ同様である。

母集団：ドイツの場合は、標本抽出計画に利用する地区別有権者数の情報の関係で調査対象集団が16歳以上になっている。1987年ドイツ調査の基本母集団は、ドイツ連邦共和国の10の州と西ベルリン（1987年当時の西ドイツ）の16歳以上の成人である。これらの地域に居住する16歳以上のドイツ人（外国人は除く）は、1985年12月31日現在で4,686万2000である。

地域標本の抽出：標本抽出計画には、ドイツ市場調査協会（ADM）がドイツの選挙人登録者資料をもとに作成しているADM-mastersampleを利用する。ドイツ市場調査協会は、各調査機関ごとの標本計画にかえて、毎年、ドイツの選挙人登録者資料に基づく全国標本計画の方式を開発整備している。これは、地域、人口規模別層別による多段確率標本法による調査地域標本である。100組の地域標本が作成され、調査ごとに1組の地域標本を利用する。各組の抽出調査地域は、全国の210地域（投票区）である。

調査地点内の標本抽出：調査地点内では、地点内の道路について、道路ごとの有権者数の大きさに比例した確率で、確率比例抽出し、その道路のランダム・スタートの番地から指定されたルートに沿って3軒目ごとに調査する。

世帯内では16歳以上の成人で、次の誕生日に関する情報から調査員ごとの乱数によって、世帯について1人を抽出選定し面接調査する、もし不在ならこの標本について訪問時刻をかえて2回までくり返し訪問し面接調査する。1調査地点平均5人の調査を完了するまで調査をおこなう。

調査の実施：調査は1987年10月10日から11月16日まで実施し、全体で標本1051の調査を完了した。訪問面接の状況をチェックし、4件は調査不備として除き、調査完了数は1047である。このうち、比較研究において調査対象の年齢条件をそろえるため、年齢16、17歳の対象をはずした。1987年ドイツ調査の集計標本は1000である。

2.4 1987年フランス調査の標本抽出計画

フランスでは、選挙人登録簿の資料等は、国（公共）の調査機関でなければ利用できない。したがって、アメリカ、ドイツ同様、確率地域抽出法により調

査地域を抽出し、抽出調査地点では割当法（クォータ法）により個人を面接調査することになる。

母集団：18歳以上のフランス市民（18歳以上人口は33,445,200人）。

地域層別：最近時のフランス国立経済統計院（INSEE）の国勢調査データにより、全国を地方（9分類）と人口規模（4分類）で層別し、パリ大都市圏は別枠とする。

調査地点の抽出：地方×人口規模による36層およびパリ大都市圏の18歳以上の人口の大きさに比例して、計画標本数（n=1000）を割当てる。次に、1調査地点当たりの標本数を（平均10）として調査地点数を求め、パリ地区以外では88地点を抽出した。パリ大都市圏には11地区（パリ地域は8地点）を割り当て、合計99調査地点を抽出した。

調査地点内の個人の抽出：調査地点内の個人の抽出（選択）は各層における母集団の性、年齢、世帯主の職業の各属性の最近時の国勢調査データによる構成比率にしたがって割り当てる。

調査の実施：調査は1987年9月28日から10月16日の間に面接調査法で実施された。調査完了標本1020のうち調査状況のチェック等により7件を除き集計サンプルは1013である。調査完了標本の属性別構成を、国勢調査のそれと対比すると次の表のようになり調査は良好に完了したといえる。

＊＊ 表 ＊＊

2. 5 1987年イギリス調査の標本抽出計画

イギリスでは、毎年更新される基本選挙人登録簿が大英博物館の資料部で公開されているので、用途、目的等を記して閲覧を申請すれば誰でも閲覧できる。しかし、全国の開票区、投票区ごとの選挙人名簿を集積し整備するのは時間がかかる。したがって、最近時の名簿を利用した標本抽出計画を立てるとき、この点を考慮する必要がある。

1987年イギリス調査の標本抽出計画は、確率標本法（層別2段抽出）によって実施した。

母集団：イギリス（Great Britain）在住の18歳以上の有権者

地域の層別：国勢調査データによる分類システム（国勢調査の調査区特性）により地域を層別する。

層の決定と調査地点の抽出：層別は地方別と上述の地域特性別の組合せによる。各層に層人口に比例して150地点を比例割当し、各層から国勢調査の調査区（CED）を確率比例抽出する（CEDは平均150世帯）。

個人の抽出：抽出されたCEDの該当する地域の選挙人登録簿から1調査地点当たり10サンプルを系統抽出して、氏名、住所を受持名簿に転記する。

調査の実施：各調査員は受持名簿に記された調査対象者に、つぎつぎ面接する。しかし、選挙人登録簿が作成されてから日時が経過しているので、死亡、移転、・地域の再開発等のため該当者がいない場合や住所が不明の場合がある。この時は調査地域から、同一住所への転入者などをリストティングして代替標本とする（全調査対象のうち10%程度になる）。

表2-2 標本の属性別構成

属性	1987年 フランス調査		国勢調査 の構成比
	標本数	構成比	
	N	%	%
Sex			
Men	472	46.6	47
Women	541	53.4	53
	1013	100.0	100
Age			
18-24	154	15.2	14.3
25-34	245	24.2	22.0
35-49	253	26.0	23.7
50-64	212	20.9	21.9
65 ans et plus.....	149	14.7	18.1
	1013	100.0	100.0
Occupation of head of household			
Farmers	52	5.1	6.0
Shopkeepers, craftsmen	71	7.0	6.6
Executives and business men...	94	9.3	9.3
White collars	280	27.6	24.5
Blue collars	236	23.3	25.6
Non active, pensioned, etc ...	280	27.7	28.0
	1013	100.0	100.0
Size of locality			
Rural	262	25.9	28.2
2.000-20.000	166	16.4	16.0
20.000-100.000	131	12.9	13.0
100.000 (except Paris)	288	28.4	27.4
Paris agglomeration	166	16.4	15.4
	1013	100.0	100.0

調査拒否が予想以上に多くなり、調査完了数は1049であった。これから属性別のクロス表の分析等により調査不備と判明した6件を除き、集計に利用した標本数は1043である。

以上、各国の標本抽出計画の概要をのべた。研究調査の対象となつたそれぞれの社会において通常実施されている継続調査の標本抽出計画と、ほぼ同一水準の計画である。

各国における標本の代表性についてみると、各国の調査結果の一次的属性分析によって国勢調査結果と比較し、計画した水準を達成していることがわかる。（資料1～5参照）

参考文献

これら5ヶ国の調査の標本抽出計画および調査実施に関する詳細は、われわれの特別推進研究報告書「1987年ドイツ調査のコードブック及び付属資料」、「1987年フランス調査のコードブック及び付属資料」、「1987年イギリス調査のコードブック及び付属資料」、「1988年アメリカ調査のコードブック及び付属資料」に記されている。

3 イタリア・オランダ調査の標本計画

3.1 イタリア調査の標本計画

この調査の対象はイタリア人口の18歳以上の男女である（国勢調査によると42,514,199人である）。サンプルは、イタリア全体から三段階無作為にランダム・ウォーク（random walk）方式により18歳以上の成人約1000人（男女比同じ）を抽出した。

サンプリングの方法

三段階の無作為方式で、サンプルを抽出した。

第一段階では、前もって都市化のレベルに応じて分類されている各地区の中から市郡（municipalities）を選んだ。サンプル・サイズは、一人の面接調査員の面接数が10を越えないように配慮して、各地区からそれぞれの規模の市（大小といった形に、規模によって市がいくつかのクラスに分類されている）が代表されるように決め、その数が決まつたらそれぞれのグループ（地区×規模）からサンプリング地点をランダムに抽出した。“class interval”（以下参照）は、各グループの市郡の数とフィールドワークを行うサンプリング地点の数の割合によって決めた。

（例）Piemonte地区には137の市郡があり、2つのサンプリング地点が必要である。ランダムに、例えば105という数が抽出され、それが第一番目のサンプリング地点となる。この数に、この地区の市郡の合計数137をサンプリング地点数の2で割った数66を足して、2つ目のサンプリング地点とする。

この場合は、 $105+66=171$ なので、そこから総数の137を引いて34とした。

$$137/2=66 \quad (\text{これが class interval となる})$$

$$105+66=171; 171-137=34$$

市郡の番号を無作為抽出する際には、0から9までの番号札の入った箱から1枚引いて、その番号を別の紙に控え、又その番号札をもどして2回目を引くというように、一つの番号を引いたら必ず元に戻すという方法を取った。

第二段階では、各サンプリング地点(sampling area)において調査開始点を選んだ。英語のアルファベットが1文字ずつ入った箱の中から文字を抽出し、電話帳のその文字の頁の部分から道の名前を抽出して調査始点とした。

第三段階では、「ランダム・ウォーク」(random walk)方式で回答者を選んだ。その道で一番小さい奇数の番地の世帯を一番目に調査を試みた。アパートの場合は、その棟で4世帯ごとに調査を試みた。不在の場合や調査を拒否された場合は、そのすぐ上か下のアパート番号の世帯を調査した。各世帯では、「次の誕生日

の中で最も早く誕生日を迎える人)を選んだ。不在の場合は、面接ができるまで一つの住所に最高3回まで通った。それ以後は、その道にそって歩き、3軒(building)ごとに調査を試みた。

面接調査員に配布した資料

面接調査員には、フィールド調査の責任者(Pragma社員)と、この国際調査の責任者(統計数理研究所員)から、調査概要を説明し、そのうえでランダム・ルート方式を使うまでの厳密な規則と詳細な指示を与えた。

面接調査員には全員、下記のことを書いたカードを与えた。

- 調査対象とその定義
- 面接すべき数
- Pragma(イタリア調査実施機関)の連絡係
- 一面接ごとの報酬料
- フィールド・ワークのスケジュール

さらに、指定の紙にフィールド・ワークの記録をきめ細かくつけてもらい、面接が全て終り次第、質問票と一緒にpragmaに送り返すようにして指示した(付録Aを参照)。又、面接調査員にはpragmaからの任命書に署名してもらった(面接調査員への指示、注意事項<英語及びイタリア語>は付録Bに記してある。)。

フィールド・ワークの組み立てかた

質問文の翻訳と予備調査

統計数理研究所はPragmaに、75の質問及び個人の属性に関する質問24問の計99問を含む英語とフランス語の質問票を送り、Pragmaがイタリア語の翻訳をした。イタリア語に翻訳する際には、社会階級や教育レベルにかかわらず、回答者が容易に理解でき、疑問を抱かず回答できるように、イタリア人の意識や生活の仕方を十分に考慮した。

最善なものをつくるために、依頼側(統計数理研究所)とPragma両方で数々の推敲を重ね、依頼者が完全に納得したうえで、最終的な質問票が印刷された。

予備調査

1992年の43週目に、6人の面接調査員によってローマ地域で15の面接、ミラノ地域で15の面接、計30面接の予備調査が行われた。この面接調査員たちは、ローマとミラノのpragmaの本社で依頼者たちの立会いのもとで、Pragma社のフィールド調査責任者からこの調査全般に関する説明を受けた。

さらに、ローマ、ミラノの大都市の他に、メンタナ（町）というイタリア中央部にある小さな町をサンプリング地点に含めた。

短時間で調査を実施しなければならないため、予備調査においては面接調査員の要望に応えて、調査始点をあらかじめ指定した。

予備調査を通して直面した問題などに関しては、面接調査員をローマに集めての調査後の会議で、面接経験、面接結果などを考慮しながら討議した。回答者が分かりやすく、また面接調査員にも質問しやすいものになるように、面接調査員たちも加わって最終的な質問票を作成し、依頼側の承諾後に印刷した。

本調査

調査期間

フィールドワークの実施期間は次のとおりである。

1992年11月23日 開始

1992年12月 9日 終了

完了した面接の総数は、1048だった。

124のサンプリング地点を、134人の調査員が134の調査始点から調査した。面接調査員たちには、1000の面接、そして、補助サンプルとして使う75の面接（特に回答率の悪いと予想される地域）を合わせて1075の面接を依頼した。

最終的には、134人の調査中の2人だけが質問票と記録を送り返してこなかった（合計20の面接のロス）。

面接調査員各人に、前述の方法で調査始点の住所を与えた。

0から9までの番号札の入った箱の中から何回か番号を抽出し、それによって電話帳の頁を選んだ（何回番号を取るかはその市郡の電話帳のページ数によって決めた。）。その次に、aからzのアルファベットの札が入った箱から、アルファベットを一つ抽出した。先に選んだ電話帳のページから、そのアルファベットで始まる道の名前を探し、それを調査始点とした。

面接調査員全員、その道のなかで一番小さい番地で居住用に使っている家から調査をはじめ、その道に沿って進むようにした。しかし、場合によってはその市郡の事情によって、指示された道をたどれず、その度変更が必要なこと也有った。例えば、ある道は田園地域の方に入ってしまい、農家の建物が居住用でなく倉庫として使われていたり、また行き止まりになっていてやむを得ず戻らなければならなかったり、またある時にはその道が別の町につながっていて、それに沿っていくと違う市郡に入ってしまったたりした。

面接遂行中に生じた問題

北イタリアでは、天候によって調査が遅れたり困難になったりした。濃霧や大雪で、面接調査員が自宅から出ることもできないなどということもあった。

面接調査員は皆、身分証明書と自己紹介の手紙(pragmaからの紹介状)を持っていましたにもかかわらず、自分の世帯が面接に選ばれたことに驚いて面接に応じる前にpragmaのフリー・ダイヤルに確認の電話をしてきた人もいた。

しかし、概して面接調査員にきちんと調査の説明をしてあったので、特に面接においての問題はなかった。

面接の確認

一人の面接調査員に対して最低一件、全体の15%の面接をPragma社より、後に電話で確認した。その結果、ある一人の面接調査員の行った面接の全て、計8件を無効とした。

編集とデータ入力

pragma社の「フィールド調査部門」で確認された質問票は、「編集・コーディング部門」に渡された。ある程度の数の質問票が集まり次第、この部門の責任者はコーディング係に連絡をとり、仕事の日程の相談をした。

回答データの完備性の確認

まず、この調査の責任者とコーディング係の人たちが集まり、回答済みの質問票をよく検討した。この際、データマップを使って回答一つ一つに値を与え、また、いくつかの質問への回答の一一致度をみる原理を考えた。この打ち合せの最後にこの質問票に関する疑問点などを話し合い、説明して明確にした。

その後質問票を分配し、コーディングを開始した。責任者はコーダーの仕方に間違いないか、また指示した方向に進行しているかを一つ一つチェックした。質問票がきちんと回答されていなかったり、解釈できない場合には、フィールド調査部門に送り返し、その矛盾を解くために回答者にもう一度電話で確認させた。

ある程度の質問票が集まり次第、「データ分析部門」に送った。

自由回答データの編集

(自由回答以外の)データの入力後、質問票は「編集コーディング部門」に戻され、磁気テープに自由回答部分をコピーした。さらに依頼者の指示通り、「その他」の回答の部分のリストを作成した。

コーディング部門は監督者一人、その他3人で成り立っている。

回答データの一貫性の確認

「計算機処理（EDP）」部門では、一般に個人の属性のデータを対比させて回答データをチェックする。具体的には、下記のデータを対比させて確認した。

- 年齢と職業
- 年齢と教育レベル
- 婚姻状況
- その他の家族の状況に関するデータ

一致度は、似ていたり関連していたりする質問間の回答の整合性で調べる。例えば、この質問票には宗教に関する質問が2つあり、チェックの段階ではこの2つに対する各人の回答を比べた。データの入力が済んだら集計をし、その結果を印刷して、各選択肢に同じ数の回答があることを確認した。

集計結果は、この調査の責任者に最終的に承認してもらった後、データテープを作成した。

標本の代表性の確認

下記に、この標本の個人的属性の統計とイタリアの国勢調査に基づく人口統計から引用した統計を比較した表を示す。比較した変数は、次のとおりである。

- 性別と年齢（人口の分布）
- 地域（地域的な分布）
- 家族状況（家族状況を正しく考慮するため）

年齢（歳）	国勢調査データ（ISTAT）（%）	標本分布（%）
15-30	30.18	25.87(18 to 30)
31-40	16.92	17.27
41-50	16.55	17.08
51-60	15.61	16.60
61以上	20.74	23.18

性別		
男	47.72	47.81
女	52.28	52.19

婚姻		
独身	22.57	23.38
既婚	66.74	64.21
死別	9.37	9.06
別居	0.96	2.10
離婚	0.36	1.24

地域

Valle d'Aosta-Piemonte	8.55	9.06
Liguria	3.49	4.39
Lombardia	8.81	6.87
Milano	7.29	8.40
Trentino	1.53	1.43
Veneto	7.72	7.44
Friuli Venezia Giulia	2.31	2.39
Emilia Romagna	7.49	8.02
Toscana	6.74	6.68
Marche	2.60	2.48
Umbria	1.51	1.43
Lazio	8.84	9.16
Molise-Abruzzi	2.75	2.96
Campania	8.83	8.40
Puglie	6.27	6.11
Basilicata	1.02	0.95
Calabria	3.39	3.24
Sicilia	8.24	8.11
Sardegna	2.62	2.48

付録 A
(イタリア調査pragma社の調査員へ配布し、回収する資料の紙)

PRAGMA SRL
Via Salaria, 298/a
00199 ROMA

NOME INTERVISTATORE _____

COMUNE DI RILEVAZIONE _____

ESITO CONTATTI

INDIRIZZO	N° CIVICO	N° INT.	RISULTATO		
			1	2	3
_____	_____	_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____	_____	_____

LEGENDA PER LA CASELLA RISULTATO

V = APPARTAMENTO VUOTO
I = INTERVISTA EFFETTUATA
R = RIFIUTO
S = SOSPESA
F = FUORI QUOTA / INELEGGIBILE

IL PRESENTE FOGLIO DEVE ESSERE SPEDITO UNITAMENTE ALLE INTERVISTE.

付録 B
(イタリア調査pragma社の調査員への指示書)

QUESTIONNAIRE

GENERAL RULES

Here are some recommendations for filling in the questionnaire in the correct way:

1. Use only blue or black pens, avoid using the pencil.
2. Circle the answers given.
3. The questions must be asked exactly as they are written and following the same order as that of the questionnaire.
4. Take careful note of the instructions written on the questionnaire before beginning the interview itself, we suggest to evidence all the skips, the writings as "one answer only" or "more answers" so as to make the interview smoother.
5. In the open-ended questions if the respondent should answer "I don't know", "I don't remember" or "refuses" write it down fully in the space of the answer.
6. If the respondent should not understand a question, read again slowly, don't explain it and do not give it your personal meaning.
7. Remain neutral during the entire length of the interview. DO NOT MAKE ANY COMMENTS. This does not mean that if the respondent answers without coherence you should not tell him so; it only means you are not to influence the respondent with your personal opinion.

Write clearly and in a readable way, check the interview. If you notice that some information has been left out, ask the question again before greeting the respondent.

GUIDE TO THE QUESTIONNAIRE

The main characteristic of this study is the fact that in many questions in which the show card is foreseen, the answer "other" can be accepted as long as it is specified.

We will herewith give explanations for those questions which can create a problem.

- DOM. 8** The two most important goals must be indicated, coding one answer in the column 1st. place and one in the column 2nd. place.
- DOM. 9** One answer per line must be given.
- DOM. 12** The question appears with a complicated structure; what is meant is if it is right or wrong to turn to adoption in order to have direct heirs.
- DOM. 14** For each ailment suffered one answer must be given.
- DOM. 16** ATTENTION this scale uses the numerical values contrary to those to which the Italians are used to. In this question 1 means high (in school they teach us that it is a low number) and 5 means low.
- DOM. 17** The answer "both" is not accepted as it is foregone, therefore only one answer among the two.
- DOM. 20** Here is a question for which besides answering with the show card, a different answer can be given, specifying it at "altro".
- DOM. 24** Is divided in 24a and 24b. For thefts, household objects, cars, etc. are meant.
In question 24b we speak of personal safety, of mugging.
- DOM. 26A** ATTENTION we want one only answer, the others are to be given at question 26B.

DOM. 27 ATTENTION in this question the values are the classic ones, that is 1 means not at all important and 7 very important. One answer per line must be given.

DOM. 28 The question is made also to those living alone (as by family it is also meant the one lead with parents, brothers, uncles, cousins, etc. even if not living together).

DOM. 30/31 The answer "both" cannot be accepted.

DOM. 32/33/34/35/36 The answer "undecided/it depends" must not be prompted but accepted only if said spontaneously. The answer "other" must be specified.

DOM. 38/39 One only answer is possible.

DOM. 41/42 If at this question, the respondent answers "postpone meeting" since it is too easy as solution and a foregone one, it cannot be accepted therefore you must put the respondent in a position that "postponing the meeting" is impossible and prompt him to give you a different answer.

DOM. 43/44 One only answer is possible.

DOM. 45 Only two feelings can be coded in the YES column, all the others must be indicated in column NO. If the respondent thinks that something else, not included on the showcard, is important, you can accept it and remember to specify under "altro".

DOM. 46/47 One only answer is possible.

DOM. 51 The most foregone answer is "it depends on whom you meet" because we speak of - "in most cases" -, try to make respondents say more.

DOM. 54/57/58 One answer per line must be given, accept "don't know" only if said spontaneously.

DOM. 61 By culture everything is meant, historians, persons of literature, politics, science, important places where events took place, monuments, etc. Isolate the first answer from the others, writing the first answer on the first line and from the second line on all the others.

DOM. 61-1 It is divided in questions A and B. In question A it is asked for the three most desirable qualities, therefore only three answers are possible; in question B, among the three mentioned at question A, the most desirable one of these three is asked, therefore only one answer.

DOM. 61-2 To each phrase, indicated by a letter, one answer must be attributed.

DOM. 61-3 It is meant in a general way, to receive from life.

DOM. 61-5 Code in the following way: let us suppose the respondent does not want as neighbours persons with a criminal record, heavy drinkers, right wing extremists while they would not have problems with the others.

	would not like as neighbours	no(problem)
Persons with criminal record	1	2
Persons of different race	1	2
Students	1	2
Left wing extremists	1	2
Unmarried mothers	1	2
Heavy drinkers	1	2
Right wing extremists	1	2

DOM. 61-7 One answer per line must be given.

DOM. 62A If the answer is "no" or "I don't know" go to Dom. 63

DOM. 63 Must be asked to all.

DOM. 67 One answer per line must be given.

DOM. 75A For each political party a number from 0 to 100 must be attributed according to the respondent's feelings. The total amount must not be equal to hundred.

Write zeros as in the example. If the respondent cannot answer for a political party, write 999.

Temperature

Democrazia Cristiana (DC)	040
Partito Democratico della Sinistra (PDS)	040
Rifondazione Comunista	070
Partito Socialista Italiano (PSI)	040

DEMOGRAPHICS

In this part you will find some points already dealt with in the main questionnaire, make the respondents know that you are aware of it but ask the questions again.

D.03 If you are interviewing students, the interviews will not be many, fill the boxes with two zeros and go to Dom. 5.

D.04 Both questions have to be made, that is if he has started studying again or if he has attended a course.....as for example:

. Eventually started studying again (IF YES) FOR HOW MANY
MONTHS? 00

. Eventually have attended a
professional training course or
worked as apprentice? (IF YES) FOR HOW MANY
MONTHS? 00

In the above example, the person has not taken up studying again or attended courses.

- D.09 One answer per line must be given.
- D.10 If the respondent does not carry out a paid work (codes from 01 to 04 at Dom.0A) ask him what he did before retiring or withdrawing from work indicating it in the column of Dom. 15b. If you are interviewing a student, do not take it for granted, by not indicating it, at Dom. 10B that the code is 15 - same goes for the housewives.
- D.11 Is clearly to be made only to those who are actually working, on his own or as dependent (under employer).
- D.12 Is made only to those who in the past or now are doing a paid work or a work on their own (that is from code 05 to code 18 at Dom. 10a or code 01 to code 14 at Dom. 10b).
- D.13 Is only for those who work or have worked in the past as dependent workers.
- D.14 Is useful to identify the figure of the head of the household. Indicate one answer per line.
If the head of the household is not the one you are interviewing, go on with the next questions on the head of the household as made to the respondent if instead the respondent is also the head of the household, go to Dom. 18.

REGISTERING OF INTERVIEWS

- P.03 Indicate the precise length of the interview. It is not possible for 10 interviews to all have the same timing, this would mean that after having carried out the first interview, you have registered the same time for the other ones. If it were so easy, why do you think we would ask you?

P 06 AND 07MUST BE LEFT BLANK.

P 08 You must personally write the mail code, asking the respondent and looking for it yourself on the street map.

P 09, P 10 AND P11 MUST BE LEFT BLANK.

FOR ANY PROBLEM OR DOUBT, ASK IMMEDIATELY FOR CLARIFICATIONS THROUGH THE FREE TOLL NUMBER 1678-65041.

ITALIAN VERSION

ISTRUZIONI PER L'INTERVISTATORE/TRICE PER LO STUDIO SULLE OPINIONI

Qual è lo scopo?

Determinare l'opinione degli italiani nei confronti di molti temi correnti per esempio la salute, la violenza, lavoro, la famiglia, ecc.

Qual è il programma?

1) Interviste personali in casa degli intervistati

- Itinerario casuale:

Tutte le famiglie sono valide

4) Scelta dell'intervistato tra i componenti in età pari o superiore a 18 anni

5) Può essere intervistata una sola persona a famiglia

6) Tre tentativi di contatto per famiglia, cioè tre visite con esito negativo (appartamenti vuoti prima di sostituirla con un'altra famiglia)

7) Sostituzione immediata della famiglia in caso di rifiuto della stessa o del componente prescelto

DETtagli importanti

1) Orario delle interviste

Le visite dovranno essere effettuate in quelle ore del giorno in cui la maggior parte dei componenti familiari casa, preferibilmente quindi, nel tardo pomeriggio o sera.

Itinerario casuale e scelta della famiglia

La metodologia per l'effettuazione delle interviste è quella chiamata "Random Walk" cioè scelta casuale della persona da intervistare. La vostra attenzione deve essere rivolta alle "famiglie".

Per "famiglia" si intende un nucleo di una o più persone che vivono insieme. Ogni famiglia deve avere:

a) un ingresso indipendente all'interno di un palazzo o direttamente sulla strada

b) un indirizzo postale diverso

c) una cucina indipendente

l'esistenza di una qualsiasi di queste caratteristiche è sufficiente per considerarla una unità abitativa indipendente.

La presente ricerca deve essere condotta solo in unità abitative o appartamenti occupati. Sono esclusi bedali, uffici, scuole, alberghi, caserme, ecc. I negozi e le attività commerciali vengono esclusi almeno non vi sia ammessa l'abitazione.

Trovate nella via prescelta un condominio, un palazzo con più appartamenti, ogni singolo appartamento sarà come un'unità abitativa a sé. Per le interviste in condomini dovete seguire i seguenti criteri:

a) iniziate dall'ultimo piano e scendete fino al piano terra.

b) per ogni piano contattate un appartamento su quattro in ordine decrescente di interno (es. 12, 8, 4, ...)

Nel caso in cui non fosse possibile effettuare l'intervista presso uno degli interni selezionati dalla casualità,ate rivolgervi all'interno immediatamente precedente o successivo (es.: dovete effettuare l'intervista presso l'interno n. 8 ma in casa non c'è nessuno anche dopo la terza visita o vi viene rifiutata l'intervista,

vete rivolgervi all'interno n.7 o n.9) quindi passate all'interno n.4 cioè proseguite rispettando l'alternanza.

Nel caso di piccoli comuni ove non fossero presenti palazzi a più abitazioni o nuclei familiari è sufficiente effettuare un'intervista ogni due abitazioni cioè ogni tre numeri civici costruzioni case/villette).

nel caso di assenze o vuoti vale quanto detto per i grossi centri.

Dopo aver effettuato tutte le iniziali visite possibili presso il condominio di padrona (case/villette per i piccoli comuni) dovete porvi con le spalle al portone e proseguire sulla vostra sinistra effettuare le interviste in casa o condominio sulla mano sinistra della strada. Al primo incrocio che incontrate girate a sinistra;

all'incrocio successivo girate destra.

Proseguite con questo sistema fino ad esaurimento dell'interviste assegnate e sempre mantenendo la sinistra della strada.

ricordate che esaudire le interviste in un solo giorno (a parte le piccole quote) è cosa impossibile dovrete riprendere dall'indirizzo e dal numero civico da cui avete interrotto il giorno precedente.

3 Selezione delle persone da intervistare

a) Possono essere intervistate solo le persone che stabilmente fanno parte della famiglia e non siano dipendenti delle stesse (collaboratrici domestiche, giardinieri, segretarie, governanti, ecc..).

b) E' intervistabile qualunque persona abbia compiuto 18 anni nel rispetto delle quote assegnate.

c) non intervistate mai più di una persona per famiglia.

Prima di effettuare l'intervista assicuratevi che la persona prescelta sia disponibile a confermare la veridicità del lavoro, questo perchè la fase dei controlli avverrà in modo totale sia telefonicamente che attraverso visitazioni personali. Accertatevi pertanto, di aver riportato l'esatto nome e cognome, indirizzo completo di numero civico ed interno, ed il numero telefonico. Se per qualsiasi motivo non fosse possibile effettuare il controllo sullo stesso numero risultasse qualche anomalia annulleremo totalmente il lavoro.

Verificarsi di ciò comporterà un'interruzione del nostro rapporto compromettendo, inoltre, i rapporti con altre società di ricerca.

NORME GENERALI

1. Date raccomandazioni per l'esatta compilazione del questionario.

2. Utilizzate solo penne blu o nere, evitate di usare la matita.

3. Cerchiate con un tondino le risposte date.

4. Le domande devono essere poste esattamente come sono scritte e nello stesso ordine in cui compaiono sul questionario.

5. Familiarizzate con le istruzioni stampate sul questionario prima di iniziare le interviste vere e proprie; vi consigliamo di evidenziare su tutti i questionari i salti, le scritte tipo "una sola risposta"

o "risposte multiple" al fine di rendere maggiormente scorrevole l'intervista.

6. Alle domande aperte se l'intervistato rispondesse "non so", "non ricordo" o "rifiuta" scrivetelo per esteso per la fine della risposta.

7. Se l'intervistato non capisse una domanda, leggetela lentamente, non spiegetela o non date interpretazioni personali.

8. Rimanete neutrali per tutta la durata dell'intervista. NON FATE COMMENTI. Ciò non significa che se l'intervistato risponde in modo incoerente voi non dobbiate intervenire facendogli notare che è incoerente; significa solo che le vostre opinioni personali non devono influenzare il pensiero dell'intervistato.

Rivete in modo chiaro e leggibile, ricontrollate l'intervista. Se vi rendete conto di aver omesso qualche informazione, riopponete la domanda prima di salutare.

GUIDA AL QUESTIONARIO

Caratteristica particolare di questa ricerca è che per molte domande in cui è previsto il cartellino si può accettare la risposta altro, poiché viene specificato.

Non forniremo spiegazioni per tutte le domande ma solo per quelle che possono creare un problema di esecuzione.

DOM. 8: Devono essere indicati i due obiettivi più importanti codificando una risposta nella colonna 1° posto ed una risposta alla colonna 2° posto.

DOM. 9: Deve essere fornita una risposta per riga.

DOM. 12: La domanda appare con una struttura complicata; quello che si intende dire è se per avere degli indici diretti è giusto o meno fare ricorso all'adozione.

DOM. 14: Per ogni malessere deve essere fornita una risposta.

DOM. 16: ATTENZIONE questa scala usa i valori numerici attribuendo ad essi il valore opposto a quello che noi italiani siamo soliti fare. In questa dom. 1 significa alto (a scuola ci insegnano che è un numero basso) e 5 significa basso.

DOM. 17: La risposta "entrambi" non è accettata in quanto scontata quindi solo una risposta tra le due.

DOM. 20: Ecco un esempio di domanda in cui oltre alle possibilità di risposta del cartellino può essere accettata una risposta diversa da specificare nella voce altro.

DOM. 24: È divisa in 24a e 24b. Per furti si intendono quelli di oggetti in casa, macchina, ecc. Nella 24f parliamo di sicurezza personale, di aggressioni.

DOM. 26A: ATTENZIONE vogliamo una sola risposta, le altre vanno riportate a dom. 6b.

DOM. 27: ATTENZIONE in questa domanda la scala ha i valori classici cioè 1 significa per niente importante e 7 molto importante. Deve essere fornita una risposta per riga.

DOM. 28: Si pone anche a chi attualmente vive solo intendendo, per vita familiare quella con i genitori, fratelli, zii, cugini, ecc.

DOM. 30/31: Non deve essere accettata la risposta entrambi.

DOM. 32/33/34/35/36: La risposta "indeciso/dipende" non deve essere sollecitata ma accettata solo se si fa spontaneamente. La risposta "altro" deve essere specificata.

DOM. 38/39: È possibile una sola risposta.

DOM. 41/42: Se l'intervistato a queste domande risponde "rimandare la riunione" poiché è una soluzione troppo semplice, scontata, non può essere accettata, pertanto dovrete mettere in una condizione in cui: rimandare la riunione sia impossibile ed esortarlo a fornirvi una risposta diversa.

DOM. 43/44: È possibile una sola risposta.

DOM. 45: Solo due modalità possono essere codificate nella colonna SI, tutte le altre devono essere riposte nella colonna NO. Se l'intervistato ritiene sia più importante qualche cosa non inclusa nel cartellino potete accettare la risposta ricordandovi di specificare accanto alla voce altro..

DOM. 46/47: È possibile una sola risposta.

DOM. 51: La risposta più scontata è "dipende da chi si incontra", poiché parliamo di maggioranza dei circa di far sbilanciare le persone.

M. 54/57/58: Deve essere fornita una risposta per riga, accettare il non so solo se detto spontaneamente.

M. 61: Per cultura si intende tutto: personaggi della storia, della letteratura, della politica, delle scienze, località famose per eventi, monumenti ecc. Isolate la prima risposta dalle altre scrivendo sulla

riga la prima risposta e dalla seconda in poi tutte le altre.

DOM. 61-1: E' risposta in dom. A e dom. B. Nella dom. A si chiedono le tre qualità più gradevoli, sono quindi possibili solo tre risposte, nella dom. B si chiede, tra le tre indicate in precedenza, la più gradita in assoluto, simile quindi una sola risposta.

DOM. 61-2: Ad ogni frase cominciata da lettera deve essere attribuita una risposta.

DOM. 61-3: Si intende in senso generale ricevere dalla vita.

M. 61-5: Comunicare nel seguente modo: supponiamo l'intervistato non voglia come vicini persone con fedina penale sporca, forti bevitori, estremisti di destra mentre non avrebbe problemi con il resto.

	Non piacerebbe avere come vicini	no
Personne con fedina penale sporca	(1)	2
Personne di razza diversa	1	(2)
Studenti	1	(2)
Estremisti di sinistra	1	(2)
Madri nubili	1	(2)
Forti bevitori	(1)	2
Estremisti di destra	(1)	2

DOM. 61-7: Deve essere fornita una risposta per riga.

DOM. 62A: Se la risposta è no o non so andare a dom. 63.

DOM. 63: E' da porre a tutti.

DOM. 67: Deve essere fornita una risposta per riga.

DOM. 75A: Per ogni partito deve essere attribuito un numero da zero a cento secondo la simpatia che nutre l'intervistato. La somma non deve essere pari a cento. Anteporre gli zeri come da esempio.

non è in grado di rispondere ad un partito riempire la casella con 999

	Temperatura
Democrazia Cristiana (DC)	0 1 4 1 0
Partito Democratico della Sinistra (PDS)	0 1 4 1 0
Foundazione Comunista	0 1 7 1 0
Partito Socialista Italiano (PSI)	0 1 4 1 0

EMOGRAFICI:

Trovate in questa parte alcuni argomenti già trattati nel questionario principale, fate notare che lo sapete e proponete comunque le domande.

Q. 03: Se state intervistando studenti, saranno poche interviste, riempire le caselle con due zeri ed andare a dom. 5.

D. 04: Devono essere poste entrambe le domande cioè sia quella se ha ripreso a studiare, se se ha frequentato un corso..... come da esempio.

Eventualmente ripreso a studiare? (SE "SI") PER QUANTI MESI? 0 | 0

Eventualmente frequentato un corso di formazione professionale o lavorativo come ad esempio? (SE "SI") PER QUANTI MESI? 0 | 0

All'esempio la persona non ha ripreso a studiare né ha frequentato corsi di

09. Deve essere fornita una risposta per riferire

D. 10: Se l'intervistato/a attualmente non esercita alcuna attività retribuita (codici da 01 a 04 a dom. 0A) indicare ciò che faceva prima del pensionamento o di ritirarsi dal lavoro riportandolo nella colonna di dom. 15b. Se state intervistando uno studente non date per scontato, non segnandolo, a dom. 10B che il codice è 15; così pure con le casalinghe.

11: Si rivolge chiaramente solo a chi attualmente lavora, sia in proprio che come dipendente.

D. 12: Si rivolge solo a chi svolge o ha svolto un in passato un'attività retribuita o un lavoro autonomo (codici da 05 a 18 a dom. 10a o cod. da 01 a 14 di dom. 10b).

13: Si rivolge a chi attualmente lavora o ha lavorato in passato come lavoratore dipendente.

D. 14: Serve ad individuare la figura del capofamiglia. Riportare una risposta per riga.

Il capofamiglia è una persona diversa da quella che si sta intervistando proseguire con le successive domande sul capofamiglia come fatto per l'intervistato se, invece l'intervistato è anche capofamiglia, andate dom. 18.

ROTOCOLLO D'INTERVISTA

P. 03 - fateci la cortesia di riportare l'orario reale della durata. Non è possibile che 10 interviste abbiano la stessa durata, questo significa che fatta la prima riportate automaticamente lo stesso valore sulle 9 rive. Se fosse così facile perché credete che lo chiediamo a voi?

P. 06 e 07 - DEVONO ESSERE LASCIATI IN BIANCO.

P. 08 - dovete riportare voi, di vostro pugno, il codice di avviamento postale, chiedendolo all'intervistato dando a cercarlo voi stessi sullo stradario.

P. 09, P. 10 e P. 11 - DEVONO ESSERE LASCIATI IN BIANCO.

R. QUALSIASI PROBLEMA O DUBBIO CHIEDETE TEMPESTIVAMENTE CHIARIMENTE ALL'ISTITUTO ATTRAVERSO IL NUMERO VERDE 1678-65041.

3.2 オランダ調査の標本計画

調査対象

18歳以上のオランダ国籍を持つ者

標本抽出

NIPO社は、オランダ全居住者のマスターサンプル・磁気テープを保有している。これは、一種の「住居番号簿」のようなもので、各地の道路(street)と住居番号(4桁の数字と2英文字でできている。例1365AC)が、翌年建築される住居も含めて記してある。マスターサンプル・テープは、毎年更新されている。このテープには、会社などの建物の番号まで含まれているが、NIPO社が保有している「会社のみの住居番号簿」を利用して、それらを除くことができる。

NIPO社は、このテープを利用して、毎年一度20万人から25万人の居住者の住所を無作為抽出して、その年に必要な面接調査のための標本リストを作成している。次に、それらの番号を647の市郡(municipalities)毎に、ランダムにまとめたりストを作る。面接調査の必要なときに、各市郡において、そのリストの最初の住所番号を選び出すようにしている。

住居番号テープからの代表サンプルの抽出法

オランダの全住居番号のうちの各市郡(municipalities)の割合は、既知である。これらの市郡は、次のように2つに分類されている。

- 1) 代表市郡——大都市部の市郡は常にサンプルに含まれている。
- 2) 非代表市郡——特別の配慮をする市郡。これらのうちのいくつかを、ある経済地域層の区分に含ませる。その地域で必要な面接(interview)の数を考えて、適正な数の市郡を無作為に選び出す。

これら2分類と市郡の割合を考えて、住居番号を無作為に抽出するのである。

各住居での面接回答者の選出法

標準：18歳以上のオランダ国籍を持つ者(計：1048名)

無作為抽出：「誕生日ルール」を用いる。即ち、その家の人が次に最初に誕生日を迎える者を選ぶ

選ばれた各住居での面接回答者数：1名のみ

各面接地点での面接回答者数：4名

各面接者は、無作為抽出された住所を調査担当者から受け取る。これが出発点となり、4人の面接回答者を求めるである。訪問すべき住所は、この出発点に最も近いところとなる。

1) 訪問先が不在などで、ドアを開けてくれなかった場合は、後で再訪問することとし、次の住居を訪れる。再訪問は、最高三回まで繰り返す。

2) ドアを開けてくれた場合は、抽出した回答者に面接を試みる。その回答者が不在の場合は、後日面接する為の約束(アポイントメント)を取り付けるようとする。面接が拒否された場合は、次の住居を訪れる。

面接調査員の確保

NIPO社では常時1200-1300人の面接調査員を確保している。回答者の標本抽出の後に、各サンプリング地点の近くに居住する調査員が選ばれる。

調査員を選ぶ際は、その調査の内容を考慮し調査員の社会・経済的属性や仕事振り、他のプロジェクトと兼任している数、住居地、連絡の手段が考慮される。

調査遂行の手続き

質問文翻訳の手続き

まずNIPO社の専門家によって質問文の英訳版にもとづいてオランダ語に翻訳される。もし何らかの問題が生じた場合は、他の国語(米語、仏語、独語)の翻訳を参考にする。この翻訳には、オランダ人の文化背景とこれらの質問に対する態度を十分に考慮する。

そのオランダ語訳文を、日本側代理店R & D社の専門家(日本人翻訳者)により、再び日本語訳する(バック・トランスレーション)。その日本語訳と本来の日本語質問文とを比較検討し、本質的な差異が見出された場合は、該当する質問文を、オランダ語翻訳者と日本語翻訳者双方に検討させる。最終的にはNIPO社側に修正させる(但し、予備調査中に発見された問題点を考慮して修正したものもある)。

予備調査

オランダの各地域(provinces)と大小の市郡(municipalities)の全域に広がる56人の面接回答者を用いて、質問文の表現の可否がテストされた。

調査時期

予備調査	9月21日-28日
本調査	11月5日-29日

調査の有効性の確認

本調査終了後、面接回答者中の約15%にNipo社より電話し、面接が本当に実施されたか否かの確認をとった。

データ入力

光学的データ読み取り装置によった。

自由回答質問の回答

本来のオランダ語回答1048名分とは別に、英語を母国語とする者がオランダ語回答を英訳した。

調査結果の概要

面接調査者数	305
標本地点数	305
訪問を試みた数	5666
最初の訪問で在宅者と接触できた数	3501
第二回目で在宅者と接触できた数	220
第三回目で在宅者と接触できた数	11

訪問して在宅者と接触できた総数	3732

接触できたが、 訪問を拒否された数（在宅者がドアを開けなかった住居数）	2220

接触できたが、オランダの国籍を持たない人数	116
三回の訪問にも拘らず面接すべき回答者が不在であった場合の数	307

最終的に面会できた数	1089
そのうち面接調査を拒否された数	6

実際に面接調査ができた総数	1083

付録 C

面接調査員への指示書（原オランダ語の英語版）

Dear employee,

Instruction: Survey "Opinions in society" (V-736)

We thank you for your co-operation with this study. You hereby receive the material needed for the survey "Opinions in society". This survey will be held worldwide in several countries. NIPO takes care for the interviews in the Netherlands.

Who and where to interview

You will receive an address to start with (see yellow address list). You first go to that address. For the next interviews you go to the nearest address and so on.

Response-report (address list)

You write down every house-number where you ring. Registratate what happens. This registration is meant to determine how many addresses you need to realise your 4 interviews.

ATTENTION:

Write down the address where you start (see yellow address list) at the response-report. Then write down the house-numbers (addresses) you're approaching. If you have to go to another street, write the name of this other street down on the second line. Eventually a third or fourth street. If you have to go into a second street, write down near the house-number the second street.

At the first contact it can happen that:

They don't open the door

You can register this by encircling code 2. Then you go to the neighbour-address (you can come back later if they don't open the door)

They do open the door

Register this by encircling code 1.

Then:

They want to co-operate

You interview only the member of the family of 18 years or older who is the first to have his/her birthday. It's of major importance-because this is a person-sample that you interview this person. Preferably you go out for the interviews after 16.00 hours, because that's when you have the biggest chance of finding most of the members of the family at home. You can of course make an appointment with the respondent at a time thatmost suits you and the respondent.

The firstborn refuses to co-operate

In that case this address is finished. You registrate the house-number and encircle the number that stands for refusal. Then you go to a neighbour address to try to realise an interview.

The firstborn is not at home

If the firstborn is not at home you should, if possible, make an appointment.

The firstborn doesn't have a Dutch nationality

Then there's no interview. You go to a neighbour address to try to realise an interview.

The questionnaire

Before approaching an address reed the questionnaire carefully, so that you don't have to expect surprises during the interview. Use the cards if indicated in the questionnaire. Mark the interview number, at the right side at page 1.

Period of interviewing

The interviews should be held in the period of 5 until 13 November. At last at 15 November you send us back the interviews (preferably sooner).

If you have any further questions, don't hesitate to call us (020-5238555).

We wish you success with the assignment.

Best regards,
NIPO BV

INTERVIEWER INSTRUCTIONS

面接調査員への指示書（原オランダ語）

Amsterdam, 4 november 1993

Geachte medewerkster, medewerker,

Instructie: Onderzoek "Meningen in de samenleving" (V-736)

Met onze dank voor de door u toegezegde medewerking ontvangt u hierbij het materiaal voor het onderzoek "Meningen in de samenleving". Dit onderzoek zal in een aantal landen wereldwijd worden gehouden. Het NIPO neemt voor dit onderzoek de interviews in Nederland voor haar rekening.

WIE EN WAAR ONDERVRAGEN

U ontvangt van ons een startadres (zie gele adreslijst). U gaat naar het aangegeven adres. Voor uw volgende vraaggesprekken gaat u naar het dichtst bijzijnde woonadres en zo verder.

Response-verslag (adreslijst)

U noteert elk huisnummer waar u aanbelt. Registreer wat er gebeurt. De registratie is bedoeld om vast te stellen hoeveel woonadressen u benadert om uw 4 vraaggesprekken te realiseren.

LET OP: Noteer het startadres (zie gele adreslijst) op het response-verslag. Noteer vervolgens de huisnummers (woonadressen) die u benadert. Moet u een andere straat in, noteer op de tweede regel de naam van de andere straat. Eventueel een 3e of 4e straat. Als u uw 2e straat ingaat, noteer dan bij het huisnummer 2e straat in het vakje van het huisnummer.

Bij het eerste kontakt kan het voorkomen dat:

- **Er niet open wordt gedaan:**
U geeft dit aan door code 2 te omcirkelen. Vervolgens gaat u naar het buuradres.
(U kunt later terug als er niet wordt opengedaan.)
- **Er open wordt gedaan:**
U geeft dit aan door code 1 te omcirkelen.

Vervolgens:

- **Men wil meewerken:**
U ondervraagt uitsluitend het eerstjarige gezinslid van 18 jaar en ouder.
Het is van uitermate groot belang - in verband met de personen-steekproef - dat u de eerstjarige ondervraagt. Bij voorkeur gaat u na 16.00 uur op pad, want dan zijn de meeste gezinsleden thuis. U kunt natuurlijk afspraken maken op tijden dat het u en de respondent het beste schikt.
- **De eerstjarige weigert:**
In dat geval heeft u het woonadres afgewerkt. U registreert het huisnummer en geeft aan door het cijfer te omringen dat het een weigering betreft. U gaat vervolgens weer het buuradres benaderen voor een vraaggesprek.
- **De eerstjarige niet thuis is:**
Het kan zijn dat de eerstjarige van 18 jaar of ouder op het moment niet thuis is. U maakt dan, indien mogelijk, een afspraak.
- **De eerstjarige niet de Nederlandse nationaliteit bezit:**
Er vindt dan geen interview plaats. U gaat het volgende buuradres benaderen voor een vraaggesprek.

Zie ommezijde

DE VRAGENLIJST

Leest u de vragenlijst eerst even door, zodat u niet voor verrassingen komt te staan tijdens het interviewen. Gebruik de toonbladen als dat staat aangegeven in de vragenlijst. Streep het interviewnummer aan, rechtsonder op pagina 1.

INTERVIEWPERIODE

De interviews dienen gehouden te worden in de periode van 5 t/m 13 november. Uiterlijk 15 november stuurt u ons de interviews retour (liefst eerder!).

HONORARIUM

Het honorarium bedraagt all-in per geslaagd interview. De porti kunt u uiteraard deklarereren.

Nog vragen? Aarzelt u dan niet even te bellen met onze enquêteurslijn (tel. 020 - 5238555).

Wij wensen u veel sukses met deze opdracht.

Hoogachtend,

NIPO B.V.

第2章 翻訳と再翻訳

1 質問票作成の経緯

国民性意識の国際比較調査での基本的な問題は、異なる母国語を日常用いている人々の人たちに対して「同じ質問」をするということが、有意義性を保証する必要条件である。これは、単なる言語上の問題ではなく、かなり深い考察が必要である。この「同じ質問」を作成する方法の一つが、バック・トランスレーション(BT)という技法であり、これを次に説明する。

BTとは、例えば、本来は日本語である質問文がある翻訳者が外国語訳したものと、別の翻訳者が日本語に再翻訳し、それをもとの日本語質問文と比較し、些末な点は除いて、同じ意味の表現となっているかを検討する。必要であれば、適切な修正を施し、最終確認ができるまで、このプロセスを繰り返すのである。

我々の調査におけるBTの具体的手続きを説明しながら、質問項目の翻訳の問題について、調査法の観点から検討しよう。特に、日本的なニュアンスの含まれている項目の翻訳、および外国で利用されている質問項目の和訳における翻訳質問文の微妙なユラギの影響の問題について考察する。さらに調査の実施に関連した質問形式(調査員の質問提示の仕方)、および回答形式、回答記録様式等の問題についても検討する。

質問項目は、

- (1)日本の既存の調査結果があり、これを比較の対象となる社会でも調査して比較するための項目、
- (2)逆に、比較の対象となる社会における調査がすでにあり、それを今回の比較調査にとり上げるための項目、
- (3)今回の比較研究調査のために作成した新しい質問項目の3種類で構成されている。

いずれの場合も、当然、質問文は比較の対象となる社会(国)の言語の質問文が必要で、それぞれの言語による質問文には調査実施上、測定手段としての同等性が保証されねばならない。これを検討するには、まず、「翻訳した質問文を再翻訳する過程」を通して言語上の同等性(タイプAの同等性と呼ぼう)を検討し、さらに、翻訳の適否を検討吟味する調査をおこない、その調査結果に基づく現実の調査場面での同等性(タイプBの同等性と呼ぼう)の検討をする(我々のグループによる1978年日米比較調査の際の検討手順についての詳細は、林・鈴木(1986)「社会調査と数量化」第II部[岩波書店]を参照のこと。また、Aタイプの検討の手順の一部については、同書のpp. 18-19を参照)。

まず、調査票作成の経緯および質問文の翻訳、検討について、概要を示す。

- (1)各国の代表的な調査機関による既存の調査に取り上げられている質問文を参考にし、各国民の日常生活の種々の側面を幅広くカバーするように、我々の調査の質問項目(具体的な質問文、回答選択肢の文)を選択した。

欧米の6ヶ国調査の項目の作成において、主として参照した調査は、フランスのCREDOCの調査（79、82、84年調査）、統計数理研究所による「日本人の国民性」83年調査、我々のハワイ・ホノルル市民調査（83年調査）、アメリカ調査（78年調査）等である。それ以外で参照した調査は、ミシガン大学社会調査研究所調査（ISR）、シカゴ大学NORCによる一般社会調査（GSS）、1980年13ヶ国価値観調査、ヨーロッパ9ヶ国価値観調査、「日本人の国民性」58年調査、国民性73年調査、国民性78年調査、NSFの科学技術に関するアメリカ1985年調査、SOFRESの科学技術に関するフランス1982年調査、科学技術庁による日本1987年3月調査、Eurobarometerの1987（or 1973）年調査、ALLBUS：1980、1982ドイツ一般社会調査等である。

(2) それぞれの質問項目について、対応する日本語の訳文、および英語の訳文を作成し、これを比較調査のため他の各国語に翻訳する元になる質問文とした。（この多くはすでに1983年ハワイ・ホノルル市民調査および1978年アメリカ調査に利用した質問文であり、その他の質問文は、GSS調査のもの、あるいはEC調査のものを参考とした。フランスからの質問文はフランス語質問文に英語の訳文をフランス側で作成したもの参考にした）

(3) この比較の元となる質問文を、契約によりわれわれの調査を遂行するイギリス、フランス、ドイツの調査機関で、それぞれ自国調査用の質問文に翻訳した。

(4) これらの質問文をそれぞれ日本語に翻訳し、比較検討した（タイプAの同等性の検討）。

(5) この検討結果により各調査機関と問題点を協議し、プリテスト用の調査票を作成した。（プリテストでは、翻訳質問文の理解度等のチェック、たとえば、用意された回答選択肢以外の回答の出方、すなわち、質問文の内容がはっきりしているかどうかという明確さの程度、あるいは調査員の回答処理の仕方、調査対象者が回答するまでにどのくらい考えたか等について検討すると共に、いくつかの質問項目では翻訳質問文を二種類作成して、どちらがよりよいかを検討した。また、「質問順序の違いによる効果」を検討する為に、順序を変えた二種類の調査票を作成し、どちらの順序がよいかも合わせて検討した。）（タイプBの同等性の検討）

(6) プリテスト調査結果を各調査機関の担当者が持ちより、研究者と合同検討会を開いた。質問文、回答選択肢、質問提示方法について一項目ずつ検討をおこない、修正案を作成した。

(7) 各国の修正案を比較検討すると共に、各調査機関の担当者も相互に調査票修正案を検討し、質問文の中の不用意な翻訳箇所の修正、および回答選択肢の同等性の検討および質問提示方法（回答を読み上げるか、回答用リストあるいは回答用手持カードを回答者に提示するか等）のチェックを行い、最終案を作成した。

(8) 各国の最終案について比較検討を行い、イギリス、フランス、ドイツの3カ国における調査を実施した。

(9) これらの3カ国で使用した英語、フランス語、ドイツ語の各質問文を日本語に翻訳し、相互に比較検討すると共に、比較調査の元である日本語質問文とそれぞれの翻訳文を比較検討した。

(10) この結果、多くの質問項目では、比較の元である日本語質問文と実際に各国で調査した質問文の日本語への再翻訳質問文はよく合っていて、各国相互の比較においてもよく合っていることが確認された。

(11) しかし、比較の元である日本語質問文と各国で実際に調査した質問文の日本語への再翻訳質問文とが多少異なっているが、各国で実際に調査した質問文の間ではあまり差ではなく、よく似ているという場合もみられた。

(12) また、いくつかの質問項目では、各国の質問文の日本語への再翻訳文に多少の違いがみられた。

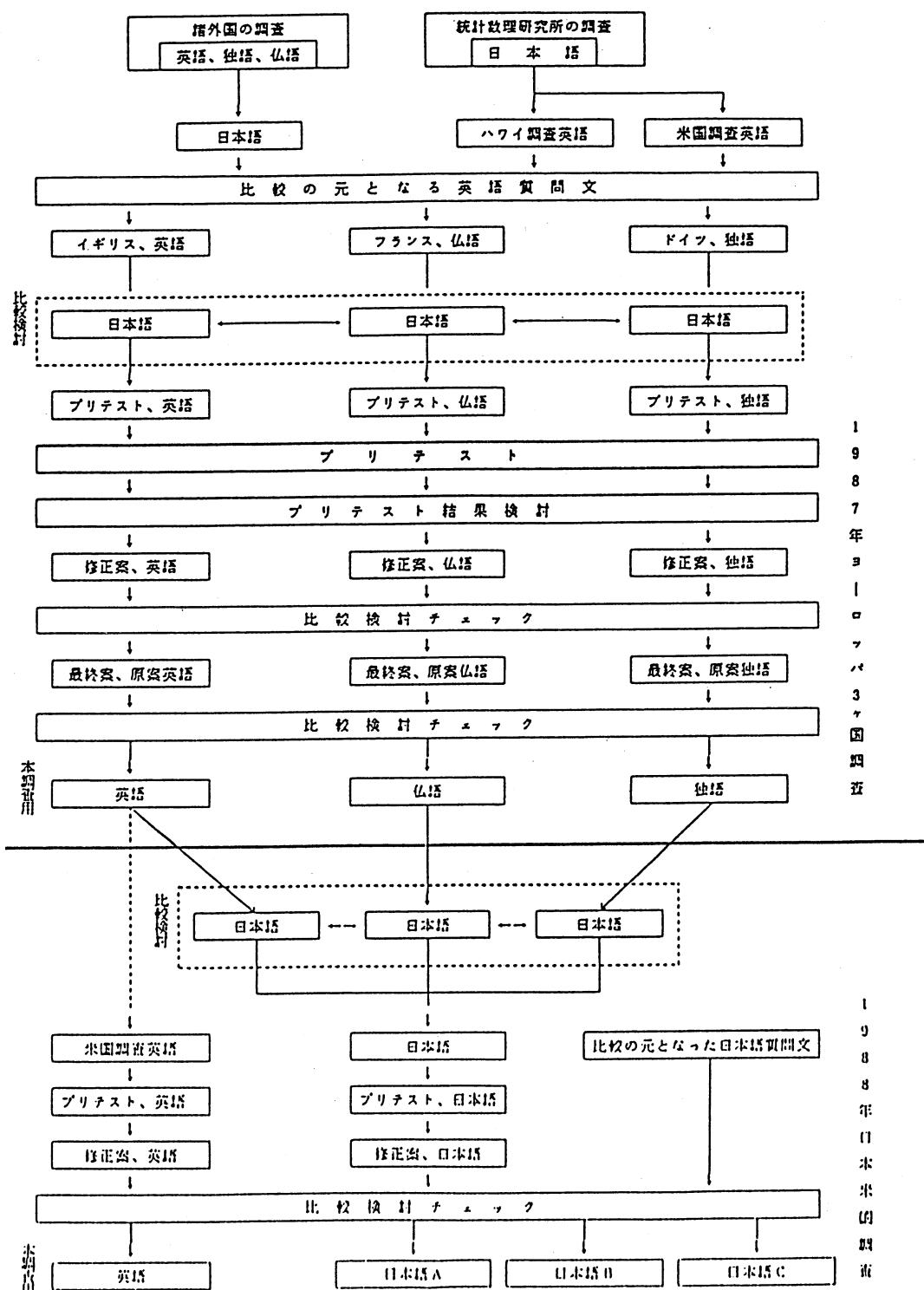
(13) したがって、(11)、(12)のような質問項目については、日本調査において、日本語調査票をA、Bの二種類作成し、バック・トランスレーション過程における質問文（回答選択肢の翻訳も含む）のユラギの影響を検討することにした

以上のような手続きにより、5カ国比較調査を行なった。質問文の検討、調査票作成の経緯について、その手順をフローチャートの形に整理してみると次のようになる。

* * * 図 質問文の検討、調査票作成の経緯 * * *

特別推進研究「意識の国際比較方法論の研究」

－質問文の検討、調査票作成の経緯－



上でとり上げなかったアメリカ調査については、比較の元になる調査票として、1978年アメリカ調査の調査票および1983年ハワイ・ホノルル調査の調査票があるので、これを基礎とし、今回の国際比較調査で新しく付け加えられた質問項目の質問文は、イギリスで利用した質問文を参考とした。アメリカの調査機関の担当者と協議し、プリテスト調査票を作成した。プリテストの結果、アメリカ調査用の調査票を確定した。この際、1978年アメリカ調査と今回の調査と共通する質問項目について、その質問順序が異なるところがいくつか存在し、問題となつたが、プリテストの結果、今回の国際比較調査の質問順でも差し支えないことが確認され、最終調査票は各国共通の順序となり、国際比較可能性の必要条件が一つ満足された。

2 質問文翻訳検討の手順

質問文翻訳の検討の手順を図式的に示すと、次図のようになる。

＊＊図 質問文翻訳検討の手順

すなわち、原日本語質問文を英語に翻訳する場合には、英語に翻訳した質問文が英語圏では（不適切、了解不能、意味混同する可能性がある表現などを避けて）調査可能になるように考えており、調査実施に当たっては、実際の調査経験の豊かな専門家による検討を加えて調査票にまとめている。これは、国際比較可能性の必要条件として、「各国における意味のある調査実施」の可能性を保証する作業である。

次の国際比較可能性の必要条件として、この実際に利用した英語調査票の質問文が、もとの日本語調査票の原質問文と同等であるか否かが問題となる。この問題を検討する一つの方法が、ここで述べている質問文の翻訳文と再翻訳文の対比による検討になるわけである。再翻訳の場合は、調査に利用した英語質問文を原日本語質問文を全く知らない翻訳の専門家に、できるだけ英文に忠実に翻訳してもらい、このようにして日本語に再翻訳された質問文を原質問文とつき合せて検討することにした。このとき、

- 1) 質問の意味は損なわれていないか？
- 2) 質問の意図が損なわれていないか？
- 3) 日本文として両者のくい違いはどうか？
- 4) 言外の意味、ニュアンス等のくい違いはどうか？

等について検討した。

3 和訳の問題点、質問票の決定

ここで、翻訳に関する一般的な問題点や注意をまとめておこう。

国際比較研究をおこなうとき、1)日本が「もとになる調査票」の原案を作成し、これを、比較の対象となる各社会（国）で利用する調査票に翻訳して調査を実施するという場合、あるいは、2)諸外国で実施された調査と比較するために、それらの調査票の質問文を日本語に翻訳して、比較調査に利用する場合がある。このどちらの場合にも問題になることは多いが、特に、次のような点はいつでも問題

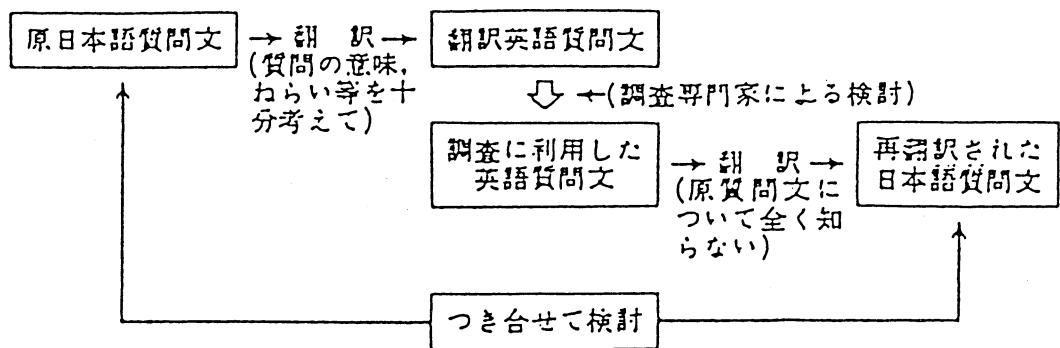


図 II-3 質問文翻訳検討の手順

になる。

a) 賛成あるいは反対などの回答をさらに細かく分けて「程度」を聞く場合

<例> 「賛成」、「反対」の回答を「非常に賛成」、「やや賛成」…「やや反対」、「非常に反対」等とするときの翻訳…これは多くの場合は外国語の調査票から日本語に翻訳して比較調査をするとき問題となる。

b) 何かと比較するときの質問文等

<例> 問「あなたは健康な方ですか？」など…これは「あなたは、同じ年代の人とくらべて健康な方ですか？」、あるいは「あなたは、世間一般の人（ほかの人）とくらべて健康な方ですか？」等の形で比較対象を明らかにして英語等に翻訳される…比較調査のとき問題が生じる可能性がある。

c) 日本的な色彩の強い表現の時

<例> 「恩返し」、「恩人」、「親孝行」等の言葉を英語等に翻訳するとき、その質問文に沿った形で説明を加え、理解し易くする形にする…これは比較調査のとき注意が必要になる。

d) 外国の質問文を翻訳して比較調査するとき、直訳調の質問文ではなく、多少意訳あるいは翻案して利用する場合（質問文を日本語らしくして調査の実施を容易にする意図で）、…これも比較調査のときは、注意する必要がある。

しかし、これらの問題点が、実際に比較調査のときの障害になるのかどうかについての研究は、これまでほとんどない。我々の比較調査では、前節の質問文作成の経緯でもふれたように、日本調査を実施するまでに2回のバック・トランスレーションの検討をおこなっている。そこで出て来た問題点を集約・整理し、いくつかの質問項目については、「比較の元になった質問文及び回答選択肢」と「再翻訳された質問文及び回答選択肢」とを対比して、比較検討できる形の調査計画を立てることにした。

ここで考慮した検討事項は、上に述べた問題点に対応して、a)程度を表わす副詞の有無、b)何かと比較するときの比較の対象を質問文にいれるかどうか、c)日本的な色彩をもつ質問文の文章をふつうの説明文でおきかえる、d)意訳、翻案の程度の強い質問文を翻訳調に戻してみる等のほか、我々の1978年アメリカ調査の際の翻訳検討以来、懸案となっていた「子供に金は大切と教えるか」の質問項目の、「金は最も大切」と教えるという文を、「金は最も大切なものの一つだ」と教えるという形にして比較検討することにした（1978年アメリカ調査では…*the most important*…としたが、今回は…*one of the most*…とした）。この他、日本語から英語（フランス語、ドイツ語）訳、さらに日本語の再翻訳の過程で変わってしまった質問文も検討することにした。

このようにして、1988年日本調査ではA型、B型2種類の調査票を作成して<翻訳のユラギ>ともいるべきものを比較検討できる形の調査とした。このうち、A型は比較対象の4カ国の調査票の質問文の翻訳に近い形の質問文を利用し、B型は元の形の質問文を利用した。

翻訳の問題を比較検討する質問項目は24項目になり、この他、翻訳の検討以外

の質問文の文章あるいは回答選択肢の文章の検討のため2項目を加えた。したがって、1988年日本調査の2種類の調査票A, Bで質問文の異なる質問項目は26項目になる。これらの質問項目は一つ一つ上げないが、質問文あるいは回答の異なるところを示した一覧表を示しておく。A型、B型の質問項目（質問文及び回答選択肢）を対比し比較検討すると、調査結果が同じようになる項目もあり、異なるところもあり、その程度もさまざまで、「翻訳のユラギ」の問題は、抽象的・観念的な一般化し過ぎた議論は避けるべきであることが認識された。

ここでは、一覧表により各質問項目と検討事項との関連を例示しておく。

検討事項	質問項目
<程度>	問1、問2、問3、（問16）
<比較の場合>	問11
<日本の文脈の説明>	問12、問35、問45、問47、問49
（問64）	
<意訳・翻案>	問20、問23、問30、問39 問46、問51、問52、問53 問71
その他 1) 最も大切今最も大切なものの1つ…問33 2) 調査実施上生じたもの…（問16）、問17、問34、問44	
（問64）	
翻訳検討とは関係ない項目…問22、問73	

*** 日本調査A, Bで異なる質問の表***

以上のような調査における質問項目の翻訳に関連する問題は、日本の場合だけではなく、諸外国にもあるものと予想される。また、社会が異なれば、同じ言葉でも意味が異なって伝えられる可能性もあるわけで、この意味では、国際比較研究における調査方法論は、経験の蓄積により分析・検討を行い一步一歩進む以外にない。

今回の調査票を比較対象の各国における研究協力者と検討した際、「翻訳のユラギ」の問題について討議したが、関連する実際の調査データは少なく、今後の研究に待つところが大きいと思われる。

各国の研究協力者のコメントの中には、「日本におけるA、Bの比較検討事項と関連する点の1つは、ドイツ語では例えば回答が‘よい’の場合、ただ‘よい’というだけでは不十分という意識が回答者にあるので、調査の回答では‘非常によい’と回答することが多く、回答記入欄を用意するのが普通である」という指摘があった。また、問35の‘しきたり’は1987年ドイツ調査の質問文では‘普通の慣習’というよりも‘捷’に近い印象があり、この影響でドイツ調査の回答結果は‘押し通す’の比率が高くならないだろうという指摘もあった。

具体的な質問項目及び回答選択肢の翻訳等については、次の節を参照のこと。

日本調査 A、B で質問文が異なる質問

			A	B
問1	#1.30B	日本人の生活水準	1 非常によくなつた 2 非常にわるくなつた	1 よくなつた 2 わるくなつた
問2	#1.30A	生活水準10年の変化	1 非常によくなつた 2 非常にわるくなつた	1 よくなつた 2 わるくなつた
問3	#1.31	今後の生活水準	1 非常によくなるだろう 2 非常にわるくなるだろう	1 よくなるだろう 2 わるくなるだろう
問11	#4.11	先祖を尊ぶか	普通より先祖を尊ぶ方	先祖を尊ぶ方
問12	#4.10	他人の子供を養子にするか	養子にとって	養子にもらって
問16	#1.8	社会的階層	もとのまま	上 _____ 下 1 2 3 4 5
問17	#1.81	収入か余暇か	1 収入が増えること 2 余暇が増えること	1 欲しいものがもっと買える 2 自由な時間がもっと長く
問20	#7.24	就職の第1の条件	1 お金のことを気にしないで	1 かなりよい給料がもらえる
問22	#2.4	くらし方	もとのまま 1 一生懸命働き 2 まじめに 3 金や名誉	条件文をカット 1 金持ちに 2 名を上げる 3 自分の 4 のんきに
問23	#2.3F	生活環境満足か	環境や住やすさ 1 満足	生活環境 1 満足
問30	#7.19	才能か運か	今の社会で成功している人をみて	人の成功には
問33	#4.5	子供に金は大切と教える	最も大切なものの1つだ	とても大切なのだ
問34	#8.1B	政治家にまかせるか	その人達にまかせる 1いちがいに	その人にまかせる 1いちがいに
問35	#2.1	しきたりに従うか	世間の慣習	世のしきたり
問39	#4.31	家事や子供の世話	1男性、女性の区別なくやるべきだ	1 男性と女性で公平に分担すべきだ
問44	#7.4	国と個人の幸福	国	日本
問45	#5.1D	大切な道徳	a 純に対する愛情と尊敬 b 助けてくれた	a 純孝行 b 恩返し
問46	#5.6H	他人との仲か仕事か	1 仕事はあまりできない	1 仕事の上ではバッとしない
問47	#2.2B	スジかまるくか	一定の原則に従う、他人との調和	スジを通す まるくおさめる
問49	#5.1C2	入社試験（恩人の子）	昔世話をなった人の子供	恩人の子供
問51	#2.12	他人のためか自分のためか	自分のことだけ考えている	自分のことだけに気を配っている
問52	#2.12B	スキがあれば利用されるか	機会があれば	スキがあれば
問53	#2.12C	人は信頼できるか	常に用心した方がよい	用心するにこしたことはない
問54	#1.3	宗教は1つか	独自の教えを説いている	立場が違う
問71	#3.3	社会は変えるべきか	1 根本的に 2 徐々に 3 あらゆる破壊的勢力から守り 通す	1 一革に 2 思いところは少しづつよとして 3 守り通す いく
問73	#3.7	支持政党	しいていえば何党を支持しますか	しいていえばお考に近い政党は

4 翻訳のユラギの効果の検討の 具体的解説（A、B調査票の比較）

我々の場合、もとが日本語であるものは英訳し、これをもとにドイツ語やフランス語になおした。英訳と言っても、主として米語によるもの（なかには英語によるものもある）であったが、英國調査用の英語の質問文と米国調査用の英語の質問文とは必ずしも一致しないのである。もとが英語、フランス語、ドイツ語のものもあるが、その場合は、それらをオリジナルとして他の国語に翻訳した。これら各国の調査票を再び日本語に再翻訳して----これは語学のエキスパートによる----検討したのであるが、これに関連して誤訳・迷訳も見出されることもあった。これはそれ自身面白い問題であるが、主題を外れるので省略する。このような過程を経て、「ほぼ、同じことを質問している程度」の一貫性を得たのである。しかし、これはあくまでも表面的な文字表現のことであることは言うまでもない。

さて、再翻訳した結果、一見同じか、異なるかわからないものもあった。そこでA調査としては再翻訳した質問文の質問票を用い、B調査として、本来の日本語オリジナルの質問文、あるいはオリジナルが外国語であっても意訳して日本語らしい表現にした質問文からなる調査票を用いて、A、B調査の比較を行ってみた。再翻訳の結果明らかに同じ内容のものは、生硬な翻訳でなく本来の日本文の質問を用いた。この結果、A調査は本来の日本文と再翻訳文の質問、B調査は、本来の日本語らしい表現の質問文からなっている。A、B両調査は全国調査で、同一地点において、サンプルを3人に1人の割にB調査を行うという方式をとった。したがって標本は全く同質と考えてよい。

まず、A、B調査で全く同一の質問をみよう。図2-1、2-2のように全く差異がないことが確認できる。質問文が異なる場合、A調査の結果を横軸、B調査の結果を縦軸にとったものを図2-3に示す。同じような結果を示すならば、図2-1、2-2のように45°の直線付近に分布するはずであるが、何となく散ばっている感じが総体的に見られる。つまり、A、B調査の回答の結果は、全く異なるわけではないが、より多くのバラツキが見られる。勿論、個々の質問では、同じものが多く見られる。

特に大きく異なるものを挙げてみると次のようになる。

Q1 の回答肢 1, Q2 の回答肢 2

段階をとる質問で‘非常に’を使うか、使わぬか。

Q17 の回答肢 1, 2 : 収入か余暇か

Q22 の回答肢 1, 3 : くらし方

Q33 の回答肢 1 : 金は大切と教えるか

Q45 の回答肢 b, c : 大切な道徳

Q47 の回答肢 1, 2 : スジかまるくか

Q71 の回答肢 2, 3 : 社会の仕組み

これらのすべてが、日本の質問というわけではないことに注目したい。日本の

質問は Q45 b、c(特にQ45 b)であるが、このちがいが Q45 c に影響を与えている。Q45 b は、A調査では「助けてくれた人に感謝し、必要があれば援助する」を支持した人は57%、B調査では「恩返しをすること」は47%と差が出る。Q45 c は「個人の権利を尊敬すること」で全く同文であるが、上記の差により支持率が変っている。

また、「親孝行」では、A調査の「親孝行、親に対する愛情と尊敬」は78%、B調査の「親孝行をすること」は、71%となっている。

以下、上記の内容の大きく異なる質問文を A 調査、B 調査について表 2-1 にあげておこう。回答の増減の傾向は日本文の含みによって容易に説明されよう。

なお、一見質問文は異って見えるが、それほど回答の異らぬものも見られるのでその一部も挙げておこう。

Q20 の第1選択肢は、A調査では「お金のことを気にもしないですむ程よい給料」、B調査では「かなりよい給料のもらえること(あとは同文)」としてもさして変りはない。Q30 の質問文、A調査の「いまの社会で成功している人を見て、その人の成功には」とB調査の「人の成功には」も差はない。Q51のA調査「……自分のことだけ考えている……」と、B調査「自分のことだけに気をくばっている……」、Q52のA調査「他人は機会があれば……」とB調査「他人はスキがあれば」、Q53のA調査「……それとも常に用心した方がよい……」とB調査の「用心することにこしたことはない……」というのも、差は著しく大きくはない。

こういうわけであるが、前述したように質問文を変えたものでは、より多くばらつくということがわかる。意識の問題を考えるとき、また日本的な含みのある表現では、このばらつく程度の差(大きくて10%程度)を念頭に入れる必要があるう。

5. オランダ調査票作成における翻訳と再翻訳の実例

この章では、試験研究(A)による1992年のオランダ調査におけるバック・トランスレーションを利用した調査票の作成の具体的手続きを例示してみよう。

5.1 役割分担

オランダ調査票翻訳における作業は、統計数理研究所(略称: 統数研)の我々のグループ以外では、オランダのNIPO社(略称: NIPO)が調査票の検討と翻訳(オランダ語訳)に加わり、日本の代理店(略称: R社)が我々とオランダNIPO社との連絡及び調査票翻訳(BT)に携わった。また、統数研側では、日本語にも堪能なオランダ人留学生 E. R. K. 氏が、NIPO社とは独立に、調査票翻訳(オランダ語訳)にあたり、比較のための参考とし、また、隨時、オランダについての情報を提供する任にあたった。

5.2 調査票の翻訳・BTから完成までの手順

オランダ調査にあたっては、5ヶ国調査で使用した英語調査票を元に、オランダ語調査票を作成した。(ただし、質問文に疑義がある場合は、適宜、他の欧米調査票を参考にした。)

基本的な作成手順を以下に示す。

前提: 英語調査票は日本語調査票と同値であるとみなす。

1) 英語調査票をオランダ語に翻訳し、オランダ語訳を作成する。

2) オランダ語訳を日本語にバック・トランスレーション(BT)し、BT日本語訳を作成する。

3) BT日本語訳と日本語調査票を比較対照する。

4) 比較対照の結果、些末な点は除いて、同値であると判断できれば完成。

疑義があれば、オランダ語翻訳者とBT担当者に確認させる。同値でなければオランダ語訳の該当箇所を修正し、2)に戻る。

作業日程を含む作成手順は、図と表の通りである。

*** 図と表を挿入 ***

コメント1~5及びそれらの検討結果の一部は、具体例として、次節に示す。

5.3 調査票翻訳にあたっての留意点

調査票作成にあたっては、NIPOとE. R. K. 氏の協力を得てオランダ語翻訳を行なった。基本的には原文(ここでは英文質問票)に忠実に翻訳を行うこととし、該当翻訳語のニュアンスの違い等の問題が生じた場合に検討、必要であれば修正を行なった。

検討及び修正を行なったケースを概観してみると、当初から予想されていた文化・慣習の違いによる該当翻訳語のニュアンスの違い、翻訳時の単純な誤訳、専門用語の誤解に加え、翻訳者の本来の専門が、意識調査ではなく市場調査であったことから生じたものもあった。

意識調査は、あえて答えにくい設定をして、回答者に究極の選択を迫ることもある。一方、市場調査は、回答者が答えやすいように質問や回答カテゴリーを表現する。今回の調査票作成にあたっても、市場調査に長けたNIPOでは回答者が答えやすい表現を使用する傾向があり、知見がかえって負の結果をもたらした事例(資料参照、問13、問30)も見られた。

代理の調査機関に調査票作成を含む意識調査を委託する場合、以下のことを事前に申し入れ、確認する必要があると思われる。

・本調査は意識調査であり、過去に得た何ヶ国かのデータとの国際比較を目的とする。従って、回答し難い設問もあるが、回答カテゴリーを含めた設問がそのままの形であることが意味があるので、特別な了承を得ない限りは、変更はすべきではない。

・変更した方がよいのではないかという指摘・提案は、それ自体は、調査の背景となる各国の事情を知る上で重要な手がかりとなることも多く、歓迎するが、設問内容・回答カテゴリー等をわずかであっても変更する場合は、了解を得ること。調査企画主体である当方の指示なしに、回答し易い質問文や回答カテゴリー、回答番号に変更することを禁じる。回答選択肢も含めた質問文、質問の順序、回答選択肢の順序、カードの使用等を変更する場合は、必ず当方の指示に従うこと。

実施者（報告日） 実施内容

E.R. De Koe 英語調査票をオランダ語に翻訳、オランダ語（比較対照用）作成。

(93.7.5)

N I P O 英語調査票をオランダ語に翻訳、オランダ語 Ver. 1作成。

->コメント 1

(93.8.13)

R社 オランダ語 Ver. 1をバックトランスレーション、BT日本語
Ver. 1作成。

(93.8.14)

E.R. K. オランダ語 Ver. 1とオランダ語（比較対照用）を比較対照。

(93.8下旬) コメント 2

統数研 日本語調査票とBT日本語 Ver. 1を比較対照。 ->コメント 3

(93.9上旬)

N I P O コメント 1～3検討結果を反映させ、オランダ語 Ver. 2作成。

(93.9.13)

R社 オランダ語 Ver. 2をバックトランスレーション、BT日本語
Ver. 2作成。

(93.9.14)

統数研 日本語調査票とBT日本語 Ver. 2を比較対照。 ->コメント 4

(93.9中旬)

N I P O コメント 4検討結果を反映させ、オランダ語 Ver. 3（予備調査票）
作成。

(93.9中旬)

NIPO・統数研 予備調査前の検討、予備調査実施及び最終検討 ->コメント 5

(93.9.21-10.1)

N I P O コメント 5検討結果を反映させ、オランダ語調査票完成。

(93.10上旬)

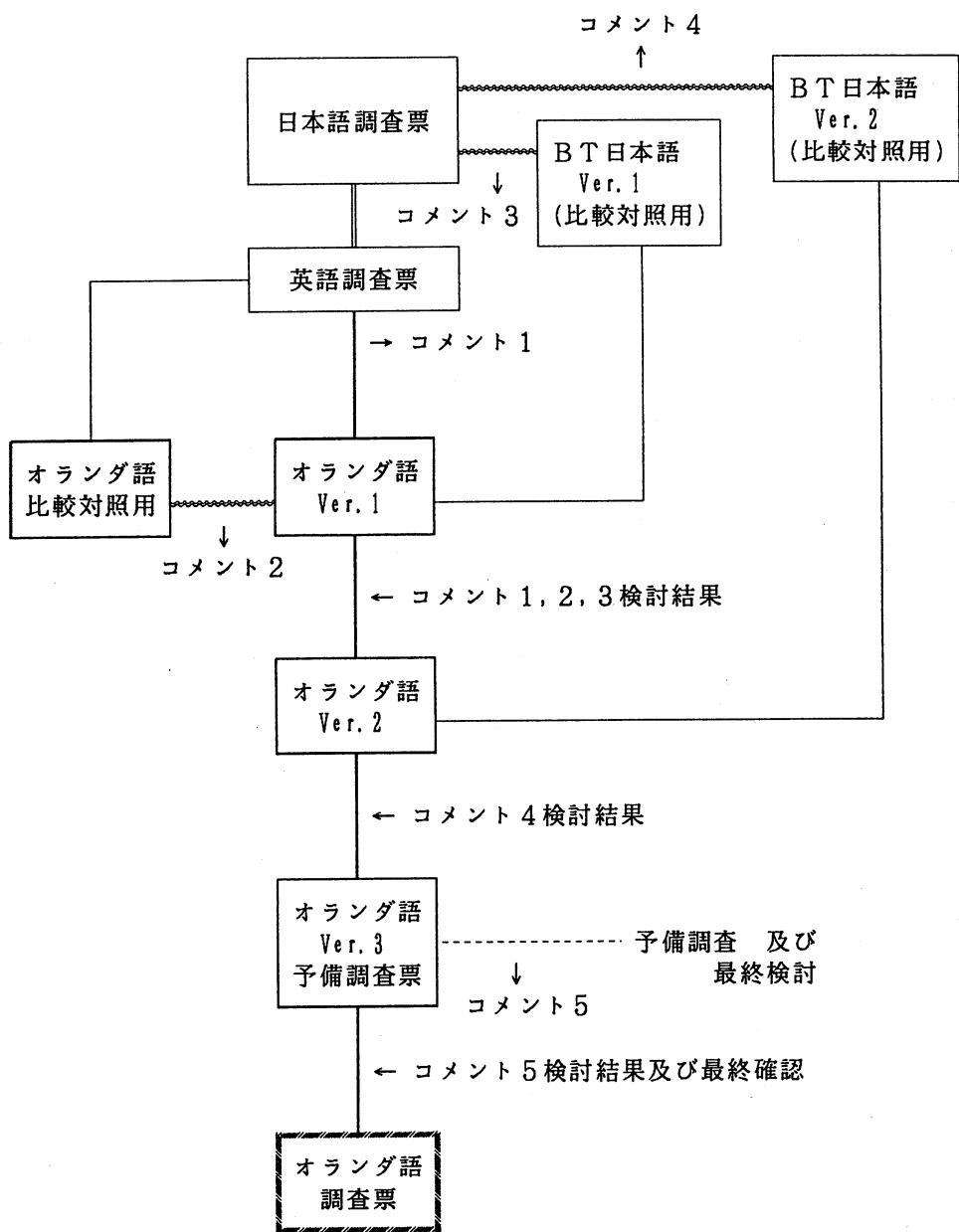


図 オランダ語調査票作成手順

5.4 BT検討の一部の事例

この節では、オランダ調査票作成のためのBT作業時に実際に直面した問題と、その処置の具体例を示そう。以下、本来の日本語質問とBTの日本語訳とで食い違いが生じた、各問題について、本来の日本語質問と米語質問、NIP0のオランダ語訳、R社によるBT、それについての統数研の対処の仕方を簡単に説明し、そして最後にオランダ語質問の最終版を示そう。

NIP0のオランダ語訳：[面接調査員への指示の部分]

Enq: Ondervraag uitsluitend het eerstjarige gezinslid van 18 jaar en ouder

Enq: Geef ondervraagde het toonboekje met het verzoek steeds de door u
genoemde bladen op te slaan.

BT:

アンケート：18才以上の者で、家族の中で最も年長者に質問すること。

アンケート：質問を受ける者にカードを渡して、あなたが指定する頁を開かせる。

[面接調査員への指示の部分]

(問題箇所)コメント2

日本語比較対照の結果、「家族の中で最も早く誕生日を迎える者」とあるべきところが、「家族の中で最も年長者」となっていた。

統数研の対処：(検討・処置)

オランダ語翻訳の際、翻訳者がバースデイ・ルール(Birthday Rule)について理解していないかったために生じた誤訳である。「家族の中で最も年長者」ではなく、「家族の中で最も早く誕生日を迎える者」に面接調査を行うよう指示した。

オランダ語最終版：

Enq: Ondervraag uitsluitend het eerstjarige gezinslid van 18 jaar en ouder

Enq: Geef ondervraagde het toonboekje met het verzoek steeds de door u
genoemde bladen op te slaan.

A. Bezit u de Nederlandse nationaliteit?

1 Ja, bezit Nederlandse nationaliteit

2 Neen → STOP INTERVIEW

本来の日本語質問文：

問4 これから先、ひとびとは幸福になると思いますか、不幸になると思いますか。

1 2 3 4 5
幸福に 不幸に 変わらない その他(記入) わからない

米語質問文：

Q. 4

Do you think people, in general, will be more happy, or less happy than they are now?

A. 4

- 1 More happy 2 Less happy 3 No change
4 Other (PLEASE SPECIFY) _____ 0 Don't know

NIPOのオランダ語訳：

[問4]

vraag 4

Geloofst u dat de mensen in de toekomst in het algemeen gelukkiger zullen worden of juist minder gelukkig?

- 1 Gelukkiger 2 Minder gelukkig
3 Ongeveer hetzelfde 4 Weet niet/Geen mening

BT:

質問4

将来、人々は一般に今よりも、幸せまたは不幸になると思いますか。

1. 今より幸せになる 2. 今より不幸になる
3. 大体同じ 4. 分からない／意見なし

[問4]

(問題箇所)コメント2

質問文中の「toekomst」には「将来」の意味もあるが、「遠い将来」をも意味するとの指摘がE. R. De Koe氏からあった。

統数研の対処：(検討・処置)

このまま本設問を使用するよう指示した。

オランダ語最終版：

4. Geloofst u dat de mensen in de toekomst in het algemeen gelukkiger zullen worden of juist minder gelukkig?

- 1 Gelukkiger
2 Minder gelukkig
3 Ongeveer hetzelfde
4 Weet niet/Geen mening

問5 これから先、心のやすらかさは、ますと思しますか、へると思しますか。

1 2 3 4 5
ま す へ る 変わらない その他(記入) わからない

Q. 5

How about people's peace of mind?
Do you think it will increase or decrease?

A. 5

- 1 Increase 2 Decrease 3 Not change
4 Other (PLEASE SPECIFY) _____ 0 Don't know

[問5]

vraag 5

En hoe zal de gemoedsrust van de mensen zich ontwikkelen? Zal die toe- of afnemen?

- 1 Toenemen
- 2 Afnemen
- 3 Geen verandering
- 4 Anders, nl.....
- 5 Weet niet/Geen mening

質問5

人々の心の平安(piece of mind)は、今後どう変わるでしょうか。

増すでしょうか、減るでしょうか。

1. 増す
2. 減る
3. 今と同じ
4. その他、すなわち_____
5. 分からない／意見なし

[問5]

(問題箇所)コメント1、5

哲学的すぎる質問で、普通の人々には答えにくいのではないかとの指摘がNIPOからあった。

(検討・処置)

予備調査を行った結果、特に問題はないことが確認されたので、このまま本設問を使用するよう指示した。

5. En hoe zal de gemoedsrust van de mensen zich ontwikkelen? Zal die toe- of afnemen?

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1 Toenemen | 2 Afnemen |
| 3 Geen verandering | 4 Anders, nl..... |
| 5 Weet niet/Geen mening | 6 _____ |
| 7 _____ | 8 _____ |
| 9 _____ | 0 _____ |
| 11 _____ | 12 Weet niet/geen mening |

問11 あなたはどちらかといえば、普通より先祖を尊ぶ方ですか、それとも普通より尊ばない方ですか。

- | | | | | |
|---------------|-----------------|------|----------------|---------|
| 1 普通より
尊ぶ方 | 2 普通より
尊ばない方 | 3 普通 | 4 その他(記入)_____ | 5 わからない |
|---------------|-----------------|------|----------------|---------|

Q.11

Would you say you are, on the hole, more inclined than the average American to respect your ancestors or less?

A.11

- | | |
|----------------------------------|-------------------------------|
| 1 More than the average American | 2 Less than average American |
| 3 Average | 4 Other (PLEASE SPECIFY)_____ |
| 0 Don't know | |

[問11]

vraag 11

In welke mate bent u volgens uzelf geneigd de nagedachtenis van uw voorouders in ere te houden?

- 1 Meer dan gemiddeld 2 Minder dan gemiddeld
3 Ongeveer evenveel 4 Anders, nl.
5 Weet niet/Geen mening

質問11

貴方自身は先祖の思い出を下記のどの程度で誇りに思っていますか。

1. 平均以上 2. 平均以下
3. 大体普通 4. その他、すなわち _____
5. 分からない／意見なし

[問11]

(問題箇所1)コメント1

オランダでは、両親を老人ホームに入れる人も多くないので、先祖について考えないのではないかとの指摘がNIP0からあった。

(検討・処置1)

「先祖」を「自分の直系尊属」として認識することを前提に、このまま本設問を使用するよう指示した。

ちなみに、イギリス等では「ancestor先祖」という言葉から、Newton等昔の偉人を思い浮かべることがあるらしい。オランダではそのようなことがないことを一応確認した。

(問題箇所2)コメント4

日本語訳比較対照の結果、「先祖を尊敬する」であるべきところが「先祖の思い出を誇りに思う」となっていた。

(検討・処置2)

該当箇所のオランダ語を確認し、「尊ぶ」に相当するオランダ語に修正するよう指示した。

11. In welke mate heeft u respect voor uw afkomst (voor uw voorouders)?
1 Meer dan gemiddeld 2 Minder dan gemiddeld 3 Ongeveer gemiddeld
4 Anders, nl. 5 Weet niet/geen mening

問12 子供がないときは、血のつながりがない他人の子供を、養子にとって家をつがせた方がよいと思いますか、それとも、つがせる必要はないと思いますか。

- 1 2 3 4 5
つがせた方 つがせる必要は 握合による その他(記入) わからない
 がよい ない

Q.12

If you had no children, would you think it desirable to adopt a child in order to continue the family line, even if there is no blood relationship? Or do you not think this is important?

A.12

- 1 Would adopt 2 Would not adopt 3 Depends
4 Other (PLEASE SPECIFY) _____ 5 Not important 0 Don't know

[問12]

vraag 12

Als u geen eigen kinderen zou krijgen, zou u het dan wenselijk vinden een kind te adopteren zodat de familienaam zou blijven voortbestaan, al is het dan zunder bloedverwantschap, of vindt u dat onbelangrijk?

- 1 Wenselijk 2 Niet wenselijk
3 Misschien/hangt ervan af 4 Anders, nl....
5 Weet niet/Geen mening

質問12

あなたに実子がないと仮定して、家名を存続させるために、血のつながりがあるなしにかかわらず、だれか子供を養子にするのが望ましいと思いますか。或いは、そんなことは別に重要なことではないとお考えですか。

1. 望ましい 2. 別に意に介さない
3. 多分、そう思う／場合による 4. その他、すなわち_____
5. 分からない／意見なし

[問12]

(問題箇所)コメント2

オランダ語訳比較対照の結果、「家名」に相当するオランダ語には「familienaam姓」のほかに「familie家系」が挙げられた。

(検討・処置)

両者は同義とし、本設問には「familienaam姓」を採択した。
ちなみに、オランダでは姓をふつう男子に継がせるそうである。

12. Als u geen eigen kinderen zou krijgen, zou u het dan wenselijk vinden een kind te adopteren zodat de familienaam zou blijven voortbestaan, al is het dan zunder bloedverwantschap, of vindt u dat onbelangrijk?

- 1 Wenselijk 2 Niet wenselijk
3 Misschien/hangt ervan af 4 Anders, nl....
5 Weet niet/Geen mening

問13 現在、一般的な家庭にとって望ましい子供の数は何人だと思いますか。

9

_____人

わからない

Q.13

What do you think is the ideal number of children in a family? (DO NOT READ)

A.13

- 1 One 2 Two 3 Three 4 Four
5 Five 6 More than 5 7 None
8 It depends/ no ideal number 0 Don't know

[問13]

vraag 13

Wat is volgens u het ideale aantal kinderen in een gezin?

- | | | | |
|-------------------------------------|-----|-------------------------|-----|
| 1 Geen | 2 1 | 3 2 | 4 3 |
| 5 4 | 6 5 | 7 Meer dan 5 | |
| 8 Hangt ervan af/geen ideaal aantal | | 9 Weet niet/Geen mening | |

質問13

家族の子供の数は下記のどれが理想的だと思いますか。

- | | | | |
|-------------------|-------|--------------------|-------|
| 1. なし | 2. 1人 | 3. 2人 | 4. 3人 |
| 5. 4人 | 6. 5人 | 7. 6人以上(直訳: 5人を超す) | |
| 8. 場合による／理想的な数はない | | 9. 分からない／意見なし | |

[問13]

(問題箇所)コメント2

日本語訳比較対照の結果、回答番号が変わっていることが判明した。

(検討・処置)

元の回答番号(データ入力の際のコードに同じ)に合わせるよう修正を指示した。

13. Wat is volgens u het ideale aantal kinderen in een gezin?

- | | |
|------------------------|------------------------------------|
| Geen | 1 |
| 2 | 3 |
| 4 | 5 |
| Meer dan 5 | Hangt ervan af/ geen ideaal aantal |
| Weet niet/ geen mening | |

問18 もし、一生、楽に生活できるだけのお金がたまつたら、あなたはずっと働きますか、それとも働くのをやめますか。

- | | | | |
|------------|--------------|--------------|------------|
| 1
ずっと働く | 2
働くのをやめる | 3
その他(記入) | 4
わからない |
|------------|--------------|--------------|------------|

Q.18

If you were to get enough money to live as comfortably as you would like for the rest of your life, would you stop working?

A.18

- | | | |
|--------------------|----------------|--------------------------------|
| 1 Continue to work | 2 Stop working | 3 Other (PLEASE SPECIFY) _____ |
| 4 Retired | 5 Do not work | 0 Don't know |

[問18]

vraag 18

Als u genoeg geld had om de rest van uw leven zo comfortabel te leven als u maar zou wensen, zou u dan willen blijven werken of zou u stoppen met werken?

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 1 Wil blijven werken | 2 Stop met werken |
| 3 Anders, nl.... | 4 Weet niet/Geen mening |

質問 18

余生を好きなように暮らせるだけの財産（直訳：金）があると仮定した場合、働き続けたいと思いますか、或いは働くのを止めますか。

1. それでも、働き続ける 2. 働くのを止める
3. その他、すなわち_____ 4. 分からない／意見なし

[問 18]

（問題箇所）コメント 1

仕事を持たぬ人についても回答を求めるのかという指摘がNIPPOからあった。

（検討・処置）

回答カテゴリーに「退職している」、「働いていない」の2つのカテゴリーを追加するよう指示した。

Als u genoeg geld had om de rest van uw leven zo comfortabel te leven als u maar zou wensen, zou u dan willen blijven werken of zou u stoppen met werken?

- 1 Wil blijven werken 2 Stop met werken
3 Anders, nl..... 4 _____
5 Is gepensioneerd 6 Werkt niet
7 Weet niet/geen mening

問27〔カード16〕次にあける生活領域のそれぞれについて、あなたが重要だと思う程度に従って1~7の評価をつけてください。

重 要 で な い	そ の 要 他	わ か ら な い

- a. まず、「家族や子供」についてはどうですか。… 1 2 3 4 5 6 7 8 9
b. では、「職業や仕事」についてはどうですか。… 1 2 3 4 5 6 7 8 9
c. では、「自由になる時間とくつろぎ」についてはどうですか。…………… 1 2 3 4 5 6 7 8 9
d. では、「友人、知人」については…………… 1 2 3 4 5 6 7 8 9
e. では、「両親、兄弟、姉妹、親戚」については… 1 2 3 4 5 6 7 8 9
f. では、「宗教」については…………… 1 2 3 4 5 6 7 8 9
g. では、「政治」については…………… 1 2 3 4 5 6 7 8 9

Q. 27

(HAND CARD) Using this scale, where '7' is "very important," and '1' is "not important at all," can you tell me how important each of the following are to you? (READ EACH ITEM TURN)

A. 27

	Not important at all				Very Important			Don't know	
	1	2	3	4	5	6	7	0	212
Your immediate family and children, if you have any	1	2	3	4	5	6	7	0	212
Career and work	1	2	3	4	5	6	7	0	213
Free time and relaxation	1	2	3	4	5	6	7	0	214
Friends and acquaintances	1	2	3	4	5	6	7	0	215
Parents, brothers, sisters, and other relatives	1	2	3	4	5	6	7	0	216
Religion and church	1	2	3	4	5	6	7	0	217
Politics	1	2	3	4	5	6	7	0	218

[問27]

vraag 27

Kunt u mij aan de hand van dit overzicht vertellen hoe belangrijk elk van de weergegeven punten voor u is?

(Eng: Lees de punten een voor een op)

Helemaal niet belangrijk	Zeer belangrijk	Geen mening					
1	2	3	4	5	6	7	8
a. Uw naaste familie en kinderen	b. Carrière en werk						
c. Vrije tijd en ontspanning	d. Vrienden en kennissen						
e. Ouders, broers en zusters en andere familie	f. Godsdienst en kerk						
g. Politiek							

質問27 カードの頁10

下記の一覧表に挙げられた項目が、それぞれあなたにとってどれほど大切なことを言ってください。（下記の項目をひとつひとつ挙げて、答を求める）

重要性なし	きわめて重要	意見なし					
1	2	3	4	5	6	7	8
a. 配偶者と我が子	b. キャリアーと仕事						
c. 余暇と息抜き	d. 友達と知識						
e. 親、兄弟姉妹、家族	f. 信仰と教会						
g. 政治							

[問27]

(問題箇所1)コメント3

日本語比較対照の結果、「友達と知人」とあるべきところが「友達と知識」となっていた。

(検討・処置1)

オランダ語の該当箇所を確認したところ、オランダ語は正しく「友達と知識」を意味していた。日本語訳の誤訳、あるいはタイプミスであった。日本語訳を「友達と知人」に修正した。

(問題箇所2)コメント3

日本語比較対照の結果、「宗教」とあるべきところが「信仰と教会」となっていた。

(検討・処置2)

オランダにおいては、「宗教」と「信仰と教会」は同義であることが確認されたので、このまま本設問を使用するよう指示した。

27. Eng: Toonblad 6

Kunt u mij aan de hand van dit overzicht vertellen hoe belangrijk elk van de weergegeven punten voor u is?

(Eng: Lees de punten een voor een op!)

	Helemaal niet <u>belangrijk</u>	1	2	3	4	5	Zeer <u>belangrijk</u>	6	7	Geen mening
Uw naaste familie en kinderen	a									
Carrière en werk	b									
Vrije tijd en ontspanning	c									
Vrienden en kennissen	d									
Ouders, broers en zusters en andere familie	e									
Godsdiensten en kerk	f									
Politiek	g									

問28〔カード17〕あなたは自分の家庭に満足していますか、それとも不満がありますか。

1	2	3	4	5	6	7
満足	やや	どちらとも	やや	不満	その他(記入)	わからない
満足	いえない		不満			

Q. 28

(HAND CARD) All things considered, how satisfied are you with your family life—the time you spend and the things you do with members of your family? Just call off the letter which comes closest to your feelings.

A. 28

- | | |
|--|-----------------------------|
| A 1 Completely satisfied | B 2 Somewhat satisfied |
| C 3 Neither completely satisfied nor completely dissatisfied (neutral) | |
| D 4 Somewhat dissatisfied | E 5 Completely dissatisfied |
| 6 Other (PLEASE SPECIFY) _____ | 0 Don't know |

[問28]

vraag 28 TOONBLAD 11

Hoe tevreden bent u met uw gezinsleven(alles bij elkaar genomen), dus met de tijd die u doorbrengt en de dingen die u doet met uw gezin?

- | | | |
|-----------------------|---------------------|----------------------------|
| 1 Zeer tevreden | 2 Tamelijk tevreden | 3 Tevreden noch ontevreden |
| 4 Tamelijk ontevreden | 5 Zeer ontevreden | 6 Weet niet/Geen mening |

質問28 カードの頁11

今の家庭生活(すべてを含めて)にどれほど満足していますか。すなわち、家族と共にいる時間、一緒に何かすることについて。

1. 非常に満足
2. かなり満足
3. 一応満足はしているが、少し不満足でもある。
4. かなり不満足
5. 非常に不満足
6. 分からない／意見なし

[問28]

(問題箇所)コメント1

一人住いの人の場合、「家庭」とはどのように定義すればよいのかとの指摘がNIPONからあった。(「gezinsleven 家庭」結婚して子供がいる家庭。配偶者と子供を意味する。「familieleven 家庭」父母とその両親、兄弟を意味する)

(検討・処置)

人によっては、離れ住んでいる両親や子供を含めることが推察される。しかし、過去に6カ国について本設問に対する回答を得ていることから、国際比較調査の意義を優先し、このまま本設問を使用するよう指示した。

28. Enq: Toonblad 5, VAK B

Hoe tevreden bent u met uw gezinsleven (alles bij elkaar genomen), dus met de tijd die u doorbrengt en de dingen die u doet met uw gezin?

(Enq: Ook vragen indien respondent alleenstaande is.)

1	Zeer tevreden	2	Tamelijk tevreden
3	Tevreden noch ontevreden	4	Tamelijk ontevreden
5	Zeer ontevreden	6	Weet niet/ geen mening

問30 いまの社会で成功している人を見て、その人の成功には、個人の才能や努力と、運やチャンスのどちらが大きな役割をはたしていると思いますか。

1 2 3 4
個人の才能や努力 運やチャンス その他(記入) わからない

Q.30

If you look at successful people in society today, which do you think has played the largest part in their success, their ability and effort, or luck and chance?

A.30

1 Ability and effort 2 Luck and chance
3 Other (PLEASE SPECIFY) _____
4 Both 0 Don't know

[問30]

vraag 30

Als kijkt naar de mensen die "geslaagd zijn" in de maatschappij, vindt u dan dat hun succes vooral te danken is aan bekwaamheid en inspanning of vooral aan geluk en toeval?

1 Bekwaamheid en inspanning 2 Geluk en toeval
3 Beide 4 Anders, nl....
5 Weet niet/Geen mening

質問 30

社会で成功している人を見ると、それがその人の能力と努力、或いは運のよさによるものと思いませんか。

1. 能力と努力
2. 運のよさ
3. 両方
4. その他、すなわち_____
5. 分からない／意見なし

[問 30]

(問題箇所)

元の調査票の回答カテゴリーにはなかった「3. 両方」が挿入されていた。

(検討・処置)

訳語そのものが間違っていたこともあり、回答カテゴリーの挿入に気づかず本調査を行ってしまった。(そのため、国際比較調査としての意義を失ってしまった。)

30. Als u kijkt naar de mensen die "geslaagd zijn" in de maatschappij, vindt u dan dat hun succes vooral te danken is aan bekwaamheid en inspanning of vooral aan geluk en toeval?	
1 Bekwaamheid en inspanning	2 Geluk en toeval
3 Beide	4 Anders, nl: _____
5 _____	6 _____
7 _____	8 _____
9 _____	0 Weet niet/ geen mening

問35 あなたは、自分が正しいと思えば世間の慣習に反しても、それをおし通すべきだと思いますか、それとも世間の慣習に、従った方がまちがいないと思いますか。

1 おし通せ 2 従え 3 場合による 4 その他(記入) 5 わからない

Q. 35

If you think something is right, do you think you should go ahead and do it even if it is contrary to usual custom, or do you think you are less apt to make a mistake if you follow custom?

A. 35

1 Go ahead even if contrary 2 Follow custom 3 Undecided/it depdns
4 Other (PLEASE SPECIFY) _____ 0 Dont' know

[問 35]

vraag 35

Als u ervan overtuigd bent dat iets goed is, vindt u dan dat u daarnaar moet handelen zelfs al gaat het tegen de algemene gebruiken in, of vindt u dat u zich beter aan de algemene gebruiken kunt houden, omdat je dan minder risico

loopt?

- | | |
|------------------------------|---------------------------|
| 1 Ernaar handelen | 2 Aan de gebruiken houden |
| 3 Geen mening/Hangt ervan af | 4 Anders, nl..... |
| 5 Weet niet | |

質問 35

何か正しいと信じた場合、一般の風習がそれと反対でも、あなたは正しいと思うところに従って行動しますか、或いは、そのような危険を敢えて冒さず、一般の風習に合わせる方がよいと思いますか。

- | | | |
|-------------------|-------------|---------------|
| 1. 自分の信条に従って行動する | 2. みんなに合わせる | 3. 意見なし／場合による |
| 4. その他、すなわち _____ | 5. 分からない | |

[問 35]

(問題箇所) コメント 3

日本語訳比較対照の結果、「しきたりに従った方が間違いない」とあるべきところが「危険を敢えて冒さず、一般の風習に合わせる方がよい」となっている。

(検討・処置)

「間違う」に相当するオランダ語は「fouten」、「危険を冒す」は「risico」であるが、本設問において「間違いない」と「危険を敢えて冒さない」は同義として、このまま本設問を使用するよう指示した。

35. Als u ervan overtuigd bent dat iets goed is, vindt u dan dat u daarnaar moet handelen, zelfs al gaat het tegen de algemene gebruiken in, of vindt u dat u zich beter aan de algemene gebruiken kunt houden, omdat je dan minder risico loopt?

- | | |
|------------------------------|---------------------------|
| 1 Ernaar handelen | 2 Aan de gebruiken houden |
| 3 Geen mening/Hangt ervan af | 4 Anders, nl..... |
| 5 _____ | 6 _____ |
| 7 _____ | 8 Weet niet |

問36 こういう意見があります。

「どんなに世の中が機械化しても、人の心の豊かさ（人間らしさ）はへりはしない」というのですが、あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか。

- | | | |
|-----------------|--------------|------------|
| 1 反対(へる) | 2 いちがいにはいえない | 3 賛成(へらない) |
| 4 その他(記入) _____ | 5 わからない | |

Q.36

Some people say that no matter how mechanized the world gets, nothing can reduce the richness of human feelings. Do you agree with this opinion, or do you disagree?

A.36

- | | | |
|--------------------------------|--------------|-------------------------|
| 1 Yes | 2 No | 3 Undecided/ it depends |
| 4 Other (PLEASE SPECIFY) _____ | 0 Don't know | |

[問 36]

vraag 36

Sommige mensen menen dat, hoe "gemechaniseerd" de wereld ook wordt, niets de

rijkdom van het menselijk gevoel kan verminderen. Bent u het met die mening eens o oneens?

- 1 Eens 2 Oneens 3 Niet eens maar ook niet oneens/Hangt ervan af
4 Weet niet

質問 3 6

世の中がいかに「機械化」されようと、人間の感情(feelings)の豊かさを減らすことはないと主張する人がいます。あなたは、その意見に賛成ですか、不賛成ですか。

1. 賛成 2. 不賛成 3. 賛成でも不賛成でもない／場合による
4. 分からない

[問 3 6]

(問題箇所 1) コメント 1、5

哲学的すぎる質問で、普通の人々には答えにくいのではないかとの指摘がN I P Oからあった。

(検討・処置 1)

予備調査を行った結果、特に問題はないことが確認されたので、このまま本設問を使用するよう指示した。

(問題箇所 2) コメント 2

オランダ語比較対照の結果、「豊か」に相当するオランダ語として「reikdom(心)豊か」の他に「wardite暖かい、人間味がある」が挙げられた。

(検討・処置 2)

両者は同義として、本設問では「reikdom(心)豊か」を採択した。

36. Sommige mensen menen dat, hoe "gemechaniseerd" de wereld ook wordt, niets de rijkdom van het menselijk gevoel kan verminderen. Bent u het met die mening eens of oneens?

- 1 Eens 2 Oneens
3 Niet eens maar ook niet oneens/ hangt ervan af 4 Weet niet

問43〔カード23〕自然と人間との関係について、つぎのような意見があります。あなたがこのうち真実に近い（ほんとうのことについ）と思うものを、1つだけ選んでください。

- 1 人間が幸福になるためには、自然に従わなければならない
- 2 人間が幸福になるためには、自然を利用しなければならない
- 3 人間が幸福になるためには、自然を征服していかなければならない
- 4 その他（記入） 5 わからない

Q. 43

(NAND CARD 43) Here are three opinions about man and nature. Which one of these do you think is closest to the truth? Just give me the letter.

A. 43

- A 1 In order to be happy, man must follow nature
- B 2 In order to be happy, man must make use of nature
- C 3 In order to be happy, man must conquer nature
- 4 Other (PLEASE SPECIFY) 0 Don't know

[問43]

vraag 43 TOONBLAD 18

U ziet hier drie opvattingen over de mens en de natuur. Welke daarvan ligt volgens u het dichtst bij de waarheid?

- 1 Om gelukkig te worden moet de mens zich aan de natuur onderwerpen
- 2 Om gelukkig te worden moet de mens van de natuur gebruik maken
- 3 Om gelukkig te worden moet de mens de natuur domineren
- 4 Anders, nl.... 5 Weet niet/Geen mening

質問43 カードの頁18

人間と自然について3つの意見が掲げられています。どの意見があなたの考えに最も近いでしょうか。

1. 人間は、幸せになるためには、自然に没入(直訳：身を投じる)しなければならない
2. 人間は、幸せになるためには、自然を利用しなければならない
3. 人間は、幸せになるためには、自然を支配しなければならない
4. その他、すなわち_____ 5. 分からない／意見なし

[問43]

(問題箇所) コメント3

日本語比較対照の結果、「自然に従わなければならない」とあるべきところが「自然に没入しなければならない」となっていた。

(検討・処置)

該当箇所のオランダ語を確認した結果、オランダ語訳は正しく「自然に従わなければならない」を意味していた。バックトランスレーションにおける誤訳で、日本語訳を「自然に従わなければならない」に修正した。

43.

Enq: Toonblad 9, VAK A

U ziet hier drie opvattingen over de mens en de natuur. Welke daarvan ligt volgens u het dichtst bij de waarheid?

- 1 Om gelukkig te worden moet de mens zich aan de natuur onderwerpen
- 2 Om gelukkig te worden moet de mens van de natuur gebruik maken
- 3 Om gelukkig te worden moet de mens de natuur domineren
- 4 Anders, nl.... 5 _____
- 6 _____ 7 _____
- 8 _____ 9 _____
- 0 Weet niet/geen mening

問44〔カード24〕あなたはつぎの意見の、どちらに賛成ですか。1つだけあげてください。

- 1 個人が幸福になって、はじめて国全体がよくなる
- 2 国がよくなつて、はじめて個人が幸福になる
- 3 国がよくなることも、個人が幸福になることも同じである
- 4 その他(記入)) 5 わからない

Q. 44

(HAND CARD 44) Please choose from among the following statements the one with which you agree most. Just the letter, please.

A. 44

- A 1 If individuals are made happy, then and only then will the country as a whole improve
- B 2 If the country as a whole improves, then and only then can individuals be made happy
- C 3 Improving the country and making individuals happy are the same thing
- 4 Other (PLEASE SPECIFY) _____ O Don't know

[問44]

vraag 44 TOONBLAD 19

Welke van de uitspraken op dit blad komt het beste overeen met uw mening?

- 1 Pas als de mensen gelukkiger worden kan een land als geheel vooruitgaan
- 2 De mensen kunnen alleen gelukkig worden als het land als geheel vooruitgaat
- 3 Vooruitgang van het land en geluk van de mensen komen op hetzelfde neer
- 4 Weet niet/Geen mening

質問44 カードの頁19

この頁に記載されている意見の内、あなたの考えに最も近いのはどれですか。

1. 国民が幸せになってこそ、国全体が前進する
2. まず国が全体としてよくならないと、国民は幸せになれない
3. 国としての進歩と国民の幸福は、結局同じものだ
4. 分からない／意見なし

[問44]

(問題箇所)コメント1

回答カテゴリー1「(国が)よくなつて」のオランダ語訳として、「vooruitgaan前進する」を使用しているが、意味が広すぎるのではないかとの指摘がN I P Oからあった。

(検討・処置)

そのまま本設問を使用するよう指示した。

44.

Enq. : Toonblad 9, VAK B

Welke van de uitspraken op dit blad komt het beste overeen met uw mening?

- 1 Pas als de mensen gelukkiger worden kan een land als geheel vooruitgaan
- 2 De mensen kunnen alleen gelukkig worden als het land als geheel vooruitgaat
- 3 Vooruitgang van het land en geluk van de mensen komen op hetzelfde neer
- 4 Weet niet/Geen mening

問45 [カード25] つぎのうち、大切なことを2つあげてくれといわれたら、どれにしますか。
あり なし

- a. 親孝行、親に対する愛情と尊敬 1 0
- b. 助けてくれた人に感謝し、必要があれば援助する ... 1 0
- c. 個人の権利を尊重すること 1 0
- d. 個人の自由を尊重すること 1 0

5. その他(記入) 6. わからない

(上の質問では、2つの項目をあげてもらうこと)

Q. 45

(HAND CARD 45) If you were asked to choose the two most important items listed on this card, which two would you choose? Just call off the letters. See page 37

A. 45

A1 Respect for parents B2 Repaying people who have helped you in the past
C3 Respect for the rights of the individual

D4 Respect for the freedom of the individual 5 Other answers(PLEASE SPECIFY) _____

[問45]

vraag 45 TOONBLAD 20

Welke twee punten zou u als de belangrijkste kiezen uit deze lijst van vier?

- (Eng: slechts twee "ja" antwoorden weergeven!) Ja Nee
- a Liefde en respect voor uw ouders 1 2
 - b Dankbaarheid tonen tegenover weldoeners uit het verleden 1 2
 - c Eerbiediging van de rechten van het individu 1 2
 - d Eerbiediging van de vrijheid van het individu 1 2

質問45 カードの頁20

下記の4つの点で、どのふたつが最も大切と思いますか。("然り"の答は必ず2つだけとする)

然り 否

- a. 両親への愛情と尊敬 1 2
- b. これまで世話をした人々に対する感謝(直訳:過去の恩人) 1 2
- c. 個人の権利の尊重 1 2
- d. 個人の自由の尊重 1 2
- e. その他、すなわち_____ 1 2
- f. 分からない／意見なし 1 2

[問45]

(問題箇所) コメント2

回答カテゴリーbにおいて、「恩人」に相当するオランダ語はあるが、面接調査ではこのままの方がわかりやすいだろうとの指摘がE. R. De Doe氏からあった。

(検討・処置)

そのまま本設問を使用するよう指示した。

45.

Enq.: Toonblad 10, VAK A

Welke twee punten zou u als de belangrijkste kiezen uit deze lijst van vier?

(Eng: slechts twee "ja" antwoorden weergeven!) Ja Nee

- a Liefde en respect voor uw ouders 1 2
- b Dankbaarheid tonen tegenover weldoeners uit het verleden 1 2
- c Eerbiediging van de rechten van het individu 1 2
- d Eerbiediging van de vrijheid van het individu 1 2
- e Anders, nl. :....
- f Weet niet/geen mening

問46 [カード26] つぎのうち、あなたはどちらが人間として望ましいとお考えですか。

- 1 他人と仲がよく、なにかと頼りになるが、仕事はあまりできない人
- 2 仕事はよくできるが、他人の事情や心配事には無関心な人
- 3 その他（記入） 4 わからない

Q. 46

(HAND CARD 46) Whom do you consider more desirable as a person?

A. 46

- A 1 Mr. S. who is friendly and can be counted on to help others but is not an efficient worker
- B 2 Mr. T. who is an efficient worker but is indifferent to the worries and affairs of others
- 3 Other (PLEASE SPECIFY) _____ 0 Don't know

[問46]

vraag 46 TOONBLAD 21

Aan wie van de volgende twee personen geeft u de voorkeur?

- 1 Iemand die vriendelijk is en op wie je kunt rekene als je hulp nodig hebt, maar die zijn werk niet erg goed doet
- 2 Iemand die heel goed werkt maar geen belangstelling heeft voor de zorgen en bezigheden van anderen
- 3 Weet niet/Geen mening

質問46 カードの頁21

下記のふたりの人物の内でどちらを選びますか。

1. 親切で、あなたが困ったときに助けてくれると期待してよいが、自分の仕事はいい加減な人
2. 仕事は非常によくできるが、周囲の人々を助けたり、世話をしたりする点では全然當てにできない人
3. 分からない／意見なし

[問46]

(問題箇所) コメント3

日本語比較対照の結果、「仕事はあまりできない人」とあるべきところが「仕事はいい加減な人」となっている。

(検討・処置)

該当箇所のオランダ語は、元になる英語調査票の「inefficient」に相当する言葉であるので、そのまま本設問を使用するよう指示した。

46. Eng: Toonblad 10, VAK B

Aan wie van de volgende twee personen geeft u de voorkeur?

- 1 Iemand die vriendelijk is en op wie je kunt rekene als je hulp nodig hebt, maar die zijn werk niet erg goed doet
- 2 Iemand die heel goed werkt maar geen belangstelling heeft voor de zorgen en bezigheden van anderen
- 3 Weet niet/ geen mening

問48〔カード28〕あなたが、ある会社の社長だったとします。その会社で、新しく職員を1人採用するために試験をしました。入社試験をまかせておいた課長が、「社長のご親戚の方は2番でした。しかし、私としましては、1番の人でも、ご親戚の方でも、どちらでもよいと思いますがどうしましょうか」と社長のあなたに報告しました。あなたはどちらをとれ（採用しろ）といいますか。

- 1 1番の人を採用するようにいう 2 親戚を採用するようにいう
3 その他（記入） 4 わからない

Q. 48

(HAND CARD 48) Suppose that you are the president of a company. The company decides to employ one person, and then carries out an employment examination. The supervisor in charge reports to you saying, "Your relative who took the examination got the second highest grade. But I believe that either your relative or the candidate who got the highest grade would be satisfactory. What shall we do?" In such a case, which person would you employ?

- A. 48 A 1 One with the highest grade B 2 Your relative
3 Other (PLEASE SPECIFY) 0 Don't know

[問48] vraag 48 TOONBLAD 23

Veronderstel dat u directeur bent van een bedrijf. Er is een vacature en het bedrijf houdt een sollicitatietest. De man of vrouw van de afdeling personeels zaken vertelt u dat een familielid van u aan de test meedeed en de op een na hoogste score gehaald heeft. "Maar", zegt hij, "ik geloof dat de als eerste gecertificeerde kandidaat en uw familieled beiden even geschikt zijn voor de baan. Wat doen we?" Wie neemt u in zo'n geval in dienst?

- 1 De als eerste gecertificeerde kandidaat 2 Uw familieled
3 Anders, nl.... 4 Weet niet/Geen mening

質問48 カードの頁23

あなたがある会社の社長だとします。空席が生じて、社員をひとり募集するために試験をする事になりました。人事部の話によると、あなたの家族の一人がその試験を受けて、2番目によい成績を収めたとのことです。人事部は、トップの者もあなたの家族の者も仕事の適性の点では変わらないと言います。あなたならば、どうしますか。どちらを採用しますか。

1. いずれにしても、成績がよい方を採用する 2. 家族の者を採用する
3. その他、すなわち_____ 4. 分からない／意見なし

[問48]

(問題箇所)コメント3

日本語比較対照の結果、「採用」とあるべきところが「募集」に、「親戚」とあるべきところが「家族の一人」となっていた。

(検討・処置)

該当箇所のオランダ語を確認した結果、正しく「採用」、「親戚」を意味していた。バックトランクレーションの際の誤訳であった。日本語訳を「採用」、「親戚」と修正した。

48. Enq.: Toonblad 11, VAK B

Veronderstel dat u directeur bent van een bedrijf. Er is een vacature en het bedrijf houdt een sollicitatietest. De man of vrouw van de afdeling personeels zaken vertelt u dat een kennis van u aan de test meedeed en de op een na hoogste score gehaald heeft. "Maar", zegt hij, "ik geloof dat de als eerste gecertificeerde kandidaat en uw kennis beiden even geschikt zijn voor de baan. Wat doen we?" Wie neemt u in zo'n geval in dienst?

1 De als eerste geeindigde kandidaat 2 Uw familie lid 3 Anders, nl....
4 _____ 5 _____ 6 _____ 7 _____ 8 Weet niet/geen mening

問49〔カード29〕それでは、この場合2番になったのがあなたの親戚の子供でなくて、あなたが昔世話になった人の子供だったとしたら、あなたはどうしますか。（どちらをとれといいますか）

- 1 1番の人を採用するようにいう 2 昔世話になった人の子供を採用するようにいう
3 その他（記入） 4 わからない

Q.49

(HAND CARD 49) In the last question we supposed that the one getting the second highest grade was your relative. Suppose that the one who got the second highest grade was the son of parents to whom you felt indebted. Which person would you employ?

A.49

- A 1 One with the highest grade B 2 Son of your benefactor
3 Other(PLEASE SPECIFY) 0 Don't know

[問49]

vraag 49 TOONBLAD 24

Bij de vorige vraag gingen we ervan uit dat de als tweede geeindigde kandidaat een familie lid van u was. Maar als dat nu de zoon was van iemand bij wie u in het krijt staat, wie nam u dan in dienst?

- 1 De als eerste geeindigde kandidaat
2 De zoon van degene bij wie u in het krijt staat
3 Anders, nl.... 4 Weet niet/Geen mening

質問49 カードの頁24

上記の質問の件で、2番目の候補者がかつてあなたの家族だったとします。例えば、あなたが扶養義務を負う人の息子としましょう。だれを採用されますか。

1. いずれにしても、成績がよい方を採用する
2. 扶養義務を負う者の息子を採用する(直訳)
3. その他、すなわち_____ 4. 分からない／意見なし

[問49]

(問題箇所)コメント3

日本語比較対照の結果、「昔の恩人の息子」とあるべきところが「かつてあなたの家族…あなたが扶養義務を負う人の息子」となっている。

(検討・処置)

該当箇所のオランダ語を確認した結果、正しく「昔の恩人の息子」を意味していた。バックトランスレーションの際の誤訳であった。日本語訳を「昔の恩人の息子」と修正した。

49.

Enq. : Toonblad 12, VAK A

Bij de vorige vraag gingen we ervan uit dat de als tweede geeindigde kandidaat een kennis van u was. Maar als dat nu de zoon was van iemand bij wie u in het krijt staat, wie nam u dan in dienst?

- 1 De als eerste geeindigde kandidaat
 2 De zoon van degene bij wie u in het krijt staat
 3 Anders, nl.... 4 _____ 5 _____
 6 _____ 7 _____ 8 Weet niet/geen mening
-

問52 他人は、機会があれば、あなたを利用しようとしていると思いますか、それともそんなことはないと思いますか。

- 1 他人は機会があれば利用しようとしていると思う 2 そんなことはないと思う
 3 その他(記入)) 4 わからない

Q. 52

Do you think that most people would try to take advantage of you if they got the chance, or would they try to be fair?

A. 52

- 1 Take advantage 2 Try to be fair
 3 Other(PLEASE SPECIFY) 0 Don't know

[問52]

vraag 52

Denkt u dat de meeste mensen van u zullen profiteren als ze de kans krijgen, of zullen ze proberen eerlijk te zijn?

- 1 Profiteren 2 Eerlijk zijn
 3 Anders, nl.... 4 Weet niet/Geen mening

質問52

大部分の人は、機会さえあれば、あなたから利益を得ようとしていると思いますか。或いは、正直に行動しようと努力していると思いますか。

1. 利用しようとしている 2. 正直である
 3. その他、すなわち_____ 4. 分からない／意見なし

[問52]

(問題箇所)コメント3

日本語比較対照の結果、「profiteren」に対して「利益を得る」、「利用する」の2通りに訳している。

(検討・処置)

両者とも同義であることを確認した。

52. Denkt u dat de meeste mensen van u zullen profiteren als ze de kans krijgen, of zullen ze proberen eerlijk te zijn?

- 1 Profiteren 2 Eerlijk zijn
 3 Anders, nl.... 4 _____
 5 _____ 6 Weet niet/geen mening
-

問55〔カード32〕科学上の発見とその利用は、あなたの日常生活の改善に役だっていると思いますか。

- 1 役だっている 3 役だっていない 5 わからない
 2 少しは役だっている 4 その他(記入))

Q. 55

To what extend do you think that science and its applications bring improvements to your everyday life? Would you say....(READ)

A. 55

- | | |
|--------------|----------------------------|
| 1 A lot | 2 A little bit, or |
| 3 Not at all | 0 Don't know (DO NOT READ) |

[問55]

vraag 55

In welke mate vindt u dat de wetenschap en wetenschappelijke toepassingen uw dagelijks leven verbeteren? (Eng: Lees op)

質問55

科学とその応用はあなたの日常生活をよくするのに役立っていると思いますか（読み上げる）

1. 大変役立っている 2. 少しだけ役立っている
3. 全く役立っていない 4. 分からない／意見なし

[問55]

(設問)

原文

BT文

(問題箇所)コメント3

日本語比較対照の結果、「科学上の発見とその利用」が「科学とその応用」となっていた。

(検討・処置)

該当するオランダ語を確認した結果、正しく「科学上の発見とその利用」を意味していた。日本語訳を「科学上の発見とその利用」と修正した。

55. In welke mate vindt u dat de wetenschap en wetenschappelijke toepassingen uw dagelijks leven verbeteren? (Eng: Lees op)

- 1 In hoge mate 2 Een beetje
3 Helemaal niet 4 Weet niet/geen mening

問56〔カード33〕コンピュータがいろいろなところに使われるようになり、情報化社会などということが言われています。このような傾向が進むにつれて、日常生活の上で変わっていく面があると思います。あなたは、このような変化をどう思いますか。

- 1 望ましいことである 2 望ましいことではないが、避けられないことである
3 困ったことであり、危険なことでもある
4 その他（記入 ） 5 わからない

Q. 56

(HAND CARD 56) In the future, computers in general will continue to change our lives. Do you think this is....(READ)

A. 56

- A 1 A desirable thing
B 2 An understandable but inevitable thing, or
C 3 A regrettable and dangerous thing
0 Don't know(DO NOT READ)

[問56] vraag 56

Computers zullen in de toekomst ons leven verder veranderen. Vindt u dat...?

(Eng: Lees op)

- 1 Wenselijk 2 Begrijpelijk maar onvermijdelijk
3 Spijtig en gevaarlijk 4 Weet niet/Geen mening

質問56

コンピューターは、将来、我々の生活をもっと変えるはずです。あなたの考えは（読み上げる）

1. それが望ましい 2. そう思う。それを避けることはできない
3. 残念なことで、むしろ危険である 4. 分からない／意見なし

[問56]

（問題箇所）コメント3

日本語比較対照の結果、「2. 望ましいことではないが、…」とあるべきところが「2. そう思う。…」となっている。

（検討・処置）

該当箇所のオランダ語およびオランダ語訳の元である英語調査票の該当箇所を検討した結果、英語調査票問56の回答カテゴリー2は日本語調査票と同値でなかったことが判明した。本来「undesirable but inevitable」であるべきものが「understandable but inevitable」となっており、それを忠実にオランダ語訳し、「そう思う。…」となっていた。本来の「望ましいことではないが、…」の意味になるよう、オランダ語の修正を指示した。

56. Computers zullen in de toekomst ons leven verder veranderen. Vindt u dat...?

(Eng: Lees op)

- 1 Wenselijk 2 Niet wenselijk, maar onvermijdelijk
3 Spijtig en gevaarlijk 4 Weet niet/Geen mening

問58〔カード35〕つぎに挙げることは今後25年の間に実現すると思いますか。それについてこの中からお答えください。

多分実 実現する可 実現し わから
現する 能性は低い ない その他 ない

a. まず、「原子力廃棄物の安全な処理方法」についてはどうですか。

.....1 2 3 4 5

b. 「ガンの治療方法の解明」についてはどうですか。

.....1 2 3 4 5

c. 「老人性痴呆症（ぼけ）の治療方法の解明」についてはどうですか。

.....1 2 3 4 5

d. 「宇宙ステーションでの生活」についてはどうですか。

.....1 2 3 4 5

Q. 58

(HAND CARD 58) How likely do you think it is that we will see each of the following things in the next 25 years? Very likely, possible but not too likely, or not at all likely. (READ EACH IN TURN)

A. 58

	<u>Very likely</u>	<u>Possible but not too likely</u>	<u>Not at all likely</u>	<u>Don't know</u>	
A safe method for the long-term storage or disposal of waste products from nuclear plants	1	2	3	4	225
A cure for common forms of cancer	1	2	3	4	256
A cure for senility	1	2	3	4	257
People living in space stations	1	2	3	4	258

[問58] 質問 58 TOONBALD 28

Op deze kaart staat een aantal dingen die in de komende 25 jaar kunnen gaan gebeuren. Hoe waarschijnlijk acht u dat van deze gebeurtenissen binnen 25 jaar?

Moegelijk Helemaal

Zeer waar-	maar waar-	niet waar-	Weet niet	Geen mening
schijnlijk	schijnlijk	schijnlijk	niet	

a. Een veilige methode de opslag of verwerking van kernaalval op lange termijn	1	2	3	4	5
b. Een geneesmiddel tegen de meest voorkomende vormen van kanker	1	2	3	4	5
c. Een geneesmiddel om dementie ar te remmen	1	2	3	4	5
d. Mensen-die leven in ruimtestations	1	2	3	4	5

質問 58 カードの頁 28

この頁には、向こう25年間に実現する可能性のあることがいくつか挙げられています。25年間にそれぞれのことが実現される可能性がどれくらいあると思われますか（読み上げる）

起きる 可能性 が高い	多分、 起きる だろう	可能性 は全然 ない	分から ない	意見 なし
-------------------	-------------------	------------------	-----------	----------

a. 放射性廃棄物の長期的 の保存または加工のため の安全な方法の開発	1	2	3	4	5
b. 殆どのタイプの癌に利 く薬剤の開発	1	2	3	4	5
c. 痴呆(dementia)に利く 薬剤の開発	1	2	3	4	5
d. 人間が生活できる宇宙 ステーションの開発	1	2	3	4	5

[問58]

(問題箇所1) コメント1

質問eとして「AIDSの治療法」についての質問を追加したらどうかという提案がNIP0からあった。

(検討・処置1)

今日的な話題を加える方が自然であるので、質問eとして「AIDSの治療法」についての質問をオランダ語訳、追加するよう指示した。

(問題箇所2)コメント3

日本語比較対照の結果、「この頁には、向こう25年間に実現する可能性のあることがいくつか挙げられています。」との一文が加わっている。

(検討・処置2)

回答者に先入観を与える危惧があるので、削除するよう指示した。

58. Eng: Toonblad 13, VAK B

Hoe waarschijnlijk acht u het dat elk van de gebeurtenissen op deze kaart binnen 25 jaar zullen gaan gebeuren? (Eng: Lees op:)

	Mogelijk	Helemaal			
	maar	niet			
	waar-	waar-	waar-	Weet	Geen
<u>schijnlijk</u>	<u>schijnlijk</u>	<u>schijnlijk</u>	<u>niet</u>	<u>mening</u>	

- Een veilige methode voor
de opslag of verwerking
van kernafval op lange
termijn a
Een middel tegen de meest
voorkomende vormen van
kanker b
Een middel om dementie af
te remmen c
Mensen die leven in
ruimtestations d
Een middel tegen Aids ... e

[オランダ調査のみ用いた新問題(ドイツ調査との比較に実施した日本調査Cと対応する)]
問61-7[カード提示] このカードには、近い将来起るかもしれないわれわれの生活様式
の変化があげられています。それについて、もし万一、そういう事が起った場合、あ
なたにはそれはよい事だと思いますか、それとも悪い事だと思いますか、それとも気にし
ませんか。

	良い	悪い	気にしない
1 お金や物にあまり執着しなくなる	1	2	3
2 生活の中で、働く事の重要性が減る	1	2	3
3 技術開発がより重視される	1	2	3
4 個人の能力開発がより重視される	1	2	3
5 公の権威や権力がより尊重される	1	2	3
6 家庭生活がより重視される	1	2	3
7 質素でより自然な生活様式になる	1	2	3

Q. 61-7

Here is a list of various changes in our way of life that might take place in
the near future. Please tell me for each one, if it were to happen whether you
think it would be a good thing, a bad thing or don't you mind?

	Good	Bad	Don't mind
Less emphasis on money and material possessions	1	2	3
Decrease in the importance of work in our lives	1	2	3
More emphasis on the development of technology	1	2	3
Greater emphasis on the development of the individual	1	2	3
Greater respect for authority	1	2	3
More emphasis on family life	1	2	3
A simple and more natural lifestyle	1	2	3

[問61-7] vraag 61-7 TOONBLAD 32

Dit is een lijst van veranderingen die zich in de nabije toekomst in onze manier van leven zouden kunnen voordoen. Kunt u mij bij elke daarvan vertellen of u het als iets goeds of iets slechts zou zien, of dat het u niets uitmaakt?

Goed Slecht Geeft
niet

a	Minder nadruk op geld en materieel bezit	1	2	3
b	Minder belang van werk in ons leven	1	2	3
c	Meer nadruk op de ontwikkeling van technologie	1	2	3
d	Meer nadruk op de ontwikkeling van de mens als persoon	1	2	3
e	Meer eerbied voor het gezag	1	2	3
f	Meer nadruk op het gezinsleven	1	2	3
g	Een eenvoudiger en natuurlijker manier van leven	1	2	3

質問61-7 カードの頁32

近い将来、私達の生活方式に起きるかも知れない変化をリストにしました。それぞれの点について、あなたは歓迎するか、または厭だと思われるか、或いは別にどうとも思われないか、知らせて下さい。

歓迎 厦だ 何とも思わない

a.	金銭と財産の多少に重きが置かれなくなる	1	2	3
b.	生活の中で仕事に重きが置かれなくなる	1	2	3
c.	技術の進歩に重きが置かれるようになる	1	2	3
d.	人間を個人として開発することに重きが置かれるようになる	1	2	3
e.	権威が尊重されるようになる	1	2	3
f.	家庭生活に重きが置かれるようになる	1	2	3
g.	生活がもっと簡単で自然になる	1	2	3

[問61-7] (7ヶ国共通の質問ではない)

(問題箇所)コメント3

各国により言葉のニュアンスは異なるが、設問eの「権威」にはどのようなイメージがあるのか。

(検討・処置)

オランダにおいて「gezag 権威」とは、警察や法律のイメージが強く、政府や国会のイメージとは違うということを確認した。

61-7.

Enq.: Toonblad 17, VAK A

Dit is een lijst van veranderingen die zich in de nabije toekomst in onze manier van leven zouden kunnen voordoen. Kunt u mij bij elke daarvan vertellen of u het als iets goeds of iets slechts zou zien, of dat het u niets uitmaakt?

Goed Slecht Geeft
niet

a	Minder nadruk op geld en materieel bezit	1	2	3
b	Minder belang van werk in ons leven	1	2	3
c	Meer nadruk op de ontwikkeling van technologie	1	2	3
d	Meer nadruk op de ontwikkeling van de mens als persoon	1	2	3
e	Meer eerbied voor het gezag	1	2	3
f	Meer nadruk op het gezinsleven	1	2	3
g	Een eenvoudiger en natuurlijker manier van leven	1	2	3

問73 しいていえば、あなたは何党を支持しますか。

- 1 自民党 2 社会党 3 公明党 4 民社党
5 共産党 6 社民連 7 その他の政党(記入)
8 支持政党なし 9 わからない

Q.73

Which political party do you usually feel closest to?

A.73

- 1 Republican 2 Democrat 3 Independent 4 Other
5 No political party 6 Refused to say 0 Don't know

[問73] vraag 73 TOONBLAD 37

Door welke politieke partij voelt u zich gewoonlijk het meest aangetrokken?

- 1 CDA 2 PvdA 3 D'66 4 VVD 5 Groen links 6 RPF
7 GPV 8 SGP 9 CD 10 andere partij
11 weigert te zeggen 12 Weet niet/Geen opgave

質問73 カードの頁37

一般的に、どの政党に魅力を感じますか。

- 1 CDA 2 PvdA 3 D'66 4 VVD 5 Groen links 6 RPF
7 GPV 8 SGP 9 CD 10 その他の政党
11 意見発表を拒否する 12 分からない／意見なし

[問73]

(問題箇所)コメント3

「政党」についてはどのように記載するか。

(検討・処置)

各国の事情に応じて記載党数、党名等適切に変えるよう指示した。

73. Enq.: Toonblad 21

Door welke politieke partij voelt u zich gewoonlijk het meest aangetrokken?

- 1 CDA 2 PvdA 3 VVD 4 D'66 5 Groen links 6 RPF
7 GPV 8 SGP 9 CD 10 Andere partij
11 Weigert te zeggen 12 Weet niet/geen mening

4 層別2段サンプリングの実施例と サンプリングの誤差推定等の計算例

4.1 はじめに

本節では、ランダム・サンプリングに基づく標本抽出法を用いた場合、実際の調査の結果得られたデータからどのようにして標本誤差を計算すればよいか、特に、層別2段抽出による調査のサンプリング誤差を実際の調査結果から推定計算するには、調査データをどのように整理し、どのような補助情報を利用すればよいかについて説明する。

サンプリング誤差の計算は、調査地点ごとに行い、抽出方式にしたがって層から全体へと積み上げていくので、補助情報としては1)各層の大きさ(層に属している対象者数)、2)各調査地点の大きさ(調査地点:第1次抽出単位に属している対象者数)、3)各層に属している調査地点の一覧表がまず必要であり、このほか、抽出方式に関する情報(第1次抽出単位の抽出が確率比例抽出かどうか)も必要である。

実際の計算は、全国規模の調査データでは大量になるので、コンピュータを利用することになる。この際、比率を基にした各種の計算値と、層の大きさのように桁の大きい数値の両方を積み上げていくので計算誤差に対する慎重な配慮が必要である。以下の分析計算には、統計数理研究所のサンプリング誤差計算プログラムESPを利用していている(注1)。

注1) 統計数理研究所「社会調査の実施過程における調査誤差の研究」研究リポート52(1981)

4.2 サンプリング誤差についての実例

実例は、層別2段サンプリングによる全国調査であるが、比較のため、まず、年齢階層による平均年齢について、母集団の値および調査から得られた数値をもとにして、仮に単純ランダム・サンプリングをしたときには、サンプリングの誤差はどの程度になるかを求めてみよう。

例1. 全国の年齢階層による、年齢の平均の推定

国勢調査によると、全国の18歳以上の人口の分布は表4-4-1のようになっている。ここでは話を簡単にするために、18、19歳はコードとして1、20~24歳は2、25~29歳は3、…、70歳以上は12としたコードの平均を推定することを考えてみる。

表4-4-1 昭和60年(1985年)国勢調査による18歳以上人口

昭和60年(1985年)の国勢調査の結果から計算すると、おおよそ、

平均 = 6.402 分散 = 10.201

となり、サンプル3,000人を単純ランダム・サンプリングでとったときのサンプリング誤差は、信頼度95%として、おおよそ、

$2 \times (\text{分散} / n)^{\frac{1}{2}}$ = 約0.117

表 4-4-1
昭和 60 年（1985 年）国勢調査による 18 歳以
上人口

コード	年齢区分	人口（千人）	構成比率
1	18、19	3,308	3.7
2	20～24	8,200	9.2
3	25～29	7,823	8.8
4	30～34	9,054	10.1
5	35～39	10,738	12.0
6	40～44	9,135	10.2
7	45～49	8,237	9.2
8	50～54	7,933	8.9
9	55～59	7,000	7.8
10	60～64	5,406	6.1
11	65～69	4,193	4.7
12	70～	8,275	9.3
計		89,302	100.0

となる。すなわち、全国から18歳以上の調査対象サンプル3,000人を単純ランダム・サンプリングでとり出し、年齢区分ごとにまとめてコードの平均をとれば、ほぼ 6.40 ± 0.12 くらいの間になるはずだといえる。

これを層別2段サンプリングの実例についてみてみよう。

データは、我々の特別推進研究「意識の国際比較方法論の研究」で1988年に実施した全国調査の結果である。このうち、調査できたサンプルの3,282人について、これをサンプル全体と考え、計算した（計算した結果はサンプリング誤差のサマリー表の（1）サマリー表の見方の2を参照）。

計算の結果によると、年齢コードによる年齢の平均の推定値は、6.778で国勢調査の数値による計算にくらべて少し高年齢のほうに偏っていることがわかる。これは、一部分は昭和60年（1985年）国勢調査時点と、1988年調査時点における人口ピラミッドとのズレによる（いわゆる団塊の世代の高年齢化による）影響であるが、調査できた層の割合が高年齢層のほうが高いことも影響しているものと考えられる。すなわち、調査できたサンプルからの計算であるから、調査できたサンプルの年齢構成がやや中高年層に傾いていることを反映して、平均はやや高く、分散はやや小さくなっていることがわかる。

また、単純ランダム・サンプリングのときにくらべ、層別2段サンプリングでは、サンプリングの誤差が3割ほど大きくなる（単純ランダム・サンプリングのときの 0.107 が層別2段のときは 0.142 程度になる）。

したがって、サンプルからの推定では、信頼度95%として 6.778 ± 0.142 となる。

例2. 全国調査の結果による学歴（大学卒）層の比率の推定

1988年の「意識の国際比較方法論の研究」全国調査のA調査の結果をみると、学歴（大学卒）層の比率は、約20.7%と推定された。これが単純ランダム・サンプリングの調査（サンプル数=2,265）から得られたものと考えると、サンプリングの誤差は約1.7%となるから、ほぼ $20.7 \pm 1.7\%$ となる。

層別2段サンプリングの場合は計算によると、信頼度95%として 20.7 ± 2.2 となり、単純ランダム・サンプリングの場合と比較して、サンプリングの誤差は約1.3倍弱となる。

これらの例からみてもわかるように、層別2段サンプリングの標本調査の場合にはサンプリングの誤差が、単純ランダム・サンプリングの場合にくらべて増大する。

サンプリング誤差の増大は第1次抽出単位の間のちらばりの平均的な大きさに関連するから、実際的な問題として、どのような項目ではそれが大きいのか？という情報は調査を計画する場合に重要になる。

これを考へるには、これまでに実施された各種の調査の結果資料および国勢調査などの各種統計資料が重要なものとなる。とくに、一般の意見項目に関する情報は、これまでに実施された同種の調査データの再分析をしなければ手に入れるることは不可能である。したがって、調査を実施して結果をまとめると、次の調査を計画することを考えて調査データを整理しておくことが重要となる。

ここでは、すでに例示した「意識の国際比較方法論の研究」で、1988年に実施した全国調査（以下1988年「国際比較」調査という）の結果および、統計数理研究所が1983年に実施した「日本人の国民性の研究」のK調査（以下「国民性」K調査という）の結果を例にして、サンプリング誤差の計算例を示す。

まず、性（男の比率）、年齢（20歳以上の5歳きざみで60歳以上をまとめたコードの平均）について、抽出サンプル（n=6,000）の結果、および調査回収サンプル（n=4,429）の結果についての計算例を示す。これは1983年の「国民性」調査の結果である（サンプリング誤差のサマリー表の（2）参照）。

4.3 各調査における標本誤差の概要

1988年「国際比較」調査のうちA調査(回答者数n=2,265)、および1983年「国民性」K調査(回答者数n=2,256)にとり上げた一般質問項目の各回答カテゴリ(その他、DKを除く)についての計算結果について、まず概要を示す。

サンプリング誤差分散を縦軸に、回答支持率を横軸にして点打ちしたものが図4-4-1、図4-4-2である。

これを単純ランダム・サンプルの場合と、視覚的に比較できるよう、同一サンプル数の単純ランダム・サンプルの場合の誤差分散を×印で点打ちしてある。これを見ると、一般に2段抽出の場合には、単純ランダム・サンプルの場合に比較して誤差分散が大きく、標本抽出設計による影響が出ている。したがって、標本抽出計画の是非を検討するとき、単純ランダム・サンプルの場合と比較した誤差分散の倍率、あるいは、サンプリング誤差の倍率を目安にするのが便利である。これは層別2段抽出の影響度ともいえる。ここでは、

サンプリング誤差の倍率=

(層別2段抽出の場合のサンプリング誤差)/(単純ランダムの場合のサンプリング誤差)

をとり上げて、各調査の概要を述べる(この値は、回答比率とは一定の関係がないことは図4-4-1、図4-4-2から明らか)。

1988年「国際比較」A調査の一般質問項目について、このサンプリング誤差の倍率を縦軸に、回答支持率を横軸にとって、各回答カテゴリを点打ちしたものが図4-4-3である。また、同様の図を基本属性項目についてみたものが、それぞれ図4-4-4、図4-4-5である。

まず一般的な項目からみると、各調査とも標本抽出設計(層別2段抽出)による影響が認められる場合が多い。単純ランダム・サンプルの場合に比べ、倍率の範囲は2、3の例外はあるが大略約1.5倍以内になる。

これまでに実施した「国民性」調査の計算結果についても参考までに示すと表4-4-2のようになる。

それぞれの調査でとり上げている質問項目が同一ではないので比較はむずかしいが、大多数の比率項目におけるサンプリング誤差の倍率はおよそ1.5倍以内におさまることになる。

図4-4-1, 1988年「国際比較」A調査(一般質問項目):回答支持率とサンプリング誤差分散

図4-4-2, 1983年「国民性」K調査:回答支持率とサンプリング誤差分散

図4-4-3, 1988年「国際比較」A調査(一般質問項目):回答支持率と2段抽出による影響度(サンプリング誤差の倍率)

図4-4-4, 1988年「国際比較」A調査(基本属性項目):回答支持率とサンプリング誤差分散

図4-4-5, 1988年「国際比較」A調査(基本属性項目):回答支持率と2段抽出による影響度(サンプリング誤差の倍率)

表4-4-2, 層別2段抽出の影響度(一般意見項目)(サンプリング誤差の倍率)

また、1988年「国際比較」調査と「国民性」調査では第1次抽出単位が異なるので、その影響を検討することも必要である。すなわち、調査地点の地域的範囲

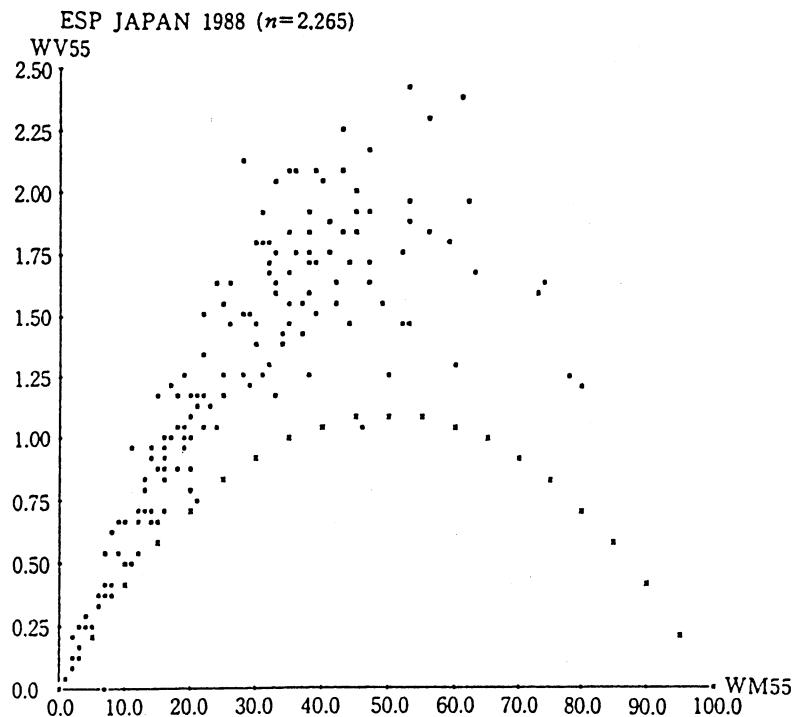
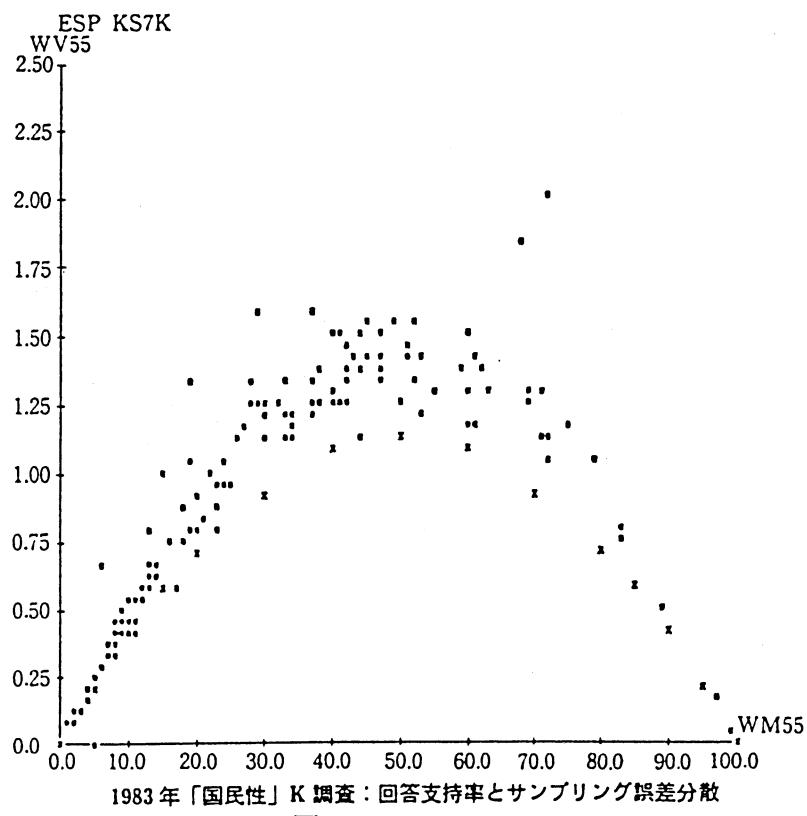
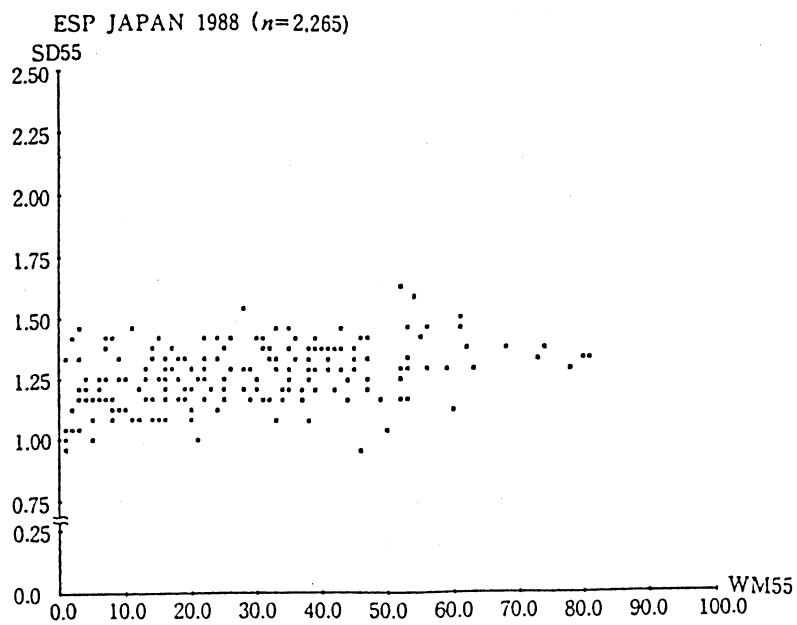


図 4-4-1





1988年「国際比較」A調査（一般質問項目）：
回答支持率と2段抽出による影響度（サンプリング誤差の倍率）

図4-4-3

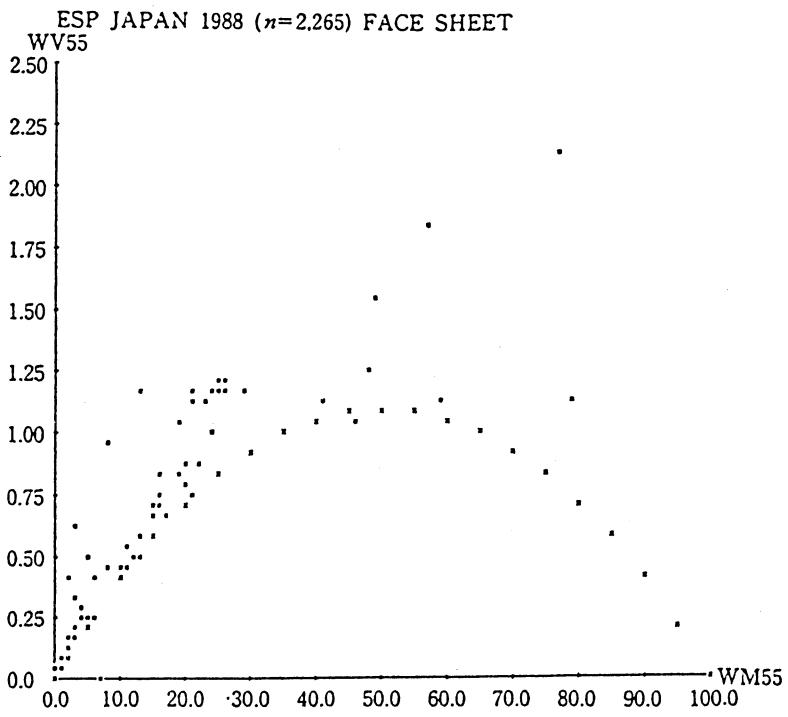


図 4-4-4

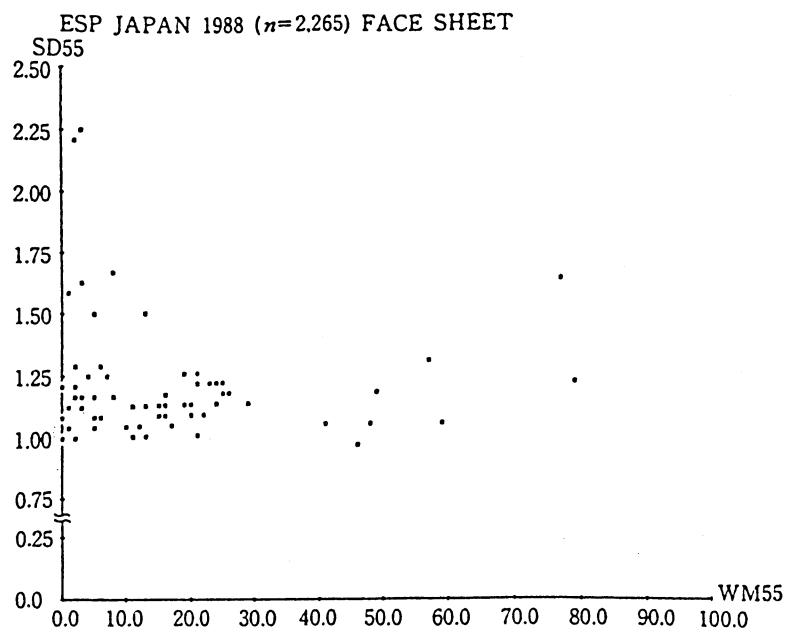


図 4-4-5

表 4-4-2
層別 2段抽出の影響度（一般意見項目）（サンプリング誤差の倍率）

調査	項目数	回答数(n)	サンプリング誤差の倍率の範囲
1988年「国際比較」A調査	283	2,265	～1.63 (1.46)*
1983年「国民性」K調査	100	2,256	～1.47 (1.27)
1978年「国民性」K調査	94	2,032	～1.32 (1.24)
1973年「国民性」調査	159	3,055	～1.60 (1.44)

* () 内の数値は 2, 3 の例外を除いた大多数の項目の上限を示す。

の広さ、まとまり等の地域環境条件と「住民意識のあり方」あるいは「社会属性項目のあり方」との関連をより一層組織的に検討する必要性があるといえる。

同一の調査システム（第1次抽出単位、調査実施作業等）をとっている「国民性」調査の結果からみると、調査地点数が固定（300地点）されているとき、計算の基礎にした総回収サンプル数が大きくなると、2段抽出による影響がより大きく出ていることがみられる。

次に、基本属性項目についてみると、とり上げた基本属性項目によっては、サンプリング誤差の倍率がかなり大きくなる項目のあることがわかる。（表4-4-3で概要を、サンプリングのサマリー表で例示、を参照のこと）。

表4-4-3、層別2段抽出の影響度（基本属性項目）（サンプリング誤差の倍率）

1988年「国際比較」A調査では回答者の住宅の種別（自宅か、公営住宅か、賃貸住宅か、間借りか等）の各カテゴリ（とくに「公営住宅」の場合は最高の倍率になっている）、また、1983年「国民性」調査では回答者の持ち物のうち、「自宅あり」、「宅地あり」、その他、職業のうち「農業」などがあげられる。これらは、地域的に偏在している可能性の高い項目、すなわち、調査地点（第1次抽出単位）として抽出された地域では、その地域の回答者は誰でも同じ回答をする可能性が高く、地域が異なれば、全然そのような回答をする人はいないというような属性項目である。とくに「公営住宅」などでは、調査地点の地域の範囲が限られている場合には地点内では一様の回答が得られることになる。

また、どちらの調査も農業に関するサンプリング誤差の倍率が他の項目に比べて高くなっていることが注目される。学歴もサンプリング誤差の倍率が高いが、性、年齢等は2段抽出の場合でもサンプリング誤差の大きさは単純ランダム・サンプルの場合とそれほど変わらない。

2段抽出の場合の抽出誤差の分散はすでに示したとおり、図式的にいえば（市町村を選ぶときの分散）と（個人を選ぶときの分散）との和となっているので、地域的にみてどこも一様であり、どの地点が選ばれるかによってあまり差のない事項の場合には2段抽出の影響はそれほど大きくなりが、地域的にみて偏在している事項（意見）の場合は、どの地点が選ばれるかによって結果が大きく影響されることになり、抽出誤差の分散が大きくなり、2段抽出の影響（誤差の倍率）も大きくなるといえる。とくに農業とか地域的に持徴のある事項および地域に関連する意見項目等では、2段抽出の影響が出やすいので、その分だけサンプリング誤差が大きくなる。この影響を減少させるように考えなければならない（注2）。このためには調査の企画にあたって、調査目的に沿った補助情報を活用して地域層別を慎重に行うことが必要である。しかし、全国的規模で調査目的に応じた補助情報を収集することは通常困難であり、多くの場合国勢調査資料が利用されている。例示の調査も同様である。次にこの層別について述べよう。

注2）これには総サンプル数をきめたとき抽出する第1次抽出単位（調査地点）の数をどのくらいにするかということも検討しなければならないが、費用、調査員の数等の点から考えると調査地点数はあまり変更することはできない。

4.4 層別の効果

表 4-4-3

層別 2 段抽出の影響度（基本属性項目）（サンプリング誤差の倍率）

調査	項目数	回答数(n)	サンプリング誤差の倍率の範囲
1988年「国際比較」A調査	83	2265	～ 2.23 (1.64)*
1983年「国民性」K調査	42	2256	～ 1.97 (1.59)*
1978年「国民性」調査	25	3945	～ 1.76 (1.36)
1973年「国民性」調査	24	4594	～ 2.00 (1.40)

* () 内の数値は、1978年および1973年の「国民性」調査の最大値を示した基本属性項目に対する項目についての数値を示す。

層別の効果についてみると、誤差分散の減少率が0.2以上になる場合も見られるが、それらの質問項目は、ここで利用している層別の基準（都市人口規模別、地方別、産業率（農業率））と質問内容が関連の深い項目に限られているように見える。層別の効果を全般的に見ると、一般的の調査項目では半数以上の項目で層別の効果が認められる。しかし、現行のような層別を行えば、誤差分散の減少率はせいぜい10%くらいと考えておくのが安全であろう（表4-4-4参照）。

＊＊＊

表4-4-4 各調査における層別の効果

＊＊＊

基本属性項目についてみると、やはり上記のように層別の基準を利用した変数と関連の深い項目、たとえば学歴階層、あるいは、職業層等の項目の推定では、層別の効果により誤差分散の減少率が大きくなっている。この他、地域との関連が深いと考えられる項目として「自家用車あり」、「自宅あり」等も層別の効果がみられ、とくに「自家用車あり」はかなりの効果がある。

ところで、一般的に、どのような層別をすれば、層別の効果があがり、誤差を減少できるかを考えてみると、層内における分散をなるべく減少させ（似たような地域を組み上げて層を作る）、層の間の分散を大にするようにする（異なる層の間では、意見差が大になるようする）のがよい。しかし、地域的にみて地域との関連は強いがその関連の傾向を、一定の基準で全国的にとり上げることができないケースも多い。今後、これらの項目の性質を検討することも必要である。

次に、現行の層別について層別の効果のうち、地域的層別の効果の安定性を検討するため、地域的に近い層をまとめて27層→14層→7層としてみると層別の効果のあり方はほぼ安定していることがわかる。したがって、効果のあり方を細かい数値で考えずに1つの目安として利用していけば層別手法の検討、あるいは、2段抽出の影響と層別手法の関係等で有利な情報が得られる。

層別2段抽出の影響、層別の効果等についても基本属性項目ではかなり安定度は高いが、一般質問項目では質問の内容、性質に左右される面が出てくる。たとえば、層別の基準が都市人口規模別、地方別、農業率等であるから、質問項目のうち市郡別にみて意見差のある項目、基本属性でみると学歴構成、職業（とくに農業）の分布等の諸項目に関して層別の効果が大きくなっている（付表サンプリング誤差のサマリー表参照）。したがって、このことを反映して一般の意見項目についてみると、上に述べた市郡別にみて安定的に意見差のある項目、学歴別にみていつも意見差の大きい項目等では、共通して層別の効果が安定して認められる。

4.5 まとめ

以上、層別2段抽出の場合のサンプリング誤差、2段抽出の影響（サンプリング誤差の倍率）、層別の効果等の概要を述べた。実際の調査企画にあたって留意すべき点は、地域と関連の深い事項を調査するときには層別を十分慎重に行う必要があること、調査地点数（第1次抽出単位数）と総サンプル数とのバランスを十分考慮することが重要である。また、2段抽出の場合にはサンプリング誤差が単純ランダム・サンプルの場合より増加するので調査結果を見るときには注意が必要である。

2段抽出の場合は、単純ランダム・サンプルの場合に比べサンプリングの誤差分散が2倍くらいになるので、サンプリング誤差として通常の単純ランダム・サ

表 4-4-4

各調査における層別の効果

調 査	項目数	回答数(n)	層別の効果
			誤差分散の減少率 ～ [最大] (一般の上限)
(一般意見項目)			
1988年「国際比較」A調査	283	2265	～0.22 (0.17)
1983年「国民性」K調査	100	2256	～0.20 (0.17)
(基本属性項目)			
1988年「国際比較」A調査	83	2265	～0.34 (0.25)
1983年「国民性」K調査	42	2256	～0.30 (0.25)

2段抽出の場合は、単純ランダム・サンプルの場合に比べサンプリングの誤差分散が2倍くらいになるので、サンプリング誤差として通常の単純ランダム・サンプルの場合の誤差を1.5倍くらいにして考えておくのがよい。

比率のサンプリング誤差としては、一応通常の単純ランダム・サンプリングの場合の誤差の1.5倍程度を見込んでおけばほぼ十分ということになる。参考までに単純ランダム・サンプルの場合とその1.5倍のサンプリング誤差の早見表を示す（表4-4-5）。

各個別の項目についてのサンプリング誤差の計算例を、サンプリング誤差のサマリー表の形にして示しておく。サマリー表の内容および計算式等は、「サマリー表の見方」を参照のこと。また、そこで用いた記号または式についての解説は、参考資料「層別2段抽出の場合の標本誤差、2段抽出の影響、層別の効果の推定について」を参照のこと。

表4-4-5, サンプリング誤差の早見表（2段抽出の場合）

サンプリング誤差のサマリー表

参考資料

表 4-4-5
サンプリング誤差の早見表（2段抽出の場合）

P \ N	1,000	2,000	3,000	4,000	5,000	8,000
1.99%	0.63 (0.94)	0.44 (0.67)	0.36 (0.54)	0.31 (0.47)	0.28 (0.42)	0.22 (0.33)
5.95%	1.38 (2.07)	0.94 (1.46)	0.80 (1.19)	0.69 (1.03)	0.62 (0.92)	0.49 (0.73)
7.93%	1.61 (2.42)	1.14 (1.71)	0.93 (1.40)	0.81 (1.21)	0.72 (1.08)	0.57 (0.86)
10.90%	1.90 (2.85)	1.34 (2.01)	1.10 (1.64)	0.95 (1.42)	0.85 (1.27)	0.67 (1.01)
15.85%	2.26 (3.39)	1.60 (2.40)	1.30 (1.96)	1.13 (1.69)	1.01 (1.51)	0.80 (1.20)
20.80%	2.53 (3.79)	1.79 (2.68)	1.46 (2.19)	1.26 (1.90)	1.13 (1.70)	0.89 (1.34)
25.75%	2.74 (4.11)	1.94 (2.90)	1.58 (2.37)	1.37 (2.05)	1.22 (1.84)	0.97 (1.45)
30.70%	2.90 (4.35)	2.05 (3.07)	1.67 (2.51)	1.45 (2.17)	1.30 (1.94)	1.02 (1.54)
35.65%	3.02 (4.52)	2.13 (3.20)	1.74 (2.61)	1.51 (2.26)	1.35 (2.02)	1.07 (1.60)
40.60%	3.10 (4.65)	2.19 (3.29)	1.79 (2.68)	1.55 (2.32)	1.39 (2.08)	1.10 (1.64)
45.55%	3.15 (4.72)	2.22 (3.34)	1.82 (2.72)	1.57 (2.36)	1.41 (2.11)	1.11 (1.67)
50.50%	3.16 (4.74)	2.24 (3.35)	1.83 (2.74)	1.58 (2.37)	1.41 (2.12)	1.12 (1.68)

注) 単純ランダムサンプルのときを左側に示し、その1.5倍を()内に示す。

●サンプリング誤差のサマリー表

(I) サマリー表の見方

(*SUMMARY TABLE*)

	1. 宗教 信じている (%)	2. AGE CODE	(内 容)	(記号または式) [参考資料 I]を参照
N OF STRATA	55	55	層の数	L
N OF P. UNITS	315	315	第1次抽出単位(地点)の数	m
SAMPLE SIZE	2,265	3,282	実際の回収標本の大きさ	v
A: SIMPLE MEAN	36.512	6.814	単純平均	$\bar{x} = \frac{1}{v} \sum \sum x_{i,j}$
B: WEIGHTED MEAN	35.853	6.778	平均の推定値	$\mu = \sum W_i \bar{x}_i$ (4)
BIAS:A-B	-0.659	0.036	バイアス	$\bar{x} - \mu$
BIAS **2/D	0.220	0.255	バイアスの相対的大きさ	$(\bar{x} - \mu)^2/v (\mu)$
C: SIMPLE VAR.	1.02386	0.00285	単純平均の分散	$\frac{N-v}{Nv} \sum \sum (x_{i,j} - \bar{x})^2 / (v-1)$
D: WEIGHTED VAR.	1.97444	0.00500	平均の分散(層別2段抽出)	$v(\mu)$ (6)
E: (RANDOM) VAR.	1.01624	0.00288	" (単純無作為抽出)	$\frac{N-v}{Nv} S^2$
2*(W.SD)	2.8103	0.1415	サンプリング誤差(層別2段抽出)	95%信頼度
2*(R.SD)	2.0162	0.1074	" (単純無作為抽出)	
D/E	1.943	1.734	層別2段抽出による分散の倍率	
SQR(D/E)	1.394	1.317	" 標準偏差の倍率	
SAMPLE SIZE	3,000	4,500	標準的標本の大きさ	n
G: STRA-2STAGE	1.70131	0.00403	層別2段抽出による分散	$v(\tilde{\mu})$ ⑦
H: 2STAGE	2.04246	0.00415	2段抽出(層別なし)による分散	$v(\mu^*)$ ⑧
EFFECT:(H-G)/H	0.167	0.030	層別の効果(I)分散の減少率	
I: STRA-RANDOM	0.73196	0.00209	層別無作為抽出による分散	$v(\mu)$ ⑨
J: RANDOM	0.76726	0.00210	単純無作為抽出による分散	$\frac{N-n}{Nn} S^2$
EFFECT:(J-I)/J	0.046	0.005	層別の効果(II)分散の減少率	
TOTAL EFFECT G/J	2.217	1.916	層別2段抽出による分散の倍率	
SQR(G/J)	1.489	1.384	" 標準偏差の倍率	
BETWEEN STRA VAR	105.91	0.05	層間分散	S_w^2 (12)
WITHIN STRA VAR	2,195.94	9.42	層内分散	S_u^2 (13)
POPULATION VAR	2,301.85	9.47	母集団分散	S^2 (14)
W/B	20.73	193.03	層内・層間分散の相対比	S_w^2/S_u^2
B/T	0.0460	0.0052	相関比	S_w^2/S^2

(2) 統計数理研究所 1983年「国民性」調査より

〈抽出標本 6,000〉

〈回答者全体 n=4,429〉

(*SUMMARY TABLE*)

	性別 男の比率	年齢 コード	性別 男の比率	年齢 コード
N OF STRATA	55	55	55	55
N OF P. UNITS	300	300	300	300
SAMPLE SIZE	6,000	6,000	4,429	4,429
A: SIMPLE MEAN	47.683	5.217	44.344	5.313
B: WEIGHTED MEAN	47.712	5.215	43.978	5.299
BIAS:A-B	-0.029	0.002	0.366	0.014
BIAS ** 2/D	0.002	0.002	0.200	0.074
C: SIMPLE VAR.	0.41581	0.00120	0.55733	0.00156
D: WEIGHTED VAR.	0.46677	0.00221	0.66965	0.00284
E: (RANDOM) VAR.	0.41673	0.00120	0.55768	0.00156
2 * (W. SD)	1.3664	0.0941	1.6366	0.1066
2 * (R.SD)	1.2911	0.0692	1.4936	0.0789
D/E	1.120	1.851	1.201	1.826
SQR(D/E)	1.058	1.360	1.096	1.351
SAMPLE SIZE	6,000	6,000	5,000	5,000
G: STRA-2STAGE	0.46597	0.00221	0.58479	0.00261
H: 2STAGE	0.44550	0.00233	0.56092	0.00275
EFFECT:(H-G)/H	-0.046	0.052	-0.043	0.050
I: STRA-RANDOM	0.41673	0.00119	0.49399	0.00137
J: RANDOM	0.41673	0.00120	0.49399	0.00138
EFFECT:(J-I)/J	-0.000	0.005	-0.000	0.006
TOTAL EFFECT G/J	1.118	1.849	1.184	1.894
SQR(G/J)	1.057	1.360	1.088	1.376
BETWEEN STRA VAR	0.0	0.04	0.0	0.04
WITHIN STRA VAR	2,500.00	7.14	2,470.08	6.86
POPULATION VAR	2,500.00	7.18	2,470.08	6.90
W/B	—	183.56	—	168.25
B/T	0.0	0.0054	0.0	0.0059

(3) 「意識の国際比較方法論の研究」1988年「国際比較」A調査

	仕事 続けるか (%)	信頼感 公平であ る (%)	学歴 大学卒 (%)	職業 農業 (%)	自宅 (%)	公営住宅 (%)	自家用車 あり (%)
N OF STRATA	55	55	55	55	55	55	55
N OF P. UNITS	315	315	315	315	315	315	315
SAMPLE SIZE	2,265	2,265	2,265	2,265	2,265	2,265	2,265
A : SIMPLE MEAN	64.106	52.804	19.691	5.960	77.925	3.179	79.823
B : WEIGHTED	63.422	52.342	20.709	5.473	76.865	2.868	78.594
MEAN BIAS: A-B	0.684	0.461	-1.018	0.487	1.060	0.310	1.230
BIAS **2/D	0.281	0.112	0.897	0.465	0.533	0.154	1.347
C : SIMPLE VAR.	1.01633	1.10074	0.69846	0.24757	0.75979	0.13594	0.71136
D : WEIGHTED VAR.	1.66559	1.90450	1.15568	0.51017	2.10812	0.62772	1.12206
E : (RANDOM) VAR.	1.02492	1.11692	0.72545	0.22863	0.78603	0.12584	0.74325
2*(W. SD)	2.5812	2.7601	2.1501	1.4285	2.9039	1.5846	2.1185
2*(R. SD)	2.0248	2.1137	1.7035	0.9563	1.7732	0.7095	1.7242
D/E	1.625	1.705	1.593	2.231	2.682	4.988	1.510
SQR(D/E)	1.275	1.306	1.262	1.494	1.638	2.233	1.229
SAMPLE SIZE	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
G : STRA-2STAGE	1.34387	1.57731	0.89582	0.46635	1.89138	0.62357	0.86872
H : 2STAGE	1.47362	1.48297	1.03606	0.51412	2.25962	0.62489	1.32464
EFFECT: (H-G)/H	0.088	-0.064	0.135	0.093	0.163	0.002	0.344
I : STRA-RANDOM	0.76096	0.84327	0.53179	0.16659	0.55642	0.09501	0.51302
J : RANDOM	0.77381	0.84327	0.54771	0.17261	0.59344	0.09501	0.56115
EFFECT: (J-I)/J	0.017	-0.000	0.029	0.035	0.062	-0.000	0.086
TOTAL EFFECT G/J	1.737	1.870	1.636	2.702	3.187	6.563	1.548
SQR(G/J)	1.318	1.368	1.279	1.644	1.785	2.562	1.244
BETWEEN STRA VAR	38.55	0.0	47.78	18.08	111.07	0.0	144.39
WITHIN STRA VAR	2,282.96	2,500.00	1,595.41	499.78	1,669.32	285.04	1,539.13
POPULATION VAR	2,321.51	2,500.00	1,643.19	517.86	1,780.39	285.04	1,683.51
W/B	59.22	—	33.39	27.65	15.03	—	10.66
B/T	0.0166	0.0	0.0291	0.0349	0.0624	0.0	0.0858

*#2.8 もし、一生、楽に生活できるだけのお金がたまたとしたら、あなたはずっと働きますか、それとも働くのをやめますか？

1. ずっと働く 2. 働くのをやめる

(4) 統計数理研究所 1983年「国民性」(K) 調査

	仕事 続けるか (%)	信頼感・ 公平である (%)	学歴 大学卒 (%)	職業 農業 (%)	自宅 (%)	自家用車 あり (%)
N OF STRATA	55	55	55	55	55	55
N OF P. UNITS	300	300	300	300	300	300
SAMPLE SIZE	2,256	2,256	2,256	2,256	2,256	2,256
A : SIMPLE MEAN	72.651	59.087	18.972	6.871	72.961	70.656
B : WEIGHTED MEAN	72.278	58.924	19.178	6.448	71.507	69.258
BIAS: A-B	0.373	0.163	-0.207	0.423	1.454	1.398
BIAS * 2/D	0.133	0.019	0.041	0.263	1.068	1.496
C : SIMPLE VAR.	0.88110	1.07200	0.68168	0.28374	0.87483	0.91941
D : WEIGHTED VAR.	1.04097	1.39295	1.05476	0.67889	1.98004	1.30758
E : (RANDOM) VAR.	0.89263	1.07344	0.68752	0.26767	0.90398	0.94432
2 * (W. SD)	2.0406	2.3605	2.0540	1.6479	2.8143	2.2870
2 * (R. SD)	1.8896	2.0721	1.6583	1.0347	1.9016	1.9435
D/E	1.166	1.298	1.534	2.536	2.190	1.385
SQR(D/E)	1.080	1.139	1.239	1.593	1.480	1.177
SAMPLE SIZE	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
G : STRA-2STAGE	0.74825	1.08093	0.85024	0.64482	1.72120	1.02428
H : 2STAGE	0.71091	1.08746	0.95606	0.77165	1.96491	1.46245
EFFECT: (H-G)/H	-0.053	0.006	0.111	0.164	0.124	0.300
I : STRA-RANDOM	0.67125	0.80620	0.50595	0.18949	0.65434	0.66612
J : RANDOM	0.67125	0.80722	0.51701	0.20129	0.67979	0.71013
EFFECT: (J-I)/J	-0.000	0.001	0.021	0.059	0.037	0.062
TOTAL EFFECT G/J	1.115	1.339	1.645	3.203	2.532	1.442
SQR(G/J)	1.056	1.157	1.282	1.790	1.591	1.201
BETWEEN STRA VAR	0.0	3.07	33.19	35.40	76.35	132.01
WITHIN STRA VAR	2,013.82	2,418.68	1,517.90	568.48	1,963.08	1,998.44
POPULATION VAR	2,013.82	2,421.75	1,551.09	603.88	2,039.43	2,130.45
W/B	—	786.81	45.74	16.06	25.71	15.14
B/T	0.0	0.0013	0.0214	0.0586	0.0374	0.0620

* #2.12B 他人は、スキがあれば、あなたを利用しようとしていると思いますか、それとも、そんなことはないと思いますか？

1. 利用しようとしている 2. そんなことはないと思う

[参考資料]

層別 2 段抽出の場合の標本誤差、2 段抽出の影響、層別の効果の推定について

(1) 記号の準備^{注3)}

(a) 母集団についての記号

L = 母集団における層の個数

M_l = 第 l 層における第 1 次抽出単位の個数 ($l=1, \dots, L$)

$M = \sum_{l=1}^L M_l$ = 母集団における第 1 次抽出単位の個数

N_{l_i} = 第 l 層の i 番目の第 1 次抽出単位における第 2 次抽出単位の個数 ($i=1, \dots, M_l; l=1, \dots, L$)

$N_l = \sum_{i=1}^{M_l} N_{l_i}$ = 第 l 層の第 2 次抽出単位の個数 ($l=1, \dots, L$)

$N = \sum_{l=1}^L N_l$ = 母集団における第 2 次抽出単位の個数

$W_{l_i} = N_{l_i}/N_l$ = 第 l 層の i 番目の第 1 次抽出単位の第 l 層における重み

$W_l = N_l/N$ = 第 l 層の母集団における重み

X_{l_ij} = 第 l 層の i 番目の第 1 次抽出単位における j 番目の第 2 次抽出単位の特性 X の値

($j=1, \dots, N_{l_i}; i=1, \dots, M_l; l=1, \dots, L$)

$X_{l_i} = \sum_{j=1}^{N_{l_i}} X_{l_ij}$ = 第 l 層の i 番目の第 1 次抽出単位における特性 X の総計値 ($i=1, \dots, M_l; l=1, \dots, L$)

$X_l = \sum_{i=1}^{M_l} X_{l_i}$ = 第 l 層の特性 X の総計値 ($l=1, \dots, L$)

$X = \sum_{l=1}^L X_l$ = 特性 X の母集団総計値

$X_{l_i} = X_{l_i}/N_{l_i}$ = 第 l 層の i 番目の第 1 次抽出単位における特性 X の平均値

($i=1, \dots, M_l; l=1, \dots, L$)

$\mu_l = X_l/N_l$ = 第 l 層における特性 X の平均値 ($l=1, \dots, L$)

$\mu = X/N$ = 特性 X の母集団平均値

$$S_{l_i}^2 = \frac{1}{N_{l_i}-1} \sum_{j=1}^{N_{l_i}} (X_{l_i j} - \bar{X}_{l_i})^2 = \text{第 } l \text{ 層の } i \text{ 番目の第1次抽出単位における特性 } X \text{ の分散}$$

$(i=1, \dots, M_l; l=1, \dots, L)$

$$S_l^2 = \frac{1}{N_l-1} \sum_{i=1}^{M_l} \sum_{j=1}^{N_{l_i}} (X_{l_i j} - \bar{X}_l)^2 = \text{第 } l \text{ 層における特性 } X \text{ の分散}$$

$(l=1, \dots, L)$

$$S^2 = \frac{1}{N-1} \sum_{l=1}^L \sum_{i=1}^{M_l} \sum_{j=1}^{N_{l_i}} (X_{l_i j} - \bar{X})^2 = \text{特性 } X \text{ の母集団分散}$$

(b) 標本データについての記号

$$m_l = \text{第 } l \text{ 層から抽出された第1次抽出単位の個数}$$

$(l=1, \dots, L)$

$$\nu_{l_i} = \text{第 } l \text{ 層から抽出された第1次抽出単位の中の } i \text{ 番目のも} \\ \text{のから回収された第2次抽出単位の個数}$$

$(i=1, \dots, m_l; l=1, \dots, L)$

$$x_{l_i j} = \text{第 } l \text{ 層から抽出された第1次抽出単位の中の } i \text{ 番目のも} \\ \text{のから回収された第2次抽出単位の中の } j \text{ 番目のもの} \\ \text{特性 } X \text{ の値}$$

$(j=1, \dots, \nu_{l_i}; i=1, \dots, m_l; l=1, \dots, L)$

$$\bar{x}_{l_i} = \sum_{j=1}^{\nu_{l_i}} x_{l_i j} / \nu_{l_i} = \text{第 } l \text{ 層から抽出された } i \text{ 番目の第1次抽出単} \\ \text{位における特性 } X \text{ の標本平均値}$$

$(i=1, \dots, m_l; l=1, \dots, L)$

$$s_{l_i}^2 = \sum_{j=1}^{\nu_{l_i}} (x_{l_i j} - \bar{x}_{l_i})^2 / (\nu_{l_i} - 1) = \text{第 } l \text{ 層から抽出された } i \text{ 番目の第} \\ 1 \text{ 次抽出単位における特性 } X \text{ の標本分散}$$

$(i=1, \dots, m_l; l=1, \dots, L)$

(2) 仮定

調査実施済みの調査の標本抽出について次のことを仮定する。

- i) 各層からの第1次抽出単位の抽出は確率比例抽出による。すなわち、第 l 層の M_l 個の第1次抽出単位の中の i 番目のものに W_{l_i} の抽出確率を与え、 m_l 個を復元抽出したものとする ($i = 1, \dots, M_l; l=1, \dots, L$)。
- ii) 第2次抽出単位の抽出は単純無作為抽出による。すなわち、第 l 層から抽出された i 番目の第1次抽出単位から ν_{l_i} 個の第

2次抽出単位を単純無作為抽出したものとする ($i=1, \dots, m_l$; $l=1, \dots, L$)。

iii) $m_l \geq 2$ ($l=1, \dots, L$)

(3) 標本誤差の推定

(a) 各層の平均値の推定量およびその分散

$$\hat{\mu}_l = \frac{1}{m_l} \sum_{i=1}^{m_l} \bar{x}_{l_i} \quad (1)$$

は、 $\mu_l \equiv X_l$ の不偏推定量である。 $\hat{\mu}_l$ の分散は、

$$V(\hat{\mu}_l) = \frac{1}{m_l} \left\{ \sum_{i=1}^{M_l} W_{l_i} (X_{l_i} - \bar{X}_l)^2 + \sum_{i=1}^{M_l} W_{l_i} (1-f_{li}) \frac{S_{l_i}^2}{\nu_{l_i}} \right\} \quad (2)$$

ただし、 $f_{li} = \nu_{l_i}/N_{l_i}$ である。 $V(\hat{\mu}_l)$ の不偏推定量は、

$$v(\hat{\mu}_l) = \frac{1}{m_l(m_l-1)} \sum_{i=1}^{m_l} (\bar{x}_{l_i} - \hat{\mu}_l)^2 \quad (3)$$

(b) 母集団平均の推定量およびその分散

$$\hat{\mu} = \sum_{l=1}^L W_l \hat{\mu}_l \quad (4)$$

は $\mu \equiv X$ の不偏推定量である。 $\hat{\mu}$ の分散は、

$$V(\hat{\mu}) = \sum_{l=1}^L W_l^2 V(\hat{\mu}_l) \quad (5)$$

$V(\hat{\mu})$ の不偏推定量は、

$$v(\hat{\mu}) = \sum_{l=1}^L W_l^2 v(\hat{\mu}_l) \quad (6)$$

(c) 各層の分散の推定量

第 l 層の分散 S_l^2 は、

$$\begin{aligned} S_l^2 &= \frac{1}{N_l-1} \sum_{i=1}^{M_l} \sum_{j=1}^{N_{l_i}} (X_{l_{ij}} - \bar{X}_l)^2 \\ &= \frac{N_l}{N_l-1} \sum_{i=1}^{M_l} \left(W_{l_i} - \frac{1}{N_l} \right) S_{l_i}^2 \\ &\quad + \frac{N_l}{N_l-1} \sum_{i=1}^{M_l} W_{l_i} (\bar{X}_{l_i} - \bar{X}_l)^2 \end{aligned} \quad (7)$$

であり、最後の式の第 1 項は第 1 次抽出単位内分散 ($S_{l_w}^2$)、第 2 項は第 1 次抽出単位間分散 ($S_{l_b}^2$) といわれている。それぞれの不偏推定量は、

$$\hat{S}_{l_w}^2 = \frac{N_l}{N_l-1} \cdot \frac{1}{m_l} \sum_{i=1}^{m_l} \left(W_{l_i} - \frac{1}{N_l} \right) \frac{S_{l_i}^2}{W_{l_i}} \quad (8)$$

$$\hat{S}_l^2 = \frac{N_l}{N_l - 1} \left\{ m_l v(\hat{\mu}_l) + \frac{1}{m_l} \sum_{i=1}^{m_l} \left(1 - \frac{1}{\mu_{l_i}} \right) s_{l_i}^2 \right\} \quad (9)$$

$$\hat{S}_b^2 = \hat{S}_l^2 - \hat{S}_w^2 \quad (10)$$

ただし、(10)は負の値になることもありうるので、そのときは0とするのが自然である。

(d) 母集団分散

母集団分散 S^2 は、

$$S^2 = \frac{N}{N-1} \sum_{l=1}^L \left(W_l - \frac{1}{N} \right) S_l^2 + \frac{N}{N-1} \sum_{l=1}^L W_l (X_l - \bar{X})^2 \quad (11)$$

とかけ、右辺の第1項は層内分散 (S_w^2)、第2項は層間分散 (S_b^2) といわれる。それぞれの不偏推定量は、

$$\hat{S}_b^2 = \frac{N}{N-1} \left\{ \sum_{l=1}^L W_l (\hat{\mu}_l - \hat{\mu})^2 - \sum_{l=1}^L W_l (1 - W_l) v(\hat{\mu}_l) \right\} \quad (12)$$

$$\hat{S}_w^2 = \frac{N}{N-1} \sum_{l=1}^L \left(W_l - \frac{1}{N} \right) \hat{S}_l^2 \quad (13)$$

$$\hat{S}^2 = \hat{S}_b^2 + \hat{S}_w^2 \quad (14)$$

(4) 2段抽出の影響

(a) 標準的な層別2段抽出法の設定

全体の標本数を n (=3,000) とし、各層に比例割当するものとする。すなわち第 l 層の標本数 n_l は、

$$n_l = n W_l \quad (l = 1, \dots, L) \quad (15)$$

とする。第 l 層から確率比例抽出された m_l 個の第1次抽出単位から、それぞれ n_{lo} 個の第2次抽出単位を単純無作為抽出する。すなわち、

$$n_{lo} = \frac{n_l}{m_l} \quad (16)$$

である。第 l 層から抽出される i 番目の第1次抽出単位の中から抽出される第2次抽出単位のもつ特性 X の値を $y_{l,i}$ ($j=1, \dots, n_{lo}$; $i=1, \dots, m_l$; $l=1, \dots, L$) とする。このときの μ_l の不偏推定量は、

$$\tilde{\mu}_l = \frac{1}{m_l n_{lo}} \sum_{i=1}^{m_l} \sum_{j=1}^{n_{lo}} y_{l,i} \quad (17)$$

また、分散およびその不偏推定量は、

$$V(\tilde{\mu}_l) = \frac{1}{n_l} \sum_{i=1}^{M_l} W_l \left(1 - \frac{n_{lo}}{N_{l_i}} \right) S_{l_i}^2 + \frac{1}{m_l} \sum_{i=1}^{M_l} W_l (X_{l_i} - \bar{X}_l)^2$$

$$= V(\hat{\mu}_l) - \frac{1}{m_l} \sum_{i=1}^{m_l} W_{l,i} \left(\frac{1}{\nu_{l_i}} - \frac{1}{n_{l_i}} \right) S_{l,i}^2 \quad (18)$$

$$v(\tilde{\mu}_l) = v(\hat{\mu}_l) - \frac{1}{m_l^2} \sum_{i=1}^{m_l} \left(\frac{1}{\nu_{l_i}} - \frac{1}{n_{l_i}} \right) S_{l,i}^2 \quad (19)$$

で与えられる。

(b) 層別無作為抽出法の場合

一方、各層から直接 n_l 個の第2次抽出単位を単純無作為抽出するものと想定する。第 l 層の j 番目の第2次抽出単位のもつ特性 X の値を z_{lj} ($j=1, \dots, n_l$; $l=1, \dots, L$) とする。このとき μ_l の不偏推定量は、

$$\bar{\mu}_l = \frac{1}{n_l} \sum_{j=1}^{n_l} z_{lj} \quad (20)$$

分散とその不偏推定量は、

$$V(\bar{\mu}_l) = \left(1 - \frac{n_l}{N_l} \right) \frac{S_l^2}{n_l} \quad (21)$$

$$v(\bar{\mu}_l) = \frac{N_l - n_l}{N_l - 1} \left\{ \frac{m_l}{n_l} v(\hat{\mu}_l) + \frac{1}{m_l n_l} \sum_{i=1}^{m_l} \left(1 - \frac{1}{\nu_{l_i}} \right) S_{l,i}^2 \right\} \quad (22)$$

で与えられる。

(c) 母集団平均の推定量およびその分散

層別2段抽出法と層別無作為抽出法の場合の母集団平均の不偏推定量はそれぞれ、

$$\tilde{\mu} = \sum_{l=1}^L W_l \bar{\mu}_l \quad (23)$$

$$\bar{\mu} = \sum_{l=1}^L W_l \bar{\mu}_l \quad (24)$$

であり、分散およびその不偏推定量は次のとおりである。

$$V(\tilde{\mu}) = \sum_{l=1}^L W_l^2 V(\bar{\mu}_l) \quad (25)$$

$$V(\bar{\mu}) = \sum_{l=1}^L W_l^2 V(\bar{\mu}_l) \quad (26)$$

$$v(\tilde{\mu}) = \sum_{l=1}^L W_l^2 v(\bar{\mu}_l) \quad (27)$$

$$v(\bar{\mu}) = \sum_{l=1}^L W_l^2 v(\bar{\mu}_l) \quad (28)$$

(5) 層別の効果

(a) 2段抽出法の場合

第1次抽出単位を層別したときの母集団平均の推定量などは(23), (25), (27)に示されている。これに対し、層別せずに M 個の第1次抽出単位から m 個を直接確率比例抽出し、抽出された各第1次抽出単位から n_o 個ずつ第2次抽出単位を単純無作為抽出するものと想定する ($n_o = n/m$)。 i 番目の第1次抽出単位から抽出される j 番目の第2次抽出単位の特性 X の値を t_{ij} ($j=1, \dots, n_o; i=1, \dots, m$) とする。このとき母集団平均 μ の不偏推定量は、

$$\mu^* = \frac{1}{mn_o} \sum_{i=1}^m \sum_{j=1}^{n_o} t_{ij} \quad (29)$$

また、推定量の分散とその不偏推定量は、

$$V(\mu^*) = \frac{1}{m} \sum_{i=1}^L W_i \left\{ \sum_{i=1}^{M_i} W_{l_i} (X_{l_i} - \bar{X})^2 \right\} + \frac{1}{n} \sum_{i=1}^L W_i \left\{ \sum_{i=1}^{M_i} W_{l_i} \left(1 - \frac{n_o}{N_{l_i}} \right) S_{l_i}^2 \right\} \quad (30)$$

$$v(\mu^*) = \sum_{i=1}^L W_i \left\{ \frac{1}{m_i} \sum_{i=1}^{m_i} \left(\frac{1}{n} - \frac{1}{m n_{l_i}} \right) S_{l_i}^2 \right\} + \frac{1}{m} \sum_{i=1}^L W_i (\hat{\mu}_i - \bar{\mu})^2 + \sum_{i=1}^L W_i \frac{m_i - 1 + W_i}{m} v(\hat{\mu}_i) \quad (31)$$

である。

(b) 層別の効果

$m = \sum_{i=1}^L m_i$ とするとき、 $V(\mu^*)/V(\bar{\mu})$ が大きいほど層別の効果は大きく、もし 1 より小さければ層別の効果はないことを意味する。したがって、データから計算される $v(\mu^*)/v(\bar{\mu})$ は層別の効果を推定しているといえる。ただし、電算機出力のサマリー表では倍率の形ではなく、

$$\{v(\mu^*) - v(\bar{\mu})\}/v(\mu^*)$$

の形で出力されている。正の値が大きいほど層別の効果があることを示す。

5 他の標本抽出計画 ——日本の標本調査計画とアメリカの標本調査計画

5.1 日本における標本抽出調査の概要

すでに述べたように現在わが国で実施されている世論調査は、標本規模、調査対象者集団、対象地域、補助資料の利用状況等により、幾つかの形態はあるが、全国規模の調査における標本設計は基本的にはほぼ共通のものになっていると考えられる。たとえば、内閣広報室の世論調査報告書から調査の概要を抜き書きしてみると、

- 1 調査の目的、(調査ごとに異なる、略)
- 2 調査項目、(略)
- 3 調査対象
 - (1)母集団、全国20歳以上のもの
 - (2)標本数、(3,000、5,000、10,000人)調査によって異なる
 - (3)抽出方法、層化2段無作為抽出法
- 4 調査時期、(調査期間は概ね10日間)
- 5 調査方法、調査員による面接聴取法
- 6 調査実施委託機関(略)
- 7 回収結果
 - (1)有効回収数(率)○○○○人
(○○. ○%)
 - (2)調査不能数(率)○○○人
(○○. ○%)

—不能内訳—
転居○○、長期不在○○、一時不在○○、
住所不明○○、拒否○○○、その他(病気など)○○
等となっている。

ここで、本節に関連のあるのは3、(4、7)である(注1)。

注1) 1以下4までは鈴木(1989)「抽出による調査と割当調査(クォータ法)」
新情報49、新情報センター参照

まず、3の(3)の標本抽出方法から概要を述べておく(この例は1989年1月実施の標本数3,000人のもの。これは、すでに前節までに述べたことと重複するがアメリカの場合と対比するため示す)。

1. 地域層別

全国の市区町村を、都道府県を単位とする11地区に分類し、地区内では都市規模(大都市では各都市ごと、人口10万以上の市、人口10万未満の市、町村の14分類)により分類し、第1次層を計44層とした。

2. 第1次抽出単位の層化と抽出

(層化)

第1次抽出単位は昭和60年国勢調査の調査区とし、第1次層内を昭和60年国勢調査時の調査区特性により層化した。

(調査地点数)

第1次層の推定母集団数(昭和63年3月31日現在の20歳以上人口)の大きさにより、標本3,000を各層に比例配分し、調査地点の標本数が11~16となるように調査

地点数を決めた。

(抽出)

第1次層からの調査地点(調査区)の抽出は、無作為にした。

3. 調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲内(町、丁目、番地等を指定)で標本となる対象者が抽出できるように抽出間隔を算出し、住民基本台帳により等間隔抽出法によって抽出した。

ここにあげた調査事例では、全国の176市町村、210調査地点が抽出されている。

5.2 アメリカにおける確率標本企画の一例

現在、アメリカで全国規模の確率標本企画を立て、実際に調査活動しているところの1つは、ミシガン大学の社会調査研究所(ISR, Institute for Social Research)の一部門の調査研究センター(SRC, Survey Research Center)である。ここがシカゴ大学の全米世論調査センター(NORC, National Opinion Research Center)と共同で企画・実施した全国標本計画について、概要を示す。

注2) Heeringa, Steven, G. Judith, H. Connor and Doris, C. Darrah, 1980, SRC, National Sample Design and Development, February, 1986, Institute for Social Research, Ann Arbor, Michigan. 参照

1980年の国勢調査の結果資料を利用した全国標本計画が、最新のものである。アメリカでは10年ごとに人口および住宅に関する国勢調査が実施され、その最新の結果が公表されるごとに、国勢調査局、NORC、SRCや他の主要機関が全国標本計画を更新してきたが、全国規模の確率標本を計画し維持・管理するのに多大の費用がかかるので、今回はSRCとNORCが共同で計画し維持、管理することになった。実際の作業は、1982~83年に行われた。

国勢調査の資料を利用して標本企画を立てるのは日本と共通しているが、具体化されてくると相違が目立ってくる。

全国を東北部、中北部、南部、西部の4地域と、大都会かそうでないかで分類していくのは、日本と共通であるが、この区分は国勢調査資料の区分によっている。

<第1段の層別>

層別は州と郡(county)をもとにしているが、まずニューヨーク(近郊を含む以下同じ)、ロサンゼルス、シカゴ等の16の大都市圏はそれぞれ独立の層となり(16層)、つぎにSMSA地区(Standard Metropolitan Statistical Area)…日本の人口集中地区の区分のような、都市的性格の強い郡、または郡の集合体…を地域別に45層に分け、それ以外(Non SMSA's)の地区では地域別に23層あわせて、第1次層として84層に分割した。

大都市圏、SMSA地区、それ以外の地区に分けた人口および居住家屋数(Occupied Housing unit's, Occ. HU's)は、表4-5-1のようになる。

表4-5-1、人口と居住家屋数(大分類)

注3) SMSAは主に人口5万以上の中心都市をもっている郡、あるいは都市的性格の郡で、かつ中心都市に社会、経済的に統合されている周辺の郡から構成される。たとえば"Standard Metropolitan Statistical Areas", Executive Office

表 4-5-1
人口と居住家屋数（大分類）

Classification	Total	
	人 口 Pop	居 住 家 屋 数 Occ. HU's
	(千人)	(千戸)
Total		
全 体		
No. Primary Areas		84
1980 Counts	226,505	80,377
大都市圏		
self-representing		
No. of Areas		16
1980 Counts	61,269	22,066
それ以外		
Non self-representing		
No. of Areas		68
1980 Counts	165,236	58,310
SMSA 地区		
SMSA's		
No. of Areas		45
1980 Counts	108,136	38,424
それ以外の地区		
Non-SMSA's		
No. of Areas		23
1980 Counts	57,100	19,886

注3) SMSA は主に人口 5 万以上の中心都市をもっている郡、あるいは都市的性格の郡で、かつ中心都市に社会、経済的に統合されている周辺の郡から構成される。たとえば "Standard Metropolitan Statistical Areas", Executive Office of the President, Office of Management and Budget, Revised Edition 1975 を見よ。

of the President Office of Management and Budget Revised Edition, 1975を見よ。

<第1段(第1次抽出単位)の抽出>

全国の84層のうち、16の大都市圏はそれぞれが第1次抽出単位として抽出され、残りの68層からは、郡(あるいは郡の集合体)を第1次抽出単位とし、各層から(郡の)大きさ(居住家屋数)に比例した抽出確率で1単位を抽出した。

<第2段の抽出>

第2段抽出における抽出単位は、「エリア・セグメント(area segments)」といわれ、大都市圏およびSMSA地区では国勢調査の調査区(census blocks)、あるいはセンサス・ブロックの集合体を、また、それ以外の地区では国勢統計区(Enumeration districts, ED's)からなり、それぞれに含まれる居住家屋数の大きさ(が50以上になるように調整して)に比例した抽出確率で抽出される。

第2段階の抽出における抽出単位数は大都市圏ではその大きさ(第1次抽出単位の大きさ)により、(ニューヨーク49、ロサンゼルス38、シカゴ35等と異なるが……)計314、それ以外の層では各層から12、計($12 \times 68 =$)816あわせて1,130単位を抽出した。抽出は1980年国勢調査のサマリー・テープから電算機により行った。

ここまでで、調査地域の抽出が終り、つぎに地域に出かけて、地域の地図(見取図)、家の配置図を作成し世帯のリストアップをすることになる。今回は、SRCとNORCが1,130を折半して実施した。

以上のようにして全国標本ができ上がることになる。日本のように調査対象とくい違いの殆どない抽出台帳(住民台帳、選挙人名簿)が存在しないため、調査地点における抽出作業の基礎として、地図および住宅配置図が欠かせないことになり、それぞれの抽出段階においても人口と居住家屋数とが必ず出てくる。

<第3段(第3次抽出単位)の抽出リストの整備>

世帯のリストティングは、計画全体の調査数を見込み、その需要には応じられるようと考えているが、人口の社会移動のはげしいところでは、転入(新築)率および空屋率が推定以上になったりするので、リストの維持・管理は容易ではない。

したがって、全体としてみたとき、調査全体の中に占める標本抽出関係の費用の割合がかなり大きく(聞くところによれば調査規模にもよるが標本数1,500として調査費用の1/4見当といわれる)、また、調査地区を調査ごとに抽出し直すことなど不可能であるから、頭初の標本設計時における層別方法等々が日本より重要なものと考えられる。

しかし、逆に考えれば、一度標本計画を立て地域を抽出してしまうとそのシステムを今後10年間固定的に利用する形になるので、調査実施を考えるときに日本とは別の考え方方が重要になる。

これらの点は、日本で通常考えている標本調査の企画、調査の実施における留意点とは異なるので慎重な研究が必要になるといえる。

また、日本と異なる点は、抽出の各段階で家屋を考えているので、世帯単位の調査ではなく個人対象の調査の場合には、調査対象に指定された家屋からの個人抽出をすることになり、最終の結果推定にはこのウェイトを考えることになる点も注意が必要である。

実際の確率標本による調査計画の一例として、1986年の大統領選挙の際の調査の標本企画と調査実施状況の結果を示す。

表4-5-2, Original sample design specifications and assumptions and actual sample design outcomes. 1986 NES Post-Election Survey

表 4-5-2
Original Sample Design Specifications and Assumptions
and Actual Sample Design Outcomes.
1986 NES Post-Election Survey

	Original Specifications and Assumptions	Actual Outcome
Completed interviews	2,400	2,176
Response Rate	.72	.677
Eligible sample households	3,333	3,215
Occupancy / Eligibility Rate* ¹	.87	.835
Final sample HU listings	3,831	3,848
Sample growth from update* ²	1.03	1.035
Sample listings from frame	3,719	3,719

* 1 Eligibility (.97) \times occupancy (.90).

* 2 Since the updating process produces about a 3% increase in sample lines over the count selected from our National Sample system, the update inflation factor was set at 1.03.

注意

この確率抽出法の問題点として考えられることは、地域に関する情報を入手し、それを、地図と対応させて地点抽出を行う必要があるため、1)国勢調査資料を活用する（このため時間的にみて古くなった資料に依存する率が高くなることになる——アメリカでは国勢調査は10年ごと、最近の調査は1980年）、2)航空写真等から郡の中の地図等を作成する（このため、調査ごとに郡の抽出を改めて行うことができないので、調査地域（郡）を長期間固定することになる）、3)調査地域の固定化による偏りを補正するため、最新の人口統計（CPSとよばれる）を利用し、各地点から抽出するサンプル数を人口移動に合わせて補正するようにしている（このため、調査地域の特徴がうまく調査結果に反映される場合と、調査地域全体の特徴が、調査対象地点の特殊性とマッチしない場合に、特殊性が誇張されて調査結果に反映される場合とが生じ、特定の調査項目の標本誤差や偏りが過大になることがある）。

このほか、日本と比べた場合、アメリカの面積は20倍もある（カリフォルニア州だけで日本より大きく、郡の数が48ではほぼ日本の県に相当する）ので、調査実施上の面からも、調査地域を固定化せざるをえない点も見逃がすことはできない（専門的面接調査員の行動可能範囲を考えた場合、当然のことである）。

5.3 日本における現行調査の問題点

これらの諸点は、つぎにのべる第2の問題点である「調査票回収率の低下」の問題とも密接に関連しているので慎重な検討が必要である。

第2の问题是「回収率の低下傾向」であり、この対策を考えることであろう。これについては、ここでは指摘するだけにしておくが、このことが、つぎの「割当法」を考える1つの動機になっているものと思われる（これはF. Kingが「クォータ・サンプリング」の冒頭に述べていることを思い起こさせる）。

注4) King, B. F. (1983), "Quota Sampling", in Incomplete Data in Sample Surveys. Vol. 2: Theory and Bibliographies. eds. W. G. Madow, I. Olkin, and D. B. Rubin. New York: Academic Press.

5.4 アメリカにおけるクォータ法の実際

1) 現在実施されているクォータ法の概要

現在実施されているクォータ法（quota sampling）は、比較的短い調査期間で計画通りの調査完了数が得られ、くり返し訪問にかかる出費もない方法であり、Sudman (1967) が「潜在的なバイアスの最も少い形式"probability sampling with quotas"」と名付けている方法である。

注5) Sudman, S. (1967). Reducing the Cost of Surveys. Chicago, Aldine.

この方法は、地域の層別、地域の抽出から調査地点のブロックの抽出までは確率標本法（II-6-2参照）と全く同じ手順を用いている。調査地点が抽出された後、家屋のリストを作成し、世帯や個人を無作為抽出するかわりに、調査員は特定の属性項目や個人的判断に従い指示された割当をみたすようとする。

割当の指示は、通常は管理運営上ごく限定されているが、調査抽出地域を直接とりまく最小地域における最近時の国勢調査のデータによってきめられている。たとえば、調査員はある市のブロックの特定の街角の世帯から、指示された道順でつぎつぎに訪問し、男女成人5人ずつを訪問、面接調査するまでつづけるよう

に指示される。不在や拒否は無視して次の家に行く……。
以下、実際の調査機関で実施されている例をあげる。

2) NORCのクォータ法

- ◎調査地点は、1978年のNORCの全国確率標本のために抽出されたブロック（あるいは擬似的にブロック化された地点）と同じ（これは通常の層別多段確率比例抽出法と同じII-6-2参照）。
- ◎各調査地点当たり5人の回答者が得られるように考える。出発点はブロックの中で選定され、以後調査員は曲がりくねったブロックに沿って行くように指示される。
- ◎調査員は平日は午後3時以降、土曜・日曜は1日調査するようになっている。
- ◎性別の割当に加えて男性では年齢の区分—30歳が分割点一を女性では従業上の地位一勤めているかどうかで割り当てる（この考えは、若い男性と雇用されている女性は、調査の際、容易にはつかまらない傾向があるからである）。
- ◎回答者集団への割当は、ブロックの出発点を含む国勢調査区あるいは小地域に対する性、年齢、従業上の地位（雇用かどうか）の構成比によるこれらの属性をクロスした統計資料が公表されている最小単位の国勢調査の地域統計データによる）。

注6) National Opinion Research Center(1987). General Social Surveys. 1972-1978: Cumulative Code-book. Chicago: National Opinion Research Center.

3) ギャラップ調査機関のクォータ法

調査地点の抽出：クォータ法をはじめる地域の抽出はNORCの場合と同様な確率的抽出による。すなわち、地域の層別は、

a) アメリカ全体を都市人口規模別に次の4つの層に分ける。

- 1) 人口100万以上の市
- 2) 人口25万から99万9999までの市
- 3) 人口5万から24万9999までの市
- 4) 上記以外

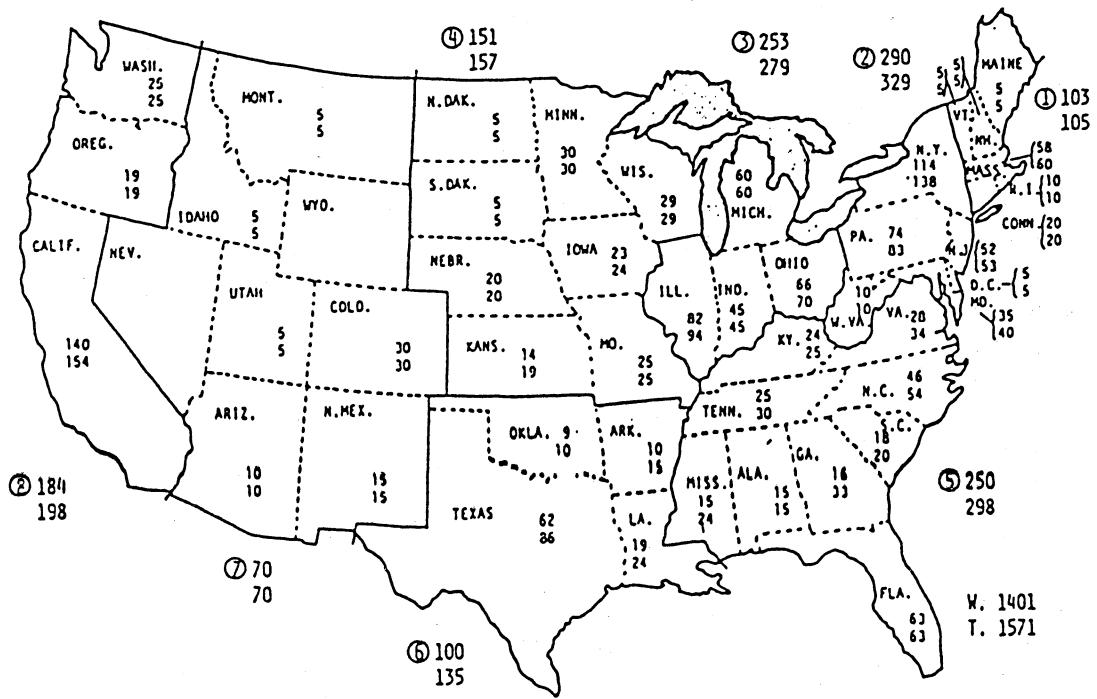
b) 上記の人口規模別の層の中を地方別に8分割する。地方は、通常のNew-England, Middle Atlantic, East Central, West Central, South East, South West, Rocky Mountain, および Pacific である（各地方に含まれる州および所在は、図4-5-1を参照のこと。またこの分割は、通常のアメリカ国勢統計局の国勢調査資料の分割とは若干異なる）。

図4-5-1, 集計サンプルの州別分布（地方区分別分布）

c) それぞれの地方・人口規模別層（28層）の中では、州を地理的順序に並べ、さらに都市部は州内でアルファベット順に並べ、a)の4)層では郡を州内の地理的配列に従って並べる。

d) このようにアメリカ全体の人口は、New Englandの人口100万以上の都市、Middle Atlanticの人口100万以上の都市……Pacificの人口100万以上の都市、New Englandの人口25万～100万の都市と並び、最後にNew Englandの郡部……Pacificの郡部等と並べられる。

e) このように並べられた市郡を181の等しい人口の層に分割し、各層から2調査地点を抽出する。



集計サンプルの州別分布（地方区分別分布）

Figure Distribution of Sample Population by State and Color 1978
American Survey.

図 4-5-1

個人の抽出：それ以降の回答者抽出の手順はギャラップ調査機関のオムニバス調査の概要にある通り。

すなわち、各抽出された地域ブロック、あるいはセグメントにおいてランダムに抽出された出発点は、その調査地点の調査員地図の上に示される（図4-5-2参照）。この地点から出発して指定された道順に沿って訪問する家をつぎつぎに選定する。このようにつぎつぎに世帯を抽出し、その地点に割り当てられた数の訪問面接調査を完了するまで調査をつづける。居住している住宅あるいは世帯において、個人の抽出は

- i) 在宅している18歳以上の男性のうち最も若い人に
- ii) もし男性がいなければ、18歳以上の女性のうち最も年齢の高い人に面接する。

図4-5-2、調査員地図の一例

世帯内における調査対象者のこの選定方法は、性別にみた年齢構成が母集団の年齢構成と比較して、近くなるように経験的に開発されたものである。

世帯内で在宅している人を選ぶこの方法は、ランダムではないが系統的であり客観的である。

訪問面接：これは一般に成人が在宅している時を考慮し、週末および平日では女性は午後4時以降、男性は午後6時以降に実施される。不在の場合あるいは該当する成人対象者がいない時は次に行き、くり返し訪問はしない（Polit-Simmonsの在宅率に対する修正をして偏りを減少させる方式をとっている。すなわち、在宅で調査できた対象者には調査前3日間の該当時刻（調査実施可能な時間帯）における在宅の有無を質問し、属性、地域による在宅率を推定し、不在による偏りを減少させる方（再訪問をするよりも在宅率で加重する方）をとった。）。

注7) The Gallup Organization Inc(1972). The Design of the Sample for Trends. The Personal Interview Omnibus Survey. Princeton, N. J.

注8) King, B. F. (1983)前出「クォータ・サンプリング」参照

4) クォータ法についての問題点

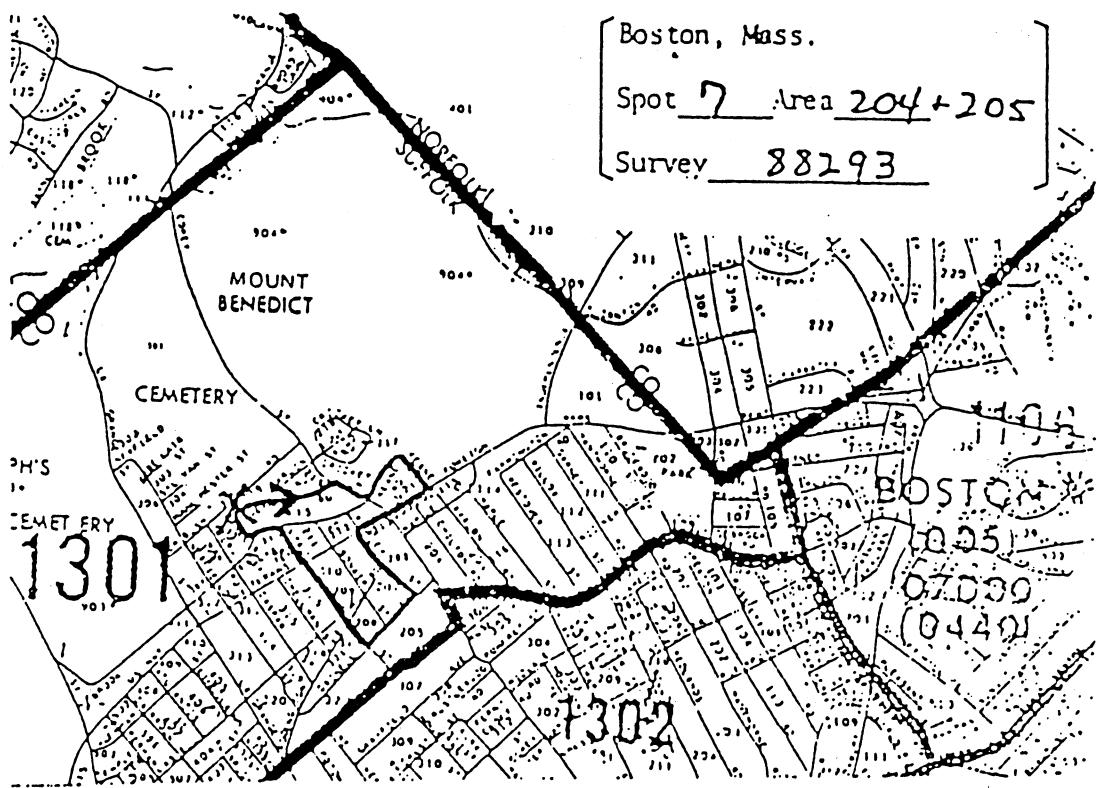
クォータ法に関する根本的な問題は「回答者の選出機構が不明確であり、通常のランダム抽出のように、目的の母集団に対して適切な推定をするのは難かしい」ということである。

この問題は、確率標本法における（母集団からの標本）抽出枠（フレーム）の欠陥の問題や、無回答、調査不能による偏りの問題と同様なものではあるが、確率サンプルの場合は、抽出枠を慎重に検討することによって、また、フィールドワークを十分にやり、調査結果の追跡検討を十分やることによって、結果に含まれる偏りをある一定の限界内に収めることは可能であろう。ところがクォータ法の場合には、どの程度全体をカバーしているかという程度も不明確であり、その結果生じる偏りの程度もはっきりしないというのである……。

クォータ法の偏りの主な原因のいくつかは、たとえば

a) 回答者の在宅率の違いによる偏り

くり返し訪問しないのでクォータ法では在宅率の低い居住者に対する偏りが考えられる（これまでに示した手続きにより、この欠陥を修正するように計画されているがうまくいっているかどうか不明）。しかし、これは割当に利用する属性項目を増せば減少する。



調査員地図の一例

図 4-5-2

b) 割当に利用する変数が不十分なこと

より多くのコントロール変数を利用して、調査員に割り当てさせれば、目的とする母集団に対してより一層偏りの少ないサンプルにすることができる。しかし、こまかい割当をすればますますこの割当どおりの属性をもつ回答者を得ることは困難となり、確率標本方式より相対的に有利であるとみられてきた調査スピード、調査費用の利点は失われる可能性が高くなる（複雑すぎる割当は、調査員を混乱させるだけでメリットはなくなる）。

c) 調査員が回答者を選択するときの偏り

ギャラップの方式の年齢に関する指示以外では、調査員は指示された割当層の中から誰を選ぶか全く自由である。したがって、どの人に面接するかをきめるとき各種の偏りが考えられる（この選択は、回答者の態度や性格に深く関連している可能性がある）。

d) 層の大きさに関する情報が不正確であること

各抽出地点における、クォータ法の属性割当は、その地域をカバーする直近の最小単位における属性の分布に従ってなされる。——通常これは国勢調査の調査区統計資料等になる——この資料が抽出調査地域と完全にはマッチしていないとか、国勢調査時から日時が経過しすぎているとかの程度により、偏りが生じる可能性がある。

また、割当法では、調査地点当たりのサンプル数を通常同一に固定しているので、調査地点が代表する層（地点抽出のもとになった地域層）の人口分布の大きな変動を反映できないようになっている。

これらの影響および他の偏りの可能性のあるもの等は、評価するのが困難である。

しかし、これらのこととが、確率サンプルの方法をそのまま実施する調査機関の能力不足によって生じる欠陥より悪いということは明らかではない（とくに面接調査に対する抵抗が強まるという状況では、何度も再訪問をくり返すとか協力を促すとかしても、回収率はそれほど高くならないから同様の問題に直面する）。

5) クォータ法と確率抽出法の実際の調査結果に基づく経験的な比較について（アメリカの事例）

よく知られているようにトルーマンとデューイが争った1948年のアメリカ大統領選挙の選挙予想で、割当法による各調査機関の予想は失敗した。このときの社会科学研究委員会の報告は、主要な調査機関で用いられてきた回答者の選出方法——割当法——に大きな関心を払い、予想の失敗にはサンプル選択方式だけではなく、誰に投票するかきめてない層や選挙期間の終盤での投票者の態度変化の予測の方法も重大な関連があるとした（割当法では低い学歴層、地方に離れて住む人が少ない傾向があることが判明している）。報告書には、確率標本法と割当法の両結果を併記して前者がよい結果を示しているところもあるが、結論として、割当法を止めるようにするよりも、サンプル抽出の方法および調査員の訓練についてもっと注意を払うべきであると報告している。

この予想の失敗により、調査機関はより一層慎重な方式手順をとるようになったと考えられている。

その後、StephanとMcCarthy(1958)は、「割当法」と「確率標本法」による調査結果について比較をして報告している。両方よく合っている場合もあればそうでない場合もあり、必ずしも「割当法」はよくないということではなかった。結論的にみて、「割当法」による重大な偏りは多くの場合、割当に利用する社会経

済的な属性の制御に関連している。したがって、正確さに欠ける調査員判断による社会経済的階層の決定法にかえて、調査地域を含む小地域の地域情報を利用するのがよいとした。またSudman(1967)はNORCの実験調査の結果、両者よく似ていたが「割当法」のサンプルは1人あるいは2人家族の世帯が少なくなっていた。これから、将来「割当法」に世帯人数の条件をつけた実験調査を計画すべきであると提案している——(これは現在まで実施されていないところである)。

最後に、NORCが毎年実施している一般社会調査(G.S.S.)において行った「割当法」と「確率標本法」の比較について述べる。

これは1975年と76年のG.S.S.において抽出された地点を折半し、その一方は再訪問付き確率標本方式、他方はblock内を一軒一軒訪問していく「クォータ」方式で実施された。

この両方式は同じ地域に同時期に住む人に対して実施されたので、比較のとき生じる可能性のある多くの変数がコントロールされている。Stephenson(1979)は多数の属性項目および態度項目に関する比較の結果を報告している。

一般的に認識されているような小人数の世帯に対する偏り(これは他の比較には大きな影響はないとみられる)はあるが、これ以外に2つの方法における重大な差異はない。しかし、「クォータ法」では雇用されている男性の比率が少ないこと、これは、「この偏りを補正しようとして導入している年齢のコントロールが有効に働かなかったことを示していると考えられる」(King)。

6) 「クォータ法」の偏りを推定する方法

クォータ法の偏りを推定し、それを修正しようという試みがStinchcombe(1971)、King(1974, 1985)にある。

Stinchcombeは再調査を実施し、その過程で、調査の回答者になりやすいかどうか、個人の見つかる分布を推定し、これをを利用して偏りを推定する方式を考えた。

Kingは「クォータ法」と「確率標本法」の場合について、偏った測定のベイズモデルを適用して1つの比較方式を提案した。

さらにKing(1985)は「クォータ法」が理論的に正当化される条件について検討を試みている。

以上、Kingの「クォータ・サンプリング」に沿ってアメリカにおけるクォータ法の実際についてみてきた。

第3章 質問票・共通ファイル形式と 7ヶ国比較の単純集計表

- 3.1 共通ファイルの作成について
- 3.2 7ヶ国の国民性比較調査の共通ファイルデータの
磁気媒体中の形式
- 3.3 7ヶ国共通ファイルのSPSS variable labelとSPSS
による分析例
- 3.4 7ヶ国比較調査票における日本調査票A
- 3.5 7ヶ国比較の単純集計表

この章では、順に、7ヶ国比較調査の質問票（日本調査A）と、7ヶ国共通データ・ファイルのデータ形式を示す。さらに、そのデータの単純集計表を掲載する（対応する米調査票は、付録を参照のこと）。

3.1 共通ファイルの作成について

調査されたデータは各々の国の調査機関からそれぞれの調査票に従って、オリジナルのデータのファイルが納入されるが比較分析のために、各国共通する質問については、同じ形式で使えるように共通データファイルを作成する必要がある。これにはオリジナルファイルからSPSSなどを使用して作成する。

共通ファイル作成に当たって、これまで質問票翻訳のところで述べてきたように、オリジナルデータは、回答肢の順が国により異なったり、ある国だけ存在するコードがあったり、コードのつけ方が必ずしも共通していないので、細心の注意が必要である。当然のことであるがこれをおこたるとデータの数値のみが一人歩きし、とんでもない分析結果の解釈をしてしまう危険がある。

ここで7ヶ国比較調査の共通ファイルについて留意点を以下に示す。

1) 共通ファイル・データは、回答者1人分のデータがカード・イメージ[80カラム/枚]で3枚ずつであり、イタリア、オランダを除く5カ国では全く同じ形式であるが、イタリアとオランダの共通ファイルでは、「職業」と「収入」の属性カテゴリー・データのカラム数が大きくなつたので、混乱を避けてこれらを末尾に記録してある。それ以外の点では、7ヶ国の共通ファイルの形式は、全く同じである。

このデータを分析するためのSPSSプログラムの例を、この章に掲載するが、そのプログラムでは上記の変更点を考慮し、ダミー変数を用いて、実質上、7ヶ国共通ファイル・データを全く同じ形式であるものとして扱えるようにしてある。（つまり、変数OCCRとINCOME8には、イタリア、オランダを除く5カ国のデータでは、それぞれ「職業」と「収入」の属性カテゴリー・データが入力され、末尾の変数OCCG8とINCP8にはダミー〔空白〕が代入される。イタリアとオランダの共通ファイルでは、変数OCCRとINCOME8は、はじめはダミー〔空白〕入力となり、「職業」と「収入」のデータは直接、変数OCCG8とINCP8に入力される。これは、プログラムにより、変数OCCRとINCOME8に代入される。したがって、結局、7ヶ国のデータの分析においては、「職業」と「収入」の属性カテゴリー・データは、変数OCCRとINCOME8に入力されたと考えて扱って良いことになる。）

2) 掲載のSPSSプログラムの中の変数NATION1は、各国のコードが入力される。

1	西ドイツ	5	日本(A)
2	フランス	8	イタリア
3	イギリス	9	オランダ
4	アメリカ		

注) コード番号6、7は、関連する日本調査(B), (C)に用いられた。

3) このプログラムの第1行目は、各コンピューター・システムに応じて、ID番号等を記入する。第2行目では、データ・セット名を記入する。

データ・セット名

FRG.DAT	西ドイツ	JAPANA.DAT	日本(A)
FRANCE.DAT	フランス	ITA92C.DAT	イタリア
UK.DAT	イギリス	HOL93C.DAT	オランダ
USA.DAT	アメリカ		

4) 問32と問36と問40の共通ファイルのコードは、日本調査Aのもとの調査票とは異なることに注意する。これは、回答カテゴリーの自然な提示順序が国によって異なることから、この様な違いが出てくるのである。

共通ファイルでは、以下のように変換して、各国共通のコードとなっている。

問32 回答カテゴリー

1→賛成 2→反対 3→いちがいに言えない

問36 回答カテゴリー

1→賛成 2→反対 3→いちがいに言えない

問40 回答カテゴリー

1→本当だという 2→そんなことはないという

5) 問10は、イタリアとオランダ調査では省いたので、データはダミー〔空白〕となっているのに注意する。

6) 日本調査Aの問20では、回答カテゴリーの4として「やりとげたという感じがもてる仕事」としていたが、調査票最終版に誤植が入り、「やりとげたいという感じがもてる仕事」となってしまったので、この微妙な差の影響を比較の際に注意する。

7) 問30は、オランダ調査では、オランダでの調査担当員が回答カテゴリーに3、「両方」を無断で挿入してしまい、他国との直接比較に問題を生じさせてしまったので注意する。

3.2 7ヶ国の国民性比較調査の共通ファイル・データの磁気媒体中のフォーマット
カード・イメージ（80カラム）で3枚分に、回答者一人分の回答データ（回答カテゴリーの数値）が入力されている。

課題名 意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究 共通ファイル

項目	カラム		サンプル情報																		FACE SHEET												Q9																		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40											
国コード	(各國オリジナルデータのまま)																			性別	年齢	学年	都市	職業	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q
選択肢	1-	1-12	17-90	1-	71-87	9-	-3	-139	-1-1	-5	-5	-3	-3	-3	-3	-3	-3	-3	1-	1-	1-	1-	1-	1-	1-	1-	1-	1-	1-	1-	1-	1-	1-	1-	1-	1-	1-	1-	1-	1-	1-	1-									
選択肢	2-	-2																																																	
備考	*国コード 8. イタリア 9. オランダ																			空白												* イタリア、オランダ調査では 空白になつてゐるが、本調査に DECK 3 Col.32-34 の値を代入する												* イタリア、オランダ調査では 空白になつてゐるが、本調査に DECK 3 Col.32-34 の値を代入する							

* イタリア、オランダ調査では空日になっているが、本邦調査では5ヶ国調査ではQ10

DATA FORMAT

* イタリア、オランダ調査では空日になっているが、本邦調査では5ヶ国調査ではQ10

DECK 1 (1枚目)

項目	カラム		サンプル情報																		FACE SHEET												Q9																		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40											
国コード	(各國オリジナルデータのまま)																			性別	年齢	学年	都市	職業	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q
選択肢	1-	1-12	17-90	1-	71-87	9-	-3	-139	-1-1	-5	-5	-3	-3	-3	-3	-3	-3	-3	1-	1-	1-	1-	1-	1-	1-	1-	1-	1-	1-	1-	1-	1-	1-	1-	1-	1-	1-	1-	1-	1-	1-	1-									
選択肢	2-	-2																																																	
備考	*国コード 8. イタリア 9. オランダ																			空白												* イタリア、オランダ調査では 空白になつてゐるが、本調査に DECK 3 Col.32-34 の値を代入する												* イタリア、オランダ調査では 空白になつてゐるが、本調査に DECK 3 Col.32-34 の値を代入する							

* イタリア、オランダ調査では空日になっているが、本邦調査では5ヶ国調査ではQ10

11枚目(DECK 1)

* 5ヶ国調査では
G10

意識の国際比較における運営的調査分析方法の実用化に関する研究 共通ファイル DATA FORMAT DECK2(2枚目)

2枚目(DECK2)

- * イタリア、オランダ語圏では
空白になってはいるが、本教材に
DECK 3 (1983. 95-97) の他に付入する
- * 国コード
8. イタリア
9. オランダ

卷之三

* 861 ば フリー・アンサー

課題名 意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究 共通ファイル

3枚目 (DECK3)

カラム	サンプル情報		COMMUN		SOCIAL	ECONTL	MIDDLE	CONSTRU	ULTRIT	FACE	SHEET
項目	コード (各國オリジナルデータのまま)	地點情報	Q75 共産主義政黨	Q75 社会黨 最大野党	Q75 エコロジカル民族 民衆政黨	Q75 中道政黨	Q75 保守黨 最大与党	Q75 極右政党	職業	収入	
選択肢	8- -9	名前のコードブック参照	空白	0-999	0-999	0-999	0-999	0-999	101-139	101-134	空白
備考	*国コード 8. イタリア 9. オランダ										

* イタリア、オランダ(国コードが
8以上の国)のみ
5カ国調査では空白

DATA FORMAT

DECK3 (3枚目)

カラム	項目	選択肢	備考	3枚目
3枚目 (DECK3)			空白	3

3.3 7ヶ国共通ファイルのSPSS variable labelとSPSSによる分析例1
(SPSS Version 4用のコマンド・ファイル)

---- 7ヶ国の国民性比較調査の共通ファイル・データの分析用 ----

```
DATA LIST FILE='
  / NATION 1 SEX 11 AGEC 12-13
    AGE 14-15 EDUC 16 SIZE 17-18 OCCR 19-20 V7.30B 21
    V7.30A 22 V7.31 23 V7.18E 24 V7.18B 25
    V7.18C 26 V7.18 27 V8.80 28 V2.30 29 V2.30D 30 V2.30E 31 V2.30F 32
    V2.30G 33 V7.800 34 V7.80A 35 V7.80B 36 V7.80C 37 V7.80D 38 V7.80E 39
    V7.80F 40 V7.80G 41 V7.80H 42 V7.80I 43 V7.80J 44 V4.11 46
    V4.10 47 V4.80 48 V2.80A 49 V2.80B 50 V2.80C 51 V2.80D 52 V2.80E 53
    V2.3G 54 V1.8 55 V7.81 56 V2.8 57 V7.25 58 V7.24 59 V2.81 60 V2.4 61
    V2.3F 62 V5.80A 63 V5.80B 64 V7.82 65 V2.7A 66 V2.7B 67
    V5.81A 68 V5.81B 69 V5.81C 70
    V5.81D 71 V5.81E 72 V5.81F 73 V5.81G 74 V2.3C 75 V2.82 76 V7.19 77
    V5.81D 71 V5.81E 72 V5.81F 73 V5.81G 74 V2.3C 75 V2.82 76 V7.19 77
  / INCOME1 11-12 V4.81 14 V7.1 15 V4.5 16 V8.1B 17 V2.1 18 V7.2 19 V4.30 20
    V4.32 21
    V4.31 22 V4.4 23 V5.1 24 V5.1B 25 V2.5 26 V7.4 27 V5.1D1 28 V5.1D2 29
    V5.1D3 30 V5.1D4 31 V5.OTHER 32 V5.DK 33 V5.6H 34 V2.2B 35 V5.1C1 36
    V5.1C2 37
    V5.6 38 V2.12 39 V2.12B 40 V2.12C 41 V2.83A 42 V2.83B 43 V2.83C 44
    V2.83D 45 V2.83E 46 V7.36 47 V7.33 48
    V7.83 49 V7.84 50 V7.85 51 V7.86A 52 V7.86B 53 V7.86C 54
    V7.86D 55 V7.34 56 V7.35 57 V9.80 58 V3.1 59 V3.1B 60 V3.2 61 V3.3 62
    V8.81 63-64 V8.82 65 V8.2E 66 V8.2F 67 V8.2H 68 V8.2G 69
    V8.83 70 V8.84 71 V8.87 72 V8.8 73 V8.85A 74 V8.85B 75 V8.7 76-77
    V8.86 78
  / COMMUN 14-16 SOCIAL 17-19 ECONTL 20-22 MIDDLE 23-25 CONSRV 26-28
    ULTRIT 29-31 OCGH8 32-34 INCGB8 35-37.
```

VARIABLE LABELS V7.30B "STANDARD OF LIVING IN COUNTRY 10 YRS AGO"
 V7.30A "YOUR STANDARD OF LIVING 10 YRS AGO"
 V7.31 "LIVING CONDITIONS IN FUTURE"
 V7.18E "HAPPINESS IN FUTURE"
 V7.18B "PEACE OF MIND"
 V7.18C "FREEDOM"
 V7.18 "PEOPLE'S HEALTH"
 V8.80 "THE COUNTRY'S GOAL"
 V2.30 "EXTENT OF WORRY: SERIOUS ILLNESS"
 V2.30D "EXTENT OF WORRY: CAR ACCIDENT"
 V2.30E "EXTENT OF WORRY: UNEMPLOYMENT"
 V2.30F "EXTENT OF WORRY: WAR"
 V2.30G "EXTENT OF WORRY: NUCLEAR POWER ACCIDENT"
 V7.80A "HOUSEHOLD EXPENSES: HEALTH CARE"
 V7.80B "HOUSEHOLD EXPENSES: MOTORING COSTS"
 V7.80C "HOUSEHOLD EXPENSES: HOME APPLIANCE"
 V7.80D "HOUSEHOLD EXPENSES: FOOD"
 V7.80E "HOUSEHOLD EXPENSES: BEAUTY CARE"
 V7.80F "HOUSEHOLD EXPENSES: VACATION & LEISURE"
 V7.80G "HOUSEHOLD EXPENSES: CLOTHES"
 V7.80H "HOUSEHOLD EXPENSES: HOUSING"
 V7.80I "HOUSEHOLD EXPENSES: EXPENSES FOR CHILDREN"
 V7.80J "HOUSEHOLD EXPENSES: SMOKING OR DRINKING"
 V4.11 "RESPECT FOR ANCESTORS"
 V4.10 "ADOPT A CHILD"
 V4.80 "IDEAL NUMBER OF CHILDREN"
 V2.80A "HEALTH PROBLEMS: HEADACHES"
 V2.80B "HEALTH PROBLEMS: BACKACHES"
 V2.80C "HEALTH PROBLEMS: NERVOUSNESS"
 V2.80D "HEALTH PROBLEMS: DEPRESSION"
 V2.80E "HEALTH PROBLEMS: INSOMNIA"
 V2.3G "SATISFACTION WITH HEALTH"
 V1.8 "LIVING CLASS"
 V7.81 "CHOOSE MONEY OR FREE TIME"
 V2.8 "IF HAD ENOUGH MONEY, STILL WORK"
 V7.25 "LIFE WITHOUT WORK"
 V7.24 "MOST IMPORTANT ASPECT OF JOB"
 V2.81 "WORK CONFLICTS WITH PRIVATE LIFE"

V2.4 "ATTITUDES TOWARDS LIFE"
V2.3F "QUALITY OF LIFE IN AREA WHERE YOU LIVE"
V5.80A "SAFETY IN NEIGHBORHOOD: BURGLARY"
V5.80B "PERSONAL SAFETY"
V2.82 "IDLE GRASSHOPPER & DILIGENT ANT"
V2.7A "THE MOST IMPORTANT THING"
V2.7B "OTHER IMPORTANT THINGS"
V5.81A "IMPORTANCE: IMMEDIATE FAMILY AND CHILDREN"
V5.81B "IMPORTANCE: CAREER AND WORK"
V5.81C "IMPORTANCE: FREE TIME AND RELAXATION"
V5.81D "IMPORTANCE: FRIENDS"
V5.81E "IMPORTANCE: PARENTS AND OTHER RELATIVES"
V5.81F "IMPORTANCE: RELIGION AND CHURCH"
V5.81G "IMPORTANCE: POLITICS"
V2.3C "SATISFACTION WITH FAMILY LIFE"
V2.82 "SATISFACTION WITH LIFE"
V7.19 "SUCCESS: ABILITY OR LUCK"
V4.81 "ATTITUDE TOWARDS GOVERNMENTAL ASSISTANCE"
V7.1 "SCIENCE AND LOSS OF HUMAN FEELING"
V4.5 "TEACHING CHILDREN MONEY IS IMPORTANT"
V8.1B "LEAVE IT UP TO POLITICAL LEADERS"
V2.1 "CUSTOM VS. CONSCIENCE"
V7.2 "MECHANIZATION AND HUMAN FEELING"
V4.30 "HOME IS RELAXING PLACE"
V4.32 "MARRIAGE IS PERMANENT"
V4.31 "HOUSEWORK AND CHILD CARE"
V4.4 "RUMOR ABOUT TEACHER"
V5.1 "BENEFACITOR DEATH-BED"
V5.1B "REAL FATHER DEATH-BED"
V2.5 "MAN AND NATURE"
V7.4 "IMPROVE THE COUNTRY OR MAKE PEOPLE HAPPY"
V5.1D1 "IMPORTANT THING: FILIAL PIETY"
V5.1D2 "IMPORTANT THING: REPAYING OBLIGATIONS"
V5.1D3 "IMPORTANT THING: INDIVIDUAL RIGHTS"
V5.1D4 "IMPORTANT THING: INDIVIDUAL FREEDOM"
V5.OTHER "IMPORTANT THING: OTHERS"
V5.DK "IMPORTANT THING: D.K."
V5.6H "DESIRABLE PERSON: EFFICIENT VS. FRIENDLY"
V2.2B "CONSENSUS VS. PRINCIPLE"
V5.1C1 "EMPLOYMENT EXAMINATION: RELATIVE"
V5.1C2 "EMPLOYMENT EXAMINATION: SON OF BENEFACITOR"
V5.6 "TYPE OF BOSS PREFERRED"
V2.12 "ARE PEOPLE HELPFUL MOST OF THE TIME"
V2.12B "ARE MOST PEOPLE FAIR"
V2.12C "ARE MOST PEOPLE TRUSTWORTHY"
V2.83A "LIFE: MOST PEOPLE ARE HELPFUL"
V2.83B "LIFE: PART OF COMMUNITY"
V2.83C "LIFE: PEOPLE LIVE FOR TODAY"
V2.83D "LIFE: WAY OF EARNING MONEY IS IMPORTANT"
V2.83E "LIFE: PEOPLE FEEL LONELY"
V7.36 "IMPROVEMENT OF EVERYDAY LIFE THROUGH SCIENCE"
V7.33 "COMPUTERS CHANGE OUR LIFE"
V7.83 "SOME ILLNESS TREATED BY METHODS"
V7.84 "SCIENCE PERMITS UNDERSTANDING THE HUMAN MIND"
V7.85 "RESOLUTION OF SOCIAL AND ECONOMIC PROBLEMS"
V7.86A "SAFE METHOD FOR NUCLEAR WASTE DISPOSAL"
V7.86B "CURE FOR CANCER"
V7.86C "CURE FOR SENILITY"
V7.86D "LIVING IN SPACE STATIONS"
V7.34 "ENERGY CONSERVATION"
V7.35 "ENVIRONMENTAL PRESERVATION"
V9.80 "CULTURE"
V3.1 "RELIGIOUS FAITH"
V3.1B "RELIGION"
V3.2 "RELIGIOUS ATTITUDE"
V3.3 "ALL RELIGIONS SAME"
V8.81 "POLITICAL STANCE"
V8.82 "INTEREST IN POLITICS"
V8.2E "DEMOCRACY"

V8.2F "CAPITALISM"
V8.2H "SOCIALISM"
V8.2G "LIBERALISM"
V8.83 "SATISFACTION WITH DEMOCRACY"
V8.84 "LEGAL SYSTEM"
V8.87 "EMPLOYER VS. EMPLOYEE"
V8.8 "ATTITUDES CONCERNING SOCIETY"
V8.85A "PROFOUND TRANSFORMATION OF SOCIETY"
V8.85B "THE WAY OF CHANGING SOCIETY"
V8.86 "CLOSE TO PARTY"
V8.7 "POLITICAL PARTY".
IF (NATION GE 8) OCCR = OCCH8.
IF (NATION GE 8) INCOME8 = INCGB8.
RECODE AGEC (1, 2, 3 =1) (4, 5, 6, 7 = 2) (8, 9, 10, 11, 12 = 3).
CROSSTABS TABLES=V2.80A,V2.80B,V2.80C,V2.80D,V2.80E BY AGEC
/OPTIONS=5.

7ヶ国共通ファイルのSPSS variable labelとSPSSによる分析例2
 (SPSS.統計数理研究所大型コンピューター用のコマンド・ファイル)
 --- 7ヶ国の国民性比較調査の共通ファイル・データの分析用 ---

```

/XXXXXXX JOB *****,SPSS,NOTIFY=XXXXXX
/ EXEC SPSS
UN NAME      EUROPE SURVEY 1992 ITALY
ARIABLE LIST  NATION1,SINFO1,
               SEX,AGECOD,AGE,EDUC,SIZE,OCCR,
               Q1 TO Q7,Q8A,Q9A,Q9B,Q9C,Q9D,Q9E,Q11 TO Q13,
               Q14A,Q14B,Q14C,Q14D,Q14E,Q15 TO Q23,
               Q24A,Q24B,Q25,Q26A,Q26B,Q27A,Q27B,Q27C,Q27D,Q27E,
               Q27F,Q27G,Q28 TO Q30,CARD1,
               NATION2,SINFO2,
               INCOMEF,
               Q31 TO Q40,Q41 TO Q44,Q45A,Q45B,Q45C,Q45D,Q45E,Q45F,
               Q46 TO Q53,Q54A,Q54B,Q54C,Q54D,Q54E,Q55 TO Q56,
               Q57A,Q57B,Q57C,Q58A,Q58B,Q58C,Q58D,Q59 TO Q61,
               Q62A,Q62B,Q63 TO Q64,
               Q65,Q66,Q67A,Q67B,Q67C,Q67D,
               Q68 TO Q71,Q72A,Q72B,Q73,Q74,CARD2,
               NATION3,SINFO3,
               COMMUN,SOCIAL,ECONTL,MIDDLE,CONSRV,ULTRIT,
               OCCG8,INCG8,CARD3

INPUT MEDIUM   DISK
N OF CASES    UNKNOWN
INPUT FORMAT   FIXED(F1.0,F9.0,
                  F1.0,2F2.0,F1.0,2F2.0,
                  13F1.0,12X,32F1.0,2X,F1.0/
                  F1.0,F9.0,
                  F2.0,1X,
                  49F1.0,F2.0,11F1.0,F2.0,F1.0,1X,F1.0/
                  F1.0,F9.0,
                  3X,8F3.0,42X,F1.0)
PAGESIZE       NOEJECT
DOCUMENT
*****+
+ 'YOSHINO.ITAHOLC.CNTL(COMMON7)'      1994.11.15 +
+ THIS CNTL IS FOR COMMON DATA FILES OF 7 NATIONS.+
+ NOTE: CODE FOR CURRENT OCCUPATION(OCCR)          +
+        AND FAMILY INCOME(INCOMEF) NEED LINKAGE      +
+        IN ITALY AND HOLLAND(NATION CODE 8-9).        +
+        SEE "IF..." SENTENCES BELOW.                   +
*****+
VALUE LABELS   AGECD(1) -19(2)20- (3)25- (4)30- (5)35- (6)40- (7)45-
               (8)50- (9)55- (10)60- (11)65- (12)70- /
MISSING VALUES Q13(9)/Q16,Q28,Q29(6)/Q27A TO Q27G(8)/Q65(11,12,99)/
                COMMUN TO ULTRIT(888,999)/AGECD(16,17)/EDUC(0)/
IF             (NATION1 GE 8) OCCR=OCCG8
IF             (NATION1 GE 8) INCOMEF=INCG8
RECODE        EDUC(1,2=1)(3 THRU 6=2)(7 THRU 10=3)(ELSE=9)/
FREQUENCIES   GENERAL=NATION1,SEX TO CARD1,INCOMEF TO CARD2,
               COMMUN TO ULTRIT
READ INPUT DATA
FINISH
//FT08F001 DD DSN=ITA92C.DATA,DISP=SHR
//
```

ス 共通ファイル用 SPSS コントロール NATIONAL.CTL
 (7ヶ国) YOSHINO.ITAHOLC.CNTL(SPSS) に同じ)

3.4 7ヶ国比較調査票における日本調査票A（国際比較版）

〔対象番号が3の倍数でない人に〕

生活と文化に関する世論調査

〔調査票A〕

N = 2265

(161893)

昭和63年10月

新情報センター

(固)	(地点番号)	(対象番号)				
5						
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦

調査日時	調査員氏名	点検者名
日 時		

新情報センターから世論調査に伺いました。

突然で恐れ入りますが、よろしくご協力下さいますようお願いいたします。

〔性・年齢〕〔訪問する前に記入しておきサンプルを確認する〕

あなたのお生まれは、	1 明治 2 大正 3 昭和 年 月	ですね。 ⑧～⑩
1 男 2 女		⑪
1 その通りだ 2 否 →	1 明治 2 大正 3 昭和 年 月	生まれた ⑫～⑬

〔該当する生年の上の数字を○でかこむ〕

1 昭和38年以降	2 昭和33年	3 昭和28年	4 昭和23年	5 昭和18年	⑯
	1 昭和37年	1 昭和32年	1 昭和27年	1 昭和22年	
6 昭和13年	7 昭和8年	8 昭和3年	9 大正12年	10 大正11年	
1 昭和17年	1 昭和12年	1 昭和7年	1 昭和2年	(明治も含む)	

問1 [カード1] 日本人全体の生活水準は、この10年間でどう変わったと思いますか。

- ② 1 非常によくなつた 5 非常にわるくなつた
2 ややよくなつた 6 その他(記入)
3 変わらない 7 わからない
4 ややわるくなつた
-

問2 [カード1] あなたの生活水準は、この10年間でどう変わりましたか。

- ② 1 非常によくなつた 5 非常にわるくなつた
2 ややよくなつた 6 その他(記入)
3 変わらない 7 わからない
4 ややわるくなつた
-

問3 [カード2] これから先の5年間に、あなたの生活状態はよくなると思いますか、それとも悪くなると思いますか。

- ② 1 非常によくなるだろう 5 非常にわるくなるだろう
2 ややよくなるだろう 6 その他(記入)
3 変わらないだろう 7 わからない
4 ややわるくなるだろう
-

問4 これから先、ひとびとは幸福になると思いますか、不幸になると思いますか。

- ② 1 幸福に 2 不幸に 3 変わらない 4 その他(記入) 5 わからない
-

問5 これから先、心のやすらかさは、ますと思ひますか、へると思ひますか。

- ② 1 ます 2 へる 3 変わらない 4 その他(記入) 5 わからない
-

問6 では、人間の自由は、ふえると思ひますか、へると思ひますか。

- ② 1 ふえる 2 へる 3 変わらない 4 その他(記入) 5 わからない
-

問7 これから先、人間の健康の面はよくなってゆくと思ひますか、わるくなると思ひますか。

- ② 1 よくなる 2 わるくなる 3 変わらない 4 その他(記入) 5 わからない
-

問8 [カード3] わが国の向こう10年から15年間の国家目標をどう設定したらよいかについて、最近盛んに議論されています。ここにいろいろな人が最も重視する目標がいくつかあげてあります。あなたはこれらの中で何が最も重要だと思いますか。(○は1つ)

- ② 1 國家の秩序を維持すること
2 重要な政策を決める時、人々にもっと発言させること
3 物価の上昇をくいとめること
4 言論の自由を守ること
5 その他の記入
6 わからない
-

問9 [カード4] ときどき、自分自身のことや家族のことでも不安になることがあると思います。
あなたは、次のような危険について不安を感じることがありますか。

	非感 常じ にる	か感 なじ りる	少感 し じる	全じ くな い	その 他	わな か い ら	
a. まず、「重い病気」の不安はどの程度でしょうか。……………	1	2	3	4	5	6	㉙
b. では、「交通事故」についてはどうでしょうか。……………	1	2	3	4	5	6	㉚
c. では、「失業」についてはどうでしょうか。……………	1	2	3	4	5	6	㉛
d. では、「戦争」についてはどうでしょうか。……………	1	2	3	4	5	6	㉜
e. では、「原子力施設の事故」についてはどうでしょうか。…	1	2	3	4	5	6	㉝

問10

a. 家計のやりくりをしなければならないことがありますか。

1 あ る	2 な い	3 その 他(記入 ↓(問11へ))	4 わ か ら な い	

b. [カード5] 特にどこを節約しますか。下記のうちからいくつでも上げて下さい。

	あり	なし	
a. 医療費	1	0	㉙
b. 車の費用	1	0	㉚
c. 家庭用品	1	0	㉛
d. 食料品	1	0	㉜
e. 美容	1	0	㉝
f. レジャー・休暇	1	0	㉞
g. 衣料費	1	0	㉟
h. 住居費	1	0	㉟
i. 子供の養育費	1	0	㉛
j. タバコ・酒	1	0	㉛
8. その他の			㉛
9. わからない			㉛

問11 あなたはどちらかといえば、普通より先祖を尊ぶ方ですか、それとも普通より尊ばない方ですか。

1 普通より 尊ぶ方	2 普通より 尊ばない方	3 普通	4 その他(記入)	5 わ か ら な い	

問12 子供がないときは、血のつながりがない他人の子供を、養子にとって家をつかせた方がよいと思いますか、それとも、つかせる必要はないと思いますか。

1 つかせた方 がよい	2 つかせる必要は ない	3 場合による	4 その他(記入)	5 わ か ら な い	

問13 現在、一般的な家庭にとって望ましい子供の数は何人だと思いますか。

1 2 3 4 5 6 7

八

9

わからない

⑭

問14 [カード6] ここ1ヶ月の間に次にあげるものに悩みましたか。(かかりましたか。)

かかったことあり なし

- Ⓐ a. 頭痛、偏頭痛 1 0
Ⓑ b. 背中の痛み 1 0
Ⓒ c. いらいら 1 0
Ⓓ d. うつ状態 1 0
Ⓔ e. 不眠症 1 0

8. その他

9. わからない

問15 [カード7] あなたと同じ年の人と比べて、あなたの健康状態はいかがですか。

- Ⓐ 1 非常に満足している 4 満足していない
2 満足している 5 その他(記入)
3 あまり満足していない 6 わからない

問16 [カード8] かりに現在の日本社会全体を、ここに書いてあるように5つの層に分けるとすれば、お宅はこのどれにはいると思いますか。

- Ⓐ 1 上 2 中の上 3 中の中 4 中の下 5 下 6 その他(記入) 7 わからない

問17 [カード9] あなたは次のうちどちらが好ましいと思いますか。

- Ⓐ 1 収入が増えること
2 余暇(自由な時間)が増えること
3 その他(記入)
4 わからない

問18 もし、一生、楽に生活できるだけのお金がたまたとしたら、あなたはずっと働きますか、それとも働くのをやめますか。

- Ⓐ 1 ずっと働く 2 働くのをやめる 3 その他(記入) 4 わからない

問19 [カード10] 仕事について、次の2つの意見があります。どちらがあなたの気持ちに近いですか。

- Ⓐ 1 いくらお金があっても、仕事がなければ、人生はつまらない
2 お金があれば、仕事がなくても、人生がつまらないとは思わない
3 その他(記入)
4 わからない

問20 [カード11] ここに仕事について、ふだん話題になることがあります。
あなたは、どれに一番関心がありますか。

- 1 お金のことを気にしないですむ程よい給料
- 2 倒産や失業の恐れがない仕事
- 3 気の合った人たちと働くこと
- 4 やりとげたいという感じがもてる仕事
- 5 その他(記入))
- 6 わからない

(5)

問21 現在、あなたの一週間の予定を立てるとき、仕事上のことがあなたの個人生活や家庭生活とよくぶつかりますか。

- | | | | | |
|---------|----------|--------------|--------|------------|
| 1
はい | 2
いいえ | 3
その他(記入) | 4
) | 5
わからない |
|---------|----------|--------------|--------|------------|

(6)

問22 [カード12] 人の暮らし方には、いろいろあるでしょうが、つぎにあげるものの中で、どれが一番、あなた自身の気持ちに近いものですか。

- 1 一生けんめい働き、金持ちになること
- 2 まじめに勉強して、名をあげること
- 3 金や名前を考えずに、自分の趣味にあつた暮らし方をすること
- 4 その日その日を、のんきにタヨタヨしないでくらすこと
- 5 世の中の正しくないことを押しのけて、どこまでも清く正しくくらすこと
- 6 自分の一身のことを考えずに、社会のためにすべてを拂げてくらすこと
- 7 その他(記入))
- 8 わからない

(7)

問23 [カード13] お宅の付近の環境や住みやすさについて、全体としてどう思っていますか。

- | | |
|--------------|-------------|
| 1 満足している | 4 満足していない |
| 2 やや満足している | 5 その他(記入)) |
| 3 あまり満足していない | 6 わからない |

(8)

問24 [カード14] 近所の治安についておうかがいします。次に挙げるようなことで問題になっていることがありますか。

重な 大っ なて 問い 題る に	問い 題る にな って	大な じて 問題 にな は	全な 然つ 問題 にな はい	そ の 問題 にな はい	わ か ら な い
---------------------------------	----------------------	---------------------------	----------------------------	--------------------------	-----------------------

- a. 「強盗にはいられること」については、どうですか。
- b. 「急に襲^{おそ}われて身の危険を感じること」については、どうですか。

- | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | (9) |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | (10) |

問25 [カード15] イソップの童話の中に、怠け者のキリギリスと、働き者のアリの話があります。夏の間歌をうたっていたキリギリスが、冬になって、食べる物がなくなり困ってしまい、夏の間働いていたアリのところにやってきました。この時のアリの答えには、次のような2つの型があります。あなたは、このお話をむすびとして、この中のどちらかご自分の気持ちにしっくりしますか。

- (5) 1 夏の間怠けていたのだから、困るのが当然だと追い返してしまう
2 怠けていたのはいけないけれども、これからはちゃんと働くのですよ、といさめた上で、食べ物をわけてあげる
3 その他の記入
4 わからない

問26 あなたにとって一番大切と思うものはなんですか。1つだけあげてください。

(記入)	9 わからない
------	------------

問26b そのほか、非常に大切と思うものをいくつでもあげてください。

(記入)	9 わからない
------	------------

問27 [カード16] 次にあげる生活領域のそれぞれについて、あなたが重要だと思う程度に従って1~7の評価をつけてください。

	重 要 で な い	重 要	そ の 他	わ か ら な い
(6) a. まず、「家族や子供」についてはどうですか。…	1	2	3	4
(6) b. では、「職業や仕事」についてはどうですか。…	5	6	7	8
(7) c. では、「自由になる時間とくつろぎ」についてはどうですか。…	1	2	3	4
(7) d. では、「友人、知人」については ………………	5	6	7	8
(7) e. では、「両親、兄弟、姉妹、親戚」については …	1	2	3	4
(7) f. では、「宗教」については ………………	5	6	7	8
(7) g. では、「政治」については ………………	1	2	3	4
	5	6	7	8
	6	7	8	9

問28 [カード17] あなたは自分の家庭に満足していますか、それとも不満がありますか。

(7)	1 満足	2 やや 満足	3 どちらとも いえない	4 やや 不満	5 不満	6 その他(記入)	7 わから ない
-----	---------	---------------	--------------------	---------------	---------	------------------	----------------

問29 [カード17] あなたの生活についておききします。ひとくちにいってあなたは今の生活に満足していますか、それとも不満がありますか。

1	2	3	4	5	6	7	⑩
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	その他(記入))	わからない

問30 いまの社会で成功している人をみて、その人の成功には、個人の才能や努力と、運やチャンスのどちらが大きな役割をはたしていると思いますか。

1	2	3	4	⑩
個人の才能や努力	運やチャンス	その他(記入))	わからない

⑩⑪=01

問31 [カード18] 次の二つの意見のうち、どちらがあなたの意見に近いですか。

⑪=1

(カード1)

甲：収入が不十分な世帯を国が経済的に面倒をみるとことは、その世帯に生活の道を与えることになる

乙：収入が不十分な世帯を国が経済的に面倒をみるとことは、その世帯から責任感を全く奪うことになる

(1)~(7)=1D
(8)~(13)=b

1	2	3	4	⑩
甲の意見	乙の意見	その他(記入))	わからない

問32 こういう意見があります。

「世の中は、だんだん科学や技術が発展して、便利になって来るが、それにつれて人間らしさがなくなって行く」

というのですが、あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか。

1 賛成(人間らしさはへる)	4 その他(記入)	⑩
2 いちがいにはいえない	5 わからない	
3 反対(人間らしさ、不变、ふえる)		

問33 小学校に行っているくらいの子供をそだてるのに、つぎのような意見があります。

「小さいときから、お金は人にとって、最も大切なものの1つだと教えるのがよい」
というのです。あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか。

1	2	3	4	5	⑩
賛成	反対	いちがいにはいえない	その他(記入))	わからない

問34 こういう意見があります。

「國をよくするためには、すぐれた政治家ができたら、國民がたがいに議論をたたかわせるよりはその人達にまかせる方がよい」

というのですが、あなたはこれに賛成ですか、それとも反対ですか。

1 賛成(まかせる)	4 その他(記入)	⑩
2 反対(まかせっきりはいけない)	5 わからない	
3 いちがいにはいえない		

問35 あなたは、自分が正しいと思えば世間の慣習に反しても、それをおし通すべきだと思いますか、それとも世間の慣習に、従った方がまちがいないと思いますか。

- (18) 1 おし通せ 2 従え 3 場合による 4 その他(記入) 5 わからない
-

問36 こういう意見があります。

「どんなに世の中が機械化しても、人の心の豊かさ(人間らしさ)はへりはしない」
というのですが、あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか。

- (19) 1 反対(へる) 4 その他(記入))
 2 いちがいにはいえない 5 わからない
 3 賛成(へらない)
-

問37 [カード19] つきのような考え方があります。

「家庭は、ここちよく、くつろげる、ただ1つの場所である」
というのですが、あなたはそう思いますか、そうは思いませんか。

- (20) 1 そう思う 2 そうは思わない 3 その他(記入) 4 わからない
-

問38 [カード20] つきの3つの意見の中で、どれが一番あなたの意見に近いですか。

- (21) 1 離婚はすべきではない
 2 ひどい場合には、離婚してもよい
 3 二人の合意さえあれば、いつ離婚してもよい
 4 その他(記入))
 5 わからない
-

問39 [カード21] 家事や子供の世話について、どうお考えですか。

- (22) 1 すべてが女性の仕事である
 2 いくつかは女性の仕事である
 3 すべての仕事は、男性、女性の区別なくやるべきだ
 4 その他(記入))
 5 わからない
-

問40 「先生が何か悪いことをした」というような話を、子供が聞いてきて、親にたずねたとき、親はそれが本當であることを知っている場合、子供には、

「そんなことはない」といった方がよいと思いますか、それとも
「それはほんとうだ」といった方がよいと思いますか。

- (23) 1 そんなことはないという 2 ほんとうだという 3 その他(記入) 4 わからない
-

問41 [カード22] 南山さんという人は、小さいときに両親に死に別れ、となりの親切な西木野さんに育てられて、大学まで卒業させてもらいました。そして、南山さんはある会社の社長にまで出世しました。ところが故郷の、育てくれた、西木野さんが「キトクだからスグカエレ」という電報を受け取ったとき、南山さんの会社がつぶれるか、つぶれないか、ということがきまってしまう大事な会議があります。あなたはつぎのどちらの態度をとるのがよいと思いますか。よいと思う方を1つだけえらんで下さい。

- 1 なにをおいても、すぐ故郷に帰る
2 故郷のことが気になんでも、大事な会議に出席する
3 その他の記入
4 わからない

04

05

06

問42 [カード22] いまの質問では、恩人が死にそうなときを、うかがいましたが、もしキトクなのが恩人ではなくて、南山さんの親だったら、どうしたらよいと思いますか、どちらかえらんで下さい。

- 1 なにをおいても、すぐ故郷に帰る
2 故郷のことが気になんでも、大事な会議に出席する
3 その他の記入
4 わからない

問43 [カード23] 自然と人間との関係について、つぎのような意見があります。あなたがこのうち真実に近い(ほんとうのこと)に近い)と思うものを、1つだけ選んでください。

- 1 人が幸福になるためには、自然に従わなければならない
2 人が幸福になるためには、自然を利用しなければならない
3 人が幸福になるためには、自然を征服していかなければならない
4 その他の記入
5 わからない

07

08

問44 [カード24] あなたはつぎの意見の、どちらに賛成ですか。1つだけあげてください。

- 1 個人が幸福になって、はじめて國全体がよくなる
2 國がよくなつて、はじめて個人が幸福になる
3 國がよくなることも、個人が幸福になることも同じである
4 その他の記入
5 わからない

問45 [カード25] つぎのうち、大切なことを2つあげてくれといわれたら、どれにしますか。

		あり	なし
08	a. 親孝行、親に対する愛情と尊敬	1	0
09	b. 助けてくれた人に感謝し、必要があれば援助する	1	0
10	c. 個人の権利を尊重すること	1	0
11	d. 個人の自由を尊重すること	1	0
12	5. その他(記入))
13	6. わからない		

(上の質問では、2つの項目をあげてもらうこと)

03~09=b

問46 [カード26] つぎのうち、あなたはどちらが人間として望ましいとお考えですか。

- 09
1 他人と仲がよく、なにかと頼りになるが、仕事はあまりできない人
2 仕事はよくできるが、他人の事情や心配事には無関心な人
3 その 他(記入)
4 わからない)

問47 [カード27] 物事を決定する時に「一定の原則に従うこと」に重点をおく人と、「他人との調和をはかること」に重点をおく人では、どちらがあなたの好きな「ひとがら」ですか。

- 07
1 物事を決定するときに一定の原則に従うことに重点をおく人
2 物事を決定するときに他人との調和をはかることに重点をおく人
3 その 他(記入)
4 わからない)

問48 [カード28] あなたが、ある会社の社長だったとします。その会社で、新しく職員を1人採用するために試験をしました。入社試験をまかせておいた課長が、

「社長のご親戚の方は2番でした。しかし、私としましては、1番の人でも、ご親戚の方でも、どちらでもよいと思いますがどうしましょうか」と社長のあなたに報告しました。

あなたはどちらをとれ(採用しろ)といいますか。

- 08
1 1番の入を採用するようにいう
2 親戚を採用するようにいう
3 その 他(記入)
4 わからない)

問49 [カード29] それでは、この場合2番になったのがあなたの親戚の子供でなくて、あなたが昔世話になった人の子供だったとしたら、あなたはどうしますか。(どちらをとれといいますか)

- 09
1 1番の入を採用するようにいう
2 昔世話になった人の子供を採用するようにいう
3 その 他(記入)
4 わからない)

問50 [カード30] ある会社につきのような2人の課長がいます。もしあなたが使われるとしたら、どちらの課長に使われる方がよいと思しますか。どちらか1つあげて下さい。

- 1 規則をまげてまで、無理な仕事をさせることはありますかが、仕事以外のことでは人のめんどうを見ません (40)
- 2 時には規則をまげて、無理な仕事をさせることもありますが、仕事のこと以外でも人のめんどうをよく見ます
- 3 その他の記入)
- 4 わからない

問51 たいていの人は、他人の役にたとうとしていると思いますか、それとも自分のことだけ考えていると思いますか。

- 1 他人の役にたとうとしている (41)
- 2 自分のことだけ考えている
- 3 その他の記入)
- 4 わからない

問52 他人は、機会があれば、あなたを利用しようとしていると思いますか、それともそんなことはないと思いますか。

- 1 他人は機会があれば利用しようとしていると思う (42)
- 2 そんなことはないと思う
- 3 その他の記入)
- 4 わからない

問53 たいていの人は信頼できると思いますか、それとも、常に用心した方がよいと思いますか。

- | | | | | |
|-------------------|---------------------|-------------|-----------------|------|
| 1
信頼できる
と思う | 2
常に用心した
方がよい | 3
その他の記入 | 4
)
わからない | (43) |
|-------------------|---------------------|-------------|-----------------|------|

問54 [カード31] 次のような意見がいくつかあります。ご自分の立場や個人的な感情を考えて、「賛成」「やや賛成」「やや反対」「反対」のいずれかで答えて下さい。

a. まず、「たいていの人は、他人を助けるために多少の努力をすることができる」というのですが、あなたのお考えに近いのはどれですか。

- | | | | | | | | |
|---|----|----------|----------|----|-----|-----------|------|
| (以下同様にb~eを聞く) | 賛成 | やや
賛成 | やや
反対 | 反対 | その他 | わから
ない | |
| a. たいていの人は、他人を助けるために多少の努力をすることができる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | (40) |
| b. 絆つきが強い地域社会に自分が構している | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | (40) |
| c. 今日、人は明日のこと心配しないでその日その日を生きざるを得ない | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | (40) |
| d. 収入を得るための手段の方が、得られる収入より大切である | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | (40) |
| e. 現代は、自分も含めて、人々は孤独で他人から切り離されていると感じることが多い | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | (40) |

問55 [カード32] 科学上の発見とその利用は、あなたの日常生活の改善に役だっていると思いますか。

- 49 1 役だっている 4 その他(記入))
 2 少しは役だっている 5 わからない
 3 役だっていない
-

問56 [カード33] コンピュータがいろいろなところに使われるようになり、情報化社会などということが言われています。このような傾向が進むにつれて、日常生活の上で変わっていく面があると思います。あなたは、このような変化をどう思いますか。

- 50 1 望ましいことである 4 その他(記入))
 2 望ましいことではないが、避けられないことである
 3 困ったことであり、危険なことでもある
 4 その他(記入)
 5 わからない
-

問57 [カード34] つぎに読み挙げる事柄についてあなたはどう思いますか。

それぞれについて、この中からお答えください。(a～cについてそれぞれ聞く)

a. 病気の中には近代医学とは別の方で治療したほうがよいものもある。

- 51 1 全くそのとおりだと思う 4 決してそうは思わない)
 2 そう思う 5 その他(記入)
 3 そうは思わない 6 わからない
-

b. 科学技術が発展すれば、いつかは人間の心の中までも解明できる。

- 52 1 全くそのとおりだと思う 4 決してそうは思わない)
 2 そう思う 5 その他(記入)
 3 そうは思わない 6 わからない
-

c. 今日我々が直面している経済的、社会的问题のほとんどは科学技術の進歩により解決される。

- 53 1 全くそのとおりだと思う 4 決してそうは思わない)
 2 そう思う 5 その他(記入)
 3 そうは思わない 6 わからない
-

問58 [カード35] つぎに挙げることは今後25年の間に実現すると思いますか。

それぞれについてこの中からお答えください。

		多分実現する	実現する可能性は低い	実現しない	その他	わからない
54	a. まず、「原子力廃棄物の安全な処理方法」についてはどうですか。	1	2	3	4	5
55	b. 「ガンの治療方法の解明」についてはどうですか。	1	2	3	4	5
56	c. 「老人性痴呆(ぼけ)の治療方法の解明」についてはどうですか。	1	2	3	4	5
57	d. 「宇宙ステーションでの生活」についてはどうですか。	1	2	3	4	5

問59 [カード36] エネルギーの節約について話題になることがしばしばあります。
あなたご自身は、このことは重要な問題だと思いますか。

- | | | |
|-------------|------------|----|
| 1 非常に重要である | 4 重要ではない | 69 |
| 2 重要である | 5 その他(記入) | |
| 3 あまり重要ではない | 6 わからない | |

問60 [カード36] 環境の保護は、あなたにとってどのくらい重要な問題ですか。

- | | | |
|-------------|------------|----|
| 1 非常に重要である | 4 重要ではない | 69 |
| 2 重要である | 5 その他(記入) | |
| 3 あまり重要ではない | 6 わからない | |

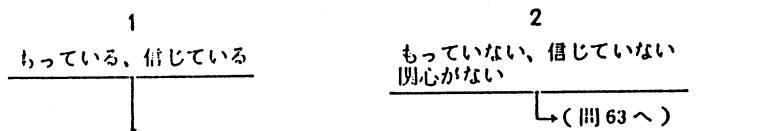
問61 日本文化ときいて、まず思い浮かべることは何ですか。

(記入)	9 わからない
------	------------

問61b それはかいくつでもあげて下さい。
何かそのほかにありますか。

(記入)	9 わからない
------	------------

問62 宗教についておききしたいのですが、たとえば、あなたは、何か信仰とか信心とかを持っていますか。



問62b (問62で「1 もっている、信じている」と回答した人に)

それは何という宗教ですか。

- | | |
|---------------|---|
| 1 仏教系(記入) |) |
| 2 神道系(記入) |) |
| 3 キリスト教(記入) |) |
| 4 その他の宗教(記入) |) |
| 5 わからない |) |

問63 それでは、今までの宗教にはかかわりなく、「宗教的な心」というものを、大切だと思いますか、それとも大切なとは思いませんか。

60 1 2 3 4
大切 大切でない その他(記入) わからない

問64 宗教について、こんな意見があります。

「宗教にはいろいろあり、それぞれ独自の教えを説いているが、そうした教えは、けっこう同じものだ」
というのですが、あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか。

69 1 2 3 4
賛成 反対 その他(記入) わからない

問65 [カード37] 政治の立場を明らかにするに当たって、世間ではよく「左(革新)」とか「右(保守)」とかいいますが、あなたはいかがですか。
この目盛りを使ってあなたの政治に対する考え方をお知らせ下さい。

左(革新) 右(保守) その他 わからない
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

問66 [カード38] あなたは政治に関心がありますか。

68 1 非常に関心がある 4 全く関心がない
2 まあ関心がある 5 その他(記入)
3 あまり関心がない 6 わからない

問67a [カード39] あなたは「民主主義」について、どう思いますか。
このうち、あなたの意見に一番近いのはどれですか。

69 1 よい 4 その他(記入)
2 時と場合による 5 わからない
3 よくない

b [カード39] では、「資本主義」についてはどうですか。

70 1 よい 4 その他(記入)
2 時と場合による 5 わからない
3 よくない

c [カード39] では、「社会主义」についてはどうですか。

71 1 よい 4 その他(記入)
2 時と場合による 5 わからない
3 よくない

d [カード39] では、「自由主義」についてはどうですか。

- | | | |
|-----------|-----------|------|
| 1 よい | 4 その他(記入) |) 72 |
| 2 時と場合による | 5 わからない | |
| 3 よくない | | |

e [カード39] では、「保守主義」についてはどうですか。

- | | | |
|-----------|-----------|------|
| 1 よい | 4 その他(記入) |) 73 |
| 2 時と場合による | 5 わからない | |
| 3 よくない | | |

問68 [カード40] 日本の民主政治の運営のしかたについてはどうですか。

- | | | |
|--------------|-----------|------|
| 1 非常に満足 | 4 全く不満 |) 74 |
| 2 かなり満足 | 5 その他(記入) | |
| 3 あまり満足していない | 6 わからない | |

問69 [カード41] 現在の日本で、裁判制度はよく機能していると思いますか。

- | | | |
|----------------|---------------|------|
| 1 非常によく機能している | 4 全然よく機能していない |) 75 |
| 2 かなりよく機能している | 5 その他(記入) | |
| 3 あまりよく機能していない | 6 わからない | |

問70 [カード42] 労働者と経営者の関係について、次のような二つの意見があります。

甲の意見 「労働者と経営者の利害は、全くあい反しているから、労働者と経営者はあくまで戦わなければならない」

乙の意見 「会社がもうかれは労働者の賃金も上がるというように、労働者と経営者の利害は結局において一致するのだから労働者と経営者は協力しなければならない」

あなたは、このどちらの意見に賛成ですか。

- | | | | | |
|---------------------|----------------------|--------------|------------|------|
| 1
甲に賛成
(戦うべき) | 2
乙に賛成
(協力すべき) | 3
その他(記入) | 4
わからない |) 76 |
|---------------------|----------------------|--------------|------------|------|

問71 [カード43] 次にわれわれが住んでいる社会についての考え方が3つ挙げてあります。

あなたの意見に最も近いものを1つ選んでください。

- | | |
|---|------|
| 1 われわれの社会の仕組みは、革命によって根本的に変えなければならない |) 77 |
| 2 われわれの社会は、改革によって徐々に変えていかなければならない | |
| 3 われわれの現在の社会は、あらゆる破壊的勢力に対して防衛されなければならない | |
| 4 その他の記入 |) |
| 5 わからない | |

問72 日本の社会は、根本的な改革を必要としていると思いますか。

08

1 思 う	2 思わない	3 その他(記入)) 4 わからぬ
----------	-----------	--------------	-------------

↓ (問73へ)

問72b (思うと回答した人に)

やんしんべき

〔カード44〕では、その変革は漸進的な改革がよいでしょうか、それとも急激な改革がよいでしょうか。

79=b
80=2
(カード2)
<1>~<7>=ID
<8>~<14>=b

1 漸進的な改革 がよい	2 急激な改革 がよい	3 その他(記入)) 4 わからぬ
--------------------	-------------------	--------------	-------------

問73 しいていえば、あなたは何党を支持しますか。

<15>

1 自 民 党	5 共 産 党	8 支持政党なし
2 社 会 党	6 社 民 連	9 わからぬ
3 公 明 党	7 その他の政党	
4 民 社 党	(記入)	

↓ (問75へ)

問74 (政党をあげたなら)あなたの考え方はその政党にどの程度近いでしょうか。

「非常に近い」「かなり近い」「非常に近いとはいえない」の三段階のうちどれにあたりますか。

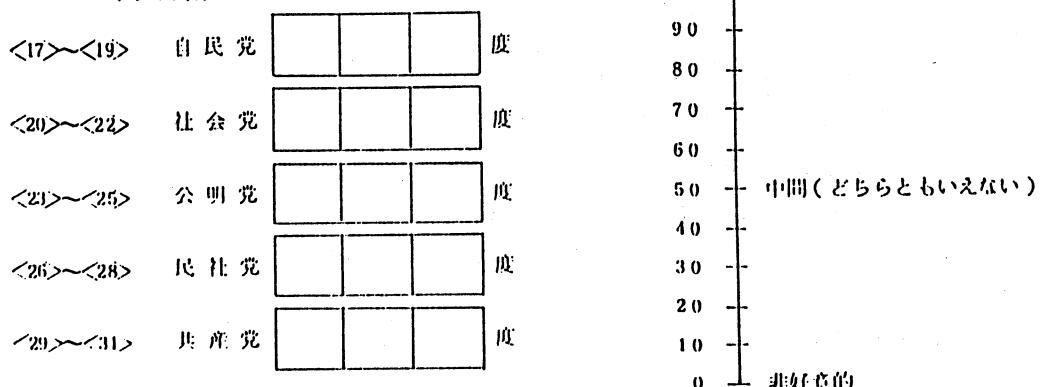
<16>

1 非常に近い	4 その他(記入))
2 かなり近い	5 わからぬ	
3 非常に近いとはいえない		

問75 [カード45] 政党についてお伺いします。もし好意も反感も持たない時には50度としてください。もし好意的な気持ちがあれば、その強さに応じて50度から100度のどこかを指してください。また、もし好意を感じていなければ、やはりその強さに応じて0度から50度のどこかを指してください。

1番目は自民党です。自民党についてはどうですか。

(以下同様に聞く)



<フェース・シート>

ご意見をおうかがいするのはこれで終わりですが、この結果を統計的に分析するために、あなたご自身やご家族のことについて少しおたずねします。

<32>～<35>=b

F 1 [性 別]

1
男

2
女

<36>

F 2 [年 齢] あなたのお年は満でおいくつですか。

記入

□ □ 歳

<37><38>

1 18～19歳	5 35～39歳	9 55～59歳
2 20～24歳	6 40～44歳	10 60～64歳
3 25～29歳	7 45～49歳	11 65～69歳
4 30～34歳	8 50～54歳	12 70歳以上

<39><40>

F 3 [学 歴] [カード46] あなたが最後に卒業された学校はどちらですか。

(中途・在学中は卒業とみなす)

1 小卒 2 旧高小・新中卒 3 旧中・新高卒 4 旧高専・大・新大卒 5 不明 <41>

F 4 [本人職業] あなたのご職業は何ですか。

(具体的に記入して下の該当する項目に○をつける)

[]

自 営 者			被 働 者				家 族 従 業 者			無 职		
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
農	商	自	管	專	事	勞	農	商	自	無	學	そ
工	工		理	門	務	務	林	工		職	の	の
林	サ	山	技	・	務	務	漁	サ	由	主	他	他
漁	ビ	業	術	・	職	職	業	ビ	業	婦	生	無
業	ス	業	職	職	職	職	業	業	業			職

<42><43>

F 4 a [労働組合加入] (F 4で被僱者に)あなたは、現在、労働組合に入っていますか。

1
入っている

2
入っていない

<44>

F 5 [家族人数] ご家族は、あなたも含めて、何人ですか。(使用人は含めない)

1 1人 2 2人 3 3人 4 4人 5 5人 6 6人 7 7人以上 <45>

F 6 [世帯構成] [カード47] お宅のご家族は、このように分類した場合どれにあたりますか。

- <46> 1 1人世帯 4 3世代世帯(親と子と孫)
 2 1世代世帯(夫婦だけ) 5 その他の世帯(祖父母と孫)
 3 2世代世帯(親と子) 6 その他の世帯()

F 7 [世帯内の地位] あなたと世帯主との関係をお聞きしたいのですが……。
主としてお宅の生活を支えていらっしゃるのはあなたですか、ほかのかたですか。

- <47> 1 2
対象者本人(実質上の世帯主) 対象者本人以外
↓
→ (F 9へ)

F 8 [世帯主職業] (主として)お宅の家計を支えている方のご職業は何ですか。
(具体的に記入して下の該当する項目に○をつける)

<48>	自 営 者			被 働 者				8 無
	1 農 業	2 商 工 サ ー ビ ス 業	3 自 由 業	4 管 理 職	5 専 門 ・ 技 術 職	6 事 務 職	7 労 務 職	

F 9 [家事担当者] 家計のきりもりをしているのはあなたですか、ほかのかたですか。

- <49> 1 2
対象者本人(家事担当者) 対象本人以外

F 10 [本人収入] [カード48] あなたご自身の収入は、去年1年間で、およそどれくらいになりましたか。この中ではどうでしょうか。ボーナスも含め、税込みでお答え下さい。

- <50> 1 200万円未満 6 1,000万円~1,500万円未満
 2 200万円~400万円未満 7 1,500万円~2,000万円未満
 3 400万円~600万円未満 8 2,000万円以上
 4 600万円~800万円未満 9 収入なし
 5 800万円~1,000万円未満 10 わからない

F 11 [世帯収入] [カード49] では、お宅の収入は、ご家族全部あわせて、去年1年間でおよそどれくらいになりましたか。この中ではどうでしょうか。ボーナスも含め、税込みでお答え下さい。

- | | | |
|-------------------|---------------------|------|
| 1 200万円未満 | 6 1,000万円～1,500万円未満 | <51> |
| 2 200万円～400万円未満 | 7 1,500万円～2,000万円未満 | |
| 3 400万円～600万円未満 | 8 2,000万円以上 | |
| 4 600万円～800万円未満 | 9 わからない | |
| 5 800万円～1,000万円未満 | | |
-

F 12 [住宅の所有形態] [カード50] お住まいはこのようにわけると、どれにあたりますか。

- | | |
|------------------------|------|
| 1 持ち家 | <52> |
| 2 都道府県・市区町村営の賃貸住宅 | |
| 3 住宅・都市整備公団・供給公社等の賃貸住宅 | |
| 4 民営の借家または賃貸アパート | |
| 5 給与住宅（社宅・公務員住宅など） | |
| 6 住宅に間借り | |
| 7 会社等の独身寮・寄宿舎 | |
| 8 その他 | |
-

F 13 [乗用車所有] お宅では自家用乗用車をお持ちですか。

- | | | |
|---------|----------|------|
| 1 持っている | 2 持っていない | <53> |
|---------|----------|------|
-

（どうも長い間ありがとうございました。）

[調査員記入欄]

F 14 全般的な、調査に対する回答者の態度：

- | | | |
|--------------------|--------------------|------|
| 1 興味深げで、協力的 | 3 落ち着かず、いらいらしている様子 | <54> |
| 2 協力的だが、とくに興味はなさそう | 4 非協力的 | |
-

F 15 全体として、回答者は、質問の内容がわかったようであったか。

- | | | |
|--------------------|----------------|------|
| 1 よくわかっているようだ | 4 その他
(記入) | <55> |
| 2 大体のところはわかっているようだ | | |
| 3 あまりよくわかっていないようだ | 5 わからない | |

<56>～<79>=b
<80>=3
(カード3)

3.5 7ヶ国比較の単純集計表

Q No	Item	Category	1982	1987	1993	1987	1988	1988	1988	1988	1988
			ITALY	FRANCE	FRG	NL	UK	USA	JPN-A	JPN-B	JPN-C
1 7.30b 121	Standard of living in country 10 years ago	1. Much better	28.9	2.6	19.2	13.9	21.4	25.1	38.9	17.6	22.6
		2. Slightly better	28.2	18.5	42.8	38.5	40.8	32.8	34.8	47.8	48.4
		3. About the same	13.8	17.1	29.0	21.3	13.0	18.1	16.7	22.5	13.5
		4. Slightly worse	16.1	37.4	9.6	17.5	15.0	21.8	14.3	8.5	14.7
		5. Much worse	11.8	23.0	1.4	3.8	8.0	9.3	6.8	1.4	4.4
		6. Other	-	-	-	-	-	-	0.1	1.6	-
		9.D.K.	1.0	1.6	1.8	5.0	2.7	1.9	3.1	3.5	2.8
		1. Much better	21.2	6.7	16.6	20.5	24.0	25.9	7.2	16.3	5.0
		2. Slightly better	30.0	19.4	38.9	34.8	30.4	43.7	37.8	37.8	27.9
		3. About the same	32.8	25.9	33.3	24.0	25.2	26.2	37.9	36.5	43.3
2 Your standard of living 10 years ago	standard of living 10 years ago	4. Slightly worse	10.8	29.7	8.0	12.7	11.8	14.3	7.0	10.5	8.2
		5. Much worse	4.7	16.7	5.0	5.9	6.7	6.0	1.3	2.7	1.5
		6. Other	-	-	-	-	-	0.1	-	0.9	-
		9.D.K.	0.6	1.8	1.2	2.1	1.9	0.6	1.9	1.5	1.9
		1. Much better	8.2	6.7	3.8	5.0	11.8	17.1	2.6	7.7	38.6
		2. Slightly better	18.5	25.1	27.4	17.2	28.2	29.9	22.4	20.1	18.7
		3. About the same	43.0	28.5	41.6	40.8	38.6	35.8	52.2	58.3	51.7
		4. Slightly worse	15.9	27.4	15.6	26.8	12.8	8.6	14.8	10.3	19.6
		5. Much worse	6.2	6.4	1.0	6.2	3.1	3.7	1.5	4.3	2.7
		6. Other	-	-	-	-	-	0.0	0.2	2.5	-
3 Living conditions in future	Living conditions in future	9.D.K.	8.1	5.8	4.6	4.1	5.5	5.7	6.5	7.1	6.0
		1. Happier	14.9	15.6	12.8	7.1	18.0	28.7	22.1	24.5	27.3
		2. Less happy	45.8	55.2	33.7	65.2	51.5	37.3	11.6	11.8	28.5
		3. About the same	31.6	19.3	43.4	20.9	28.9	24.5	47.7	44.1	32.3
		4. Slightly worse	8.1	-	-	-	-	2.1	0.9	1.0	5.3
		5. Much Worse	7.6	9.8	10.1	6.8	8.8	7.4	17.7	18.7	6.6
		6. Other	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		9.D.K.	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		1. Increase	15.8	15.3	11.3	14.6	17.3	31.8	17.3	17.7	27.6
		2. Decrease	60.6	66.8	47.4	68.3	58.3	46.6	37.4	36.7	33.5
5 Peace of mind in future	Peace of mind in future	3. Not change	26.8	16.6	33.0	18.9	16.1	16.1	36.1	35.3	29.5
		8. Other	-	0.7	0.2	0.5	1.5	1.3	0.4	0.5	3.8
		9.D.K.	7.6	10.7	7.9	4.8	5.8	4.9	8.8	9.8	5.6
		1. Increase	29.2	29.6	21.2	32.9	42.5	29.9	37.5	36.1	-
		2. Decrease	28.6	42.1	33.4	40.1	32.7	37.4	17.7	19.5	-
		3. Not change	34.2	21.9	38.1	21.4	21.1	27.6	34.9	34.7	-
		8. Other	0.1	-	-	-	-	1.4	0.1	0.3	-
		9.D.K.	7.9	6.4	7.3	5.6	4.2	3.8	9.7	9.4	-
		1. Improve	49.9	49.3	25.5	27.8	61.6	63.9	41.3	42.3	-
		2. Get worse	30.4	35.2	43.9	48.3	24.1	25.5	31.2	29.3	15.0
7 7.18c 126	People's Health	3. Not change	14.8	10.3	23.7	19.7	10.6	7.9	21.5	21.5	-
		8. Other	-	-	-	-	-	0.6	0.2	0.2	1.6
		9.D.K.	4.9	5.2	7.0	4.2	3.7	2.1	5.9	6.7	1.9
		1. Maintain order	38.9	35.6	38.1	42.5	40.4	29.4	28.6	20.2	-
		2. Give people more say	34.2	16.4	29.5	24.2	31.4	33.1	27.1	27.4	25.4
		3. Fight rising prices	15.9	21.5	8.8	7.9	14.3	22.6	35.1	36.1	19.1
		4. Protect freedom of speech	9.0	22.0	19.8	22.9	11.8	18.7	6.7	16.0	-
		8. Other	-	3.7	1.2	1.1	1.8	2.2	0.6	0.9	4.1
		9.D.K.	1.0	1.8	3.6	2.5	1.0	1.7	9.1	8.8	2.5
		The country's goal	-	-	-	-	-	-	-	-	-

Q No	Item	Category	1992			1987			1993			1987			1988			1988			
			ITALY 1048	FRANCE 1013	FRG 1008	NL 1083	UK 1008	FRG 1008	NL 1083												
9	Extent of worry: 2.38d Serious illness	1. Very much 2. Somewhat 3. Slightly 4. Not at all 8. Other 9. D.K.	76.4	50.5	16.8	7.7	31.7	32.3	21.9	26.9	21.9	26.9	21.9	26.9	21.9	26.9	21.9	26.9	21.9	26.9	21.9
9	Extent of worry: 2.38e Car accident	1. Very much 2. Somewhat 3. Slightly 4. Not at all 8. Other 9. D.K.	26.0	24.6	17.7	35.4	36.2	38.7	22.3	38.7	33.5	24.9	26.1	24.9	26.1	24.9	26.1	24.9	26.1	24.9	26.1
9	Extent of worry: 2.38f Unemployment	1. Very much 2. Somewhat 3. Slightly 4. Not at all 8. Other 9. D.K.	11.9	5.2	7.0	25.5	36.1	19.7	11.5	13.6	13.6	16.1	16.1	13.6	13.6	13.6	13.6	13.6	13.6	13.6	13.6
9	Extent of worry: 2.38g War	1. Very much 2. Somewhat 3. Slightly 4. Not at all 8. Other 9. D.K.	6.8	3.9	8.8	35.7	43.4	26.7	-	-	-	19.8	9.2	8.8	8.8	8.8	8.8	8.8	8.8	8.8	8.8
9	Extent of worry: 2.38h Nuclear power accident	1. Very much 2. Somewhat 3. Slightly 4. Not at all 8. Other 9. D.K.	21.6	14.8	10.1	43.2	39.9	31.9	31.9	31.9	31.9	31.9	31.9	31.9	31.9	31.9	31.9	31.9	31.9	31.9	31.9
9	Extent of worry: 2.38i Health care	1. Very much 2. Somewhat 3. Slightly 4. Not at all 8. Other 9. D.K.	15.5	28.2	32.4	26.5	26.5	26.1	27.4	27.4	27.4	36.4	36.4	36.4	36.4	36.4	36.4	36.4	36.4	36.4	36.4
9	Household expenses: 7.80a Health care	1. Yes 2. No 8. Other 9. D.K.	9.4	23.4	26.1	44.0	44.0	-	33.0	33.0	32.9	32.9	32.9	32.9	32.9	32.9	32.9	32.9	32.9	32.9	32.9
10	Household expenses: 7.80b Housing costs	1. Yes 2. No 8. Other 9. D.K.	7.6	23.6	12.4	36.1	36.1	-	23.3	23.3	23.6	23.6	23.6	23.6	23.6	23.6	23.6	23.6	23.6	23.6	23.6
10	Household expenses: 7.80c Home appliance	1. Yes 2. No 8. Other 9. D.K.	8.0	2.0	2.6	1.2	1.2	1.8	0.6	0.6	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
10	Household expenses: 7.80d Food	1. Yes 2. No 8. Other 9. D.K.	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

Q No	Item	Category	1992			1987			1993			1987			1988			1969		
			ITALY	1987 FRANCE	1987 FRG	1987 NL	1987 UK	1987 USA	1988 JPN-A	1988 JPN-B	1988 JPN-C	1988 B	1988 A	1988 C	1988 B	1988 A	1988 C	1988 B	1988 A	1988 C
10	Household expenses:	1. Yes	32.8	12.3	19.8	27.4	16.5	16.6	58.6	30.4	28.4	-	-	-	-	-	-	-	-	
7.80e		2. No	51.8	80.9	59.0	66.3	82.8	82.7	-	-	-	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	
13g	Beauty care	8. Other	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		9. D.K.	15.4	6.8	21.3	6.3	6.3	6.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
10	Household expenses:	1. Yes	49.6	35.2	57.2	58.6	30.4	28.4	39.1	38.8	68.9	70.9	-	-	-	-	-	-	-	-
7.80f		2. No	45.6	61.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
14g	Vacation and leisure	8. Other	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		9. D.K.	4.8	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
10	Household expenses:	1. Yes	46.4	19.2	52.5	56.0	27.8	26.5	46.2	49.4	71.6	72.9	-	-	-	-	-	-	-	-
7.80g		2. No	52.0	79.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
14i	Clothes	8. Other	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		9. D.K.	1.6	1.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
10	Household expenses:	1. Yes	20.5	14.3	39.7	43.4	7.1	7.5	53.0	54.1	92.2	91.8	-	-	-	-	-	-	-	-
7.80h		2. No	75.3	83.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
142	Housing	8. Other	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		9. D.K.	4.1	2.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
10	Household expenses:	1. Yes	17.2	9.3	22.1	33.3	4.5	4.7	36.4	44.5	94.9	94.6	-	-	-	-	-	-	-	-
7.80i		2. No	61.6	78.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
143	Expenses for Children	8. Other	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		9. D.K.	21.2	11.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
10	Household expenses:	1. Yes	19.7	12.9	24.4	18.0	14.7	15.0	53.5	59.3	84.6	84.3	-	-	-	-	-	-	-	-
7.80j		2. No	60.9	80.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
143	Smoking or drinking	8. Other	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		9. D.K.	19.3	7.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
11	Respect for ancestors	1. More than average	36.5	29.0	9.1	40.9	41.9	48.1	73.1	73.1	47.5	55.5	-	-	-	-	-	-	-	-
4.11		2. Less than average	9.2	16.5	15.7	4.2	8.7	8.1	-	-	8.4	8.1	-	-	-	-	-	-	-	-
146	3. About the same	49.5	49.8	64.7	44.5	45.7	17.0	-	-	-	42.5	35.5	-	-	-	-	-	-	-	-
		8. Other	-	-	-	-	-	-	-	-	0.2	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-
		9. D.K.	4.8	3.4	10.1	8.8	3.4	1.7	-	-	1.5	1.0	-	-	-	-	-	-	-	
12	Aid to a child	1. Desirable	59.3	63.9	39.5	14.4	34.3	52.3	19.1	20.3	16.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4.11b		2. Undesirable	14.6	21.1	28.8	63.0	44.6	34.5	42.4	42.4	42.4	46.4	-	-	-	-	-	-	-	-
147	3. It depends	22.1	9.6	24.0	10.7	11.9	8.2	38.5	38.5	38.5	26.1	28.2	-	-	-	-	-	-	-	-
		8. Other	0.1	2.7	1.0	5.0	5.0	1.8	0.2	0.2	0.2	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-
		9. D.K.	3.9	2.8	6.7	6.9	3.4	3.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
13	Ideal number of children	0. None	0.2	-	4.2	1.8	1.3	0.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4.88		1. 1	5.2	2.8	13.3	3.0	1.5	2.1	0.9	0.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
148		2. 2	55.6	45.7	60.4	49.7	60.8	49.6	35.6	33.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		3. 3	-	-	42.6	15.2	24.2	18.6	24.3	55.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		4. 4	-	-	5.2	8.3	9.6	13.2	13.2	4.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		5. 5	0.8	0.9	0.2	1.3	1.1	1.1	1.1	1.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		6. More than 5	0.3	0.2	0.1	0.8	0.9	2.3	2.3	2.3	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	
		9. Other, D.K.	5.3	2.6	4.4	11.0	6.2	5.6	5.6	5.6	4.8	-	-	-	-	-	-	-	-	

Q No	Item	Category	1987			1988			1989		
			FRG	UK	JPN-A	FRG	UK	JPN-B	FRG	UK	JPN-C
14	Health problems:	1. Yes	44.7	35.8	40.6	48.4	36.1	34.6	21.9	22.5	-
2.80	Backaches	2. No	54.5	63.9	58.3	58.0	63.5	64.0	76.9	77.0	-
149	Headaches	8. Other	-	-	-	-	-	-	1.1	0.5	-
158	S.D.K.	9.D.K.	0.9	0.3	1.1	1.7	0.4	0.6	-	-	-
14	Health problems:	1. Yes	45.8	46.3	32.9	34.0	35.5	37.8	19.1	19.2	-
2.80b	Backaches	2. No	53.1	53.6	65.8	64.5	64.0	61.7	86.3	86.3	-
159	Nervousness	8. Other	-	-	-	-	-	-	1.1	0.5	-
151	S.D.K.	9.D.K.	1.0	0.1	1.3	1.5	0.6	0.5	-	-	-
14	Health problems:	1. Yes	55.8	55.8	25.1	34.3	18.7	30.3	25.7	26.2	-
2.80c	Depression	2. No	43.9	44.0	72.7	64.1	79.7	69.0	73.2	73.4	-
152	Insomnia	8. Other	-	-	-	-	-	-	1.1	0.5	-
152	S.D.K.	9.D.K.	1.1	0.2	2.2	1.7	0.7	0.8	-	-	-
14	Health problems:	1. Yes	24.5	19.5	7.7	14.2	20.9	20.7	5.4	5.7	-
2.80d	Depression	2. No	73.9	80.2	90.6	83.8	78.4	78.2	93.4	93.8	-
152	Insomnia	8. Other	-	-	-	-	-	-	1.1	0.5	-
14	Health problems:	1. Yes	24.4	31.9	25.9	25.0	18.5	16.9	12.0	12.2	-
2.80e	Insomnia	2. No	74.2	67.9	72.5	73.8	60.4	82.4	86.8	87.3	-
153	8. Other	-	-	-	-	-	-	-	1.1	0.5	-
153	S.D.K.	9.D.K.	1.3	0.2	1.6	1.2	1.1	0.7	-	-	-
15	Satisfaction with health	1. Very satisfied	28.6	22.6	19.2	48.9	48.2	46.1	13.6	15.4	-
2.39		2. Fairly satisfied	57.5	64.4	61.3	40.4	47.2	41.0	57.6	57.4	-
154		3. Fairly dissatisfied	9.8	11.4	14.2	5.8	8.4	21.1	20.1	20.1	-
		4. Very dissatisfied	3.6	1.6	2.6	3.5	4.0	4.3	5.4	5.2	-
		8. Other	-	-	-	-	-	-	0.1	0.1	-
		S.D.K.	9.D.K.	0.4	0.1	2.7	1.4	0.2	0.2	0.3	1.8
16	Living class	1. Upper middle	1.9	1.8	0.9	11.2	0.4	1.5	1.1	0.4	-
1.8		2. Upper middle	12.3	10.8	15.9	32.5	7.2	16.7	10.9	10.0	-
156		3. Middle	70.9	61.2	53.7	44.4	53.6	54.5	53.6	61.3	-
		4. Lower middle	10.9	18.9	21.5	6.5	28.1	21.6	28.2	28.2	-
		5. Lower	3.0	6.3	3.4	3.8	8.1	5.2	5.4	4.4	-
		8. Other	-	-	-	-	-	-	0.2	0.2	-
		S.D.K.	9.D.K.	1.0	1.1	4.6	1.7	2.6	0.5	2.1	3.5
17	Choose money or free time	1. More money	53.6	66.8	43.9	45.9	65.0	65.3	60.6	67.9	60.1
7.81		2. More free time	39.9	25.0	48.7	37.3	27.2	30.1	32.7	47.9	32.8
156		8. Other	-	-	-	-	-	-	1.5	2.5	2.0
		S.D.K.	6.5	8.2	15.4	16.8	6.8	4.7	5.3	11.8	5.2
18	If had enough money, still work	1. Continue working	56.3	55.2	39.4	52.4	55.7	57.8	64.1	60.3	-
2.8		2. Stop working	35.2	33.7	47.7	20.3	34.1	38.4	24.1	27.3	25.4
157		8. Other	0.6	7.4	4.3	23.9	6.3	8.7	1.5	1.4	1.6
		S.D.K.	7.9	3.8	8.6	3.4	3.8	3.1	10.4	11.8	8.7
19	Life without work	1. Life without work	65.3	51.0	39.8	60.1	54.4	64.6	72.8	70.2	69.9
7.25		2. With money life	29.5	43.3	52.5	28.5	37.8	32.0	19.8	21.2	22.6
158		8. Other	-	-	-	-	-	-	1.0	0.8	0.6
		S.D.K.	5.2	5.6	7.7	11.4	7.9	3.5	6.4	7.8	7.0

Q No	Item	Category	1982			1987			1993			1987			1988			1988		
			ITALY 1046	FRANCE 1013	FRG 1000	NL 1083	UK 1043	US9 1563	A 1043	B 1563	C 1563	JPNA A	JPNB B	JPN-C C	JPNA A	JPNB B	JPN-C C	JPNA A	JPNB B	JPN-C C
20 7.24 important aspect of job 159	Most important aspect of job	1. Good salary 2. Safe job 3. Likeable coworkers 4. Accomplishment 8. Other	20.5 35.9 9.9 32.1	16.7 40.4 6.6 35.0	12.9 36.0 20.2 23.2	11.6 17.2 11.8 56.3	16.5 29.1 14.9 37.0	20.9 21.6 11.3 43.6	19.8 15.6 29.2 29.4	15.9 14.8 31.8 0.5	20.7 14.6 30.2 28.6	14.8 14.8 30.2 0.2	14.8 14.8 31.8 0.2	15.9 14.8 30.2 0.2	15.9 14.8 31.8 0.2	15.9 14.8 30.2 0.2	15.9 14.8 31.8 0.2	15.9 14.8 31.8 0.2	15.9 14.8 31.8 0.2	
	Work conflicts with private life	1. Yes 2. No 3. Not in paid employment 8. Other	1.5 38.2 32.9 27.7	1.3 26.0 30.0 43.5	7.7 30.2 37.6 28.5	3.0 34.3 34.3 36.3	2.6 2.1 22.4 22.4	2.1 4.3 31.9 31.0	2.1 58.4 58.4 -	5.7 5.7 - -	7.8 7.8 - -	4.9 4.9 - -								
	9. D.K.	1.2 9. D.K.	0.5 9. D.K.	0.5 9. D.K.	3.7 4.3	4.3 0.8	0.8 0.8	0.8 0.8	0.8 0.8	0.8 0.8	0.8 0.8	0.8 0.8	0.8 0.8	0.8 0.8	0.8 0.8	0.8 0.8	0.8 0.8	0.8 0.8	0.8 0.8	
	21 2.81	Attitudes towards life	1. Get rich 2. Make a name 3. Suit own taste 4. No worrying 5. Pure & just life 6. Serve society 8. Other 9. D.K.	9.1 11.8 35.4 13.3 29.3 8.9 3.8 1.0 3.3	8.1 5.5 36.9 21.5 21.1 15.6 3.7 4.2 4.2	2.8 3.6 32.4 43.8 42.8 19.1 2.1 8.4 8.4	3.9 3.9 3.6 33.2 37.1 11.2 1.7 3.2 3.2	7.3 7.2 7.2 37.1 32.0 5.9 1.7 2.8 1.1	6.1 7.2 7.2 37.1 32.0 5.9 2.8 2.9 1.5	13.8 1.7 1.7 37.3 32.0 5.9 3.1 3.1 5.2	6.4 1.3 1.3 47.5 43.1 10.2 2.3 2.3 3.1	13.9 43.1 43.1 28.8 26.5 10.2 4.9 4.9 3.1								
	22 2.4 161	Quality of life in the area where you live	1. Very satisfied 2. Fairly satisfied 3. Fairly dissatisfied 4. Very dissatisfied 8. Other 9. D.K.	12.1 65.3 15.2 5.9 1.5	23.9 60.1 12.2 3.7 0.1	42.0 49.0 9.7 0.9 1.7	28.2 57.9 5.4 2.6 1.0	40.0 46.3 8.9 4.9 0.1	36.2 43.4 9.1 3.9 0.1	29.5 46.5 15.4 4.3 0.2	29.5 46.5 15.4 4.3 0.2	29.5 46.5 15.4 4.3 0.2	29.5 46.5 15.4 4.3 0.2	29.5 46.5 15.4 4.3 0.2	29.5 46.5 15.4 4.3 0.2	29.5 46.5 15.4 4.3 0.2	29.5 46.5 15.4 4.3 0.2	29.5 46.5 15.4 4.3 0.2	29.5 46.5 15.4 4.3 0.2	
	23 2.31 162	Safety in neighbor- hood : Burglary	1. A serious problem 2. A problem 3. Not a serious problem 4. Not a problem at all 8. Other 9. D.K.	28.1 29.1 15.2 5.9 1.5	29.5 39.4 15.2 3.7 0.1	2.8 12.9 38.3 42.4 26.4	8.3 20.9 42.4 26.4 15.9	14.0 57.9 8.9 4.9 0.1	8.6 43.4 9.1 3.9 0.1	2.5 46.5 17.7 4.3 1.2	2.5 46.5 17.7 4.3 1.2	2.5 46.5 17.7 4.3 1.2	2.5 46.5 17.7 4.3 1.2	2.5 46.5 17.7 4.3 1.2	2.5 46.5 17.7 4.3 1.2	2.5 46.5 17.7 4.3 1.2	2.5 46.5 17.7 4.3 1.2	2.5 46.5 17.7 4.3 1.2	2.5 46.5 17.7 4.3 1.2	
	24.b 5.80a 164	Persons safety	1. A serious problem 2. A problem 3. Not a serious problem 4. Not a problem 8. Other 9. D.K.	18.0 19.1 31.2 30.4 -	43.5 38.0 10.3 15.8 -	1.4 7.1 31.3 50.5 -	3.9 11.2 34.2 46.8 -	7.0 14.0 43.5 33.8 -	4.7 8.3 42.4 48.2 -	2.7 8.3 34.3 58.7 -	2.7 8.3 34.3 58.7 -	2.7 8.3 34.3 58.7 -	2.7 8.3 34.3 58.7 -	2.7 8.3 34.3 58.7 -	2.7 8.3 34.3 58.7 -	2.7 8.3 34.3 58.7 -	2.7 8.3 34.3 58.7 -	2.7 8.3 34.3 58.7 -		
	25 5.80b 164	Idle grass- hopper and diligent ant	1. Ant sends him away 2. Ant shares food 8. Other 9. D.K.	29.2 66.2 0.5 4.1	13.9 78.8 5.5 1.8	12.9 73.4 1.3 8.0	17.8 82.6 1.8 7.0	12.6 82.6 1.8 4.7	15.3 74.3 0.6 2.7	15.6 74.3 0.6 9.4	15.6 74.3 0.6 9.4	15.6 74.3 0.6 9.4	15.6 74.3 0.6 9.4	15.6 74.3 0.6 9.4	15.6 74.3 0.6 9.4	15.6 74.3 0.6 9.4	15.6 74.3 0.6 9.4	15.6 74.3 0.6 9.4		
	26.a 2.82 165	The most important thing	1. Answered 9. D.K.	99.7 0.3	95.9 4.1	99.5 0.5	99.5 7.7	99.5 7.7	99.5 7.7	99.5 7.7	99.5 7.7	99.5 7.7	99.5 7.7	99.5 7.7	99.5 7.7	99.5 7.7	99.5 7.7	99.5 7.7	99.5 7.7	
	26.b 2.7b 167	Other important things	1. Answered 9. D.K.	96.5 3.5	89.4 10.6	97.0 3.0	97.0 28.8	97.0 28.8	97.0 28.8	97.0 28.8	97.0 28.8	97.0 28.8	97.0 28.8	97.0 28.8	97.0 28.8	97.0 28.8	97.0 28.8	97.0 28.8	97.0 28.8	97.0 28.8

Q No	Item	Category	1992	1987	1987	1988	1988	1988	1989
			ITALY 1048	FRANCE 1043	FRG 1000	UK 1083	USA 1043	JPN-A 1563	JPN-B A
Importance:									
27	Immediate family and children	1. Not important at all	0.6	2.0	1.6	0.8	1.2	0.6	0.6
5.81 168		2.	-	1.0	1.2	0.2	0.0	0.2	0.3
		3.	0.5	0.5	0.9	1.4	0.3	0.4	0.6
		4.	1.0	1.6	2.1	1.1	0.9	2.6	3.3
		5.	1.8	4.1	5.4	4.6	2.2	2.0	4.4
		6.	-	-	-	-	-	3.9	3.9
		7. Very important	98.4	80.1	66.9	9.0	4.5	3.9	8.1
		8. Other	-	-	-	88.1	88.9	91.6	82.6
		9. D.K.	0.4	2.2	4.6	1.6	1.6	0.6	0.3
						-	-	0.2	0.4
Importance:									
27	Career and work	1. Not important at all	5.4	4.7	8.5	6.0	16.5	10.4	1.4
5.81b 169		2.	3.3	1.8	7.3	3.4	2.9	2.3	2.8
		3.	5.0	1.8	10.7	5.2	4.1	6.0	1.3
		4.	18.4	4.7	28.0	15.1	14.2	11.5	9.0
		5.	21.1	15.2	22.3	22.9	15.1	18.1	12.3
		6.	22.9	26.7	17.1	22.8	15.5	17.4	17.6
		7. Very important	38.8	43.5	12.0	16.1	26.4	29.8	52.6
		8. Other	-	-	-	-	-	54.6	52.1
		9. D.K.	1.0	1.6	2.1	8.5	5.4	4.7	0.1
						-	-	0.5	0.1
Importance:									
27	Free time and relaxation	1. Not important at all	2.1	1.5	8.3	0.6	3.4	1.9	0.6
5.81c 170		2.	3.5	2.0	1.5	1.4	3.1	2.4	0.9
		3.	7.1	6.5	6.8	2.2	6.8	5.7	3.3
		4.	16.1	16.2	11.8	16.7	19.8	15.0	15.5
		5.	-	-	25.4	23.9	25.9	24.6	23.0
		6.	23.1	23.9	30.1	30.0	19.0	22.5	21.7
		7. Very important	21.9	25.8	27.0	29.2	21.5	27.0	33.4
		8. Other	-	-	-	-	-	31.2	34.2
		9. D.K.	1.2	0.6	1.2	1.9	1.4	0.8	0.2
				-	-	-	-	1.9	0.7
Importance:									
27	Friends and other relatives	1. Not important at all	1.2	1.7	0.4	0.8	1.2	1.0	0.4
5.81d 171		2.	2.0	3.5	0.5	1.1	1.8	1.7	0.8
		3.	4.4	7.8	4.2	1.9	5.8	4.0	2.2
		4.	12.9	14.7	9.4	7.8	15.3	10.4	10.7
		5.	22.5	23.7	21.2	18.1	21.7	20.0	19.0
		6.	-	24.7	34.2	35.1	27.1	26.6	27.5
		7. Very important	27.7	24.7	29.0	34.4	26.7	36.0	38.0
		8. Other	-	-	-	-	-	0.1	0.1
		9. D.K.	0.3	0.1	1.1	0.6	0.3	0.3	0.3
						-	-	0.5	0.3
Importance:									
27	Parents and other relatives	1. Not important at all	0.6	1.8	1.7	1.4	3.3	1.2	0.5
5.81e 172		2.	0.7	2.0	2.1	1.6	2.4	0.8	0.4
		3.	1.4	4.2	4.9	3.9	3.4	2.4	1.2
		4.	-	-	6.5	5.7	6.5	4.2	5.9
		5.	3.3	8.7	14.4	17.1	13.7	10.6	18.1
		6.	8.7	24.1	29.9	25.7	19.4	18.6	22.6
		7. Very important	63.8	44.1	33.6	46.5	52.6	62.3	58.1
		8. Other	-	-	-	-	-	0.8	-
		9. D.K.	0.6	0.9	1.4	2.4	1.8	1.6	0.4

q No	Item	Category	1987			1988			1989		
			1992	1987	1987	1988	1988	1988	1988	1988	1989
			ITALY	FRANCE	FRG	NL	UK	USA	JPN-R	JPN-B	C
27	Importance:	1. Not important at all	10.1	25.8	15.6	33.0	20.4	5.7	12.4	14.2	
5.81 if Relation end	2.	6.5	11.8	13.8	11.4	12.8	4.2	8.7	9.1		
173	3.	8.2	12.2	15.3	9.8	15.0	5.3	13.1	12.0		
	4.	11.1	14.7	16.6	11.7	15.5	8.8	24.5	24.4		
	5.	18.3	12.2	16.4	9.0	11.8	15.9	14.9			
	6.	19.5	11.1	11.9	8.9	10.5	15.0	7.8	8.7		
	7. Very important	25.8	11.9	9.4	14.8	13.8	47.2	13.8	13.1		
	8. Other	—	—	—	—	—	—	—	0.2	0.2	
	9. D.K.	0.6	0.2	1.0	1.4	0.2	0.3	3.6	3.4		
27	Importance:	1. Not important at all	25.1	36.2	9.8	14.8	24.2	11.5	2.8	2.3	
5.81 q Politics	2.	14.0	14.7	11.1	10.4	13.6	8.0	5.3	4.3		
174	3.	14.3	13.5	17.0	16.8	16.9	12.2	8.9	10.1		
	4.	17.1	12.0	21.3	24.1	19.3	21.9	24.5	26.5		
	5.	12.3	11.7	21.2	16.8	13.9	21.2	28.9	21.0		
	6.	9.4	6.3	12.9	9.6	5.8	12.3	15.0	14.4		
	7. Very important	6.1	5.0	5.9	5.6	6.0	12.2	18.2	17.7		
	8. Other	—	—	—	—	—	—	—	—		
	9. D.K.	1.7	0.4	0.8	1.8	0.4	0.4	0.7	4.4	3.3	
28	Satisfaction with family life	1. Completely satisfied	38.1	48.7	30.2	48.3	50.1	42.8	43.5	45.3	
2.3c	2. Somewhat satisfied	50.5	26.9	51.2	39.3	39.2	38.3	38.7	38.6		
175	3. Neither satisfied	8.2	16.6	12.7	4.8	6.1	11.2	10.4	11.2		
	4. Somewhat dissatisfied	2.1	7.5	2.9	2.4	2.4	6.0	4.6	3.6		
	5. Completely dissatisfied	0.7	7.2	6.3	0.9	0.9	1.2	1.2	0.5		
	6. Other	—	—	—	—	—	0.1	0.1	0.5		
	9. D.K.	0.5	1.1	2.7	4.5	1.2	0.5	1.4	0.5		
29	Satisfaction with life	1. Completely satisfied	16.6	21.0	17.2	34.4	31.1	31.2	32.8	32.2	
2.3d	2. Somewhat satisfied	55.4	38.8	59.3	52.5	54.5	48.6	41.4	44.6		
176	3. Neither satisfied	18.4	31.5	16.5	6.8	7.5	12.3	13.2	12.6		
	4. Somewhat dissatisfied	6.9	10.3	4.3	4.1	4.7	6.7	9.6	8.2		
	5. Completely dissatisfied	2.4	5.8	0.8	1.0	1.8	0.8	2.7	2.1		
	6. Other	—	—	—	—	—	0.1	—	—		
	9. D.K.	0.3	0.6	1.9	1.1	0.5	0.4	0.3	0.1		
30	Success:	1. Ability & effort	48.4	63.7	57.1	46.0	56.1	69.9	52.7	51.9	
7.19	2. Luck and chance	36.7	21.0	28.2	16.3	33.1	23.2	35.2	35.8		
177	3. Both	—	—	33.0	—	—	—	—	—		
	8. Other	4.8	12.7	7.0	1.1	8.4	4.8	3.6	3.3		
	9. D.K.	10.1	2.6	7.7	3.6	3.4	2.2	8.5	8.9		
31	Attitude towards governments assistance	1. Enable them to live	63.7	49.9	57.5	46.3	59.4	46.5	53.0	52.9	
4.81	2. Take away responsibility	23.9	35.1	25.9	14.1	29.1	42.4	26.9	25.8		
214	3. Both	—	—	28.5	—	—	—	—	—		
	8. Other	1.1	8.9	2.1	3.3	8.1	7.4	1.9	2.9		
	9. D.K.	11.3	6.1	14.5	6.7	3.3	3.7	18.1	18.5		
32	Science and human feeling	1. Agree	60.0	60.6	68.6	68.5	69.8	69.0	44.6	44.8	
7.1	2. Disagree	22.2	29.0	14.5	17.5	26.2	24.2	9.9	11.8		
215	3. Undecided	13.4	7.0	13.2	10.8	6.6	5.6	39.3	37.8		
	8. Other	—	—	—	—	0.1	0.1	—	—		
	9. D.K.	4.4	3.4	3.7	3.2	1.1	6.1	5.9	4.6		

Q No	Item	Category	1982			1987			1988			1989			1988		
			ITALY	FRANCE	NL	FRG	UK	USA	JPN-A	JPN-B	JPN-C	1987	1988	1989	1988	1988	1988
33	Teaching children money is important	1. Agree 2. Disagree 3. Undecided 8. Other 9. D.K.	24.3 65.8 8.1 - 1.7	40.9 53.0 2.9 - 1.1	26.2 55.6 15.1 - 2.2	15.4 72.0 9.1 0.3 0.8	21.1 73.8 3.7 0.6 0.8	16.6 78.4 1.1 0.3 0.6	47.8 18.7 30.7 0.1 0.6	61.0 22.1 23.8 0.2 2.7	48.0 22.1 23.8 0.1 2.1	1987	1988	1989	1988	1988	1988
34	Leave it up to political leaders	1. Agree 2. Disagree 3. Undecided 8. Other 9. D.K.	50.1 34.7 9.5 - 5.6	37.9 42.1 12.1 - 7.9	7.7 73.4 16.2 - 2.7	8.3 83.1 5.7 - 3.4	13.0 80.2 5.3 - 1.4	7.4 88.2 3.0 - 1.4	13.1 61.6 19.0 0.3 1.2	12.0 63.0 18.7 0.1 6.2	12.9 22.0 18.7 0.2 2.1	1987	1988	1989	1988	1988	1988
35	Custom vs. political conscience	1. Go ahead 2. Follow custom 3. Undecided 8. Other 9. D.K.	61.0 18.5 17.6 - 3.0	75.2 14.6 5.9 0.3 3.9	52.7 16.9 27.1 0.1 3.9	65.5 18.2 12.1 0.9 3.3	69.1 28.6 8.3 0.3 1.6	69.9 19.4 9.5 0.2 1.0	19.2 25.7 5.0 0.2 3.0	18.2 26.2 52.1 0.3 3.2	21.9 22.7 52.1 0.1 4.5	1987	1988	1989	1988	1988	1988
36	Mechanize- tion end human feeling	1. Agree 2. Disagree 3. Undecided 8. Other 9. D.K.	62.1 22.9 9.9 - 5.1	69.0 22.1 4.6 - 4.2	20.8 52.1 19.1 - 7.4	45.3 37.2 9.6 - 7.8	71.9 19.8 5.6 - 2.7	76.1 19.0 5.5 0.1 1.3	29.6 35.5 3.5 0.1 1.0	32.4 30.2 32.4 0.1 4.6	31.8 32.0 31.6 0.1 4.6	1987	1988	1989	1988	1988	1988
37	Home is relaxing place	1. Yes 2. No 8. Other 9. D.K.	73.6 24.7 3.3 - 1.7	65.4 29.7 3.3 - 1.6	56.1 37.9 2.0 - 4.4	31.6 65.5 0.8 - 2.1	50.7 48.0 0.4 - 0.9	44.8 54.4 0.1 0.1 0.7	80.3 16.3 0.6 - 2.8	78.5 18.2 0.3 - 3.0	78.5 32.0 31.6 0.1 4.6	1987	1988	1989	1988	1988	1988
38	Marriage is permanent	1. Permanent 2. Broken under serious 3. Broken by agreement 8. Other 9. D.K.	24.8 39.7 34.4 - 1.7	25.9 33.3 34.4 - 3.5	9.9 36.5 44.7 - 8.9	24.2 29.6 42.8 - 3.4	43.1 39.3 16.6 - 1.0	45.2 41.3 12.2 - 1.3	35.4 37.7 19.5 - 6.7	35.2 38.5 19.0 - 6.7	35.2 38.5 19.0 - 6.7	1987	1988	1989	1988	1988	1988
39	Housework and child care	1. Women's work 2. Some of work 3. Men and women 8. Other 9. D.K.	15.1 35.5 48.5 - 1.0	4.4 25.4 68.6 - 0.5	12.4 35.0 48.3 - 1.4	7.1 31.7 51.2 - 3.4	39.3 34.1 51.2 - 0.5	41.3 33.1 59.1 - 1.5	37.7 53.7 28.3 - 6.8	35.2 53.7 28.3 - 6.7	35.2 53.7 28.3 - 6.7	1987	1988	1989	1988	1988	1988
40	Rumor about teacher	1. Tell the truth 2. Deny it 8. Other 9. D.K.	77.1 13.3 8.1 - 9.4	64.2 21.4 4.8 - 6.3	58.3 18.8 7.8 - 18.1	76.6 6.2 11.6 - 9.3	74.9 8.3 3.8 - 5.2	90.3 2.7 3.8 - 3.1	55.5 24.6 8.4 - 16.2	55.2 28.4 8.4 - 16.2	55.2 61.0 28.9 - 15.3	1987	1988	1989	1988	1988	1988
41	Benevolent death-bed teacher	1. Go home 2. Attend the meeting 8. Other 9. D.K.	74.8 16.4 1.3 - 7.4	62.6 22.8 7.2 - 7.4	58.0 22.2 4.6 - 15.2	70.1 13.9 8.5 - 7.5	62.4 27.4 4.7 - 5.5	86.3 24.4 5.0 - 4.4	45.7 37.7 1.3 - 15.3	42.7 40.5 1.6 - 14.9	42.7 39.1 1.2 - 14.9	1987	1988	1989	1988	1988	1988
42	Real father death-bed	1. Go home 2. Attend the meeting 8. Other 9. D.K.	79.4 13.2 1.3 - 6.1	65.6 20.0 6.8 - 7.5	61.5 18.3 4.5 - 15.7	69.3 14.0 8.1 - 8.1	73.5 18.7 4.1 - 3.6	64.4 25.7 4.1 - 5.2	47.2 40.6 1.2 - 12.8	47.6 39.0 1.2 - 12.6	47.6 38.6 1.2 - 12.6	1987	1988	1989	1988	1988	1988

Q No	Item	Category	1992	1987	1993	1987	1988	1988	1988	1988	1988	
			ITALY	FRANCE	FRG	UK	JPN-A	JPN-B	JPN-C	JPN-C	JPN-C	
43	Man and nature	1.Follow nature 2.Make use of nature 3.Conquer nature 8.Other 9.D.K.	1048 66.7 4.8 0.2 4.1	1013 22.0 24.2 6.4 2.5 3.1	1000 36.8 46.6 6.7 1.4 8.5	1083 20.5 64.4 1.8 6.6 6.7	1043 22.5 67.1 4.5 6.7 5.2	1563 36.5 66.2 5.3 6.7 2.8	1563 36.6 47.9 5.3 6.7 9.5	1563 36.6 46.4 5.3 6.7 9.5	1527 42.7 43.7 5.3 6.4 7.9	
44	Improve the country or make people happy	1.Individual->Country 2.Country->Individual 3.Country=Individual 8.Other 9.D.K.	228 227	29.2 31.6 33.3 0.4 5.5	23.8 23.3 28.4 - 6.1	34.0 20.6 32.0 - 13.4	24.8 31.6 37.7 - 5.8	27.1 28.3 36.7 2.3 7.3	34.0 22.4 36.8 0.2 7.8	32.6 22.1 37.5 0.2 6.4	32.1 23.7 37.7 0.1 7.9	
45	Important thing	1.Filial piety 2.Repaying obligations 3.Individual rights 4.Individual freedom 5.Other answer 9.D.K.	223 -233	78.6 38.2 46.9 42.3 0.3 0.6	52.4 15.0 65.9 57.1 0.3 2.1	55.0 14.6 58.9 55.3 1.8 0.9	63.4 49.6 46.4 36.1 1.4 1.4	69.4 77.7 62.3 33.1 0.5 -	77.7 56.8 62.3 32.8 - -	73.2 45.8 25.2 32.6 - 1.8	76.1 58.4 23.8 36.4 - -	
46	Desirable person: efficient vs. friendly	1.Friendly 2.Efficient 3.Other 9.D.K.	236 -233	65.3 29.4 - 8.3	62.5 12.6 - 6.8	77.8 4.8 - 9.5	87.4 10.9 - 7.8	84.7 16.2 - 4.4	78.6 15.2 - 4.0	61.5 11.3 - 2.1	62.3 10.3 - 4.3 - 1.8	
47	Consensus vs. principle	1.Stress own principle 2.Stress consensus 3.Other 9.D.K.	237 2.2b	58.5 44.8 8.1 4.7	29.4 62.4 51.3 4.8	40.3 51.3 5.1 9.3	44.4 52.1 47.1 8.4	47.6 47.1 68.3 3.5	20.2 1.4 1.3 3.9	36.9 52.9 52.9 18.3	21.8 6.1 2.5 7.8	
48	Employment examination- tion: Relative	1.Highest grade 2.Relative 3.Other 9.D.K.	238 5.1c2	67.3 24.7 0.6 7.4	58.8 34.9 1.2 5.0	44.5 39.8 2.1 13.6	60.6 28.5 3.2 7.7	72.6 21.3 2.0 4.1	65.9 29.5 1.7 3.5	60.4 21.8 1.7 3.9	62.1 22.3 1.2 8.5	
49	Employment examina- tion: son of benefactor	1.Highest grade 2.Son of benefactor 3.Other 9.D.K.	239	62.9 27.6 0.7 8.9	50.2 43.2 1.0 5.5	36.2 46.5 3.4 13.5	68.6 19.4 3.0 9.3	72.6 23.9 2.1 5.5	65.9 30.4 1.5 3.3	62.1 21.8 1.4 15.9	62.1 22.3 1.2 14.2	
50	Type of boss preferred	1.Non-paternalistic 2.Paternalistic 3.Other 9.D.K.	240	45.0 48.2 - 6.7	38.9 64.1 - 5.0	22.8 68.6 - 8.6	16.8 78.1 0.4 4.7	39.9 56.7 - 3.5	44.9 51.4 - 3.3	48.6 88.3 0.4 3.3	43.4 10.7 0.6 10.6	43.4 18.3 0.5 9.8
51	Are people helpful most of the time	1.Try to be helpful 2.Look out for them- selves 3.Other 9.D.K.	241 2.12b	19.2 75.4 - 3.9	42.8 77.2 2.2 1.4	31.9 78.1 6.8 6.8	52.9 54.2 2.3 2.0	53.6 43.6 1.1 2.0	31.2 54.2 1.5 1.7	29.4 56.5 1.1 13.2	32.0 51.5 1.1 13.0	
52	Are most people fair	1.Take advantage 2.Try to be fair 3.Other 9.D.K.	242 2.12b	61.1 36.2 0.1 8.7	57.7 35.8 3.0 3.6	29.9 54.9 2.5 2.5	42.9 48.1 1.9 2.4	37.5 57.8 1.2 2.8	40.4 56.0 1.2 14.8	32.3 52.8 0.7 15.1	33.8 52.8 1.4 12.1	

Q No	Item	Category	1992			1987			1993			1988			1987			1988			1988							
			ITALY	FRANCE	UK	ITALY	FRG	UK																				
53	Are most people trustworthy	1.Can't be trusted 2.Can be trusted 3.Other	10.3	10.0	10.3	13.9	22.8	37.8	47.5	36.3	42.4	39.1	34.2	40.5	10.3	10.3	10.3	10.3	10.3	10.3	10.3	10.3	10.3	10.3				
2.12c		9.D.K.				83.9	73.8	47.0	44.4	60.0	54.5	46.0	53.4	46.0														
243			-	1.8	4.6	3.8	1.5	1.3	1.5	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.6	4.3	2.1	1.8	1.2	1.8	1.2	1.8	2.3	10.6	10.8			
54	Life:	1.Strongly agree 2.Agree to some extent 3.Disagree to some extent 4.Strongly disagree 8.Other 9.D.K.	3.1	26.4	7.7	12.2	12.6	12.7	42.2	46.6	12.7	42.2	46.6	12.7	42.2	46.6	12.7	42.2	46.6	12.7	42.2	46.6	12.7	42.2	46.6			
2.83b	Part of community		18.8	46.2	39.6	48.4	67.9	62.7	46.8	43.1	45.8	45.8	45.8	45.8	45.8	45.8	45.8	45.8	45.8	45.8	45.8	45.8	45.8	45.8	45.8			
244	are helpful		55.0	22.5	35.3	25.2	22.3	22.3	28.8	23.8	23.8	23.8	23.8	23.8	23.8	23.8	23.8	23.8	23.8	23.8	23.8	23.8	23.8	23.8	23.8	23.8		
54	Life:	1.Strongly agree 2.Agree to some extent 3.Disagree to some extent 4.Strongly disagree 8.Other 9.D.K.	3.0	15.3	32.6	48.4	36.1	43.8	45.8	45.8	45.8	45.8	45.8	45.8	45.8	45.8	45.8	45.8	45.8	45.8	45.8	45.8	45.8	45.8	45.8	45.8		
2.83c	People live		48.6	28.8	22.7	22.7	18.9	18.9	6.5	15.1	14.7	8.2	4.5	6.2	4.5	6.2	4.5	6.2	4.5	6.2	4.5	6.2	4.5	6.2	4.5	6.2		
246	for today		24.0	-	4.1	14.1	12.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
54	Life:	1.Strongly agree 2.Agree to some extent 3.Disagree to some extent 4.Strongly disagree 8.Other 9.D.K.	1.8	4.4	3.1	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7		
2.83d	Way of earning money is important than amount		10.8	9.5	11.1	24.4	25.6	28.9	30.3	46.2	34.2	31.1	34.2	31.1	34.2	31.1	34.2	31.1	34.2	31.1	34.2	31.1	34.2	31.1	34.2	31.1		
247			27.9	15.9	28.0	28.0	22.3	22.3	34.6	21.0	19.9	28.9	28.9	28.9	28.9	28.9	28.9	28.9	28.9	28.9	28.9	28.9	28.9	28.9	28.9	28.9		
54	Life:	1.Strongly agree 2.Agree to some extent 3.Disagree to some extent 4.Strongly disagree 8.Other 9.D.K.	1.3	1.3	1.9	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4		
2.83e	People feel lonely		41.3	37.3	31.1	50.0	45.3	45.3	39.5	29.5	14.0	13.2	14.4	13.2	14.4	13.2	14.4	13.2	14.4	13.2	14.4	13.2	14.4	13.2	14.4	13.2		
248	imply		12.9	11.7	17.7	8.0	17.7	8.0	5.8	9.8	6.5	9.3	11.7	11.7	11.7	11.7	11.7	11.7	11.7	11.7	11.7	11.7	11.7	11.7	11.7	11.7		
54	Life:	1.Strongly agree 2.Agree to some extent 3.Disagree to some extent 4.Strongly disagree 8.Other 9.D.K.	2.7	3.3	4.1	2.7	3.3	4.1	2.7	3.3	4.1	2.7	3.3	4.1	2.7	3.3	4.1	2.7	3.3	4.1	2.7	3.3	4.1	2.7	3.3	4.1		
2.83f	feels		21.6	25.2	25.1	14.0	29.5	29.5	26.9	27.5	14.6	28.3	28.3	28.3	28.3	28.3	28.3	28.3	28.3	28.3	28.3	28.3	28.3	28.3	28.3	28.3		
249	through science		30.8	32.1	38.4	61.3	32.1	38.4	7.9	8.2	5.8	6.5	7.7	7.7	7.7	7.7	7.7	7.7	7.7	7.7	7.7	7.7	7.7	7.7	7.7	7.7		
55	Improvement of everyday life through science	1.A lot 2.A little bit 3.Not at all 8.Other 9.D.K.	33.2	52.1	48.3	63.1	21.6	58.4	61.3	39.6	33.7	39.7	33.7	39.7	33.7	39.7	33.7	39.7	33.7	39.7	33.7	39.7	33.7	39.7	33.7	39.7		
7.36			7.6	10.2	8.7	8.1	7.6	8.7	8.7	8.1	7.6	8.1	8.1	8.1	8.1	8.1	8.1	8.1	8.1	8.1	8.1	8.1	8.1	8.1	8.1	8.1		
249			6.7	4.3	5.8	7.2	5.8	7.2	5.8	7.2	5.8	7.2	5.8	7.2	5.8	7.2	5.8	7.2	5.8	7.2	5.8	7.2	5.8	7.2	5.8	7.2		
56	Computers change our lives	1.Desirable thing 2.Inevitable thing 3.Dangerous thing 8.Other 9.D.K.	47.7	31.8	14.7	19.0	15.9	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6
7.33			34.4	51.0	55.8	64.2	63.1	51.4	51.4	25.6	12.5	11.1	11.6	11.6	11.6	11.6	11.6	11.6	11.6	11.6	11.6	11.6	11.6	11.6	11.6	11.6		
250			5.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
54			12.1	4.6	4.7	5.7	5.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	

Q No	Item	Category	1992	1987	1993	1987	1988	1988	1988	1988	1988
			ITALY	FRANCE	FRG	NL	UK	USA	JPN-C	JPN-B	JPN-C
57 7.84 252	Some illness treated by methods other than modern medicine	1. Strongly agree 2. Agree to some extent 3. Disagree to some extent 4. Strongly disagree 8. Other 9. D.K.	1648	1013	1000	1083	103	1563	2265	1817	1537
57 7.85 253	Science permits understanding of social and economic problems through science	1. Strongly agree 2. Agree to some extent 3. Disagree to some extent 4. Strongly disagree 8. Other 9. D.K.	15.5 36.8 17.0 14.7 - 8.9	23.0 39.1 15.5 19.2 11.3 4.2	29.1 48.2 13.4 5.9 3.2 7.0	30.1 40.2 11.1 8.9 9.8 7.7	22.7 53.0 11.4 6.2 6.6 6.8	20.7 50.9 17.3 6.9 4.2 3.9	21.6 50.0 17.3 6.9 6.1 8.8	21.7 47.7 18.1 6.0 6.1 7.9	21.7 11.3 52.5 25.8 6.0 6.3
58 7.86 254	Safe method for nuclear wastes disposal	1. Very likely 2. Possible 3. Not at all likely 8. Other 9. D.K.	34.3 47.4 18.8 15.6 - 7.6	28.4 50.5 15.6 36.0 5.4 4.6	17.1 42.3 36.0 26.4 9.2 9.2	24.3 40.1 36.0 18.5 - -	12.2 33.4 22.4 23.2 5.2 5.6	12.2 33.4 28.5 23.2 7.0 2.9	2.7 12.4 30.5 19.7 7.0 2.9	2.4 11.7 57.6 18.3 6.1 10.0	2.4 11.7 57.6 18.3 6.0 10.0
58 7.86b 255	Cure for cancer	1. Very likely 2. Possible 3. Not at all likely 8. Other 9. D.K.	62.2 31.6 3.4 - 2.8	68.3 26.4 3.0 - 2.4	36.5 46.8 12.7 - 4.0	44.0 43.8 7.5 - 4.8	63.5 32.2 3.3 - 1.1	50.0 32.9 4.2 - 1.0	33.4 24.3 5.3 - 5.2	33.2 36.8 14.4 8.1 6.5	33.2 36.8 14.4 8.1 6.5
58 7.86c 256	Cure for senility	1. Very likely 2. Possible 3. Not at all likely 8. Other 9. D.K.	24.6 39.4 28.6 - 7.3	23.4 44.6 21.4 - 18.6	16.8 40.0 37.1 - 6.1	26.8 42.6 22.2 - 8.5	11.7 38.4 45.6 - 9.2	25.0 51.0 20.3 - 4.2	28.7 44.5 18.0 - 8.6	26.5 45.4 16.9 8.1 11.6	26.5 45.4 16.9 8.1 11.6
58 7.86d 257	Living in space stations	1. Very likely 2. Possible 3. Not at all likely 8. Other 9. D.K.	12.1 28.1 51.8 - 8.0	23.4 36.7 31.4 - 8.5	35.6 37.4 22.2 - 4.8	20.7 29.8 48.3 - 9.2	32.7 34.8 28.9 - 4.4	41.3 36.1 28.2 - 2.5	19.3 32.1 33.2 - 15.1	20.6 33.5 29.5 - 16.0	20.6 33.5 29.5 - 16.0
59 7.84 258	Energy conservation	1. Very important 2. Important 3. Not very important 4. Not at all important 8. Other 9. D.K.	65.1 29.3 3.1 0.3 - 2.2	33.1 54.2 10.0 1.9 - 0.9	56.2 44.0 3.4 0.0 - 1.2	49.2 39.4 4.2 0.3 - 1.9	50.9 39.4 6.3 0.3 - 1.4	66.0 47.5 2.8 0.6 - 0.3	41.9 50.7 5.7 0.5 - 0.3	39.0 47.5 4.8 1.2 - 0.3	39.0 47.5 4.8 1.2 - 0.3

Q No	Item	Category	1992	1987	1983	1987	1988	1988	1988
			ITALY	FRANCE	FRG	UK	USA	JPN-A	JPN-B
60 7.35 259	Environment preser- vation	1. Very important	72.9	69.6	74.2	70.1	74.0	84.2	45.6
		2. Important	23.5	28.1	24.3	25.8	23.2	14.7	45.7
		3. Not very important	1.8	1.2	0.7	1.5	0.6	4.7	4.8
		4. Not at all important	0.7	0.4	0.2	0.2	0.1	0.2	0.3
		8. Other	-	-	-	-	-	0.0	-
61 9.80 260	Culture	1. Answered	79.2	77.6	73.7	58.4	59.6	59.6	59.6
		9. D.K.	20.8	22.4	26.3	41.6	40.4	40.4	40.4
62 3.1b 262	Religious faith	1. Yes	87.8	64.4	74.8	57.1	64.3	85.3	36.5
		2. No	12.0	34.8	21.8	38.7	34.3	13.9	63.5
		9. D.K.	0.2	0.8	3.4	4.2	1.4	0.8	63.6
		1. Protestant	0.2	1.6	33.7	22.7	50.0	54.8	-
		2. Catholic	86.9	60.3	38.3	23.3	8.4	24.4	-
		3. Jewish	0.1	0.5	-	-	0.2	1.2	-
		4. Buddhist	-	-	-	-	0.1	-	28.5
		5. Moslem	-	0.9	-	-	0.9	-	26.2
		6. Shinto	-	-	-	-	-	-	-
63 3.2 263	Religious attitude	7. Christian	-	-	-	-	-	-	-
		8. Other	0.6	0.8	2.6	7.4	4.2	2.5	1.5
		9. D.K.	-	0.3	0.2	3.7	6.4	2.5	1.7
		0. missing	12.2	35.6	25.2	42.9	35.8	14.7	63.5
		1. Important	86.0	62.5	57.6	49.6	58.5	87.3	75.5
		2. Not important	10.0	33.2	34.3	39.2	36.3	10.4	11.1
		8. Other	0.2	2.2	1.6	3.8	3.4	1.0	1.0
		9. D.K.	3.8	2.2	6.5	7.4	1.8	1.3	12.4
		All	1. Agree	60.9	57.8	61.8	70.1	71.2	56.5
64 3.3 264	Religions Sense	2. Disagree	27.7	33.8	20.7	22.3	24.5	39.9	16.4
		8. Other	-	1.0	0.4	1.5	0.9	1.0	0.5
		9. D.K.	11.5	8.2	17.1	6.1	3.4	2.7	19.9
		Political stance	01. Left	3.1	3.3	2.1	2.3	3.0	2.9
65 8.81 255 256	Political stance	02.	3.9	3.8	3.5	2.9	1.4	2.6	1.1
		03.	7.3	10.9	11.8	9.3	4.8	7.7	0.9
		04.	10.5	11.0	13.3	13.4	7.2	6.8	4.9
		05.	17.5	28.7	19.6	23.5	30.0	23.9	5.3
		06.	12.2	9.7	13.4	14.1	12.8	13.7	27.9
		07.	4.4	7.6	10.6	10.6	11.7	12.2	14.8
		08.	3.0	7.0	7.2	6.7	12.3	13.8	11.7
		09.	1.0	1.5	2.1	2.0	2.7	4.7	2.6
		10. Right	3.1	1.6	1.4	3.0	5.2	7.3	4.7
66 8.82 267	Interest in politics	88. Other	12.6	-	6.7	2.7	-	0.6	1.0
		99. D.K.	21.6	15.1	8.3	9.4	9.8	4.5	16.5
		1. A great deal	3.1	8.8	10.7	12.7	19.8	21.7	11.6
		2. To some extent	22.6	38.0	38.8	47.9	46.8	47.7	43.8
		3. Not much	33.2	-	31.4	23.2	31.6	21.6	37.3
66 8.82 267	Interest in politics	4. Not at all	41.0	29.1	10.3	13.6	17.0	8.6	6.4
		9. D.K.	1.0	0.7	1.8	2.5	0.6	1.8	1.8

Q No	Item	Category	1982	1987	1993	1987	1988	1988	1988	1988	1988
			ITALY	FRANCE	NL	UK	USA	JPN-B	JPN-C	JPN-B	JPN-C
67	Democracy	1.Favourable	67.2	70.9	86.1	81.5	65.8	83.6	52.1	50.9	
8.26		2.It depends	12.6	17.2	11.0	6.9	22.1	11.2	37.7	39.0	
268		3.Unfavourable	16.4	4.9	1.5	1.5	5.0	2.9	1.7	1.0	
		8.Other	-	-	-	-	-	-	0.1	0.1	
		9.D.K.	9.8	7.0	1.4	10.1	7.1	2.3	8.4	8.9	
67	Capitalism	1.Favourable	13.9	14.0	19.1	13.3	23.1	41.5	27.3	26.6	
8.27		2.It depends	27.0	36.9	43.2	24.4	37.5	38.9	48.3	48.6	
278		3.Unfavourable	42.1	42.5	32.2	48.8	29.7	28.9	10.1	10.2	
		8.Other	-	-	-	-	-	-	-	-	
		9.D.K.	17.0	6.5	5.5	13.5	9.7	6.8	14.3	14.6	
67	Socialism	1.Favourable	24.1	30.3	13.7	33.0	22.4	10.9	6.3	5.6	
8.28		2.It depends	29.2	41.6	38.3	26.8	39.1	32.2	54.3	55.7	
278		3.Unfavourable	28.8	20.2	40.8	24.8	30.7	49.5	28.9	21.3	
		8.Other	-	-	-	-	-	-	0.0	0.1	
		9.D.K.	17.8	7.9	7.2	15.3	7.8	7.5	18.4	17.3	
67	Liberism	1.Favourable	21.2	48.7	20.5	28.2	21.6	16.9	33.5	36.8	
8.29		2.It depends	28.2	34.1	46.9	25.8	47.2	43.6	47.1	45.9	
278		3.Unfavourable	25.3	9.7	18.1	24.8	20.9	28.4	5.5	5.4	
		8.Other	-	-	-	-	-	-	0.0	-	
		9.D.K.	25.3	7.6	14.5	21.2	10.4	10.1	13.9	11.9	
68	Satisfaction with democracy	1.Very satisfied	0.9	3.3	6.7	7.7	9.9	17.8	32.3	1.5	
8.83		2.Fairly satisfied	13.0	49.0	64.6	58.4	62.6	38.3	29.3		
272		3.Not very satisfied	40.6	28.8	23.8	20.5	28.6	14.8	47.5	58.6	
		4.Not at all satisfied	41.7	11.0	2.7	7.7	5.8	3.1	3.7	3.6	
		8.Other	-	-	-	-	-	-	0.3	0.2	
		9.D.K.	3.9	8.0	3.0	5.7	5.4	1.3	23.8	22.3	
69	Legal system	1.Very well	0.9	1.1	7.4	5.9	7.3	7.0	6.3	6.0	
8.84		2.Fairly well	14.6	36.4	60.7	52.8	48.8	46.8	41.9	41.7	
273		3.Poorly	45.7	44.4	23.1	25.6	30.2	34.9	25.0	24.7	
		4.Very poorly	32.1	16.0	2.8	7.5	9.7	9.9	2.4	2.2	
		8.Other	-	-	-	-	-	-	0.6	0.2	
		9.D.K.	6.8	3.1	6.0	8.2	4.0	1.3	23.8	22.3	
70	Employer vs. Employee	1.Conflict with	13.1	20.9	23.8	5.9	3.2	5.8	8.1	7.3	
7.87		2.Co-operate with	80.4	74.3	64.1	89.1	92.7	91.7	79.2	78.8	
274		8.Other	-	-	-	-	-	-	0.8	0.6	
		9.D.K.	6.5	4.7	12.1	5.0	4.1	2.6	11.9	12.3	
71	Attitudes concerning society	1.Change by revolution	9.2	4.8	3.7	3.2	4.3	4.4	2.6	0.9	4.0
8.88		2.Improve by reform	73.7	62.6	55.2	61.8	70.0	66.4	58.5	62.5	
275		3.Defend against force	13.2	29.0	27.8	26.4	19.7	24.6	15.0	13.4	
		8.Other	-	-	-	-	-	-	0.3	0.3	
		9.D.K.	4.0	3.6	13.3	8.6	6.0	4.6	23.5	19.8	
72	Profound transformation of society	1.Yes	82.3	58.4	21.0	37.0	43.4	39.3	29.4	29.7	
8.85		2.No	11.9	37.3	62.4	50.6	48.1	53.3	47.3	48.2	
276		8.Other	-	-	-	-	-	-	0.0	1.0	
		9.D.K.	5.8	4.2	16.6	12.4	8.4	7.4	22.6	21.1	

Q No	Item	Category	1992	1987	1983	1987	1988	1988	1988	1988	1988
			ITALY	FRANCE	UK	USA	JPN-A	JPN-B	JPN-C	HAWAII	NJ
72.b	The way of changing society	1.Gradual 2.Radical 3.Other	72.8	45.2	18.1	30.7	32.3	33.3	27.4	27.3	
8.86		4.0.D.K.	22.0	11.8	2.5	5.4	10.2	4.9	1.6	1.2	
316		-	-	-	-	-	-	-	0.1	0.1	
277		5.2	1.4	0.4	0.8	1.0	1.0	0.8	0.8	1.1	
		6.	41.6	79.0	63.0	56.6	60.7	70.6	70.3		
T4	Close to party	1.Very close 2.Fairly close 3.Not very close 4.Other	7.5	4.5	5.2	7.0	9.8	16.3	5.2	5.4	
8.86		5.0.D.K.	38.1	12.7	17.5	33.5	39.5	45.0	27.6	26.9	
316		6.	11.0	68.0	16.7	36.1	31.6	16.1	23.8	23.1	
		0.missing	50.7	1.4	0.7	3.9	0.9	0.6	5.0	0.3	
SEX		1.Male 2.Female	47.8	46.6	44.4	44.7	47.6	50.5	46.2	48.3	
		52.2	53.4	56.6	55.3	52.4	49.5	53.8	54.7	51.3	
AGE		1. - 19 2. 20-24 3. 25-39 4. 30-34 5. 35-39 6. 40-44 7. 45-49 8. 50-54 9. 55-59 10. 60-64 11. 65-69 12. 70 -	4.3	4.4	3.9	3.5	4.2	3.3	2.8	3.4	
		6.	10.7	10.8	9.7	8.0	9.8	6.8	7.0	6.8	
		0.D.K.	9.3	11.6	12.6	11.1	9.4	10.0	6.1	7.7	
		-	8.2	12.5	9.7	11.9	18.0	9.9	9.8	10.3	
		0.	8.4	10.8	11.4	11.1	8.9	10.3	10.4	11.3	
		0.	8.0	8.4	8.4	11.3	8.9	9.0	10.9	12.1	
		0.	8.7	5.9	9.9	9.1	8.6	7.5	10.9	11.4	
		0.	8.9	7.1	8.6	6.1	7.5	6.1	9.8	10.1	
		0.	7.4	7.1	7.9	6.9	6.3	7.0	9.1	9.3	
		0.	8.1	6.7	6.5	6.5	7.4	6.8	8.3	8.0	
		0.	7.4	6.2	5.2	5.2	6.8	6.3	6.6	6.5	
		0.	9.6	9.5	7.1	10.2	13.2	15.0	6.6	6.4	
		0.D.K.	-	-	-	-	-	-	-	0.6	
EDUC		1.Low 2.Middle 3.High	24.1	30.9	33.6	22.9	45.5	20.2	30.8	28.2	16.3
		9.0.D.K.	50.9	46.2	42.7	36.5	40.1	59.2	48.5	50.2	37.3
		23.0	22.6	21.7	38.0	13.8	20.3	19.7	20.6	62.1	
		2.0	0.3	2.0	3.6	0.6	0.3	1.0	0.9	0.4	
		-	-	-	-	-	-	-	-	0.6	

Q No	Item	Category	1987	1993	1987	1988	1988	1988	1988	
			FRANCE	NL	UK	USA	JPN-A	JPN-B	JPN-C	
73	Political party	11.CDU 12.SPD 13.DDP 14.NPD 15.DKP 16.GRUNEN 17.Other 18.No party 19.D.K	15.4 16.4 2.6 0.1 0.2 5.1 0.3 57.0 2.9	1000	1083	1043	1663	2255	1817	1537
73	Political party	21.Comuniste 22.Socialiste 23.Ecologiste 24.U.D.F 25.R.P.R 26.Front national 27.Other 28.No party 29.D.K	5.3 29.7 9.0 9.0 12.8 2.9 1.1 21.1 5.1	1013	1000	1083	1043	1663	2255	1817
73	Political party	31.Conservative 32.Labour 33.Liberal 34.Nationalist 35.Ecology 36.SDP 37.Alliance 38.Other 39.No party 40.D.K	38.0 30.4 7.9 0.8 0.5 0.5 2.6 1.0 0.8 12.5 5.8	1013	1000	1083	1043	1663	2255	1817
73	Political party	41.Republican 42.Democrat 43.Independent 44.Other 45.No party 46.Refuse 48.D.K	35.3 42.8 8.3 0.7 0.2 0.9 1.9	1013	1000	1083	1043	1663	2255	1817
73	Political party	51.Jimin 52.Shaka 53.Koumei 54.Hinsho 55.Kuosen 56.Shaminren 57.Other 58.No party 59.D.K	42.5 11.0 2.9 2.4 1.3 0.5 0.3 0.2 32.5 6.7	1013	1000	1083	1043	1663	2255	1817

Q No	Item	Category	1982			1987			1988		
			ITALY	FRANCE	NL	FRG	UK	USA	JPN-A	JPN-B	JPN-C
73	Political party	61.DC			16.1						
8.7	ITALY	62.PDS				7.8					
314		63.RC				2.7					
315		64.PSI				5.3					
		65.MSI-DN				2.5					
		66.LL				5.8					
		67.PRI				1.9					
		68.PSDI				0.5					
		69.FU				1.4					
		70.LP				1.2					
		71.PLI				1.6					
		72.SDP				0.8					
		73.LRM&D				2.7					
		74.AP				0.7					
		75.No party				0.6					
		76.Refuse				30.8					
		77.D.K				11.9					
						8.8					
73	Political party	81.CDA							20.8		
8.7	NL	82.Poda							18.3		
314		83.UID							11.8		
315		84.D.66							16.0		
		85.Green Links							7.5		
		86.RPF							1.3		
		87.GDU							1.3		
		88.SGP							1.4		
		89.CD							1.3		
		90.Other							1.8		
		91.Refuse							2.1		
		92.D.K							17.4		

第4章 統計的分析例

はじめに

本章では、国際比較調査データの具体例を示そう。分析データは、我々が特別推進研究と試験研究で調査した7カ国の共通比較データである。

まず最初に、我々の長年の国際比較調査研究から生まれてきた統計分析の考え方の発展に触れる。そして、統計分析の実例を示す。

Cultural Link Analysis

本研究は、主として文部省科学研究費補助特別推進研究「意識の国際比較方法論」と試験研究A(1)「意識の国民性比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究」として進められてきた。この中で、第1段階として、文化の連鎖的比較研究(Cultural Link Analysis, CLAと略す)というパラダイム(方法論)が生まれた(第1部1章を参照)。

国際比較研究においては、はじめから全く異なる国と国を比較しても意義は薄い。類似の側面と異なる側面を持つ国と国を比較して、それらの側面が如何に、どの程度、似ているか或いは異なるかを明らかにして、はじめて比較の意義がある。この視点より、我々の国際比較調査研究は、1971年の日本人とハワイの日系人との比較調査に始まり、さらにハワイの日系人、非日系人との比較、米本土のアメリカ人との比較と発展し、今回の我々の研究へつながってきたのである。これまでに調査してきた国や地域には、ドイツ、フランス、イギリス、イタリア、オランダ、東南アジアの国々が含まれ、さらに調査計画は発展している。これらの国々や地域のいくつかの対は、言語、民族の血、地域文化、歴史的源等の点で共有点を持っている。その共有点を持つペア同志は、その共有点を基に、国民性において類似の側面を表わす場合も多いが、一方、地理的条件、歴史的発展の点等に起因する異なる側面をも表わしがある。その為、比較の意義が見い出される対象となる。この比較の対象となる対を「比較の環」と考え、この環を徐々につなげて、拡大していく、やがて、広範囲の国々の比較を可能としていくアプローチがCLAなのである。

国際比較の尺度としての調査質問項目の作成

このCLAの発展の中で、本質的中心となるのは、とりわけ「国際比較のための質問票の作成手続き」である。ここで、「作成手続き」の部分を強調したい。表面上、比較調査は、資金と時間さえあれば、調査代理機関に調査実施依頼すれば、回答結果データを得て、単純集計表上で、各國間の比較をすればよいと思われている。実際、最近の各官公庁、民間機関での国際問題への関心から、そのような調査も多く見られる。

しかし、我々が本当にターゲットとして狙っているのは、表面上の質問回答データ数値の比較—例えば、日本人は、生活満足感がアメリカ人より何%低いと出ている—などではないのである。

質問票の作成は、大きく分けて、「質問項目の選択」、「翻訳・再翻訳」、「予備調査による検討」の3つのステップでできている。実のところ本調査によるデータ回収以前に、国際比較調査によるかなり多くの重要な情報は、既に上の質問票作成の3つのステップの中で得られるのである、或いは、得る努力が必要なのである。予算と既製の調査票を調査会社に渡し、データ回収を待っているような調査では、実は、ほとんど重要な情報は得ら

れていないのである。或いは、少なくとも、回答データの数値の適切な解釈に十分に信頼性を与えることには疑義があろう。

本調査以前の段階で如何に重要な情報が得られるかは、本報告書第1分冊の総合報告第1部と、本分冊の第1部に示されている。

数量化理論

CLA発展の中で、しばしば用いられた統計分析手法の一つが、「林の数量化3類」(Q3と略す)である。但し、これを単に通常の多変量分析手法の一つとして捉えるのは、少なくともCLAの中では正しくない。統計手法というよりは、むしろ、統計データ分析の実践的哲学を実行する為の表現法と呼んだ方が妥当かもしれない(本章の分析例参照)。全質問データにQ3を適用すると(Q3はカテゴリカルデータ用の主成分分析とも考えられるので)、いくつかの主因子が抽出される。通常の主成分分析では、これらの主因子が、意義をもつか否かは、それらに対応する説明分散の絶対的大小と相対的大小によって判断する。つまり、分散の大小順に並べて、絶対的分散が十分大でかつ、次に続く因子の分散が著しく小となる直前までの、因子を意味のある因子として抽出する。

しかし、CLAにおけるQ3の運用の仕方は、これとは少々異なる。本来、質問項目は、国民性のできるだけあらゆる側面をカバーするようにと選択されている。いくつかの質問はグループとして、国民性のあるトピック(生活水準、政治意識、男女の役割、宗教心、人間関係etc.)などに関連する項目を構成している。それらの質問項目が必ずしも同じウエイトで、国民性の側面に関わっているという保証はない。しかし、これらの項目が、国民性の全体像をカバーするように選択された意図から考えると、Q3で、抽出された各因子の「絶対的」説明分散量は、大きくならないのが自然となる(但し、あるトピックに関する項目群の回答データにQ3を適用した場合は分散は大きくなるだろう)。重要なのは、分散の相対的大小(因子の順位)である。この順位に対応する因子が、何を把えているのかをもとの質問項目へ戻って、分析するのが、次の手続きである。但し、あまりに1個の質問とその回答データに固執するのは賢明ではない。個々の質問は、すべての国でほとんど同じ意味をなす質問もあるが、本来は、「日本の質問」、「ドイツ的質問」というように、ある国の調査で使われてきたユニークな質問を、我々の調査票にとり入れた場合もある。したがって、そのようなユニークな「質問」は、ある国と他とを識別するのには役立つが、回答データ数値の単純な大小比較が意味を持つとは限らないので注意が必要である。

また、数量化の哲学は、回答者の思考プロセス、つまり「考え方の筋道」をクロス集計表分析によって吟味するところにも表われる。

国際比較において、国々の回答分析はまず単純集計表の全体の回答分布パターンを分析することから始まる。しかし、仮りに、ある国と他の国(周辺)の分析パターンが全く同じであったとしても、必ずしも、それらの国々での回答分布を「同じ」と見なしてよいか否かの判断は慎重でなければならない。例えば、国Aと国Bの両方の回答が、質問1と2で、どちらもYes50%, No50%であったとしよう。しかし、国Aでは質問1でYesと答えた者は、質問2ですべてNoと答え、一方、国Bでは質問1でYesと答えた者はすべて質問2にもYesと答えるということもありうる。この回答者個人のレベルをも配慮した回答パターンは、クロス集計表を慎重に分析しなければ発見できない。我々は、これをハワイ日系人調査において身をもって、その重要性を見い出したのであった(「行動科学序説」、林、1993、朝倉書店、参照)。いずれにせよ、国際比較調査データ分析における数量化理論とは、回答データの分析は勿論、調査票構成の手続きや回答者の思考パターンも広く加味して事態をえていくことを強調する。

相補的統計分析の考え方

さらに、この研究を進めてくる中で、我々は、分析方法においても、分析結果の解釈においても、現象の理解に対して柔軟な、いわば相補的な考え方やアプローチが重要で、また現実的であることに身をもって感じるようになってきた。これは、数量化理論の哲学を延長してきたなかで生まれてきた考え方ともいえるかもしれない。

もう少し具体的に、この考え方を示そう。今、ここで言葉で示すことのできる「相補性」とは例えば、

- i) 多次元尺度的表示 VS 一次元尺度
- ii) 大域的比較 VS 局所的比較
- iii) 属性別の回答パターン分析 VS 回答パターンから観た属性の規定
- iv) 理論 VS データ

等である。

基本的考え方は、分析に当たり、分析の切り口は明確にしなければならないが、分析を進める中で、その視点を柔軟に変えながら、対象の全体像の理解に努めるということである。上のi)~iv)について説明を加えよう。

i) 多次元尺度的表示 VS 一次元尺度の相補性 例えば、一方で、国際比較の統計的分析において調査対象国の持つ種々の側面の全体の関連、各国間の全体的位置づけのイメージを把握するには、数量化3類等の多次元尺度表示を利用することがある（林の分析参照）。

他方で、各國のデータを分析し、ある特定のトピック（例、仕事に対する態度、QOL等々）に関するデータを分析するには、関連する質問項目を厳選し、なるべく簡単な一次元尺度を構成して、得点（スコア）を比較分析することも可能である（第一分冊のYoshino & Kohr の分析例参照）。

ii) 大域的比較 VS 局所的比較 上の尺度構成における多次元と一次元の相補的利用は、さらに、比較対象の空間的連関でいうと、大域的比較と局所的比較のための尺度構成における相補的利用に結びついている。一方で、少しづつ異なるが、大きな地域にまたがる国々を全体として比較しようとすると、当然、粗い尺度で全体のパターンの中で各国を位置づけることになる。他方で、ある特定の地域や国に焦点を当て、さらに、いくつかの特定のトピックや、属性について調べるには、詳しい尺度が必要であり、多次元尺度法におけるような情報縮約は用いず（注。勿論、Q3等の多次元尺度法も巧妙に利用することもあるが）、生のデータからすぐに得られる単純なスコアが役立つこともある。（“Data Analysis for Comparative Social Research”， Hayashi, Suzuki & Sasaki, 1992, North-Holland Ch. 8. 参照）

iii) 属性別の回答パターン分析 VS 回答パターンから観た属性の規定 各属性カテゴリー（性別、年齢別、職業別、学歴別 etc.）に属する人々がどのような回答を示すかを、属性カテゴリー別の単純集計表で回答分布を比較することも多い。しかし、ここで得られる結果は単に、どういう年齢、学歴や職業の人々がどういう意見を持っているかという表面的な情報だけではない。学歴の高低、職業の種別といっても、実際のところ、その区別は、各國毎の事情は複雑である。例えば ILO で定められた各國共通の職業別コードがあるが、それですら、ある国で高度の専門職を表わす言葉（Skilled worker）は、他国では専門職であっても、それ程高度のものではなかったりすることもあり、そもそも本当に「共通コード」というものが構成でき得るのかという問題もあり、見かけほど簡単ではない。

この様な事情を考えていくと、ある国のある属性カテゴリーの人々の「回答パターン」が、逆に、その属性を特性づけていると考えていくこともできる。これは、質問という「刺激」と、それに対する「回答」との間の相補的連関である。（林文の分析参照）この質問項目群と回答データとの相補的関係は、以前より「因子分析法」において問題とされ、議論されている事柄にも通じているだろう（'The Green-McDonald proof of the non-existence of factor analysis' by Guttman in 'Louis Guttman on Theory Methodology Selected Writings' S. Levy (Ed.), 1994 参照）。

iV)理論とデータ 理論的展開と実証データの収集と分析が、相補って進められていくべきことは、議論の余地がなく、一般に受け入れられているであろう。しかし、現実に昨今の学術雑誌に発表されている論文の多くが、この思想に沿っているわけではない。巨大科学化している分野では、個々の研究者のレベルでは、理論家と実験・観察家との分業が進められていても不思議ではない。しかし、科学の具体的対象や現象に全く言及されていない机上の空論、シュミレーション研究の発表も増大しているのが現状である。

林の数量化理論は、本来は、特定のモデルの利用ではなく、実証的統計分析法の哲学として生まれてきたものである。我々は、その延長上にあるこの研究の中で、再び理論と実証データとの相補的発展を進める研究態度を強調し実践例を示していきたい。

統計的分析例

七カ国の比較データの統計的な具体例として、まず各テーマ毎に分析を施し、「日本人の特性」を浮かび上がらせ、さらに、国際比較の観点から、日本人と外国人との類似点や異なる点を、一方でミクロ的に、他方でマクロ的に、相補的に総合分析をまとめる。

国民性の国際比較

目次

序

1. 国際比較からみた日本人の特性

- 1.1 人間関係
- 1.2 中間的意見・中間回答について
- 1.3 極端な表現が少ないこと
- 1.4 自信と自虐意識
- 1.5 リーダーシップについて
- 1.6 意識の未分化
- 1.7 科学文明觀
- 1.8 自然觀
- 1.9 宗教

2. 意識の国際比較の観点からみた日本人と外国人の同異の姿

- 2.1 同一スケールの存在と国の位置付け—マクロ分析
- 2.2 個人の回答パターンを基にする国の位置付け—ミクロ分析 その1
- 2.3 個人の回答パターンを基にする国の位置付け—ミクロ分析 その2
- 2.4 回答の意味の解釈
- 2.5 意識の分化と未分化の諸相

後注 日系人調査の意味

参考文献

- 附録 1 義理人情に関する質問群
- 2 科学文明觀に関する質問群

序 国際比較の意義とその方法

国民性研究のまとめた発端は、Wilhelm Max Wundt (1832-1920) であると言われている (Wundt(1912)) が、計量的研究ではこの言葉は故意に避けられており、価値観、価値意識、社会意識等々の言葉で表現されている。近い所では、Alex Inkeles があえて国民性という言葉を用いているのは例外である (Inkeles・Levinson(1969), Inkeles(1991))。私どもも、ニックネームとしての国民性という言葉を1953年以来用いている。それより前は「国民精神動向」という言葉も使ったことがあるが、誤解されるおそれがあるというので、国民性という表現に変えた。国民性という言葉を用い、操作的には、ものの考え方、見方、感じ方（意訳して belief systems, the way of thinking and emotional attitudes or sentiments ということをしている）と定義付けている（林(1993))。国際比較は、日本人と外国人の異なるところと似たところを比較しつつ、日本人の特性と位置づけを知ると共に、国際理解のための科学的情報を提供するにある。これは、日本における継続調査により変わったところと変わらないところを明らかにする研究と併せ、国民性の時間的・空間的研究と言うことができる。国際比較のための方法論については、これまで多く発表してきたのでここに繰り返さないが（林(1988, 1990, 1991, 1992a, 1992b, 1993a), Hayashi(1992c, 1992d), Hayashi・Suzuki・Sasaki(1992), Hayashi・Suzuki・Hayashi(1984), 林・鈴木(1986), 林・米沢(1982), 統計数理研究所意識の国際比較委員会(1991))、そのうち方法的にみて根幹となる考え方、連鎖的国際比較調査分析法（Cultural Link Analysis, C L Aと略称）であるという点を強調しておく。この方法を用いることにより、異なったところ、似た所が鮮明になるのである。

いずれにせよ、国際比較は、常に「いかにして比較が可能であるか」の考え方を中心に据えて方法論を講究しつつ発展させなければならないものである（林(1986, 1992b), 統計数理研究所国民性調査委員会(1992))。

さて我々の国際比較調査は、表1に年代に沿ってまとめてあるような所で行なわれている。これをC L Aの形で書いてみると第2表のようになる。

表1 国際比較調査

表2 国際比較の連鎖 (C L A)

まず、国際比較に用いた質問の意見分布において、マクロ分析の立場から、総合して日本の特色が出ているものかどうかを検討することにした（林(1993))。

ここで、比較に用いた殆どすべての質問を用いて計算することになるが、ただ、文化発展の情況に強く影響される環境とコンピュータに関する質問と自由回答の質問を除外した。各質問において分析に用いる回答カテゴリーは、原則として1つをその質問の特徴をあらわすものとしてとりあげた。その他・D K・中間的回答—これはあとで別にとりあげる—は除外した。各質問がいくつかの小質問に

わかれていて選択肢が同じもの一段階のついているものについて、それらを合計して平均値を出し、1つの質問に対する回答として取り扱った。また、回答肢がそれぞれ独立と見做せるものは、すべての回答肢をとりあげた。さらに、後述する義理人情スケール、人情スケール、中間回答スケールに関するものとの分析に含めることにした（ブラジル日系人意識調査委員会(1993)）。

この国別の回答分布を用いて、カテゴリーに関するパタン分類の数量化（数量化III類）あるいは相関表の数量化（林(1993b)）—これは国と回答カテゴリーの間の相関関係を最大にする数量化と等価になる—を行なってみた。国の布置（¹X × ²X）をみると図1のようになり、予想した通りの日本(J)・アメリカ(A)・フランス(F)とイタリー(I)を頂点とする三極構造の図柄があらわれてきた。但し、アメリカ・フランス間の距離はそれらの国々の日本との距離よりも小さくなっている。ここで、日本、ハワイ日系人(JA)、ブラジル日系人(JB)の関係が日本、アメリカ、フランスの関係の縮図になっていることは興味深い。もう少し詳しくみよう。

アメリカに近くイギリス(E)があり、アメリカ・イギリスとイタリー・フランスの間にドイツ(G)が位置する。イギリス、ドイツ、オランダ(H)が小さい三角形を作っている。図1の付置で矢印がついているのは第3軸目(³X)を現す（左上方向の矢印は³Xがプラス、右下方向の矢印は³Xがマイナスであることを示す）が、日本、フランス、ドイツ、オランダ、のヨーロッパ大陸の国は同じ方向（イタリーは小さいが逆方向にあるのが例外）であり、反対側にあるのがアメリカ、イギリス、JA、JBである。

一応の形が単純集計の総合として表現されたことは興味深い。単純集計のもつ深遠な意義が理解される。

図1 7ヶ国とJA、JBの付置（相関表の数量化）

1. 国際比較からみた日本人の特性

1.1 人間関係

日本における大きな特色といわれている人間関係に関するもののうち、義理人情に関するものを取り上げるが、この質問群は付録1に示すとおりである。1つの質問の1つの回答だけをみると、人間的あるいは義理人情的と思われるものとそうでないものにわかれれる。義理人情的といい切るには、後述するように、いくつかの質問における回答を組み合わせてみる必要が起こってくる。なお、ここで取り上げた質問群は、典型的に義理人情に関する質問ばかりでなく、それに深く関係すると考えられるものも含めてある。ここで一言つけ加えると、義理と人情とを対比させるのではなく、両者を考えあわせる考え方をみようとするのであり、義理人情的と義理人情的でないという立場で考えているということである。

付録に示した質問群に対してパタン分類の数量化を用いてみると図2のように、30年間まったく安定した構造を示している。第1軸 (¹X) で、人情的・義理人情的回答とそうでない回答が左右にきれいにわかれ、こうした考え方の存在の安定性が認められたといってよい。第2軸 (²X) をみると、第2・第3問 (#5.1・#5.1b) と第4・第5問 (#5.1c-1・#5.1c-2) が上下にわかれるとする関係であって、これは問における会社の場面設定の差異である。²X がこの両者の回答をわけているということは、両場面に対して第2次的に異なる考え方方が働くことを意味している。人情的・義理人情のあるいは人情的・義理人情的でない考え方の中での差異ということができる。

このように安定した構造、つまり人情的・義理人情的とそうでないものを対比させて考える考え方の根深さ、根強さ、が示されているということができる。

図2 義理人情の考え方の構造の安定性

また、全体的傾向だけではなく年齢別に見ると、20歳台に90°以内の回転をしている図柄もまま見られるが年が経つと通常の形になり、大局的にいえば各年齢層で抜本的な差異がないのは注目すべきであり、上に述べた根深さ、根強さを裏書きするものがあるといえよう（林(1993)）。

これと同様の問題について、ハワイ日系人（1971年、1978年、1983年）、ハワイ住民（1988年）、アメリカ人（1978年と1988年）、イギリス、ドイツ、フランス（いずれも1987年）のデータについて行なってみると、かなり異なった構造が得られる。点の相対的位置がどう異なるかをみるために、相互に図柄の対応する点の距離の総和（回転してみて最も距離の総和が小さくなるところの距離）を求め、図柄の非親近性マトリックスを作った。しかし、この測度のファジー性から、非親近性を3段階に分類したマトリックスを作りなおした（表3）。これを基にMDA-OR（多次元尺度解析法、MDSの一方法でランクのついた群分けに基づくもの）（林・飽戸（1984））を用いると、図3のようになり、日本におけるデータの安定性と他国との関係が明瞭になり、日系人が日本とアメリカとの間にきているという姿が出ていて興味深い。

表3 義理人情構造の図柄の非親近性マトリックス

図3 義理人情の構造の近さに基づく諸国の位置付け

なお、ブラジル日系人のデータを分析してみると、ハワイのデータ同様、90°回転した形であり、点の相対位置は、第4問、第5問を別にすれば、大体日本の場合に近い形が得られている。日系人同士は、他の国よりやはり日本に近い形が出ているのは注目に値しよう（ブラジル日系人意識調査委員会（1993））。

このようにみてくると、こうした心の構図は、安定性の点からも外国との関係からも、日本の一つの特色とみることができる。

さらに、義理人情スケールによる意見分布という点から検討してみよう。前述の付録1の質問から表4のようにして義理人情スケールを構成した。この内容をみると厳しい義理人情的な評価であるとみることができる。つまり第2問と第3問、第4問と第5問では、態度を変えるという義理人情のステレオタイプ、第7問(#5.1d)では、ともに旧来の道徳を選択するというもののみを取り上げているのである。

表4 義理人情スケールの構成法

義理人情スケール値は大きいほど義理人情的であることを示し、最小は0、最大は5である。日本の分布は図4に示すように、スケール値1と2とに山があり、0はごく少数という形である。日本人といっても、いつも義理人情的な回答をするわけではなく、あるときは義理人情的、あるときは他の条件を考えあわせて義理人情的でない回答をするということを示している。実際の行動でもさまざまな行動をするであろうが、義理人情的な考え方の筋道があり、どちらかといえば義理人情的な好みを示す回答をするのである(スケール値2以上が60%あまりある)。スケール値3以上というのは、スケールの作り方からみて、かなり義理人情的とみることができる。この時間的安定性をみたのが図4である。多少時期的に動きはあるものの、きわめて安定した形をしており、日本人の特色を表わしているように思う。つまり、スケール値0はごく少数、スケール値1か2に山があり、2以上はほぼ60%、3以上は20~25%という形である。細かくみると、1963年から10年間はやや義理人情的でない方に動くかに見えたが、1978年からもとの分布の形にもどり、1993年では、1968年、1973年の形以上にまた非義理人情的に傾いている(この理由については後述する)。

図4 義理人情のスケール分布

なお、日本人の年齢別スケール分布を示すと表5のようになり、若い方に義理人情的でないものが多目である。しかし、若い方でもスケール2以上が、5歳刻みの若い方から順に47%、52%、44%、56%(あとは50%を超える)と半数近いこと、0が10%前後であることから、以下に示す外国人との比較をみるとやはり極めて日本的ということができる。

表5 義理人情のスケール分布 [第VII次(1988年)、年齢別(%)]

外国にこういう考え方の筋道がないかぎり、スケール値を比較する意味は薄いが、参考のため、スケール値0のところと、スケール値3以上のところの比率のみを比較してみるとくらいは可能であろう。0は全くそういう回答をしないこと、3以上は、日本流にみても強い義理人情志向ということになる。表6にそれを示しておこう。

説明を要しないが、スケール値0のところは、ハワイの日系人はアメリカ人と日本人の間でアメリカ寄り、ハワイの非日系人はアメリカ人と同じで、最も日本流にいって義理人情的でなく、ヨーロッパになるとやや義理人情的という形が出ている。ブラジル日系人は、ハワイ日系人より日本に近くなっている。ここには示さないが詳しい分布全体で比較しても同様な傾向である。このようにみると、こうした意見分布もかなり安定しており、外国に比べて特色をもつということができる。

表6 各国の義理人情スケール値の比較

ここで、義理人情スケールに用いたコードを用いて、つまり第2問と第3問、第4問と第5問はクロスした形の回答をとりあげて、バタン分類の数量化を行なってみたところ、これも1963年から1993年まで、大極的に見れば本質的なところでほとんど同じ構造をもつことが解った（図5、1978年のみ¹X×³Xがプロットしてある。その他は¹X×²X）。

図5 義理人情的態度の構造の不变性

話をもとへもどして国際比較、とくに日系人の様相を探ろう。

意識構造上からみて、また分布の点からみて、日系人が日本人との間にある点、ブラジル日系人がより日本に近い点は、日本の特殊性を考える上で興味ある事実である（ブラジル日系人意識調査委員会(1993)）。なお、ハワイの住民について、これを、

ABIM：本土生れの非日系

ABIO：アメリカ本土以外の生れの非日系

JA-A：日系人でアメリカ的なライフスタイルをより多くもつもの

JA-J：日系人でより日本的なライフスタイルをもつもの

とグループ分けしてそれぞれの義理人情スケールの分布をとってみると、ABIM, ABIO, JA-A, JA-B の順にきれいに分布が右側にずれてくる。つまり、義理人情的になってくる姿が現れている（図6 その1）。スケール値0のところの順序とも符合していることがわかる。このように次第に日本寄りに動いていくということ、上述したような日系人が日本人とアメリカ人との間に入ってくることを考えあわせてみると、やはり、我々が義理人情的と言っている人間関係の問題において、今日の日本人もその特色をもっているといってよいと考えられる。しかも、これが日系人を介して順次異なったものになっていくことも面白いところである。

もう少し分析を進めてみよう。ブラジル日系人を加えて分布を図6 その2に示す。ブラジル日系人がハワイ日系人よりも日本に近い形をしていることがわかる。なお、世代別にみるとブラジルの1世は日本全体よりも義理人情的である。また、高年齢層の多い1世よりも、日本の高年齢層の方がややより義理人情的である。

ブラジルの(2+3)世をみるとハワイの日系人に近くなることが示される(0の比率が20%, 3以上が9%)が、これとても外国人にくらべて日本寄りとみることができる。

図6 その1 ハワイ住民グループ別義理人所スケール分布

その2 ブラジル日系人等の義理人情スケール分布

繰り返すようであるが、こうみてくると義理人情的というのは、当然のことながらやはり日本のことができる。

つぎに、同じ質問を用い、人間関係における人情スケール（私情を重んずるスケール, affection scale, 心の暖かさのスケール）というものを作った。その作り方は表7その1に示す通りである。尺度値は0から8までとなり、値が大きいほど人情的あるいは私情を重んじる傾向である。大局的に見易くするため、スケール値5以上の比率を出してみよう。これは表7その2のようになる。アメリカ人、イギリス人が低く、日本人が高い。この間にブラジル日系人、ハワイの日系人が入っている。ドイツ人、フランス人はかなり高く出ているのも面白い。

表7 その1 人情スケール構成法

その2 人情スケール5以上の比率

人間関係のさらに突込んだ分析をする前にイソップ物語との関係をみよう（ブラジル日系人意識調査委員会(1993)、Hayashi(1992d)、林・鈴木(1986)）。イソップ物語の中の“アリとキリギリス”的話についての回答である(#7.82)。この話は、「アリとセミ」あるいは「キリギリスとアリ」「セミとアリ」として親しまれているが、このことについては、詳しく述べたものがあるのでそれに譲る（林・米沢(1982)）。この質問文は、まずアリとキリギリスの話を示し、回答として「1. 夏の間怠けていたのだから、困るのが当然だと追い返してしまう」「2. 怠けていたのはいけないけれども、これからはちゃんと働くのですよ、といさめた上で、食べ物をわけてあげる」を示し、この話の結びとして、「この中のどちらが自分の気持ちにしつくりしますか」という形で回答をとるのである。回答は以下の通りである。

	ドイツ	フランス	イギリス	アメリカ	日系アメリカ人	日系ブラジル人	日本
1の型の回答	13%	14%	13%	12%	9%	20%	15%
2の型の回答	78%	79%	83%	85%	91%	78%	75%

日本人は心がやさしいから2の型が多いという意見が文献に基づく考察で論じられているが、むしろ少なめであることに注目したい。これはこれとして、この1、2の回答と心のやさしさとの関係をみよう。ここでは、人間関係における暖かさ、柔らかさ、人情好みとも言うべきものとの関係をとりあげてみる。そのため、前述のように人間関係における暖かさ、私情を重んじる人情スケールを作っ

たのである。

ここで、1の型の回答（S1と示す）と2の型の回答（S2と示す）との関係をみると表8その1のようにブラジル日系人は別として、ハワイ、日本以外では5以上のスケール値とS1、S2の回答間の差は全くない。しかし、ハワイになるとS2の回答の方に人間関係の暖かさ、柔らかさ好みが多くなるのである。日本では勿論これ以上に多いのである。この関連性は注目してよい。S2の方の回答を人間関係の暖かさ、柔らかさと関係付けること、そのことが日本の考え方なのではないか、ということである。

表8 その1 イソップ物語りの回答別の人情スケール5以上の比率(%)

その2 ブラジル日系人におけるイソップ物語の回答と人情スケール

ブラジル日系人は、全体では前述のように、5以上のスケール値を示すものが34%と高く、ハワイ日系人より日本人に近い（ドイツ、フランス並み）。ところが、S1とS2の関係で、日本人、ハワイ日系人と全く異なる関係が見られているのである。問題は、どうしてブラジル日系人のみが、S1と回答した方がスケール値が高いかということで、これを考えなくてはならない。

この比率の出るところをもう少し詳しく見てみよう。S1、S2と答えるものの人情スケールの分布の状況をみよう（表8その2）。スケール値4と5の間で分布がきれいに入れ替わっているのがわかり、分析の結果がシステムティックである。日本・ハワイにおいては私情を重んじる心の暖かさとイソップの結末とがダイレクトに結び付くが、これとは異なる考え方の筋道がブラジル日系人に見られているわけである。

イソップ物語りの「食べ物を与えない」というのは怠惰に対する戒めの教訓として共感を表明するということであり、厳格な建前に同感する気持ちである。こういう建前をとる人の心が、私的信義（私情を重んずる暖かい心）にかたむく、ということではないかと思われる。怠惰には、明確にけじめをつけることと私情を信ずる・人情の暖かさの好みと呼応する形と見れば理解できる。いわゆる「古い」方の考え方の筋道を含むものが現出しているように考えられる。一方、食べ物を与える方の回答は、心の暖かさとあまり関係がない欧米タイプの考え方と思われる所以である。ここでは、ブラジル日系人に、今日の日本で見られないような昔流とも見える考え方の筋道が見られるということ、日本やハワイに見られるようなダイレクトな関連ではなく、屈折した結び付きが出ていていることができよう（ブラジル日系人意識調査委員会(1993)）。

なお、人間関係にはこのほかいくつかの質問を用いているのでそれとの関係をみよう。

- A. 義理人情の質問の第6問(#5.6)、“めんどうをみる課長”を好む
- B. “すじを通すこと”と“まるくおさめること”的どちらの人柄が好きか
(#2.2b)で“まるくおさめることに重点をおく人”を好む

- C. 就職の条件(#7.24)で、“俸給の高いこと”、“倒産のおそれのないこと”、“気の合った仲間と働くこと”、“やりとげたという感じのもてる仕事”、から“気の合う仲間と働くこと”を選ぶ
- D. 生活領域のそれぞれについて重要度を尋ねる質問で“友人・知人について”(#5.81d)の重要だと思う程度の高いこと（7点評価スケールで6と7の合計の比率）

をとりあげ、人情スケールとあわせて各国の支持比率の比較をみたのが表9その1である。見やすくするために人間関係重視の順位をつけたのが表9その2である。

表9 その1 人間関係重視の傾向(%)
その1 人間関係重視の傾向(ランク)

ランクの和の少ない順（つまり高いランクのもの、即ち人間関係の暖かいと見える傾向—日本人の立場から—）をみると、日本、ブラジル日系人、ハワイ日系人、ドイツ人、フランス人、ハワイ非日系人、イギリス人、アメリカ人となる。人間関係では日本の暖かさ好み、アメリカのドライな好みが両極で日系人（ブラジル、ハワイ）は日本寄りで中間にあり、非日系（ハワイ）もイギリスと共に中に間にきている。ドイツは暖かい方である。フランスは前3者は暖かい好みであるが後の2つで異なった反応をしており、考えの筋道は明らかに異なる。この点アメリカも少し異なるようであるが、全体的にドライである。

いずれにせよ、人間関係で日系人は日本寄りの鎖を示し、他国との間にある。ハワイの日系人は、“めんどうを見る課長”のみは、アメリカ寄りであるのは注目してよい。ブラジル日系人は、“気の合う仲間と働きたい”というのは低いが、ハワイの日系人とブラジルの日系人は総合して似ており、ともに日本寄りでブラジルの方が一層日本寄りである。

<アケ>

ながながと人間関係について論じてきたが、日系人、外国人のデータをあわせ考えると、人間関係のさまざまな面の重視が日本人の特色であると見ることができよう。そしてこれがいつもプラスに作用するわけではなく、あるときはプラス、ある面ではマイナスに作用するわけであるが、これが容易に抜け切れないところが日本人らしさであることが理解できよう。抜け切ろうとすることは、日本人らしさのよさも失ってしまうことも忘れてはなるまい。

1.2 中間的意見・中間回答について

日本人に中間的意見が多いということは気がついており、東京都区部（ランダ

ムサンプル）においてこれを中心とする調査は試みていた。その中で、言葉によるもの（“一概にいえない”、“時と場合による”、“どちらともいえない”等）だけでなく、5個のオハジキを用い、賛成・反対の気持ちをオハジキの多さで表わすという恒常和法を用いた研究も行ない、不十分ながら在京米英人（ジャパンタイムズの購読者名簿からランダムに抽出）との比較を行なった。

まず中間回答が言葉である質問（表10）についてみよう。面接調査であるが、回答者に回答肢は示さずに、調査員がプリコードした調査票に回答を記入する方法をとっている。結果は図7に示す。全般的に日本人に中間的な意見・回答が多いことがわかる。

表10 中間回答のある質問

図7 中間回答のある質問の回答分布

次にオハジキによる回答を使った質問である。決まった数のオハジキを各回答肢に配分することによって同意の程度をあらわすという回答方法である。ここで用いた質問文を示す。(1)～(4)の4問それぞれについて、アとイ的回答選択肢を回答者に見せ、5個のオハジキを配分してもらうという方式である。

質問 政治のあり方として、次のそれぞれのどちらがより大切だと思いますか？
大切と思われる割合によって、この5つのオハジキを分けてみてください。
大切な方により多く、大切でない方により少なく分けることになります。

〔回答肢のリスト提示、オハジキ5個使用〕

オハジキ配分

- (1) ア 国民にあまりこまかいことは知らせないが、問題にいちはや
く対応する政治 () 個
イ 対応が遅れることがあっても、国民に一から十までこまかく
くわしく知らせる政治 () 個
- (2) ア 国民の大多数が納得するまでは、ものごとに手をつけない政
治 () 個
イ 少数の反対意見は出ても、強い指導力をもって、実行してい
く政治 () 個
- (3) ア 現在の国民の負担がふえることがあっても、将来の財政を見
通して、先手・先手を打っていく政治 () 個
イ 将来、国の財政状態が悪化する可能性があっても、現在の國
民の負担をふやさない政治 () 個
- (4) ア 手間やお金がかかっても、声なき声を尊重し、困っている人
に思いやりのある政治 () 個
イ こまかい点の配慮に多少欠けることがあっても、効率がよく、
お金のかからない政治 () 個

結果は図8に示す通りである。'2-3または3-2'は、5個のオハジキを一方の意見に3個、他方の意見に2個を配分する、またはその逆に3個と2個に配分するということを示す。これがいわば中間的な回答で、正に4分6分感覚による（平衡感覚という人もいる）回答である。日本人にこれが多いことが読みとれる。

図8 オハジキ配分の分布

そこで、国際比較調査（1987、1988年、日本、ハワイ、アメリカ本土、イギリス、ドイツ、フランス）の質問の中に、中間回答のある質問が11問あったので、これらを用いて中間回答の様子をみてみよう。各個人が中間回答を何個したかをスケール値として分布を描いてみたところ、図9のようになった。日本ではA調査とB調査の2種類の調査があった（質問項目は同一であるが質問文にいいまわしが少し異なるものを含んでいる）が、図に見られるようにまったく同じ分布を示し安定していることがわかる。中位のところに山があり、分散が大きい。アメリカ、イギリス、ドイツ、フランスについての分布も図9に併せて記載してあるが、分布が左寄りで、中間回答をするものがより少なくなっている。アメリカが最も中間回答が少なく、フランス、イギリス、ドイツの順に分布は右に寄る（中間回答が多めになる）が、日本とは大きく開いており、最初に示した調査結果を裏書きするデータが出ていることがわかる。

ここでまた、ハワイの日系人を用い、日本人と外国人との関係の橋渡しにしてみよう。図10にみられるように、ここでも日系人が日本人寄りに動いている分布を示していることがみられる。

さらにブラジル日系人についてしらべてみると、図11のようになった（この時は前記11問中1問は調査されず、調査した10問で中間回答スケールを作成した結果）（ブラジル日系人意識調査委員会(1993)）。

ここでもブラジル日系人に中間的回答が多いことがわかる。詳しくみると、ブラジル日系人は0の比率も多いが、4以上の比率も多いという、いわば、二極的構造を持っていることが知られる（詳しくはブラジル日系人意識調査委員会(1993)参照）。見易くするために0の比率（中間回答の少ない方）、4以上の比率（中間回答の多い方）を目盛ったのが図12である。日系人がフランス人、アメリカ人よりもより日本人的であることが知られる。

図9 中間回答スケールの分布（日本と4カ国）

図10 中間回答スケールの分布（日本、ハワイ日系・非日系、アメリカ）

図11 中間回答スケールの分布（日本、ブラジル日系、アメリカ）

図12 中間回答スケールの分布による国の配置

表11 日本人の中間的答スケール分布(%)

こうした点からみて、中間回答をより多くするという傾向が日本人の特色であるとみてよいと考えられるが、日本における中間回答スケール分布を年齢別にみてみよう(表11)。高年齢の方がスケール値が低い傾向で(高年齢層が低目とはいっても、日本以外とはかけ離れている)、若い方に中間的な回答が、高年齢層よりも多目になっていることも注目してよい。

しかし、この調査は一時点のものである。そこで、国民性調査の質問文のうち中間回答のあるものを抜き出し、時系列をとってみた。図13のように凹凸はあるが、全般的、大局的にみると、中間回答は減少傾向にはないとみられる。むしろ増加傾向にあるといってよい。このように見えてくると、中間回答好みの傾向は安定して存在したのではないかと考えてよかろう。

図13 中間回答の変遷

ここまでくれば、この好みも日本的な特性といふことができる。なお、ここには、相対主義的な見方の増大と見做せるものもあり、この点も無視できないものがある。1993年も前回1988年から減少するものは1つもなく、従来の方向が引続き現れていると見ることができる。

なお、この中間的答好みは、日本人の特色の中の一つというよりも、日本人の態度構造の中核をなす(両極の明確な意見をもつものは少數である)のではないかと考えられるが、この観点からの分析は未だ不十分である。しかし他の調査だが、原子力発電に対する態度において明確な形が現わっている(林(1994))。

<アケ>

以上、人間関係、中間回答を分析してみて、日系人は、日本人とかなり似た傾向を示していることを知った。日系人調査は言うまでもなく、英語、ポルトガル語であり、日本語を話すことは例外である。それを越えて日系人に見られるこうした傾向は日本の特色的保持と見做すことができ、日本の大きな特色と見ることができよう。このようなものをJ-attitudeと名付けているが、少なくとも上述の2つは、J-attitudeの特色を示していると言うことができるだろう。

1.3 極端な表現が少ないこと

これは中間的答が多いことと呼応するのであるが、極端な表現を好まない傾向がある(林(1988))。“非常に賛成”が少ない、“まあ賛成”が多いという形である。日本人の学生に英語と日本語で調査をすると、日本語の場合は“非常に賛成”とあまり言わないが、英語の場合はそう回答するという結果がある。何が本

当かを調べる方法はないが、日本語の場合に表現が控え目であることは確かである。たとえば、“幸福を感じるか”、で“非常に感じる”、“まあ感じる”をあわせると各国とも大差はないが、“非常に”という所で差が出るわけで、こうした傾向のあることは心に留めておく必要があろう。また、この問題は中間的回答の分析と同じ傾向がある。たとえば、“賛成”、“どちらかといえば賛成”、“どちらかといえば反対”、“反対”のような段階のついた回答の質問を数問集めて数量化Ⅲ類を用いると、各質問の中2つの回答は中央に入りまじり、区別しがたい中間的回答と見做せる、という場合をよく経験している。段階のついた回答で国際比較がなされることがよくあるが、こうした点に気をつけるべきである。

1.4 自信と自虐意識

日本人が戦後経済の発展と共に自信を持ち始めてきたことはデータにはっきり示される。“日本人は一口で言って西洋人にくらべて優れていると思うか”という質問(#9.6)である。結果は図14に示す通りである。1993年では、“すぐれている”41%、“一口でいえない”20%、“同じだ”27% 一タテマエ的回答の大きな増大一、“劣っている”6%となり、“すぐれている”的減少分だけ“同じだ”が増大しているが大局的には“すぐれている”が一番多い。

これをみて、ナショナリズムの復活という意見の人がいるが、これは妥当ではない。自信の増大であり、他の調査によれば愛国心は低く、“外国から攻められたとき国を護るために自ら戦う”という回答も非常に高いわけではない。従来のナショナリズムと受けとるべきものではない。

図14 日本人・西洋人の優劣

さて、このように自信は増大しても日本人はものの悪い面に気が走るということが見られる。このことをみた東京都23区のランダムサンプルによる実験調査がある（基底意識研究会(1976)）。質問と回答分布を表12に示すが、頭ありといるのは各質問でアンダーラインの部分を追加したものである。この頭を付けずに質問した場合に比べてネガティブな回答が少ないのである。良い面悪い面の両方あることを意識させられるとポジティブな回答が増えるが、ただ質問をすると悪い面がより注目されるように思われる。西平重喜氏は次のように興味ある記述をされている（西平(1992)）。

‘次のうちから該当するもの（当てはまるもの）をいくつでも選んで下さい’という形の質問の場合アメリカ人は“やたらに”といいたくなるように、たくさんの項目を選ぶが、日本人は2つか3つしか答えない。たとえば「青年調査」で、11の選択肢のうち自分の国の誇りであると思うものをいくつでも選べという質問で、アメリカ人の青年は平均して5.5選択肢も選んでい

るが、日本では平均2.4選択肢しか選ばない。その結果、すべての選択肢で、アメリカ人は日本人より高いパーセンテイジを示している。

「青年調査」では“いくつでも選べ”という質問が12問、「欧洲調査」では6問あったが、それらの全質問を通じて、各国の人々が平均いくつの選択肢を選んだかを見ると、日本人の選択は少なく、アメリカ人はたくさんの選択肢を選ぶことがわかる。とくに日本人は直接に自分にかかわること、晴れがましいこと、ウヌボレと取られそうなことに対して遠慮する。しかし第3者としての批判や、嫌悪の情を表現する場合には外国人よりかなり多くの選択肢をあげるようである。’

表12 頭つき質問による回答の変化

なお、これに関連して、1973年から1993年まで5年毎に調査されたNHKの国民意識の調査（橋本・高橋(1994)）があるが、それによると、誇り意識はかなり高いものの、“現在でも日本は外国に見習うべきことが多い”と考えているものは、70%から76%まで単調増加の様相を示しており、「習うこと好き」の態度がよみとれ、唯我独尊的ナショナリズムの様相はみられないと言ってよかろう。

1.5 リーダーシップについて

これは、日本と中国との比較調査から得られたものである(林(1991, 1993a, 1994))。質問は表13の通りであるが、分析には、質問1のリーダーの資質として重要な3つを選ぶ項目、質問2と3の後ろに記号を付けた回答、質問4の伝統的文化（道徳）に関する質問では記号をつけた項目を用いた（これらの質問は、ハワイの East-West Center の G.Chu教授による）。それぞれの国別にパタン分類の数量化を試みたが、しかるべき結果は得られたもののそれほど面白いものではなかった。そこで日本・中国のデータ数をそろえて、ボンドサンプル（林・鈴木(1986)）によって数量化を行なってみると、きわめて明快な結果を得た。各質問回答カテゴリーの付置を図15に示すが、第1軸(¹X)において日本と中国の特徴がきれいに分かれることを知った。つまり、第1軸の値のサンブルスコアの分布（図16）をみると、日本と中国がきれいにわかれ、マイナスが日本、プラスが中国である。0点を日本人と中国人を判別する分割点とすると、日中の判別成功率は88%と極めて高く、おどろくべき判断成功率である。とりあげた質問の予測力が極めて高いことを知るのである。

表13 日中比較調査のリーダーシップ、伝統文化に関する質問

図15 日中ボンドサンプルによる分析（数量化III類）

図16 第1次元目のサンプルスコアの分布（数量化III類）

これほどまでに、リーダーシップが日中で異なっていることを示しているのは驚くべきことであった。マイナス寄りが日本のリーダーシップであり、プラス寄りが中国的リーダーシップである。敢えてその特色を書いてみると次のようになる。

日本的リーダーシップの条件

- 部下に尊敬・好かれる
- 仲間に誠意を以て接する
- 人間関係がよい、顔が広い
- 経験のある人、年輩で尊敬される人
- 年功を積んでいる
- 判断力が優れている
- 部下を公平にあつかう

伝統文化との関連

- 子孫繁栄(paternalism)
- 分別
- 中庸
- 和を以て貴しとする
- 寛容と礼節
- * 親の慈悲深さと子の孝行
- * 仁義道徳

中国的リーダーシップの条件

- 部下に利益をもたらす
- 技術的に優れている
- 若くて有能
- 決断力堅固としている
- 真剣に仕事をする

上記の伝統的道徳に関しては中国では誇りに感じるものは少なく、なくしてしまいたいと思うか、あるいは関係がないとするものが多い。日本では*印のものを除いてリーダーシップに関係が強いことは興味深い。

共産党教育のしみこんだ中国との比較の单なる一例であるが、日本では人間関係と関係深いリーダーシップは一つの特徴を示すものと考えてよからう（三隅二不二によるPM理論のM—メンテナンス（三隅（ ））に呼応すると思われる）。

なお、リーダーシップに関係深いものとして、国民性調査（1973と1978）に次のような質問もあるのでふれておく。これは日航の1985年の大事故以前のものであり、且つハワイ調査で比較しようとしたが、質問にならぬとして採用されなかったもので、外国では調査が行なえないようなものである。

質問(#7.16) 飛行機の事故があったとします。あなたはつぎのどちらの社長の態度がよいと思いますか。〔回答肢のリストを提示して回答をとる〕

1. 社長はまず犠牲者の家をあやまってまわる
2. 社長は原因の調査などに努力する。

結果は表14のようになる。“あやまってまわる”がより多い結果となってい

る。日本のリーダーの性格を考える上で一つの示唆を与えている。

リーダーに対する同様の傾向を示すデータと考察が、中間的回答好みと併せて文献（林(1994)）に詳述されている。

表14 飛行機事故の質問への回答比率（%）

1.6 意識の未分化（QOL調査に関連して）

日仏の比較、CREDOC (L. Lebart)との共同研究によって見出されたものである。QOLに関する各領域の質問をすべて用いて、日本とフランスのデータ分析を行なった。詳しくは（林(1986)）に発表されているので、それに譲るとして要点のみをあげておこう。

1次元目において、日本では中間的回答とそれ以外、2次元目にポジティブとネガティブがわかるという中間的回答の特色ある姿がここでも現れている。フランスでは1次元目でポジティブとネガティブがわかれ、2次元目に中間回答が分離するという解り易い形がみられた。いずれにしても、ここまではニュアンスの差はあるものの、内容的に大きな差はないものと見られる。

ポジティブの内容をさらにみるとフランスではQOLの各領域別にポジティブが分化している。つまりポジティブクラスターが領域別に分離していく、いわば独立している。ある領域でポジティブでも他の領域ではポジティブとは限らないことを示している。ところが日本においては、特別なものはあるが一般的に、ポジティブの領域がフランス程分化しておらず、かなりよくかたまっていて、いわば未分化の状態が強く見られると言ってよい。1つの領域でQOLがよいと他の領域でもよいという大局的傾向である。これは、伝統対近代の項で述べたと同様の傾向で、各領域での伝統・近代的回答が未分化で、どの領域にも通ずる伝統対近代という考え方の筋道が形成されたのと似た形である。このような考え方方が日本人にあるのではないかと予想させるものがある。他の国では無関係なものが、何かの見方・感じ方から1つの方向に方向付けられ、それが「1つの考え方の筋道」となって現れるという傾向である。勿論逆の場合も想像されるが、そのようなデータ的には経験したことではない。これに関連した分析は後述することにする。

1.7 科学文明観

とりあげる質問は付録2に、回答は表15に示す。日本の場合、一般的な科学の問題に対しては、かなりポジティブな回答を示していることが解る。しかし、科学で人の心の問題、社会経済の問題が解決できるかとなると極めて悲観的になることがはっきりしている。宇宙生活の実現性の回答も少ない。つまり、人間の

心が関係していることになると、科学が踏みこめないという意見が強いのである。しかし、繰返すが、一般的な事に関しては科学の力を評価しているのである。これも、外国とくらべたときの日本人の一つの特色である。ドイツもかなり科学文明に対してネガティブであるが、心の問題、社会の問題に対しては日本程ではないことに注目したい。

表15 科学文明に対するポジティブな回答(%)

1.8 自然観

自然、森林に対する態度を比較した日独仏調査がある（林・飽戸(1984) 23-38頁、四手井・林(1984)）。詳しくはそれら文献によるが、日本人の特色というもののみあげておこう。

とりあげた質問は表16による。これをもとに日本（東京）とドイツの各都市で分析をしてみた。

表16 自然観・森林観の質問（日独仏比較）

東京においては“森林に対する神秘的な感情あり”（質問A, B, C, D）と“森林に対する態度”（質問E, F）における回答とは独立の形をしているが、ドイツ各都市においては、神秘感と森林に対する“人間の手を加えねばならない”“人手の加わった自然が好き”の回答が一体となっているというおもしろい形が得られた。さらに述べると、東京においては、神秘感と森林に対する態度が独立しており、且つ、神秘感をもつものが“人手の加わらない自然が好き”“人間の手を加えるべきでない”のと同じ側にあり、神秘感をもたないものが“人手を加えるべき”“人手の加わらない自然が好き”と同じ側にある。このことに、自然保護・保全（コンサーベーション）のむづかしさが示されているといえる。

ドイツのフライブルグ、ノイエンブルグ（地方都市）、東京、宮崎の図柄をあげておこう（図17）。各都市の図柄の同異の相をM D A - O R（林(1993b)、林・鈴木(1986)、Hayashi・Suzuki・Sasaki(1992)）によって描いてみると、図17のように、説明を要しないほどはっきりした様相が示された。日本、特に東京の特異性があらわされている。

図17 自然観の心の構図

その1 フライブルグ その2 ノイエンブルグ
その3 東京 その4 宮崎

図18 各都市の布置

ここに示したデータは古いものになったが、1993年の「日本人の自然観に対する調査」（全国ランダムサンプル）によると、日本人全体としても全く同じ様な心の構図を持つことが知られた（林・林・菅原・他(1994)）。

1.9 宗教

国際比較において、宗教が特異的傾向を示すのはどこの国でも同じであるので簡単に触れるが、日本では、“宗教を信じる”ものは多くはないが、“宗教的な心は大切”というものが多いというのが特徴である。“宗教を信じるか”(#3.1)、あるいは“信じなくても宗教的な心は大切”(#3.2)というものを合わせると80%あまりで、この35年間変化はない。いわゆる大多数意見（全体で2/3以上、性・年齢・学歴のどの層でも2/3以上の支持のある意見）となっている。また、コーホート分析によれば、“宗教を信じること”は時期や生年コーホートによるではなく年齢（加齢）によって大きく左右される、つまり年をとると宗教を信じようになることを示している。外国との比較可能なデータは少ないが、オランダの例があり、これによると時期と生年コーホートが強く作用し、年齢はほとんど影響がないのである（林・鈴木(1986), Hayashi・Suzuki・Sasaki(1992)）。

これは、日本の一つの特色ではないかと思われる。こうしたことの背景として、素朴な宗教感情が以下に示すように極めて高いことがあるのではないかと思われる。次に示す質問が、1993年10月の全国ランダムサンプルで調査されている（林・林・菅原・他(1994)）。数字はパーセントである。括弧内はそれぞれ順に、1975年東京23区、1976年米沢地区、1977年東京23区、1993年関東都市圏のもので、地域は異なるが時を経て傾向的に増加しているように見える。

質問1 あなたは、日の出や日没、また静かな山のなかで、あらたまつた気持ちになったりすることがありますか。

- | | |
|---------|----|
| 1 ある | 78 |
| 2 ない | 17 |
| 3 わからない | 5 |

質問2 あなたは山川草木、山や川や草や木など、このようなものに靈がやどっているような気持ちになったことがありますか。

- | | |
|---------|-----------------|
| 1 ある | 37(31 24 24 33) |
| 2 ない | 54 |
| 3 わからない | 10 |

質問3 人間の自然開発の犠牲になったり、食糧になったり、実験に使われたりした動物に対して、感謝を挙げたい気持ちになったことがありますか。

- | | |
|---------|----|
| 1 ある | 59 |
| 2 ない | 30 |
| 3 わからない | 11 |

質問4 あなたは、神社の拝殿の前に立ったり、お寺で仏像を見たり、キリスト教の教会に入ったとき、心が落着いたり、あらたまつた気持になつたりしたことが ありますか？

1 はい 82(70 75 69 81)

2 いいえ 14

3 わからない 4

2. 意識の国際比較の観点からみた日本人と外国人の同異の姿

C L A の考え方にして、各国のものの考え方・見方・感じ方の同じところと異なるところを明らかにすることは、頭初にのべた研究主旨からみて重要である。この全貌をここに示すことは困難であるが、ここでは基本的に重要な点について書いてみることにする（詳しくは、統計数理研究所意識の国際比較委員会（1991）参照）。これまで主として、日本の特徴について述べてきたが、外国と同一のところもあるのでこの点もあわせて論じてみよう。

2.1 同一スケールの存在と国の位置付け—マクロ分析

調査に用いた全質問のうち、日本人の特徴を示す人間関係に関するもの及び分析の結果、別に取扱った方が望ましいことがわかつたいくつかの質問を除外し、残りの全質問をとりあげた。これを次の(ア)から(コ)の10の領域に分けてみると各領域は数問以上の質問からなる—それらが(コ)の政治的主義主張を除いて各国において1次元的ガットマンスケールをなすことが、パターン分類の数量化によって明らかになった。これは極めて重要なことである。問題を領域にわけてみるとポジティブーネガティブ、伝統-近代、楽觀-悲觀などと名付けられる1次元的尺度となる、ということはボーダーレスな考え方であるということが出てきた。これは大きな知見であった（統計数理研究所意識の国際比較委員会（1991））。

- (ア) 経済と帰属階層意識
- (イ) 不安全感
- (ウ) 先祖、家族、宗教
- (エ) 科学文明觀
- (オ) 健康觀と生活満足
- (カ) 金に対する態度
- (キ) 経済に対する態度、これからの見通し
- (ク) 信頼感
- (ケ) 家庭に対する近代・伝統
- (コ) 政治的主義主張

すなわち複雑に見えることが、こうした考え方の筋道の同一性を示すものに仕分けされたことが解ったのである。この限りにおいて、つまりそれぞれの仕分けされた中では、つまり局限された場においては国の間で誤解がおこり得ないわけである。そして、その中で各国の位置付けができるわけである。

ここで、政治的主義主張では、自由主義（リベラリズム）はアメリカで特殊な反応を示すのでここでは除外し、また（ア）と（キ）とは全く同じ傾向を示すことが解ったので（ア）をとりやめ、残りの8つのスケールについて分析を進めるにした。

各国において1次元的ガットマンスケールをなすので、各領域別にボンドサンプルに対してバタン分類の数量化を行ない、1次元目の個人得点の国別の平均値によって国の順位を決定した。ポジティブ（明るい）の方に若い順位、非金志向、伝統的方向に若い順位を与えることにした。この国別の結果は表17に示す通りである。

表17 各質問群別の国の順位

APMの方法（林(1993b), 林・鈴木(1986), Hayashi・Suzuki・Sasaki(1992)）を用いた分析結果は図19に示しておく。国の位置をみると、アメリカ（A）、日本（J）、イギリス（E）、が近く、ドイツ（G）、フランス（F）がはなれるという3極構造が出てきた。各領域をあらわすものとして、矢印のついた直線（矢印のついた方の意味は表17の右側に書いた順序の上の方の意味である）によってあらわされる。領域のクラスターは、

- 金に対する態度、先祖、家族
- 科学文明観
- 健康観
- 信頼感、経済
- 不安感

となるが、これはあくまでも各領域別のポジティブーネガティブ、非金志向－金志向、伝統－近代などの国別平均の順位の位置付けに準拠したものである。個人レベルでの領域間の相互関係を考慮した上のものでないことに注意されたい。順位相関は健康観の0.60を除いていずれも高く、8領域の平均は0.90で、この図19の図柄は表17の情報をよく盛り込んでいるということができる。

図19 8領域と国の総合表示（APM）

こうした部面に限定すると日本とアメリカは近く（このことはイギリスも同様）にある。しかし、前に述べたように、日本的なものを考えに入れた対人関係などの事項に関しては日本とアメリカは対極にある、という関係は興味のある問題で、十分心に留めておくべき事項である。このAPMの分析も単純集計で述べた時と

同じく、スケールをなす領域に分類した質問群での国単位のスケール値に基づく大局的事象把握によるものであり、関連性を考慮していないという意味で単純集計の場合と見做せるものなので、単純集計のとき述べた注意がそのままあてはまる。ひとつ次元の上がった意味での単純集計に基づく分析と言ってよい。

2.2 個人の回答パターンを基にする国の位置付け—ミクロ分析 その1

次の分析は、個人のスケールを構成している各領域への反応をもとにしたとき、つまり、各個人の領域別パターンを情報にしたとき、国別にどういう様相が見られるかの分析である。つまり個人の内部におけるスケール間の関連性をもとにした分析である。このため表18に示すAからNの各領域それぞれで5ヶ国すべてのデータを用いてパターン分類の数量化を行ない、得られた個人得点の分布を眺めた。個人得点がその人の示す各領域でのスケールを示すわけである。特に、1次元目でのスケールをなす7つ（金志向、信頼感、不安感、家庭観、先祖観、健康感、科学文明観）については、スケール（個人得点1次元目）の分布が、一応、25%、50%、25%となるように3区分に分類した。2次元目まで考えた方がよりすっきりするとの2つ、経済観と主義については、1次元目と2次元目の数値を用い、プラスマイナスの組み合わせで、それぞれ、よい（明るい）—中間—わるい（暗い）、民主主義・資本主義好み—社会主義好み—中間、の3分類とした。

今後の分析を理解するため、表18に、これから用いる記号と共に、それぞれの領域のスケールの名称と内容、スケールの3区分のコードとその意味を示しておく。また前述の領域との対応をカタカナで示してある。

表18 9つの領域のスケールとカテゴリー

ここで一つの方向を示すため、ある立場から○印をつけておいた。このことが、結果を見易くするために妥当であったことは、これからの分析で明らかになることである。これらの9項目を用いて国別にパターン分類の数量化を用い、それらの間に存在する考え方の筋道を明らかにすることにした。

理解し易くするために日本の分析から始めよう。図20である。

図20 日本におけるカテゴリーの付置

いまある立場から○印をつけたが、日本ではこれらが第1軸（¹X、1次元目）の右方、その対極（図中では□印）が左方、中間（図中では△印）が中央に一團となって固まるということが明らかになった（ここでの固有値は第1根0.20、第2根0.15で第1根がドミナントである）。このある立場とは、いわば「そうなる」ことを予想した日本の発想であったのであるが、○印をつけたのを仮にポジティブというニックネーム（内容的には十分正しくはないが）、対極をネガティブ、

コード2であらわされているものを中間と名付けておく。簡単な構造である。ポジティブ側は不安なし(E3)と先祖・家を重んずる方の反応(J1)と家庭観の伝統的な方の反応(F3)とが上下(2X、2次元目)で分離し、残りが一団となるといつてよさそうである。不安と先祖・家庭は別として、未分化という形である。これと中間が一団となり小さく固まつたクラスターをなしているのも、日本人好みの様相である。ネガティブ側は(D3 経済将来暗い、E1 不安あり)、(J3 先祖・家を重んじない、F1 家庭・結婚観近代的)とが両端、その間に(A1 金志向、K3 健康よくない)、(B3 信頼感なし、C3 社会主義好み、N3 科学文明觀ネガティブ)があるというクラスター構成である。

これ以上論じる前にドイツの結果をみよう(図21)。ドイツの場合も、第1軸(1X)で○印と対極の□印がわかることは日本と全く同じである(固有値は第1根0.20、第2根'0.15で差があり、この点も日本と同様である)。しかし中間コードがばらつき、ポジティブ側、ネガティブ側に入りこんでおり、日本のように第1軸で中間の答が中央に固まって他と分離するということはない。中間の反応は、たがいに他の領域ではポジティブ、ネガティブいずれかに寄るということがわかる。経済スケール(D)の中間はポジティブ側に、主義スケール(C)の中間はネガティブ側にというのがはっきりしており、さらに健康(K)、科学(N)、先祖(J)、家庭(F)の中間はポジティブ寄り、金志向(A)の中間、信頼感(B)の中間、不安(E)の中間はネガティブ寄りという特色ある形が見える。このことは単純集計データを読むときの参考になると言つてよからう。ネガティブ側で、(金志向、先祖・家重んじない、家庭の近代的な方の反応(A1、J3、F1))とその他が2つのクラスターを作つており、ポジティブ側はその対極としてのクラスターである。○印、対極がわかるのは同じであるが、中間の布置、ポジティブ、ネガティブのクラスターに違いが見出せる。

図21 ドイツにおけるカテゴリーの付置

各国別にみて行くと、同じようで異なり、異なるようで同じというキメ細かい同異の相がよみとれる。これについては詳しく論じている文献(統計数理研究所意識の国際比較委員会(1992))を参照されたい。小さな差異に見えたところも、実は大きな社会の違いを隠していることもあるので、得られた知見を土台にして、さらに慎重にものを考えていく必要があると考えられる。得られたものは、現象を探るための知恵となるべきものである。

これらをまとめてみると、考え方の筋道の大きな枠組としては、全く異なっているという姿はみられないが、似たところと異なったところがそれぞれ混ざりあって出てきていることがわかる。これらの考察を以下(1)から(4)に要約しておこう。

(1) 大局的な図柄の構成

第1軸(1X)で○印(ポジティブ)と□印(ネガティブ)が分離するのは、日

本、ドイツであり、イギリス、アメリカでは先祖と家庭を除いてこの形がみられ、こうした点では考えの筋道は異なっていない。しかし、イギリスとアメリカでは第2軸で先祖と家庭の伝統-近代が分離するという形が出て、第1軸と独立になっている点は重要な差異点である。フランスにおいてはこういうことはなく、日本・ドイツと同じ傾向であるが、○印とそれ以外が第2軸 (2X) できれいに分離するという事になり、考えの重点のおき所の差異が出ている。このことは第1軸の解釈に差が出ていることを示すものであり、家庭と先祖の近代的考え方他の項目のポジティブとより強く結びつくという点で、日本、ドイツとも異なった傾向となっている。このことに注目すると（日本・ドイツ）、（イギリス・アメリカ）、（フランス）というクラスターの形になっている。日本・ドイツの図を約45°回転するとイギリス・アメリカの関係が出る、90°回転するとフランスが出るという明確な大局的位置付けがここで明らかになった。これは、似ていながら考えの筋道の異なる一つの差異のタイプを示しているとまとめられる。

(2) ポジティブ・ネガティブ・クラスターの構成

ポジティブ（○印）、ネガティブ（○印の対極、□印）それぞれのクラスター構成において、国によって似ているようで異なっているところがある。これを明確に把握しておかないと誤解を生じてしまう。

まず、家庭に関する伝統的考え方と先祖や家を重んずる傾向、家庭に関する近代的反応と先祖や家を重んじないという反応、のそれぞれの結びつきはどこの国でも全く同じである。これらのクラスター各々と他のスケールのポジティブあるいはネガティブとの結びつきは、上述のように国によって必ずしも同一ではない。

以上のもの以外の領域におけるポジティブ側、ネガティブ側のクラスター構成は、表19、表20に示すように、必ずしも同じではなく、似ているところと異なっているところが国々において相互にずれていることがわかる。

これらのクラスター構成の微妙な差を無視してものを考えるとき、社会構造の重大なギャップを見落してしまうと考えられる。たとえばドイツでは他の国と異なり、家庭・先祖の伝統の方に非金志向が加わり、近代の方に金志向が加わるというのは、一つのドイツ固有の社会の反映ではないか。また、アメリカの、不安を強く感じる方の反応が社会主义好みと結びつくというのは、他の国では見られない大きな特色である。不安感を強く感じる方が、日本とドイツでは経済がわるくなるという方の反応と結びつくが、フランス・イギリスでは他と独立である。また、社会主义好みはアメリカ以外は一般的のネガティブと結びついている。このようなことが見られるのである。

こうした形をこれらの表から問題に応じて探し出してくることは興味あることである。

表19 ポジティブのクラスター構成

表20 ネガティブのクラスター構成

(3) クラスターの特異な結び付き

前述のようにアメリカでのみ見られたことであるが特記すべきことと思われる所以別項としておく。家庭・先祖の伝統的意見のクラスターが、不安あり・社会主義好みのクラスターに近いことである。これはアメリカ社会の一つの特徴を示していると考えてよいと思われるが 第1軸で近いし、第2軸でも近い、第3軸でも近い— これも今後、検討に値することと考えてよい。

(4) 各スケールの中間について

各スケールの中間（添字2 であらわされている、ポジティブ（○印）との対極のネガティブ（□印）の中間に区分されたもの（△印）が、すべて、その言葉通りに中間なのか、あるいは、ポジティブ、ネガティブいずれかの意味をもつものか、という点に着目した分析である。結果をまとめてみたのが表22である。日本のみ、中間スケールはポジティブ、ネガティブの中間に小さくしっかりと固まり、固有の意味を持っていることを示している。これまででも、中間回答は日本の特徴と述べてきたが、この分析においても中間の考え方という点においてもはっきりした形を示している。ドイツ、フランスは、中間スケールがばらついて固有の中間は少なく、ポジティブ、ネガティブのいずれかへ仕分けされることがわかる。アメリカは日本に次いで、中間が固有の意味を持ち、イギリスはそれに次いでいる。他の領域との関係で、中間の回答の持つ意味がそれぞれ異なっていることが出ているのであって、表21にはデータを読むときの大変な知見が示されているのではないかと考えられる。

例えれば、ドイツとフランスは中間の反応がいずれかへ振り分けられることが多いが、ドイツとフランスでは中間の反応の振り分けが逆になっているところが見出される。D2、K2 がポジティブ側、A2 がネガティブ側であることは同じであるが、F2、J2、N2 がドイツではポジティブ、フランスではネガティブ側、B2、C2、F2 はドイツではネガティブ側、フランスではポジティブ側にあるという反対の傾向である。

また、これについて次のような考察もできる。アメリカは、ポジティブの回答をする好みがある（あるいは、そういう色メガネでものを見る）、日本は中間の回答をする好みがある（いつでもバランスをかけてものをみるという色メガネをもっている）、フランスはネガティブの回答する好みがある（あるいは、そういう色メガネでものを見る）、のではないかという考え方である。実態は同一でも色メガネのかけ方で回答が変わるという見方である。その点でスケールの中間が他の領域、反応との関係でどちら寄りにあるかということは大きな情報を持っている。この点を以下に検討してみよう。

例えればフランスについてみると、科学文明(N)に対してはポジティブが多いので N2 と言えばネガティブと思えるし、不安 E3 が多いから E2 と言えばポジティブと見られる。いわばバランスである。健康(K)、経済(D)、主義(C)、信頼感(B)についても同様である。しかし、金志向、家庭への近代的反応、先祖を重んじないという反応は多いが、中間回答の A2、F2、J2 がネガティブに入っているのはバランスの意味ではなく、この領域では実際にネガティブと見られるので

ある。アメリカでは主義 C3 が少なく C1 が多いから C2 はネガティブに属するというのはバランス的であり、一方、経済、家庭では、D1、F3 が多いからこの中間 (D2、F2) がポジティブに属するということから、実際にこの 2 つの領域ではポジティブと見做せるのであろう。このように、本来、各領域でいずれの反応 (つまりポジティブ・ネガティブの反応) がドミナントであるかによって結論が変わってくるのであるが、中間がポジティブ・ネガティブのどちらに属する、あるいは近いかを調べることによって、その意味を探ることができるのである。バランスという言葉で上に定義したことが極めて多い場合は、偏った色メガネで見ていることができよう。

こうみると、フランスもアメリカも、必ずしも上に言及したネガティブ・ポジティブの色メガネで全てのものを見ているとは限らないと言った方がよい。領域によって色メガネを変えているという見方もあるが、こうなると領域ごとに見方が違うのだと考えた方がよい。色メガネという表現はすべての面で、偏った見方をしているということを意味するからである。日本の場合に中間が多く、それがすべて固まのは、そうした色メガネの傾向がある—そのようなものの見方が顕著である—ことを現すと言ってよいように思う。

このようにみると、中間のスケールをどのように見るかは、表 2-1 を眺めて、それぞれの領域で決めるほかはない。

表 2-1 中間スケールのクラスター構成

さて、こうした考え方の筋道の違いを一応不間に付して、5 カ国をボンドしたサンプルにおいて、バタン分類の数量化を行なってみたらどうなるか。国そのものも個人の回答の一つとしてデータの中に入れたとき、国と回答（意識・態度）との結び付きが、回答相互の結び付きを超えて優勢に出てくるものであろうか。

結果は図 2-2 に示すが、国の特色が明確に出てきた。

図 2-2 各国の布置と回答カテゴリーの布置（その 1）

国の分類が優勢で、それぞれの国のもとにその国の特色ある回答（国との結び付きのとりわけ強いもの）が出ているという形になった。総合的分析による各國の布置（図 2-2）は第 1 軸 (¹X) で（日本、アメリカ）（イギリス）（ドイツ、フランス）という形が出、第 2 軸 (²X) で日本、アメリカが分離し、第 2 軸で日本寄りにドイツ、アメリカ寄りにフランスが分離し、イギリスは中央にとどまるという形である。いわば正方形の各点に日本、アメリカ、ドイツ、フランスが位置し、中心にイギリスがくるという形で、似た所と異なる所の関係が、こうした質問群によるスケールの間の関連性のなかで浮かび上がってきたのである。各國のもとに集まるところは、

日本（信頼感あり、主義中間、経済中間、不安なし）

アメリカ（先祖を重んじる、科学文明観ポジティブ、非金志向、家庭中間）
ドイツ（家庭近代的、先祖重んじない、科学文明観ネガティブ）
フランス（不信感、社会主義好み、経済将来暗い、不安大、健康よくない）
イギリス（金志向、中間の考え方）

というのが出ており、一応国の相対的特色となっている。大まかに言えば、フランス、ドイツはネガティブが、アメリカ・日本はポジティブが特色であり、イギリスはそれらの間にあるというのが特色となっている。

2.3 個人の回答パターンを基にする国的位置付け—ミクロ分析 その2

2.2 で大綱をつかんだ上でさらに次のものを加え、より一層総合的なものにした。自然観・宗教・イソップ物語の“アリとキリギリス”、環境・エネルギーに関する態度である。これらがどう絡み合ってくるかがここでの関心事である。

追加したものは、スケールではなく、普通の質問の回答である。まず、これらの質問のニックネーム、コード、カテゴリーの特色を表22にあげておく。

表22 追加質問

国別の分析を進めると考えの筋道の似ているところと異なっているところが剔出されたと見ることができた。この綾模様は、文化の異なる諸社会の深い面を探り出しているように思えるのである。（詳しくは文献（統計数理研究所意識の国際比較委員会(1991)）参照）。

さて、こんどはこのくらいの違いを認めた上で各国をボンドし、パターン分類の数量化によって、これらの質問群の関連性の上に立った心の構図に基づく国の差異が、どのように出てくるかを見てみたい。きめの粗い分析であるが、その結果は図23に示すように、実に面白い三極構造が得られた。つまりアメリカ、ヨーロッパ、日本という形である。このうちイギリスはアメリカの方により近い点も面白い。それぞれの近くにある回答をみると、その包括的にみた相対的な特色を大掴みに現すことができる。これを表23に示そう。一言で各国の特性をいうならば、日本の中間回答好み、アメリカは先祖を重んじ宗教を信じ、宗教的な心は大切、プロテスタントとの関係はより密接、ヨーロッパは一般に暗いイメージで家庭観の近代的な方により関係深く、より社会主義好み、カトリックとの関係がより密接、という形が描き出されたことになる。

図23 各国の布置と回答カテゴリーの布置（その2）

表23 国別の特色

なお、第3軸においてフランスとドイツ・イギリスが2分され、このドイツの特色は*印をつけたものにある。

結果が出てみれば、首肯できる形であるが、いかにも粗いものである。ほとんどすべての質問を入れてその関連の上に立って、国の特色を細かい点を抜きして掘ると、このようになったということである。詳しい事を知った上で要約としては面白いものである。しかし、ニックネームができレッテルが貼られても、これだけでは大雑把過ぎ、立ち入ってみれば内容的には何の意味もない。これまで述べてきたような、あるいは文献（統計数理研究所意識の国際比較委員会(1991)）で示したようなより突っ込んだ分析が大事であって、時に大局的に掘み、時に細かく分け入ってその同異の綾を読むことが、人間理解・社会理解・文化理解に大切な方法論であろう。どこで近く、どこで異なるかは相互理解上重要なことであるが、これについては目下のところ上記の文献以上のこととは出でていない。

2.4 回答の意味の解釈—イソップ物語と関連する社会的態度をめぐって—

もう一つ別の角度から話を進めよう。前にとりあげたイソップの物語“アリとキリギリス”(#7.82)の構造的分析である(Hayashi(1992d), 統計数理研究所意識の国際比較委員会(1991))。“アリとキリギリス”的話の結末として、“食べものを与えていさめる”、“嘲笑して追い返す”、の2つのうちどちらが気持ちにしつくりするかをめぐる分析で、この結末を、怠けることへの訓戒の面を強調するか、やさしさから食物を与えるか、あるいは慈善(施し)の意味で食べものを与えるか、等の議論が様々な形ができる話題である。テキストの分析だけからも、いろいろ議論できるが、一般の人々の考え方としてどのようなものであるかを総合的に明らかにしようとしたものである。とりあげた質問を表24にあげておく。

表24 イソップ物語（アリとキリギリス）と関連する社会的態度の質問

まず、すべてを含めて国別にパタン分類の数量化を行なってみたものを模式化したのが図24である。S1(追いかえす)、S2(食物を与えていさめる)、を中心には円が描いてある。S1、S2クラスターの位置に着目しよう。日本とアメリカは第1、第3象限にそれらがある。フランスとイギリスは第1軸(¹X)に、ドイツは第2軸(²X)にそれが出ている。この点のニュアンスの差がまず注目される。

図24 “アリとキリギリス”と関連する社会的態度の付置

これからみて、信頼感-不信感、宗教重視-非重視が関連してくる。これをT-U-T、R-U-Rと書くと、第1軸で(T、R)-(U-T、U-R)の傾向にあるのは日本、ドイツであり、イギリス、アメリカと続き、フランスは第1軸でT-U-T、第2軸でR-U-Rとなりこの両者が独立の形になる。

S1 と S2 との関係をみよう。

	S2	S1
ドイツ	T	UT
フランス	T(寄り)	UT
イギリス	T(寄り)	UT
アメリカ	T(寄り), R.	UT
日本	T, R	UT

となり、全体的に S2 の近くに T があり、S1 クラスターに UT が入る。R が他より S2 に近いのは日本とアメリカということになる。

ここまでみると、大局的に同じであるが、それぞれの間でニュアンスの差が少しあることがわかる。

次に S1 クラスターに共通に入るものをみたのが表 25 である。大局的にまとめてみると金志向、人間不信頼、孤独、ポジティブでない社会的態度というものが入るのはどこの国でも同じであるということになる。各国でみて、全てに共通ではなくいくつかの国のみに入っている特色あるものを表 27 に集約して示してある。ある国のみに入っているものは、その国の特色であると言ってよい。カテゴリーの記号とそれらの内容を要約してあり、これを詳しく読めばよいわけである。

表 25 S1 の周りのクラスター（各国共通のもの）

表 26 S1 の周りのクラスター（国の特徴）

さて S2 の方の特色であるが、共通なものは表 27 に示してある。この共通の特色をまとめてみると、

- 失業の不安を感じない
- 満足
- やりとげた感じのもてる仕事
- 一般的な人間関係の重視
- ポジティブな社会的態度とライフスタイル
- 孤独でない関連の中にある生活を好む
- 温情主義的
- 非金志向

というのが大局的な傾向である。S1 の場合と同様に、ある国のみ S2 クラスターにその項目が属しているというのは一つの特色である。これは表 28 に示してある。

こうした S1、S2 に関する関連する回答を集約したものが表 29 であって、これによって共通するところと特殊であるところが理解できるはずである。

表 27 S1 の周りのクラスター（各国共通のもの）

表28 S1の周りのクラスター（国の特徴）

表29 S1、S2の共通の性格と国別の特色

以上をまとめてみよう。全体的に構造を見れば同じ様な様相を示しながら、国によりニュアンスの異なるものがでている。さらに、S1、S2の内容をみると、これも大局的に同じ様相をみせながら、国によって相異なる特殊のものがそれぞれにむすびついている。このように同じところと異なったところがみいだされ、ここでも、共通のところを鎖として特殊の項目が相互に結びついているという心の構図がC L A（連鎖的比較分析法）によって描き出されたわけである。

共通的一面のみをとらえ同じだとして特殊の面を切り捨てて議論を進めれば、思わぬ違いに出会い、また特殊的一面をとらえてこれを強調し拡大するならば、大きな誤解に遭遇することになる。共通のものを鎖として特殊なものを絡ませて同異の姿を見ることが重要であることをこの分析は如実に示している。

以上は、統計数理研究所意識の国際比較委員会(1991)における分析に基づいているが、しかしそれ以後別角度から非常に興味あることが解ってきた。これも似た所と異なる所を知る一つの手掛けである。これを次に述べる。

2.4 意識の分化と未分化の諸相

さきにQOLについてこの問題を論じたが、ここでは国際比較の観点から考察してみよう。これは、健康と社会意識の関係である。質問は「国民性を探る」には一見異様と見える質問の組み合わせで、C L A法の核心に触れるものがある。

質問(#2.80) ここ1ヶ月の間に次にあげるものに悩みましたか。（かかりましたか。）[a～eの項目リストを提示して回答をとる]

- | | | |
|-----------|------------|------|
| a. 頭痛、偏頭痛 | 1 かかったことあり | 0 なし |
| b. 背中の痛み | 1 かかったことあり | 0 なし |
| c. いらいら | 1 かかったことあり | 0 なし |
| d. うつ状態 | 1 かかったことあり | 0 なし |
| e. 不眠症 | 1 かかったことあり | 0 なし |

回答は表30に示すように、日本は“かかったこと”が少ないのである。総じてフランスの回答が多いのである。この質問はフランスの共同研究者がとり入れることを主張したもので、この分析でその理由が解ったのであるが、問題はこれと他の質問との関連性である。その前に男女の差をみよう。いずれの国でもの方が“かかったこと”が多いのはまず注目される（表31）。その差（男の“かかったことあり”の比率から女の“かかったことあり”の比率を引いたもので、

マイナスは女の比率が男より多い事を示す) の合計をみると、日本は差が少ないのである。つまり日本は総計でそうしたものに“かかったこと”も少ないし、男女差も少なく、女の“かかったこと”が世界にくらべて大いに少ないことを示している。これは面白い。“かかったこと”が女が多いのはどの国でも同じであるが男女の差は日本が最も少ないのである。この意味は、さまざまなものを持んでおり、含蓄のあるデータである。

表30 国別回答率 (%)

表31 症状に“かかったこと”的男女差(男の比率-女の比率)

さて、これに不安感を加えて分析する。質問は次に示すものである。

質問(#2.30) ときどき、自分自身のことや家族のことで不安になることがあると思います。あなたは、次のような危険について不安を感じることがありますか。〔4段階の回答(1:非常に感じる、2:かなり感じる、3:少しある感じ、4:全く感じない)のリストを提示して、a.~e. それぞれに回答をとる〕

- a. まず、「重い病気」の不安はどの程度でしょうか。
- b. では、「交通事故」についてはどうでしょうか。
- c. では、「失業」についてはどうでしょうか。
- d. では、「戦争」についてはどうでしょうか。
- e. では、「原子力施設の事故」についてはどうでしょうか。

この症状と不安感の両質問を合わせ、国別に数量化III類を行なうと、カテゴリーの付置($^1X \times ^2X$)は図24に概略を示すごとく、きれいな差異が出てきた。

図25 不安全感と健康状態の意識構造

2次元付置をみると、ヨーロッパの諸国は、症状の有無と不安の有無の間にいわば独立的な関係がみられ、日本とアメリカはともに両者が1次元的構造を示すことが出ている。第1軸(1X)のみでみると各国とも同じ傾向(症状あり・不安あり 対 症状なし・不安なし)であるが、さらに細部構造をみると、1次元構造と独立的構造という差が出ているのである。つまりこの多次元的構造でみると、両者未分化の日本とアメリカに対する両者分化のヨーロッパ諸国という構図が見出される。この点アメリカと日本は似ているのである。

こんどは、社会状況(Social Conditions、S.C.と略記)と未来に対する予想の質問をとりあげてみる。

質問1 日本人全体の生活水準は、この10年間でどう変わったと思いますか。

〔回答肢のリストを提示し回答をとる〕

- | | |
|------------|-------------|
| 1 非常によくなつた | 4 ややわるくなつた |
| 2 ややよくなつた | 5 非常にわるくなつた |
| 3 変わらない | |

質問2 あなたの生活水準は、この10年間でどう変わりましたか。〔回答肢リスト提示〕

- | | |
|------------|-------------|
| 1 非常によくなつた | 4 ややわるくなつた |
| 2 ややよくなつた | 5 非常にわるくなつた |
| 3 変わらない | |

質問3 これから先の5年間に、あなたの生活状態はよくなると思いますか、それとも悪くなると思いますか。〔回答肢リスト提示〕

- | | |
|--------------|---------------|
| 1 非常によくなるだろう | 4 ややわるくなるだろう |
| 2 ややよくなるだろう | 5 非常にわるくなるだろう |
| 3 変わらないだろう | |

質問4 これから先、ひとつとは幸福になると思いますか、不幸になると思いますか。

- | | | |
|-------|-------|---------|
| 1 幸福に | 2 不幸に | 3 変わらない |
|-------|-------|---------|

将来に対する予想の質問

質問5 これから先、心のやすらかさは、ますと思ひますか、へると思ひますか。

- | | | |
|------|------|---------|
| 1 ます | 2 へる | 3 変わらない |
|------|------|---------|

質問6 では、人間の自由は、ふえると思ひますか、へると思ひますか。

- | | | |
|-------|------|---------|
| 1 ふえる | 2 へる | 3 変わらない |
|-------|------|---------|

質問7 これから先、人間の健康の面はよくなってゆくと思ひますか、わるくなると思ひますか。

- | | | |
|--------|---------|---------|
| 1 よくなる | 2 わるくなる | 3 変わらない |
|--------|---------|---------|

この7問と健康状態をあわせ、国別にパタン分類の数量化を行なうと、カテゴリーの付置 ($^1X \times ^2X$) は概略、図26のようになる。

図26 社会状況、その将来の予想、健康状態の意識構造

2次元構造をみると、健康状態と社会意識とが独立な形を示すのが、フランスとイギリスである。1次元的には“症状あり”は“社会状況は悪い”・“将来を悪く見る”と結びつくが、さらに立ち入って分析すると、独立な様相がみえてくるのがこの2カ国であり、1次元構造をなすものとして、今度は、日本・アメリカにドイツが加わっているのである。これは、症状の有無つまり健康状態と社会意識が未分化、一体をなしているということで、“症状あり”が“社会状況を悪く見る”こと、“将来を悪く見る”ことと一体であり、“症状なし”はよい方の

意見に結び付いているのである。心のもち方のありさまが国により異なっているが、その中で、日本とアメリカは一体として意識するものが共通している、つまり容易に特に意識することなく理解しあえる心の構図であることがわかる（しかし、ここでとりあげた問題のことであり、別の局面からみると前述のように日米は両極にあるのである）。

このようにみてくると、意識の結びつきに同異の姿のあることがわかり、同じ心の構図（考え方の筋道）があるところでは特に意識することなく理解し合えるが、これが異なると相互理解は特に意識して慎重に事を進めねば得られるものでないことが解る。国際比較研究を通してこのような様相が描き出されたのである。

後注　日系人調査の意味

日系人の問題を日系人の問題として行なうことは、我々としては困難な問題である。この問題を追求するには、日系人の研究者と問題意識を論じ合う必要がある。しかし、日系人の問題意識が我々の日本人研究にとって「目から鱗のおちる」ような視点を与えることがある。この一例をあげてみると、日本人移民がとった行動である。直ちに、人の間の組織化ができるのだそうである。つまり「長」がきまり、幹事がきまり、事務局が自ずとできて、役割分担がきまり、組織が動くのである。新しい技術の導入・普及、新しい法律の理解と適用などの知識の普及も、これを通して行なわれた。第2次大戦中は、「眞のアメリカ人になりきることこそが、眞の日本人のあり方である」という考え方が教育されたという。こうした組織があるがために日系人は発展して行ったとのことである。こうした組織は、中国人、韓国人はもとより他の民族ではない、ただユダヤ人にのみこうした傾向があるということである。これが日本人のものの考え方、感じ方のどこに胚胎するかを調べることに興味があることを聞かされた。これは素晴らしいアイディアで、日本人ではどうしても気の付かなかった問題である (Fugita, S.S. & O'Brien, D.J., *Japanese American Ethnicity*, University of Washington Press, 1991)。こういうわけで目下アメリカのフランク・ミヤモト教授、ステファン・フジタ教授、テツデン・カシマ教授と共同研究を進めている。

我々としては、前に述べたように日系人に残っているもの、つまり日系アメリカ人の場合、アメリカ人と異なり日本人に近いものを探り出し、それをJ-attitudeと名付け、日本人の国民性の特色をみるという立場をとってきた。このJ-attitudeには「人間関係を重くみること」、「中間的回答の多いこと」が見出され、これについて、日本人の時系列的にみた安定性があることから、明らかに日本人の特色と言うことができる。

以上のような2点から、我々が日系人の調査を行なう意味が重いのである。

図1 7カ国とJA、JBの布置

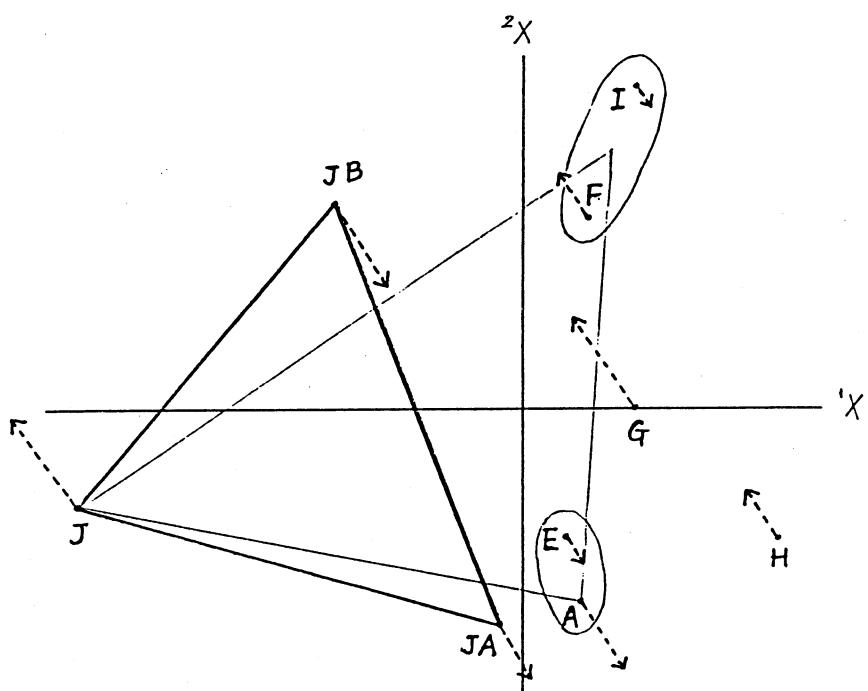


図2 義理人情の考え方の構造の安定性

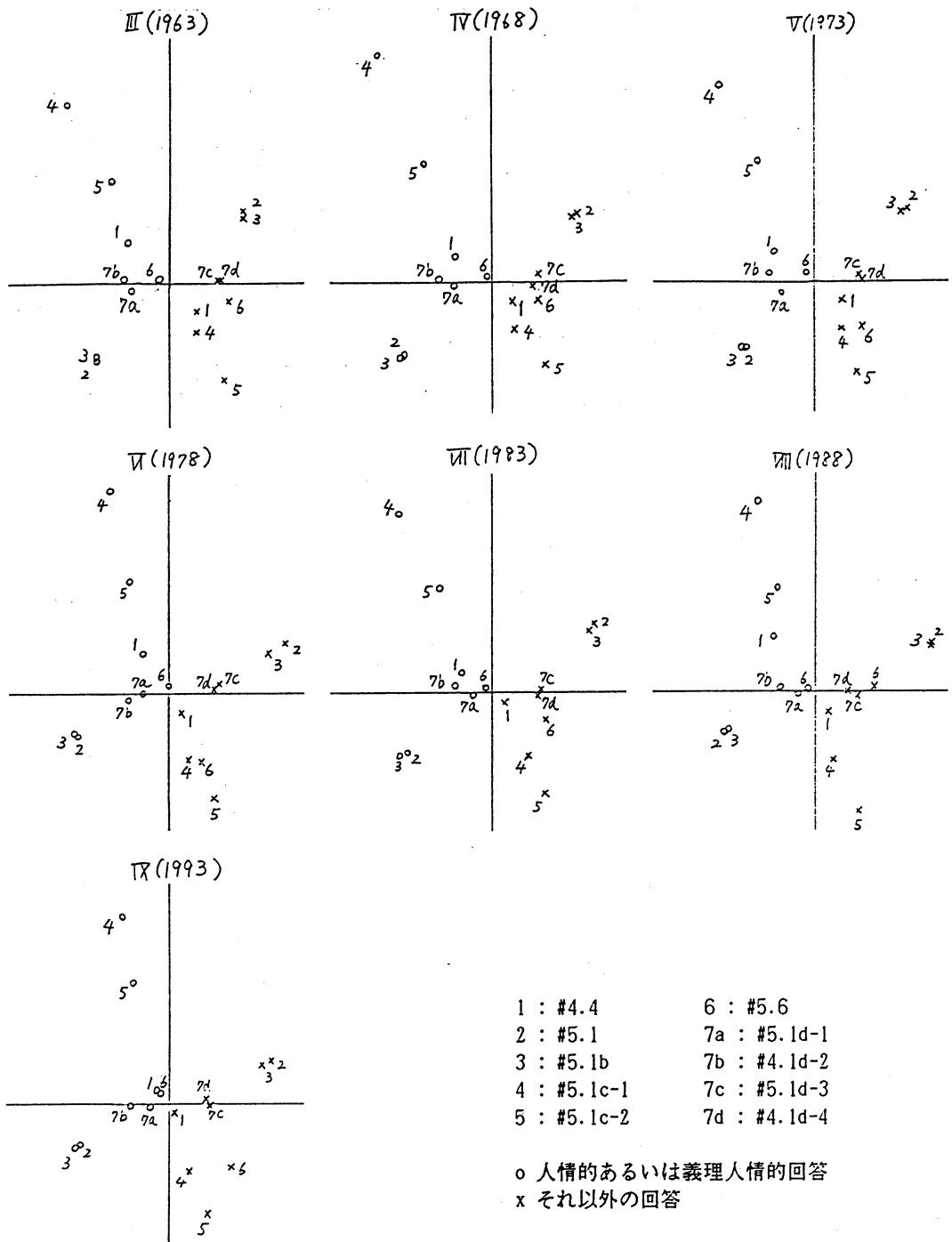


図3 義理人情の構造の近さに基づく諸国の位置付け

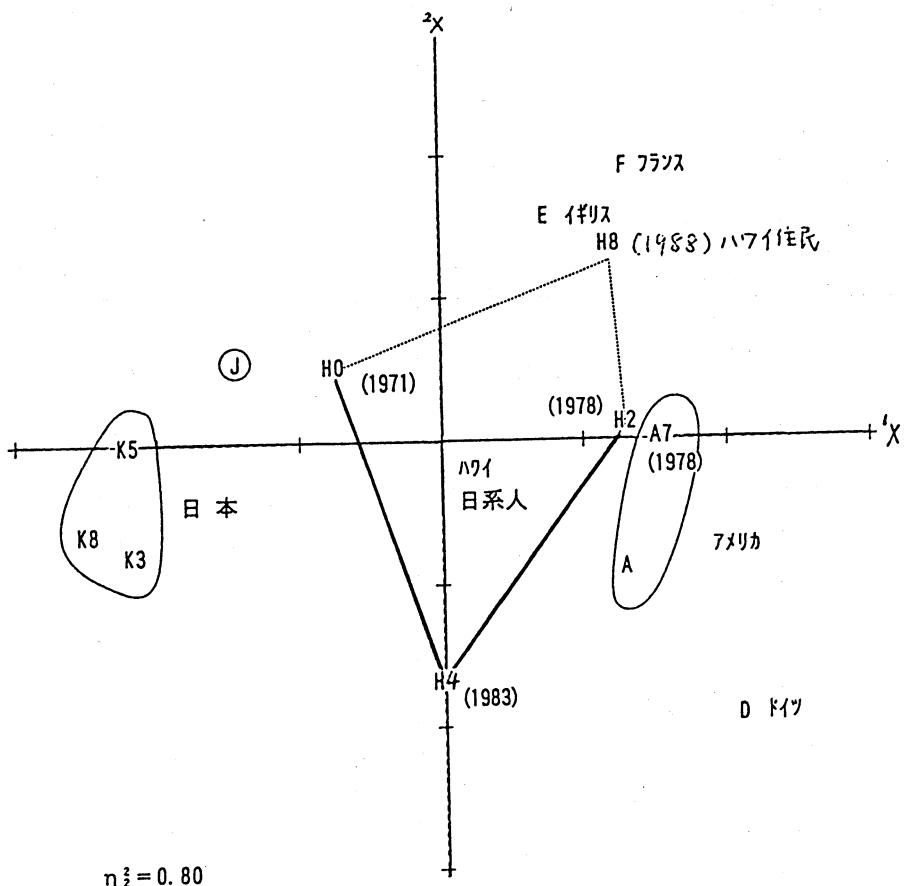
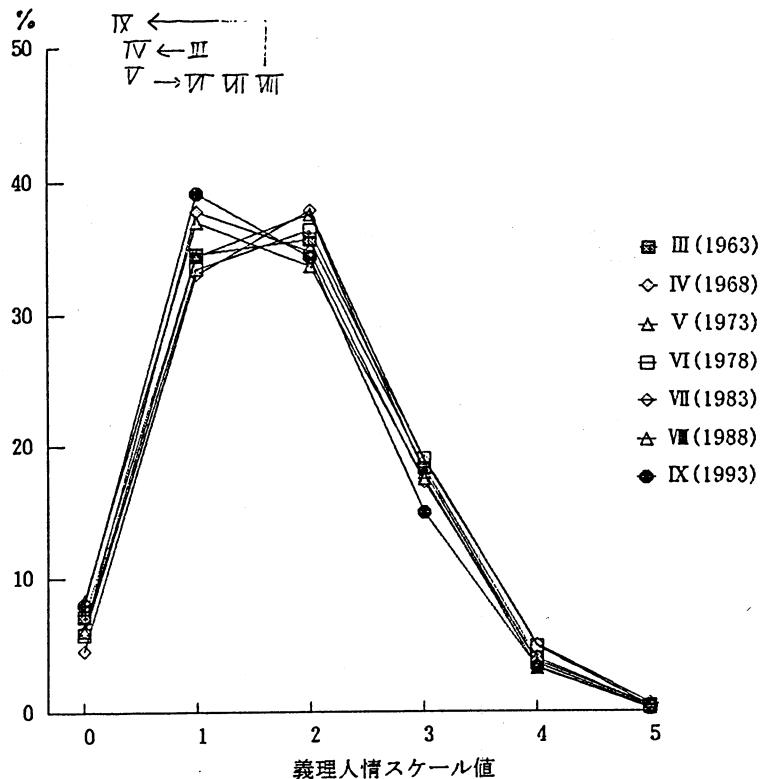


図4 義理人情スケールの分布



注) VII(1983)とVIII(1988)はほとんど同じ分布である。

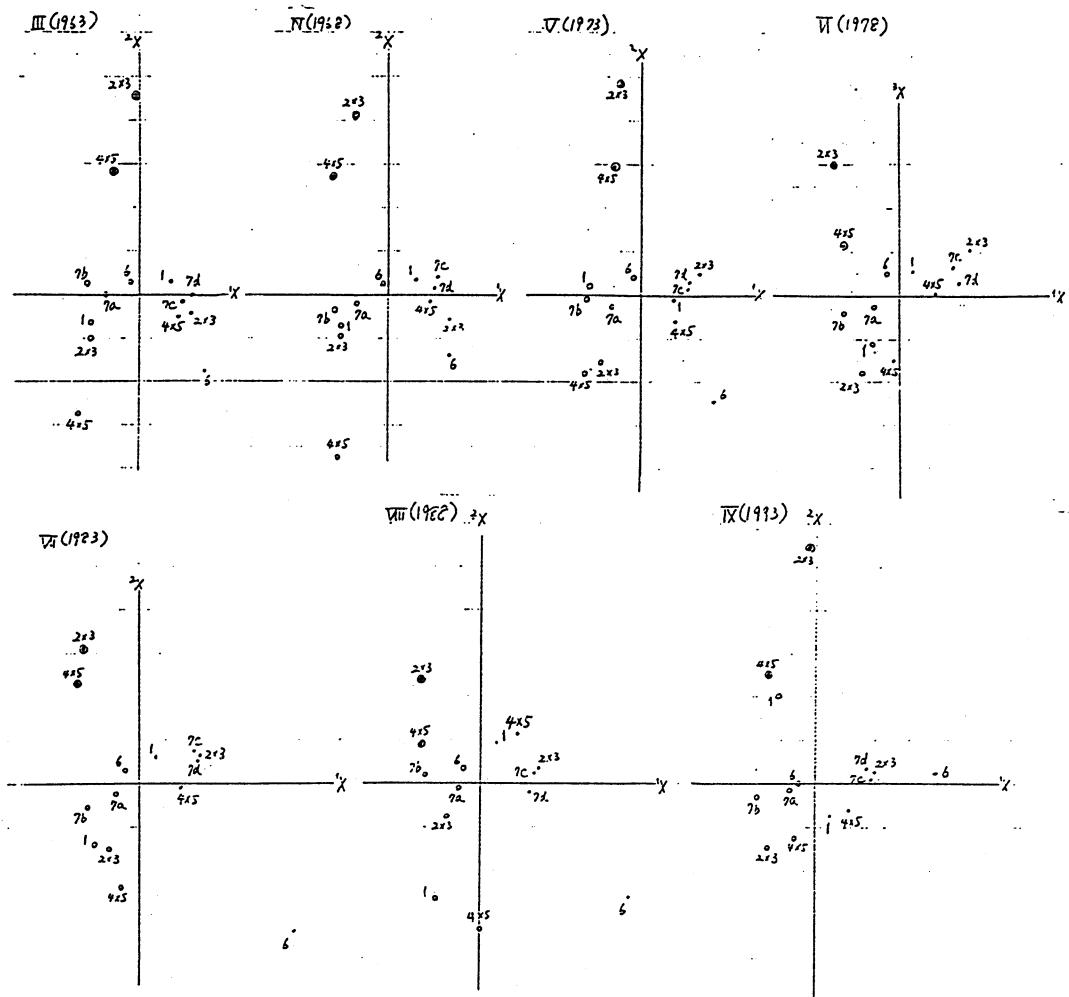
1993年はこの分布においてもや、義理人情的でない方に傾くやに見えている。この点を少し検討してみる必要がある。1993年調査は1988年調査と比べて調査条件が多少異ったために、その他・DKの比率(%)の変化が全般的にみると傾向的にや、多目になっている。

その他・DK 義理人情的回答

	1988	1993	1988	1993
#4.1	15	17	23	24
#5.1×#5.1b	10	10	10	9
#5.1c-1×#5.1c-2	9	12	26	21
#5.6	4	5	87	82
#5.1d	1	4	34	31

一方、非義理人情的回答は、上述の質問の順に #4.1では 62→59(逆に減少)、#5.1×#5.1b では“親のとき故郷へ帰る”がへり、“会議出席”が多くなる傾向(4~5%)があるが、“恩人のとき会議”は 1%の差しかない。#5.1c-1×#5.1c-2 でも 1%の差で変化はない、#5.6も 10%→12% で一方向に大きく傾向がズれていることはない、#5.1d も 1% の差しかない。義理人情的回答と、その他・DKの関係で義理人情スケールが減少気味になっているということができよう。

図5 義理人情的態度の構造の不变性



注) #4.1

#5.1×#5.1b

#5.1c-1×#5.1c-2

#5.6

#5.1d

○否定

◎親類の場合会議
恩人の場合帰る

◎親類の場合一番
恩人の場合恩人の子

○めんどうを見る課長
○親孝行
○恩返し

・賛成

○ともに帰る
・ともに会議

○親類
・ともに一番
恩人の子

・無理をさせない課長
・権利の尊重
・自由の尊重

図6 その1 ハワイ住民のグループ別義理人情スケール分布

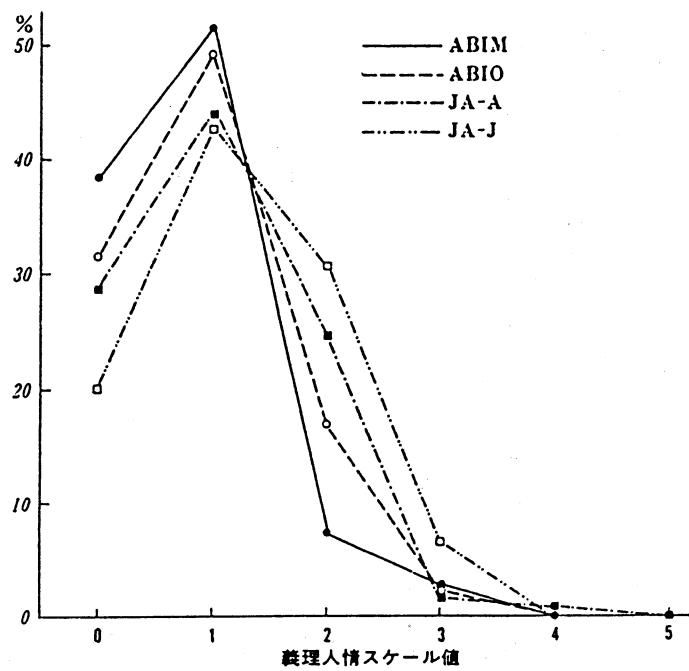
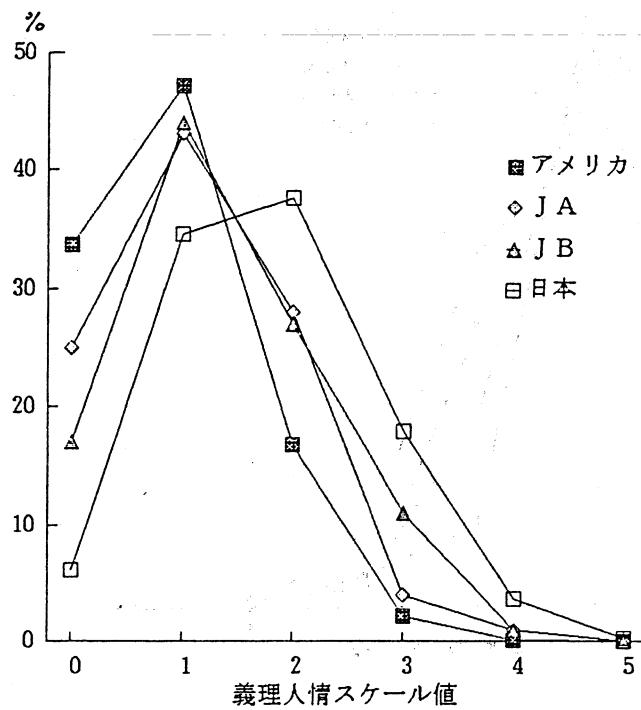


図6 その2 日系人とアメリカ、日本の義理人情スケール分布



注) A : アメリカ人(1988)
J : 日本人(1988)
JA : ハワイ日系人(1988)
JB : ブラジル日系人(1991)

図7 中間回答のある質問の回答分布（日本人と在京米英人）

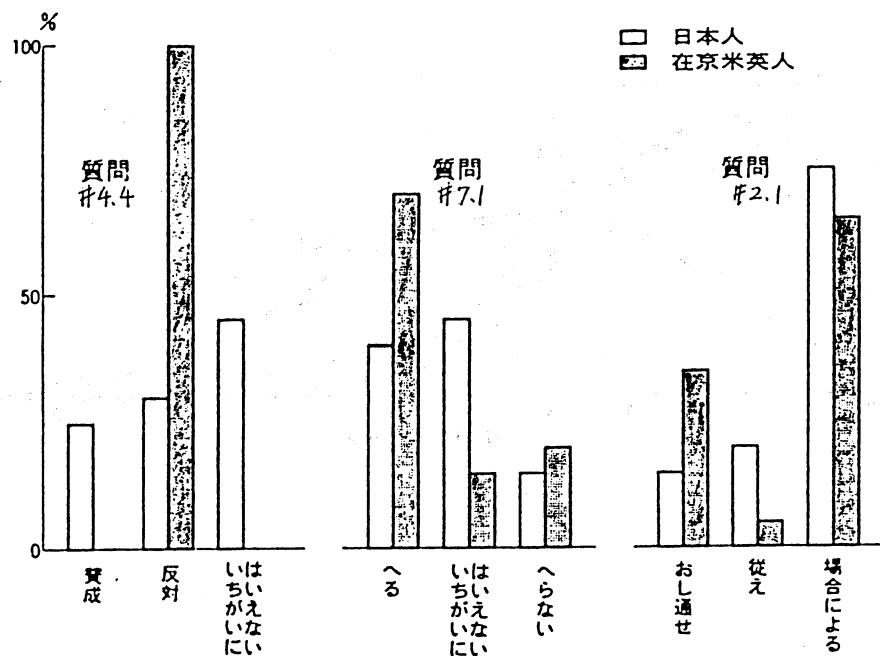


図8 オハジキ配分の分布

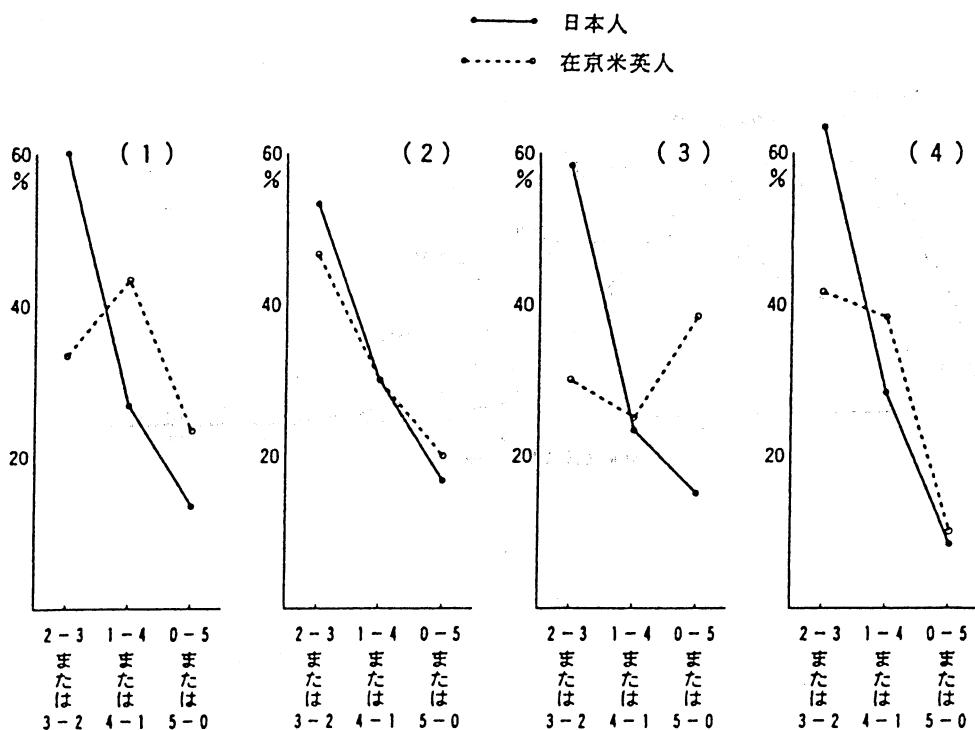


図9 5カ国における中間回答スケールの分布

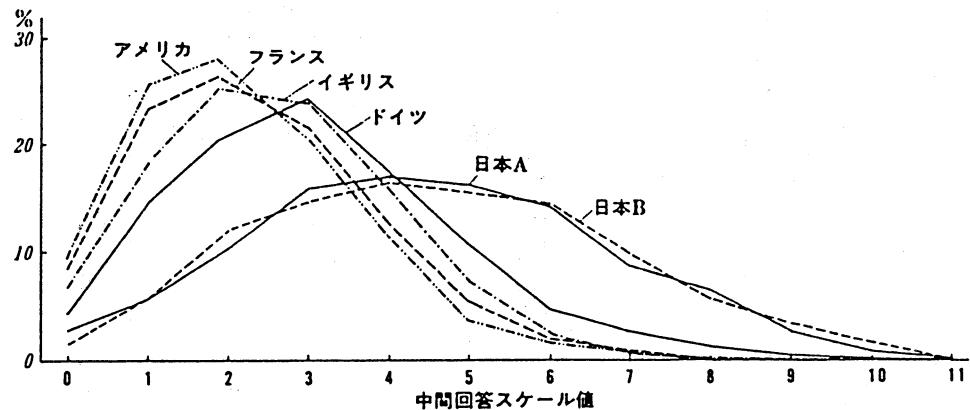


図10 日本、ハワイ、アメリカにおける中間回答スケール分布

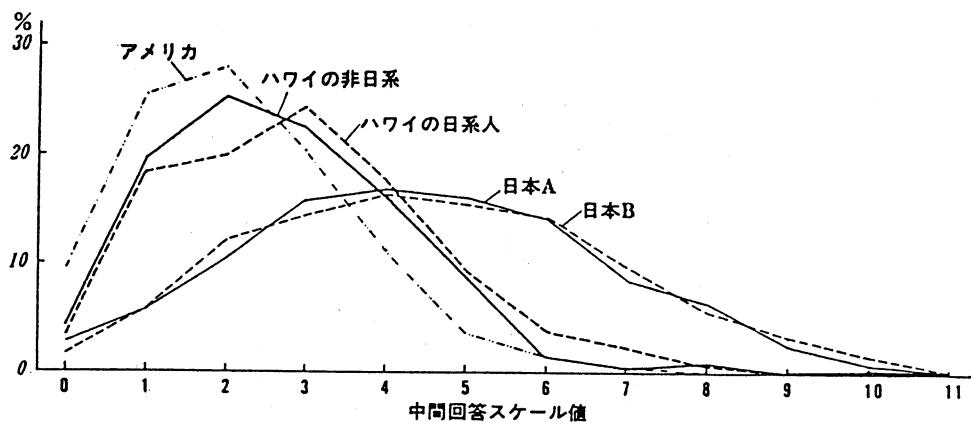


図11 日系人の中間回答スケール分布

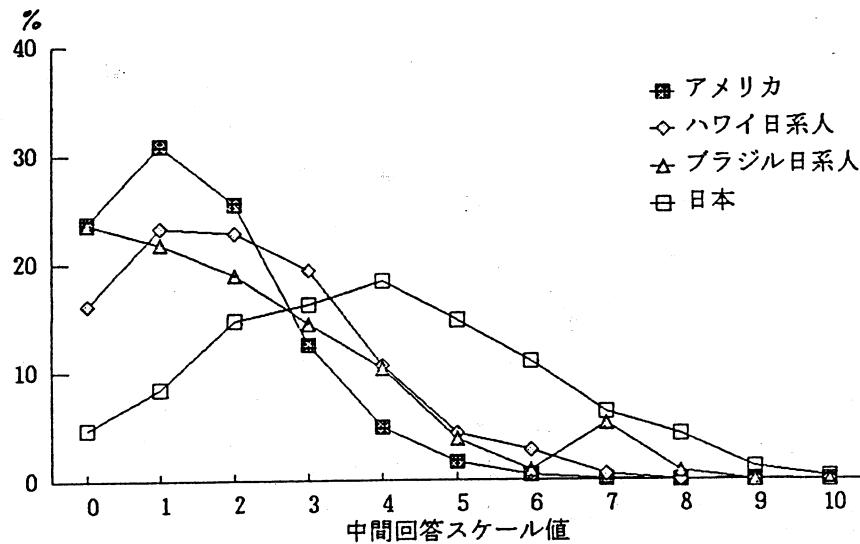


図12 中間回答スケールの分布による国配置

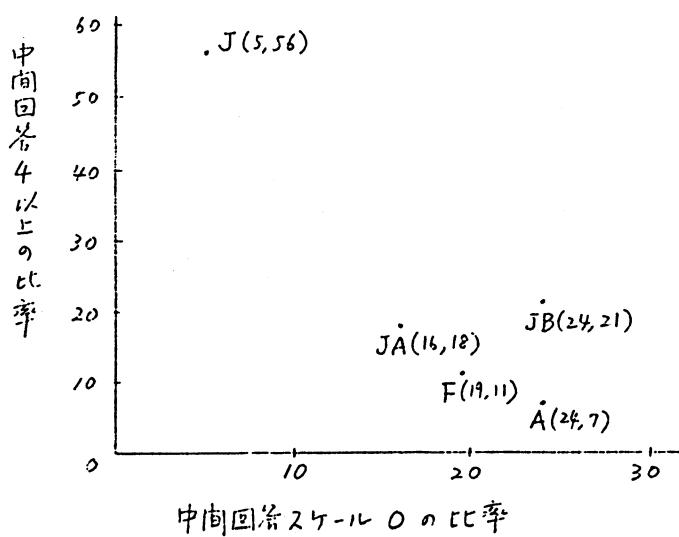
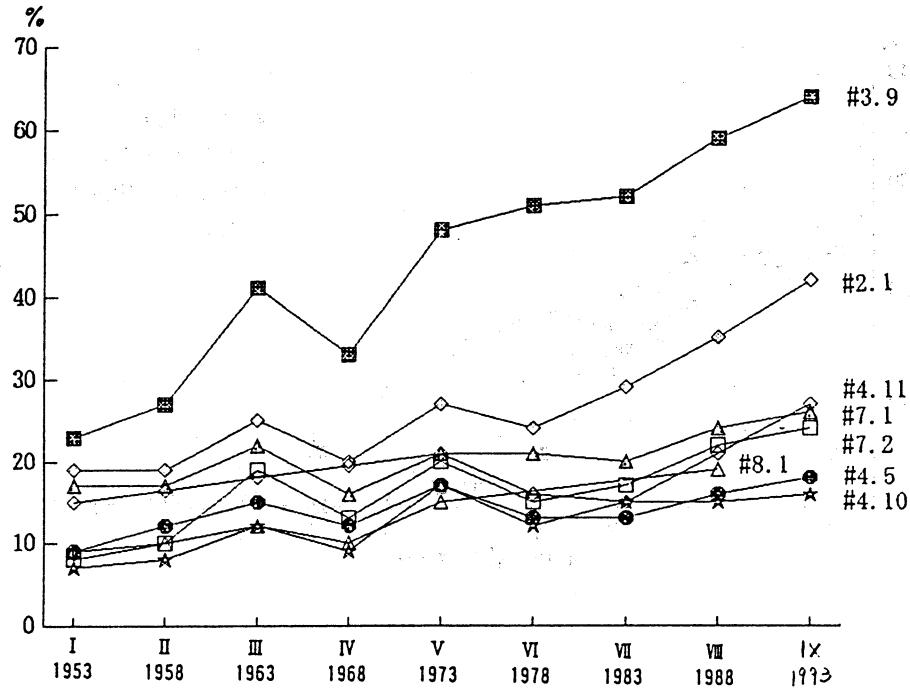


図13 中間回答の変遷



注) #8.1は第V次までは中間回答があったが、以後はない。

第VII次のデータは第V次までの質問文を用いた国際比較調査のデータである。

図14 日本人・西洋人の優劣

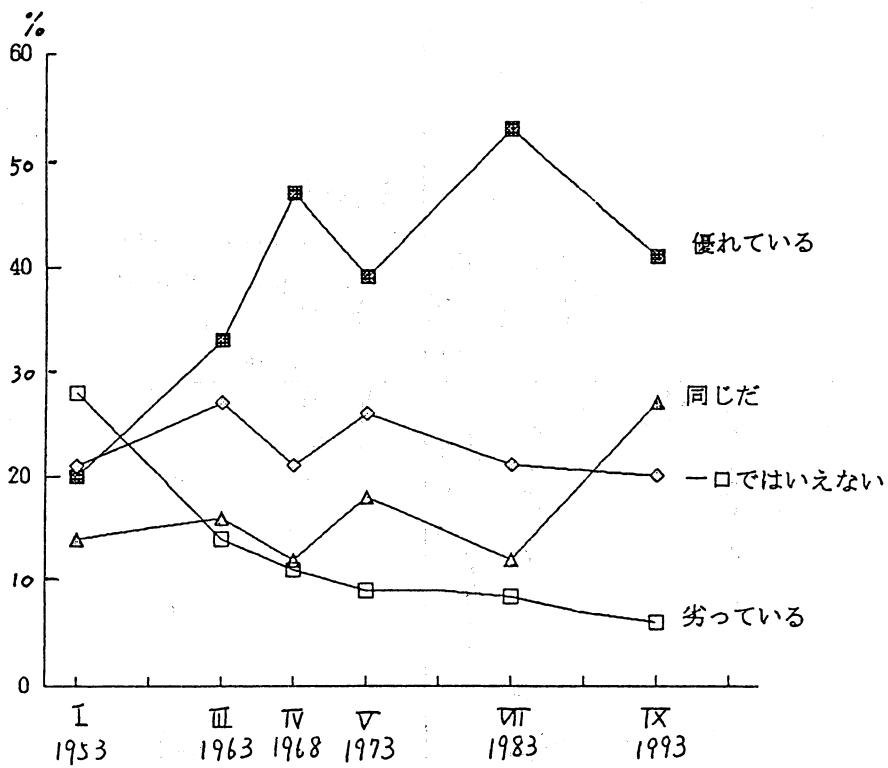


図15 リーダーシップに関する意識構造
(日中ボンドサンプルの数量化III類による分析)

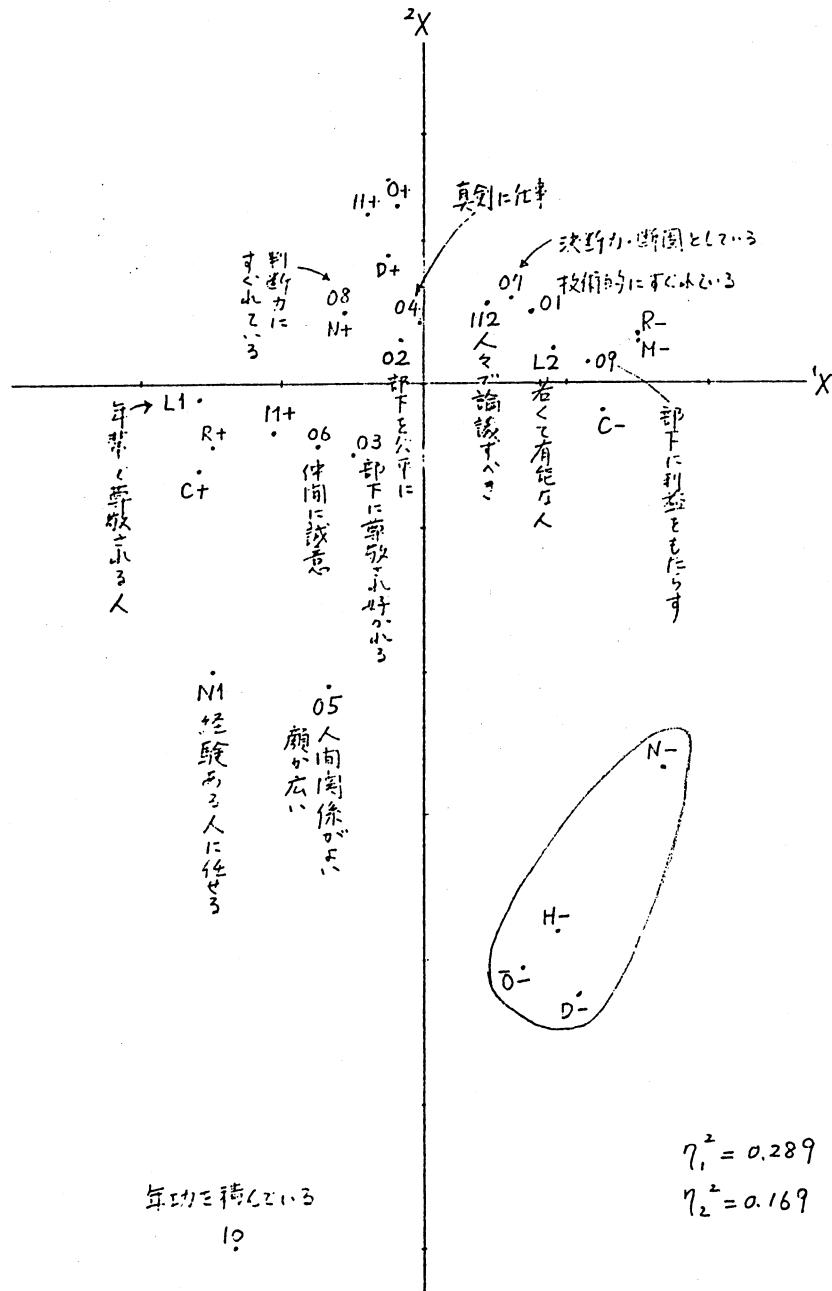


図16 第1次元目のサンプルスコアの分布
(日中ボンドサンプルの数量化III類による分析)

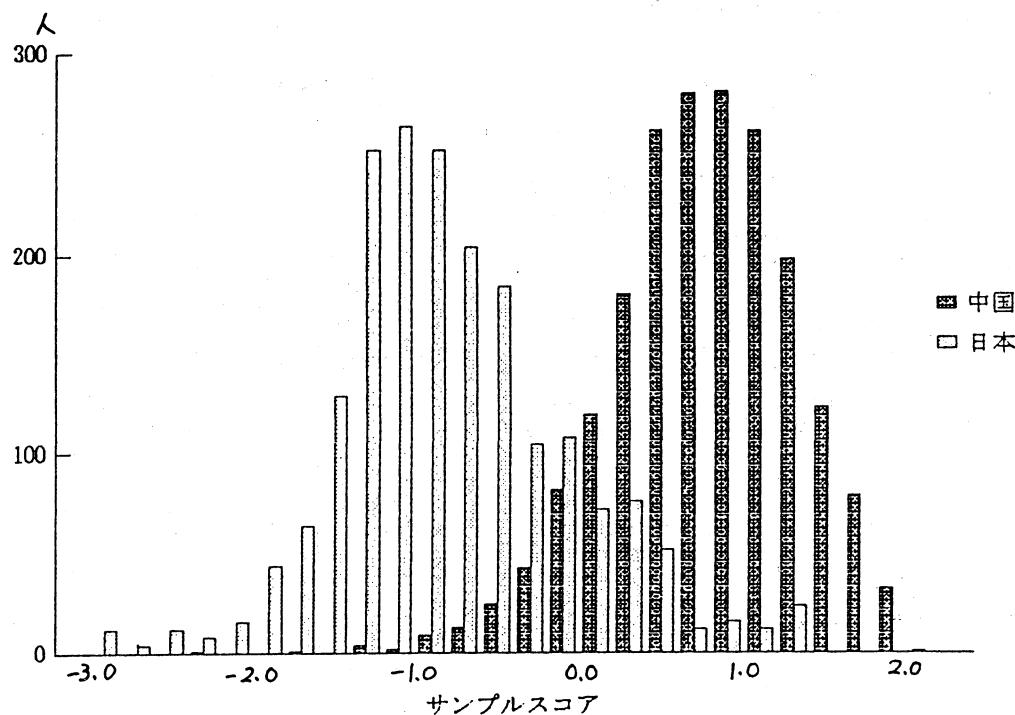
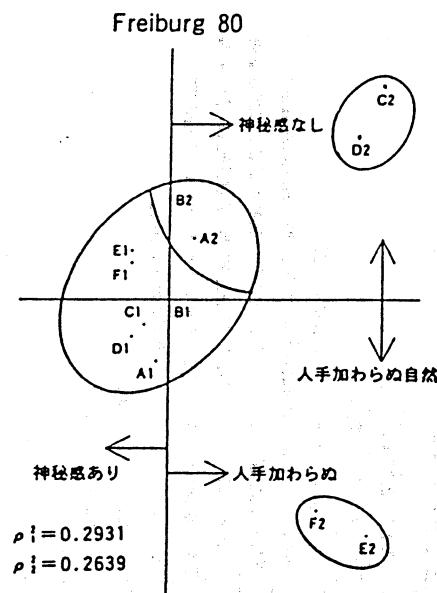
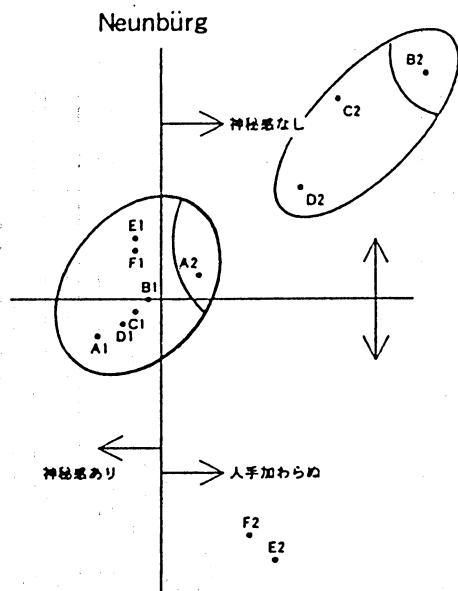


図 1 7 自然観の心の構図

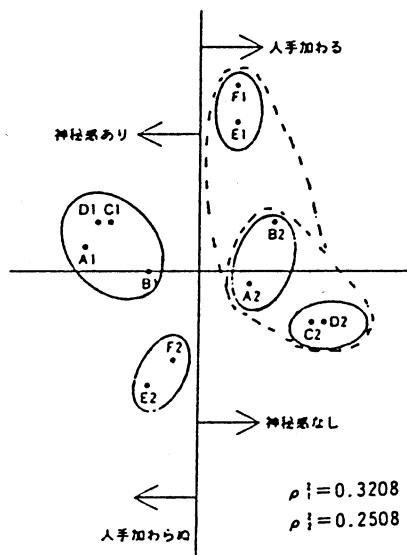
その 1 フライブルグ



その 2 ノイエンブルグ



その 3 東京



その 4 宮崎

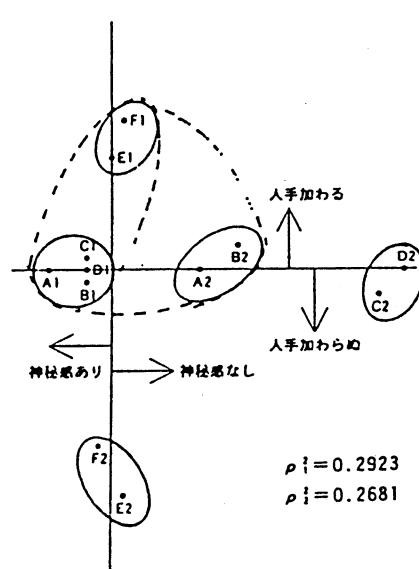
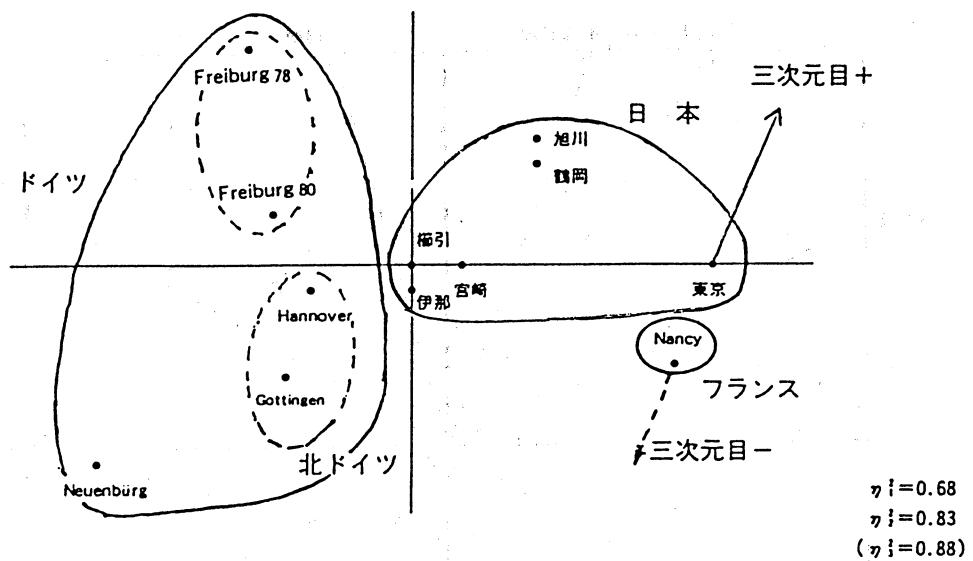


図18 各都市の布置



$\eta^2 = 0.68$
 $\eta^2 = 0.83$
($\eta^2 = 0.88$)

図19 領域別国順序に基づく総合表示(AMI)

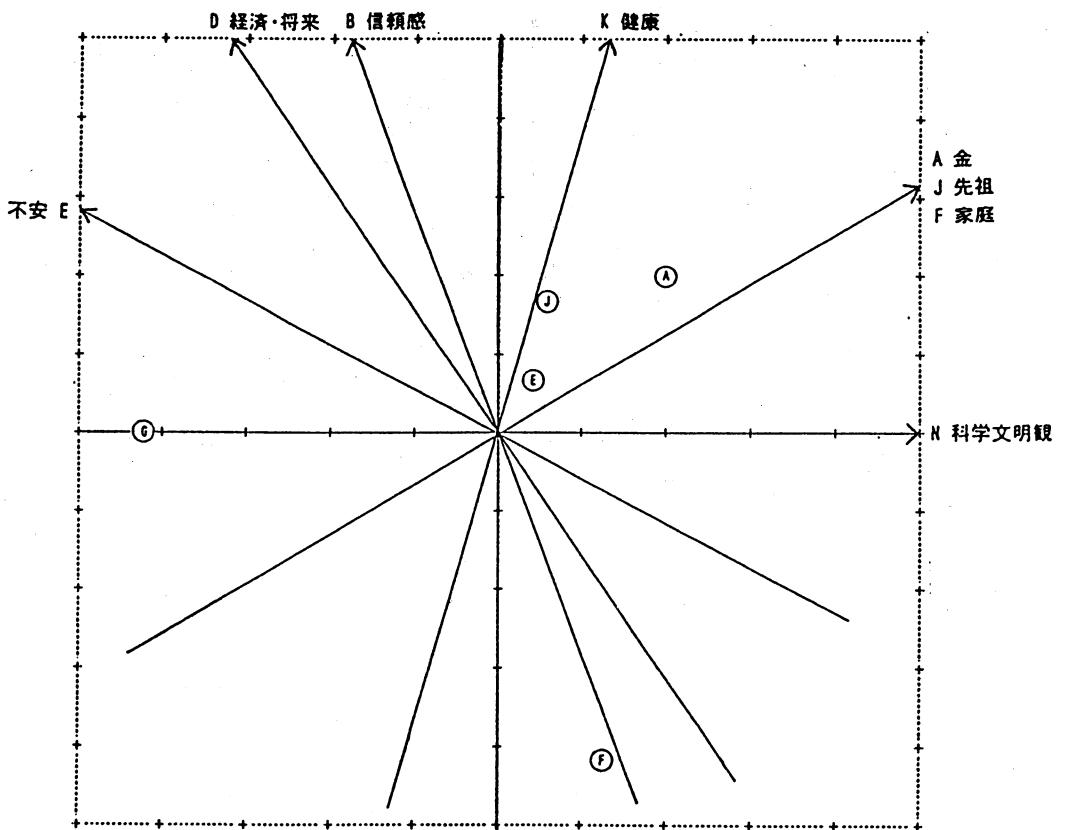


図20 日本の場合

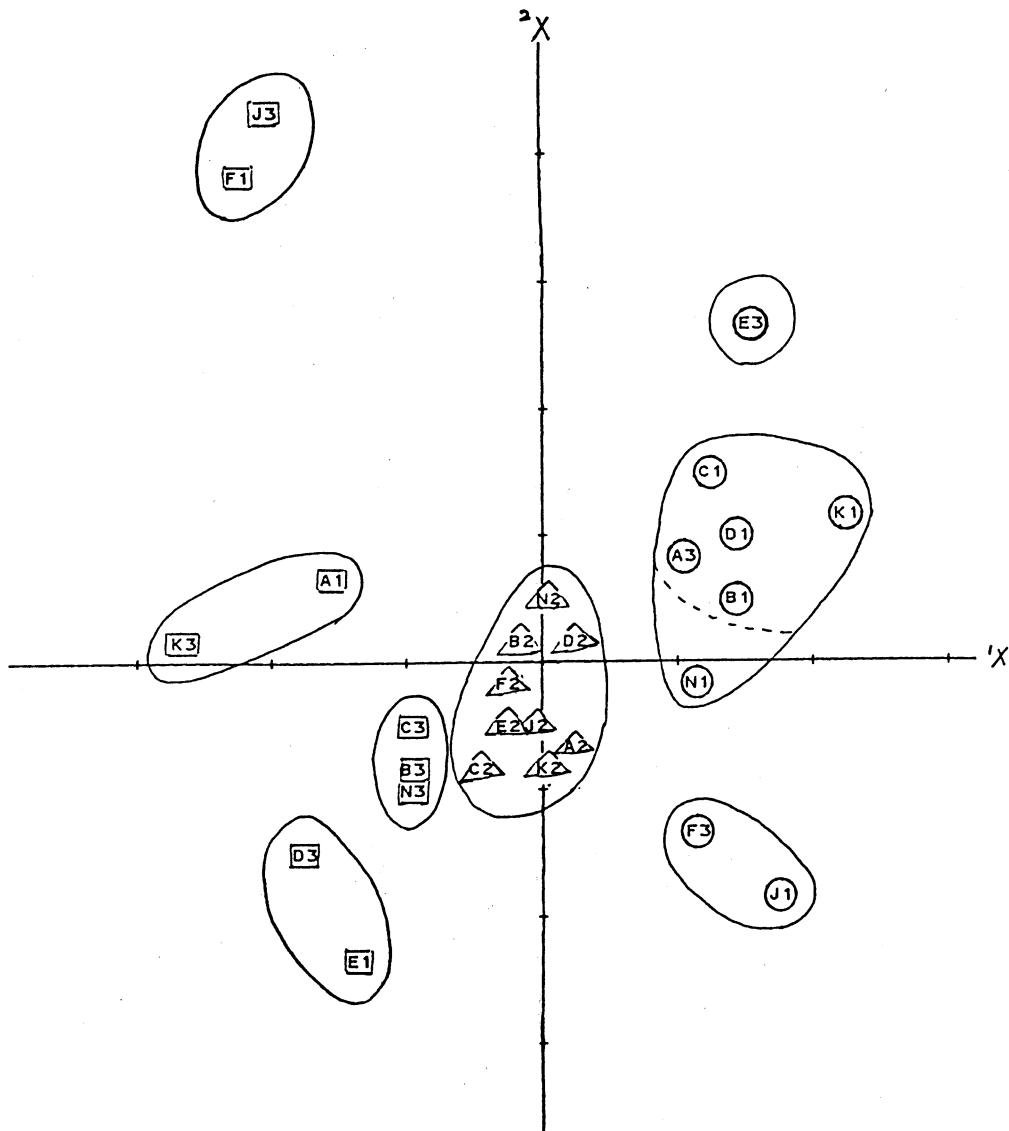


図21 ドイツの場合

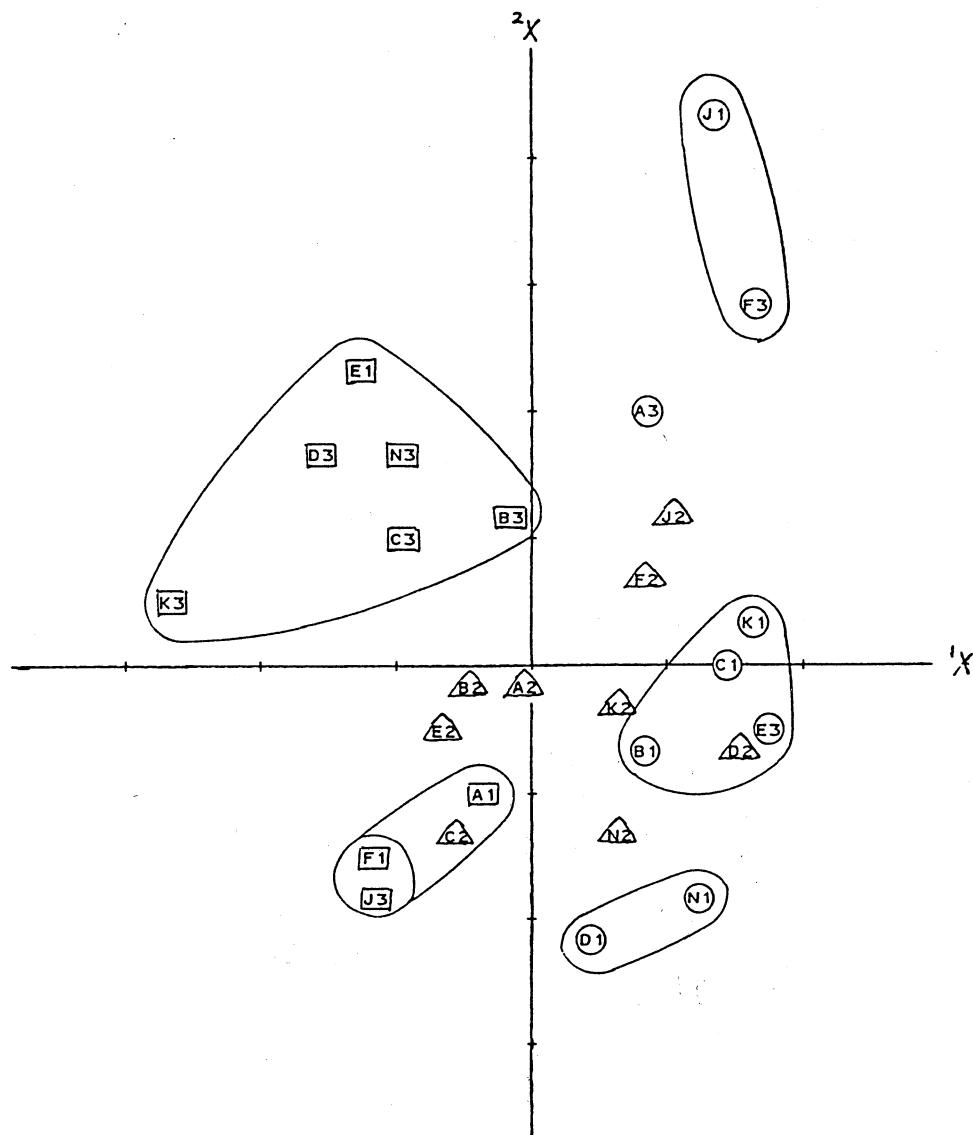


図22 ボンドサンプルによる回答カテゴリーと各國の布置（その1）

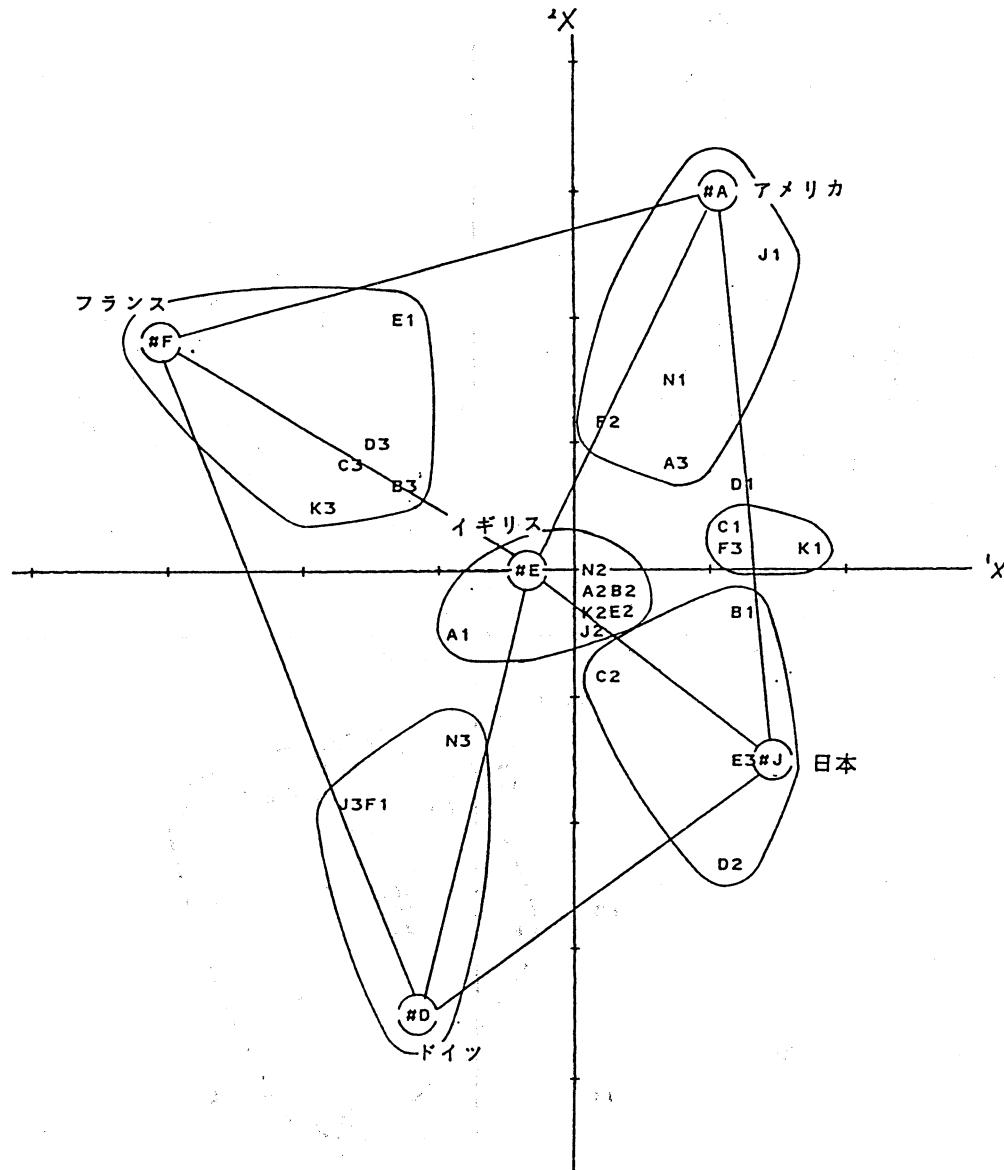


図23 ボンドサンプルによる回答カテゴリーと各国の布置（その2）

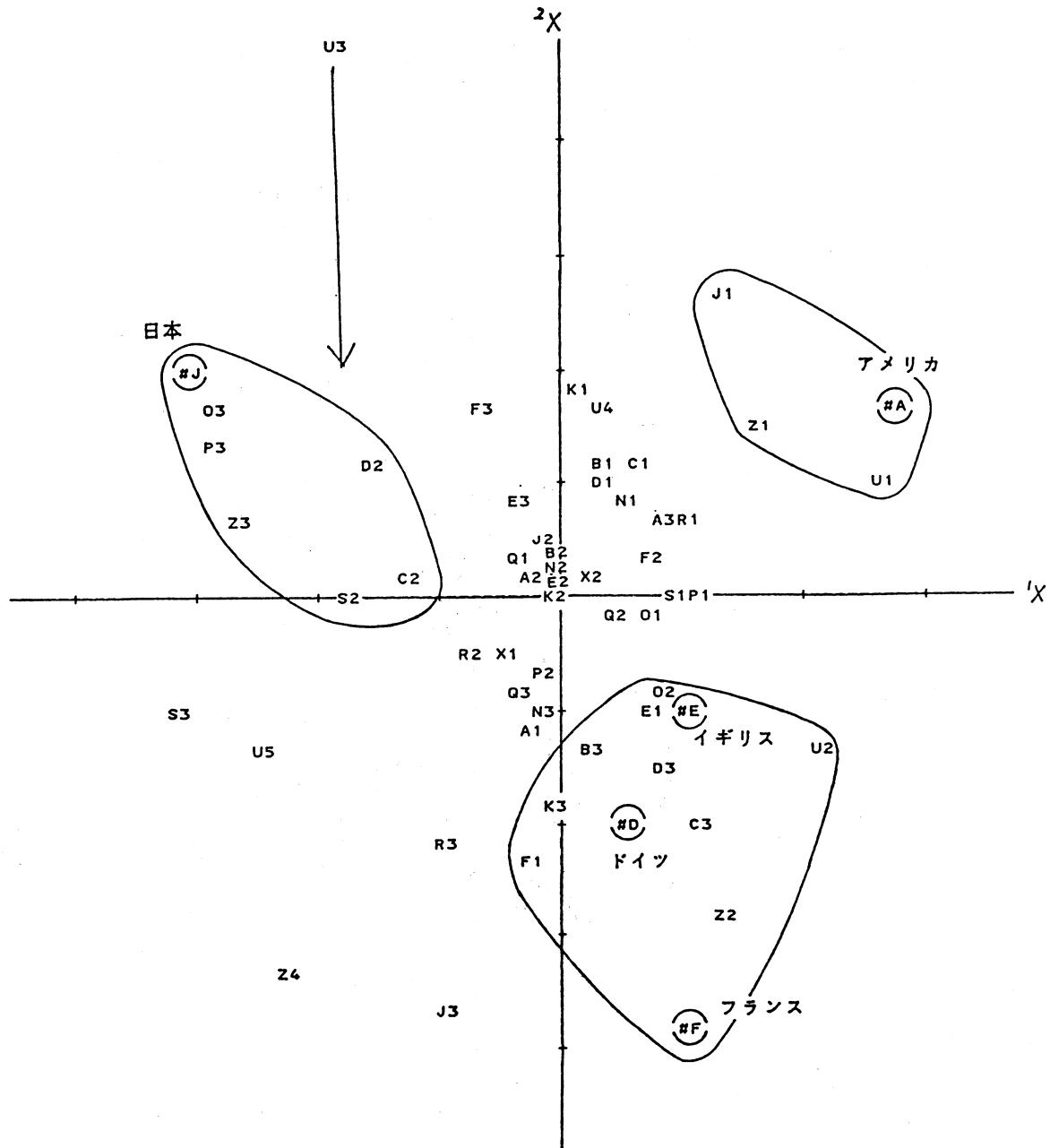


図24 “アリとキリギリス”と関連する社会的態度の布置

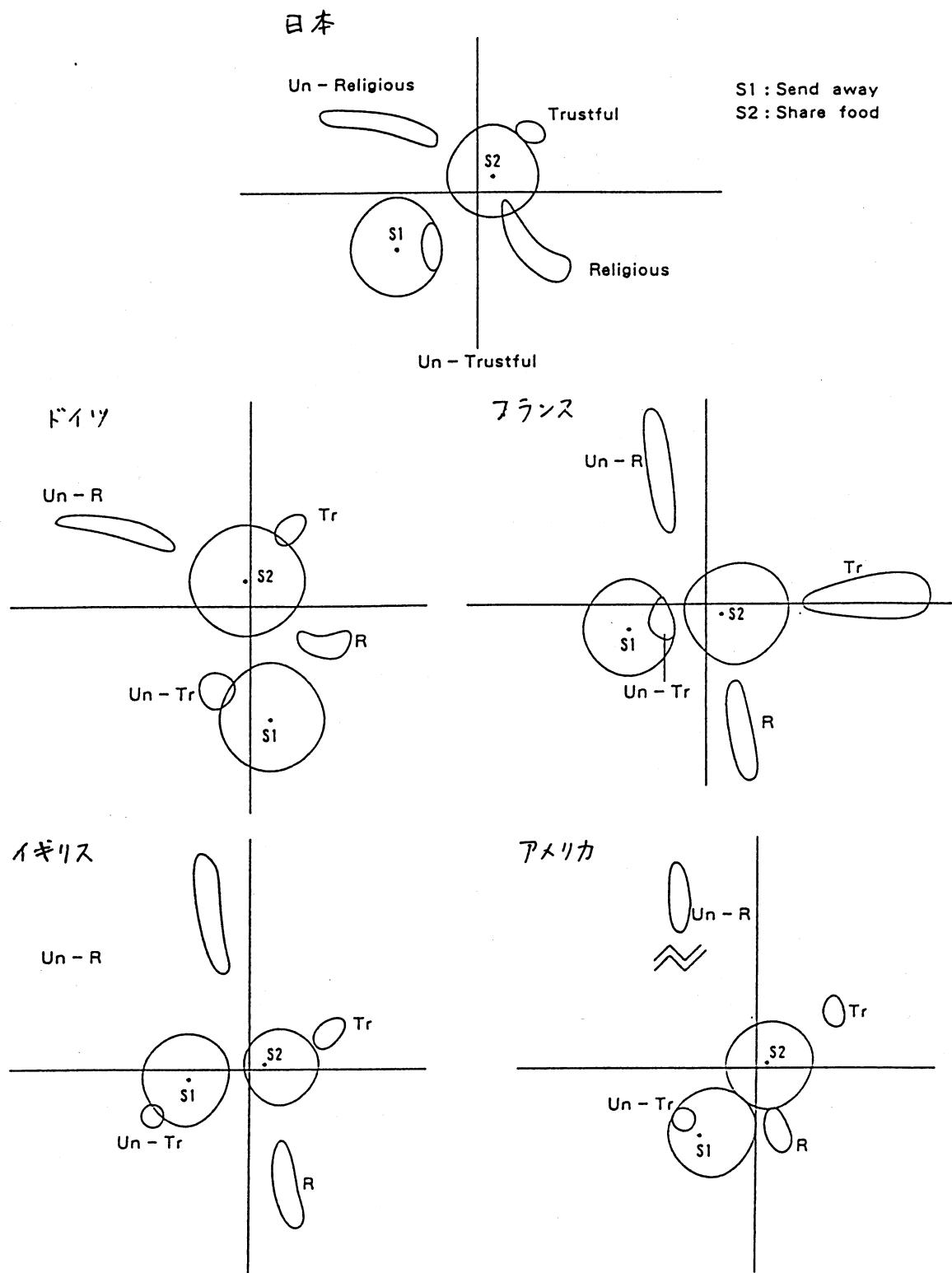


図25 不安感と健康状態の意識構造

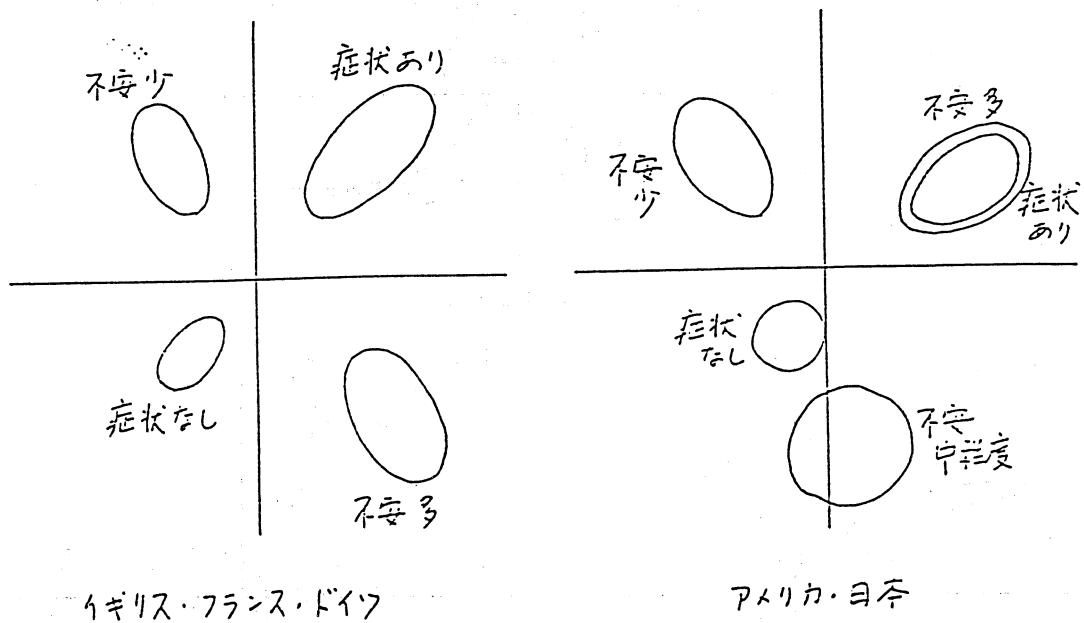
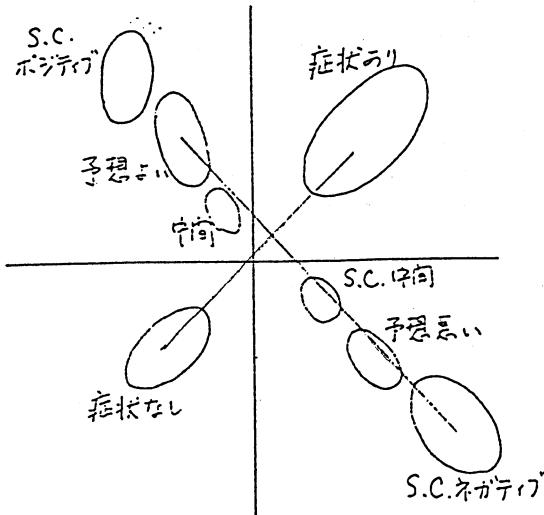
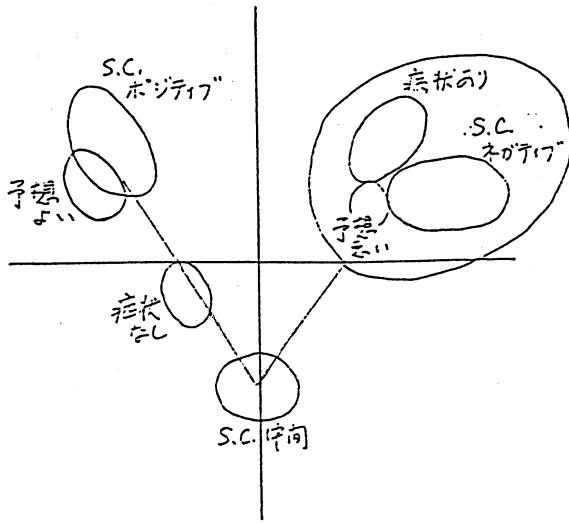


図26 社会状況、その将来の予想、健康状態の意識構造



イギリス、フランス



アメリカ、ドイツ、日本

表1 国際比較調査

実施年	調査対象 (日系人関係)	調査対象 (サンプルサイズ)	調査対象 (各国全国規模調査)	調査対象 (サンプルサイズ)
1971	ハワイ在住の日系人	(434)		
1978	ホノルル住民 (日系人を含む)	(751)	アメリカ本土の アメリカ人	(1571)
1983	同上	(807)		
1987			イギリスの英国人 (旧)西ドイツのドイツ人 フランスのフランス人	(1043) (1000) (1013)
1988	同上	(499)	アメリカ本土の アメリカ人	(1563)
1992	ブラジルの日系人	(492)	イタリアのイタリア人	(1048)
1993			オランダのオランダ人	(1083)

表2 國際比較の連鎖（C L A）

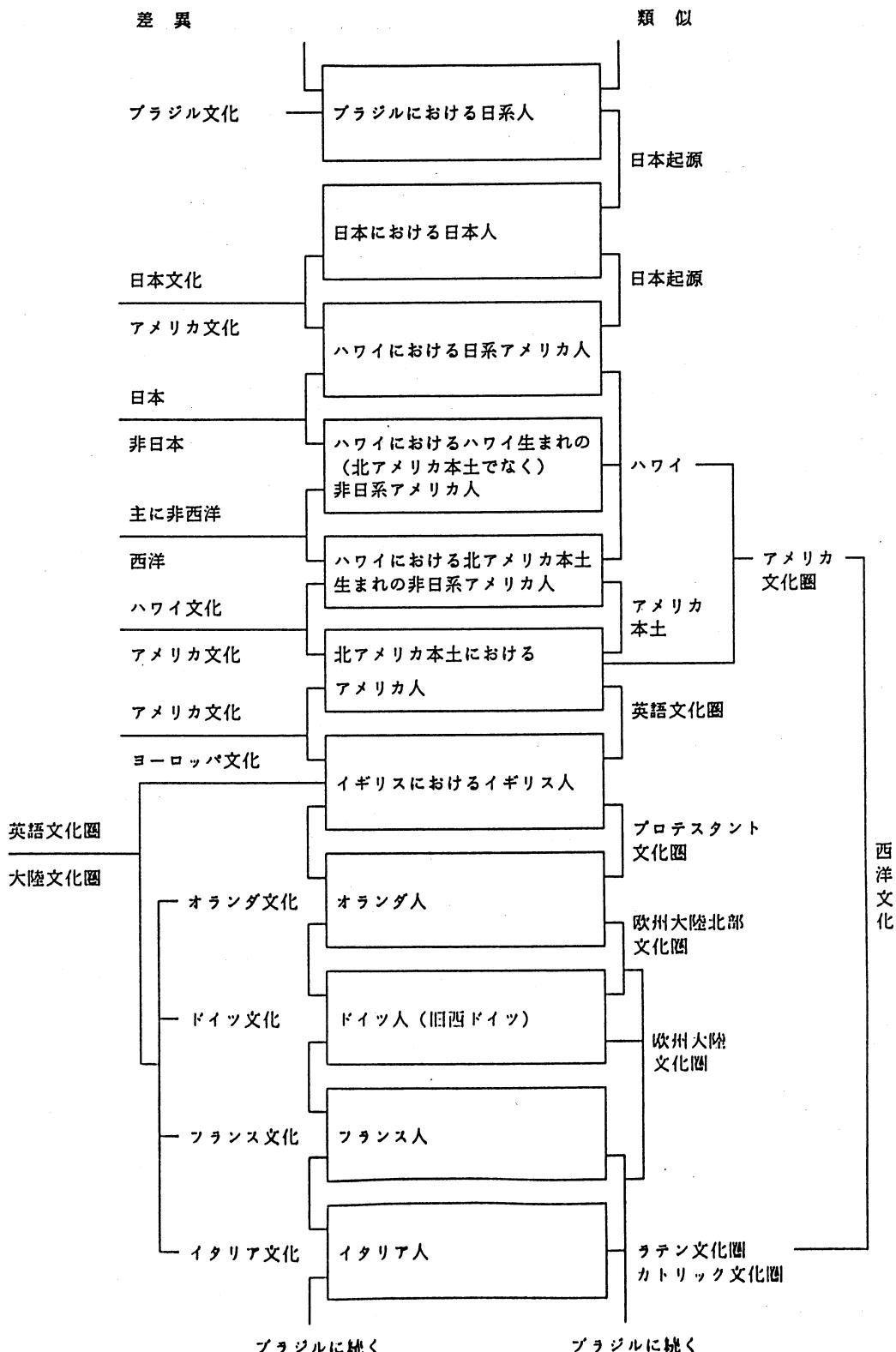


表3 義理人情構造の図柄の非親近性マトリックス

表4 義理人情スケールの構成法

質問			義理人情回答	各質問のスケール値
付録1の問番号	#番号	問の内容		
第1問	#4.4	先生が悪いことをした	1 そんなことはないという	1
{ 第2問	#5.1	恩人がキトクのとき	{ 1 故郷へ帰る	1
第3問	#5.1b	親がキトクのとき	2 会議に出る	
{ 第4問	#5.1c-1	入社試験（親戚）	{ 1 1番の人	1
第5問	#5.1c-2	入社試験（恩人の子）	2 恩人の子	
第6問	#5.6	使われたい課長	2 めんどうみる課長	1
第7問	#5.1d	大切な道徳	{ 1 親孝行 2 恩返し }	1

表5 義理人情のスケール分布 [第VII次(1988年)、年齢別(%)]

年齢	スケール値					サンプル数	
	0	1	2	3	4		
20~24	8	45	33	11	3	0	173
25~29	10	39	40	9	3	0	150
30~34	11	45	30	13	1	0	180
35~39	4	40	36	18	2	0	245
40~44	8	35	37	17	2	1	188
45~49	3	35	41	18	2	1	177
50~54	4	29	41	22	5	0	153
55~59	5	26	43	23	4	0	167
60~64	3	29	39	25	4	0	153
65~69	4	26	42	22	6	1	110
70歳以上	6	24	36	23	11	0	162

表6 各国の義理人情スケール値の比較

スケール値	国民性調査					* ハワイ	アラジル	アメリカ	イギリス	ドイツ	フランス
	III 1963	IV 1968	V 1973	VI 1978	VII 1983	VIII 1988	IX 1993	日系	非日系	日系	本土
0	7	6	8	6	5	6	8	25	34	17	34
3以上	23	22	21	24	24	22	18	5	3	12	2

*) 注 (第6表中の注)

1993年はこの分布においてもやゝ義理人情的でない方に傾くに見えている。

この点を少し検討してみる必要がある。1993年調査は1988年調査と比べて調査条件が多少異ったために、その他・D Kの比率(%)の変化が全般的にみると傾向的にやゝ多目になっている。

その他・D K 義理人情的回答

	1988	1993	1988	1993
#4.1	15	17	23	24
#5.1×#5.1b	10	10	10	9
#5.1c-1×#5.1c-2	9	12	26	21
#5.6	4	5	87	82
#5.1d	1	4	34	31

一方、非義理人情的回答は、上述の質問の順に #4.1では 62→59(逆に減少)、#5.1×#5.1b では“親のとき故郷へ帰る”がへり、“会議出席”が多くなる傾向(4~5%)があるが、“恩人のとき会議”は1%の差しかない。#5.1c-1×#5.1c-2 でも1%の差で変化はない、#5.6も 10%→12% で一方向に大きく傾向がズれていることはない、#5.1d も 1% の差しかない。義理人情的回答と、その他・D Kの関係で義理人情スケールが減少気味になっていることができよう。

表7 その1 人情スケール構成法

質問番号	質問	各質問のスケール値		
付録1の問番号	#番号	問の内容	義理人情回答	
第1問	#4.4	先生が悪いことをした	1 そんなことはないという	1
第2問	#5.1	恩人がキトクのとき	1 故郷へ帰る	1
第3問	#5.1b	親がキトクのとき	1 故郷へ帰る	1
第4問	#5.1c-1	入社試験（親戚）	2 親戚	1
第5問	#5.1c-2	入社試験（恩人の子）	2 恩人の子	1
第6問	#5.6	使われたい課長	2 めんどうみる課長	1
第7問	#5.1d	大切な道徳	1 親孝行 2 恩返し	1

表7 その2 人情スケール5以上の比率

ドイツ人	33%
フランス人	35
イギリス人	27
アメリカ人	23
ハワイの非日系人	19
ハワイの日系人	29
ブラジルの日系人	34
日本人	38

表8 その1 イソップ物語りの回答別の人情スケール5以上の比率(%)

	ドイツ人	フランス人	ギリス人	アメリカ人	タイ	ハイ	ブラジル	日本人
	非日系人	日系人	日系人					
1の型の回答(S1)	36	40	28	24	10	18	60	32
2の型の回答(S2)	34	36	28	23	20*	31*	27*	40*

注) *は有意の差(信頼度 0.95)

表8 その2 ブラジル日系人におけるイソップ物語の回答と人情スケール

スケール値	0	1	2	3	4	5	6	7	8
S 1	2	1	7	14	17	30	22	8	0
S 2	1	3	8	25	36	16	7	4	0

表9 その1 人間関係重視の傾向(%)

	ブ ラ ジ 日 本 系	ハ イ リ カ 系	ワ イ リ カ 系	ア メ リ カ 日	フ ラ イ ド イ ツ	イ ギ リ ス	
Affection Scale 5 以上の比率	38	34	29	19	23	33	35 27
A めんどうをみる課長	80	68	59	57	51	69	64 57
B まるくおさめる人を好む	68	67	72	67	47	62	66 52
C 気の合う人	29	12	22	13	11	20	7 15
D 友人・知人非常に大事	67	78	65	58	63	63	49 57

表9 その2 人間関係重視の傾向(ランク)

	ブ ラ ジ 日 本 系	ハ イ リ カ 系	ワ イ リ カ 系	ア メ リ カ 日	フ ラ イ ド イ ツ	イ ギ リ ス	
Affection Scale 5 以上の比率	1	2	5	8	7	2	2 6
A めんどうをみる課長	1	2	5	6	8	2	4 6
B まるくおさめる人を好む	2	2	1	2	8	6	2 7
C 気の合う人	1	5	2	5	5	3	8 4
D 友人・知人非常に大事	2	1	3	6	4	4	8 6
ランクの和	7	12	16	27	32	17	24 29

注) 1%の差は同順とした

表10 中間的回答のある質問

- 質問1 (#4.4) 小学校に行っているくらいの子どもを育てるのに、次のような意見があります。「小さいときから、お金は人にとって、一番大切なだと教えるのがよい」というのです。あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか？
1. 賛成
 2. 反対
 3. いちがいにはいえない
- 質問2 (#7.1) こういう意見があります。「世の中は、だんだん科学や技術が発達して、便利になってくるが、それにつれて人間らしさがなくなって行く」というのですが、あなたはこの意見に賛成ですか。それとも反対ですか？
1. 賛成（人間らしさはへる）
 2. いちがいにはいえない
 3. 反対（人間らしさは不变、ふえる）
- 質問3 (#2.1) あなたは、自分が正しいと思えば世の中のしきたりに反しても、それをおし通すべきだと思いますか。それとも、世間のしきたりに従った方がまちがいないと思いますか？
1. 押し通せ
 2. 従え
 3. 場合による

表11 日本人の中間的回答スケール分布(%)

年齢	中間的回答スケール											計 サンプル数		
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11		
20代	1	3	8	15	16	16	17	13	8	3	0	0	100	360
30代	2	3	9	16	17	18	17	8	6	3	1	0	100	438
40代	2	3	10	15	18	19	13	7	7	4	2	0	100	492
50代	3	8	10	17	18	12	14	8	6	2	1	1	100	453
60以上	5	10	13	16	16	15	12	7	5	1	0	0	100	522

表12 頭付き質問による回答の変化

	1980年 頭なし	1982年 頭付き	1983年 頭付き (下線部あり)
質問1 (#2.12) 他の人の手助けをしようとしている人もいますが、自分のことだけに気をくばっている人もいます。あなたのまわりを見たとき、たいていの人は、他人の役にたとうとしていると思いますか。それとも自分のことだけに気をくばっていると思いますか?			
1. 他人の役にたとうとしている	17%	25%	24%
2. 自分のことだけに気をくばっている	79	69	66
3. その他	1	3	8
4. DK	3	3	3
質問2 (#2.12b) スキがあれば利用しようとしている人もいますが、そうでない人もいます。あなたのまわりをみたとき、たいていの人は、スキがあれば、あなたを利用しようとしていると思いますか。それとも、そんなことはないと思いますか?			
1. 利用しようとしていると思う	46	29	25
2. そんなことはないと思う	52	67	71
3. その他	0	2	2
4. DK	2	2	2
質問3 (#2.12c) 信頼できる人もいますが、用心した方がよい人もいます。あなたのまわりを見たとき、たいていの人は信頼できると思いますか。それとも用心するにこしたことはないと思いますか?			
1. 信頼できると思う	29	43	49
2. 用心するにこしたことはないと思う	70	52	46
3. その他	0	4	3
4. DK	2	1	2

表13 日中比較調査のリーダーシップに関する質問、伝統文化の質問
(括弧付きの記号を記したものが分析に用いた項目、カテゴリー)

質問1 あなたの職場では良きリーダーはどんな資質を持っているべきでしょうか。最も重要なものの3つと、最も重要でないもの3つを、次の中から選んで下さい。
〔項目のリストを提示して回答をとる〕

最も重要な3つ○ 最も重要でないもの3つ

1. 技術的に優れていること (01)
2. 部下を公平に扱うこと (02)
3. 部下に尊敬され、好かれていること (03)
4. 真剣に仕事に取り組むこと (04)
5. 人間関係がよい、顔が広いこと (05)
6. 仕事仲間に誠心誠意、接すること (06)
7. 決断力がある、断固としていること (07)
8. 判断力が優れていること (08)
9. 部下に利益をもたらすこと (09)
10. 年功を積んでいること (10)
11. よい階級の出身であること (11)

質問2 公の問題は影響力も経験もある人に任せるべきだと思いますか。それともそのような問題は、決定される前に人々で論議すべきだと思いますか。

1. 影響力も経験もある人に任せるべきだ (N1)
2. 人々で論議すべきだ (N2)
3. わからない

質問3 リーダーとして次のどちらの人がいいですか。〔回答肢のリストを提示〕

1. 年輩で尊敬される人 (L1)
2. 若くて有能な人 (L2)
3. どちらでもない

質問4 次にわが国の伝統文化をいくつかあげてみました。それについて、「誇りに感じる」「なくしてしまいたい」「どちらともいえない」のいずれかでお答え下さい。
〔項目のリストを提示〕

誇りに なくして どちらとも
感じる しまいたい いえない

- | | | | |
|--|--------|--------|---|
| a. 長い歴史的伝統 | 1 | 2 | 3 |
| b. 勤勉と質素 | 1 | 2 | 3 |
| c. 中庸之道 | 1 (C+) | 2 (C-) | 3 |
| d. 親の慈悲深さと子の孝行 | 1 (D+) | 2 (D-) | 3 |
| e. 国家への忠誠 | 1 | 2 | 3 |
| f. 男女の差別 | 1 | 2 | 3 |
| g. 女性は嫁ぐ前は父に、嫁いだら夫に、夫が死んだら子に従う三従と、四つの美德を持つ | 1 | 2 | 3 |
| h. 寛容と礼節 | 1 (H+) | 2 (H-) | 3 |
| i. 先祖の名を汚さない | 1 | 2 | 3 |
| j. 農業を尊び商業をいやしむ | 1 | 2 | 3 |
| k. 女性の貞節 | 1 | 2 | 3 |
| l. 権威への服従 | 1 | 2 | 3 |
| m. 子孫繁栄 | 1 (M+) | 2 (M-) | 3 |
| n. 和をもって貴しとなす | 1 (N+) | 2 (N-) | 3 |
| o. 仁義道徳 | 1 (O+) | 2 (O-) | 3 |
| p. 年長者への敬意と従順 | 1 | 2 | 3 |
| q. 伝統を尊重 | 1 | 2 | 3 |
| r. 分別 | 1 (R+) | 2 (R-) | 3 |

表14 飛行機事故の質問への回答比率(%)

	1 まずあやまつ てまわる	2 まず原因調査 に努力する	3 その他 DK
1973	50	40	10
1978	51	41	8
1978年属性別			
男	55	37	8
女	47	43	10
20~24	54	43	3
25~29	56	41	3
30~34	50	41	9
35~39	47	46	7
40~44	52	40	8
45~49	46	45	9
50~54	55	41	4
55~59	64	25	11
60~	43	39	18
小卒	45	35	20
中卒	50	42	8
高卒	52	41	7
大卒	53	41	6

表15 科学文明に対するポジティブな回答(%)

		日本	ドイツ	フランス	イギリス	アメリカ	
#7.36	科学上の発見利用は日常生活の改善に役立っている	48	37	33	50	<u>61</u>	
#7.33	コンピュータの発達は望ましい	31	15	32	16	<u>34</u>	
#7.83	近代医学にたよらない方がよいものがある	全くその通り	72	<u>77</u>	62	76	72
#7.84	科学で人の心がわかる	+	14	34	<u>65</u>	50	58
#7.85	科学で社会経済問題が解決できる	そう思う	15	44	<u>49</u>	43	47
#7.86	核廃棄物の処理	多分実現する	33	17	28	<u>34</u>	32
#7.86b	ガンの治療	"	65	37	<u>68</u>	64	62
#7.86c	老人性痴呆の治療	"	<u>29</u>	17	23	12	25
#7.86d	宇宙生活	"	19	36	23	<u>33</u>	<u>41</u>

注) 下線はその項目で最大の%

表16 自然観・森林観の質問

	1	2
A 山川草木に霧が宿っているような気がしたことがあるか	ある	ない
B 森の中を散歩するのは好きか	好き	好きでない
C 大きい古い木を見たとき神々しい気持ちを抱いたこと	抱く	抱かない
D 深い森に入ったとき何か神秘的な気持ちを持ったこと	持つ	持たない
E 「森林を美しく維持するためには人間の手を加えなければならない」と「森林を美しく維持するためには人手を加えるべきでない」とどちらが正しいと思うか	人間の手を加えなければならない	人間の手を加えるべきでない
F 「農場や牧場や森林が入り交じっている人手の加わった自然」と「全く人手の加わらない森林や荒れ地のありのままの自然」とどちらが好きか	人手の加わった自然	ありのままの自然

表17 各質問群別の国の順位

	ドイツ	フランス	イギリス	アメリカ	日本	順位の上の方の意味	順位相関係数
(イ) 不安	1	5	3	4	2	不安なし	1.00
(ア) 先祖等	5	3	3	1	2	重んじる方	0.95
(イ) 科学文明観	5	2	4	1	3	ポジティブな方	1.00
(オ) 健康	4	5	1	3	2	ポジティブな方	0.60
(カ) 金	5	4	2	1	3	非金志向の方	0.90
(キ) 経済・将来	2	5	4	3	1	ポジティブ・明るい方	0.90
(ク) 信頼感	1	5	3	1	4	信じる方	0.85
(ケ) 家庭	5	4	3	2	1	伝統の方	0.90

表18 9つの領域のスケールとカテゴリー

スケールの名と内容	スケールの3区分のコードと意味		
A (金志向スケール) カ. 金志向か否か	A1 金志向	A2 中間	○A3 非金志向
B (信頼感スケール) ク. 信頼感	○B1 あり	B2 中間	B3 なし
C (主義スケール) イ. 主義	○C1 民主主義 資本主義好み	C2 中間	C3 社会主義好み
D (経済観スケール) キ. 経済・将来の明るさ	○D1 ポジティブ よい(明るい)	D2 中間	D3 ネガティブ よくない(暗い)
E (不安感スケール) イ. 不安全感	E1 不安あり	E2 中間	○E3 不安なし
F (家庭感スケール) ケ. 家庭・結婚	F1 近代的	F2 中間	○F3 伝統的
J (先祖スケール) ア. 先祖・家	○J1 重んじる 伝統を重視	J2 中間	J3 重んじない 伝統重視しない
K (健康観スケール) オ. 健康・健康観	○K1 ポジティブ よい	K2 中間	K3 ネガティブ よくない
N (科学文明観スケール) イ. 科学文明観	○N1 ポジティブ	N2 中間	N3 ネガティブ

表19 ポジティブのクラスター構成

	日本	E3	A3		F3	
第 1 軸			B1		J1	
			C1			
			D1			
			K1			
			N1			
第 1 軸	ドイツ		B1	D1	F3	
			C1	N1	J1	
		E3			A3	
			K1			
第 2 軸	フランス	E3	K1	D1	F3	
			B1	N1	J1	
				A3		
				C1		
イギリス		K1	B1	A3	F3	第 2 軸
				C1	J1	
		D1				
					E3	
アメリカ		K1	D1	A3	F3	第 2 軸
			N1	B1	J1	
				C1		
				E3		

表20 ネガティブのクラスター構成

日本	D3	B3	A1	F1
	E1	C3	K3	J3
		N3		
ドイツ		B3	K3	F1
		C3	N3	J3
		D3		A1
		E1		
フランス	E1	A1	K3	F1
		B3	N3	J3
		C3		
		D3		
イギリス	E1	A1	B3	F1
		B3	K3	J3
		D3	N3	
アメリカ	E1	A1	K3	F1
	C3	B3	N3	J3
		D3		

表21 中間スケールのクラスター構成

	ポジティブ寄り		中間の意味		ネガティブ寄り	
日本		A3	E2			
		B2	F2			
		C2	J2			
		D2	K2			
			N2			
ドイツ	D2	K2	A2	B2		
	F2	N2		C2		
	J2			E2		
フランス	B2	← C2	A2	N2		
	D2		F2 →			
	E2		J2			
	K2					
イギリス	D2	E2	A2			
		F2	B2			
		J2	C2			
		N2	K2			
アメリカ	D2	A2	K2	C2		
	F2	B2	N2			
		E2				
		J2				

表22 追加質問

O. (#7.1) 人間らしさ	01 へる	02 へらない	03 中間
P. (#7.2) 心の豊かさ	P1 へらない	P2 へる	P3 中間
Q. (#2.5) 自然と人間	Q1 従う	Q2 利用	Q3 征服
R. (#7.34) 省エネルギー大切か	R1 非常に大切	R2 中間	R3 大切でない
S. (#7.35) 環境保護大切か	S1 非常に大切	S2 中間	S3 大切でない
X. (#7.82) イソップ物語 アリとキリギリス	X1 おいかえす	X2 たべるものを与えていさめる	
Z. (#3.1a) × (#3.2) 宗教 × 宗教的な心	Z1 宗教信じる 宗教的な心大切	Z2 信じる 心大切でない	
	Z3 信じない 心大切	Z4 信じない 心大切でない	
U. (#3.1b) 宗教	U1 プロテスタント U4 その他の宗教	U2 カトリック U5 なし	U3 仏教

表23 国別の特色

日本	主義 中間 経済 中間 人間らしさ いちがいにいえない 心の豊かさ いちがいにいえない 宗教は信じないが宗教的な心は大切	(同じ側に仏教)
アメリカ	先祖重んじる プロテスタン 宗教を信じ、宗教的な心大切	
ヨーロッパ	カソリック *宗教信じるが宗教的な心大切でない 社会主義好み 経済暗い 不安大きい *先祖重んじない、家族大切でない 健康ネガティブ *家庭観近代的 不信頼観	

表24 イソップ物語（アリとキリギリス）と関連する社会的態度の質問

記号	回答コードと質問内容	記号	回答コードと質問内容
#7.18e (A1, A2, A3)	幸福になるか	#7.82 (S1, S2)	アリとキリギリス
#7.18b (A1, A2, A3)	心のやすらかさはますか	*#7.81 (U1, U2)	収入か余暇か
#2.30e (C2, C3)	不安感一失業	#2.8 (V1, V2)	一生働くか
*生活領域の重要性		#7.24 (W2, W3, W4)	就職の第1条件
##5.81d (D2, D6)	一友人、知人	#3.1 (X1, X2)	宗教を信じるか
##5.81e (E2, D6)	一両親、兄弟、姉妹、親戚	#3.2 (Y1, Y2)	「宗教心」大切か
##5.81f (F2, D6)	一宗教	*#4.81 (Z1, Z2)	生活保護の考え方
#5.1c1 (G1, G2)	入社試験（親戚）	#2.12 (L1, L2)	他人のためか自分のためか
#5.1c2 (H1, H2)	入社試験（恩人の子）	#2.12b (M1, M2)	スキがあれば利用されるか
#2.4 (I1-I5)	くらし方	#2.12 (N1, N2)	人は信用できるか
#2.2b (Kx, Ko)	スジかまるくか	*現代生活の個人態度	
#5.6h (Lo, Lx)	他人との仲か仕事か	*#2.83 (Ao, Ax)	一他人を助ける
#2.3c (O2, O3, O4)	家庭に満足か	*#2.83b (Bo, Bx)	一共同体
*#2.82 (P2, P3, P4)	生活に満足か	*#2.83c (Co, Cx)	一その日その日
#7.19 (Q1, Q2)	才能か運か	*#2.83d (Do, Dx)	一収入より手段
#4.5 (R1, R2, R3)	「金は大切」と教えるか	*#2.83e (Eo, Ex)	一孤独感
		#5.6 (Fx, Fo)	めんどうみる課長

注) *印は国民性調査にない質問

表25 S1の周りのクラスター（各国共通のもの）

Common	W1	nearly	D 2	(U. S. A. non)
	W2	common	Q 2	(Germany non)
	L 2		E o	(U. K. non)
	M 1		I 1 or I 2	(U. S. A. non)
	N 2		A x	(Japan non)

表26 S1の周りのクラスター（国の特徴）

Japan U. S. A. U. K. Germany France

A 2	○	○	-	-	○
C 2	○	○	○	-	-
R 1	-	○	○	○	-
L x	○	-	○	○	-
D x	-	○	-	○	-
C o	-	○	-	-	○
F x	○	-	-	○	-
Z 2	-	-	-	○	○
Total	4	5	3	5	3

注)
○印は 左の記号の回答
がS1クラスターに入っ
ていることを示す

Only	B 2	Japan	B x	U. K.
	U 1	Germany	G 1	France
	E 2	U. K.	H 1	France
	O 4	France		
	P 4	France		

表27 S2の周りのクラスター（各国共通のもの）

Common	W4	Nearly common	A3	(U.K. Non)
	D6		D0	(Japan Non)
	E6		F0	(U.S.A. o and x)
	O2		Cx	(Germany Co)
	P2		C3	(France C2)
	Q1		R2	(Japan non)
L1	M2	N1		
Lo				
I3 or 4				
Ao				
Bo				

表28 S2の周りのクラスター（国の特徴）

Japan U.S.A. U.K. Germany France

B	-	3	-	2	1, 2	
U	1, 2	1, 2	-	2	1	Scattered
V	1	1, 2	1, 2	2	1, 2	
K	o	o, x	o, x	o, x	o	注)
G	1, 2	-	1	2	2	数字は、左の記号の項目
H	1, 2	-	1	2	2	で S2クラスターに入る
Z	1, 2	1, 2	1	1	1	回答カテゴリーを示す
Only						
		W3	(Japan)			
		F2	(Germany)			
		Y1	(Japan)			

表29 S1、S2の共通の性格と国別の特色

	S1	S2
共通の もの	money-oriented, untrust, lonely, not positive social attitude	not anxious, satisfied, accomplishment of work, attaching importance to general human relations, positive social attitude and life style, not lonely(relational life), paternalistic leader, 'not-money'-oriented
各 國 に	Japanese somewhat pessimistic toward peace of mind, rational attitude B2, Fx	Japanese characteristics, continue to work, good harmony in interpersonal relations religious mind important <u>R1,2, V1, Ko, W3, Y1,</u> <u>U1,2, G1,2, H1,2, Z1,2</u> non-existence of Do
固 有 の も の	American particularly no-characteristic Dx, Co non-existence of D2 and I1,2 E2, Bx non-existence of Eo	particularly no-characteristics <u>F1,2, B3, G1,2, H1,2,</u> <u>U1,2, V1,2, Kx,o, Z1,2</u> particularly no-characteristics, stereotyped answer in interpersonal questions, money help in social security 'is to be enable to live', G1, H1, Z1, <u>V1,2, Kx,o</u> non-existence of A3, U1
German	more-money oriented, severe in some point U1, Dx, Fx, Z2 non-existence of Q2	easy going life style, relatively worm-hearted in interpersonal relations in some points, money help in social security 'is to be enable to live' Co, U2, F2, B2, V2, G2, H2, Z1, <u>Kx,o</u>
French	Unsatisfied, Unhelpful relatively cold-hearted in inter- personal relations in some points, severe in some points Co, O4, P4, Ax, G1, H1, Z2	money help in social security 'is to be enable to live' money oriented life style and relatively warm hearted in interpersonal relations in some points C2, U1, Ko, G2, H2, Z1, <u>V1,2, B1,2</u>

注) アンダーラインはその項目がS1, S2と独立である(両選択肢が一方に偏在する)ことを表す

表30 国別回答率(%)

項目	回答	ドイツ	フランス	イギリス	アメリカ	日本
頭痛、偏頭痛	1 あり	40.6	35.8	36.1	34.6	21.9
	2 なし	58.3	63.9	63.5	64.8	76.9
	3 その他・DK	1.1	0.3	0.4	0.6	1.1
背中の痛み	1 あり	32.9	46.3	35.8	37.8	19.1
	2 なし	65.8	53.6	64.0	61.7	79.8
	3 その他・DK	1.3	0.1	0.6	0.5	1.1
いらいら	1 あり	25.1	55.6	19.7	30.3	25.7
	2 なし	72.1	44.0	79.7	69.0	73.2
	3 その他・DK	2.2	0.2	0.7	0.8	1.1
うつ状態	1 あり	7.7	19.6	20.9	20.7	5.5
	2 なし	90.6	80.2	78.4	78.2	90.3
	3 その他・DK	1.7	0.3	0.7	1.0	1.1
不眠症	1 あり	25.9	31.9	18.5	16.9	12.0
	2 なし	72.5	67.9	80.4	82.4	86.8
	3 その他・DK	1.6	0.2	1.1	0.7	1.1

表31 症状にかかった率の男女差(男の比率-女の比率)

	頭痛	背中の痛み	いらいら	うつ状態	不眠症	合計	差の少ない順位
日本	-14	1	-3	-3	-3	-22	1
アメリカ	-14	-14	-18	-8	-6	-60	4
イギリス	-13	-12	-10	-3	-10	-48	2
フランス	-11	-12	-15	-10	-9	-57	4
ドイツ	-15	-13	-10	-3	-8	-49	2

付録

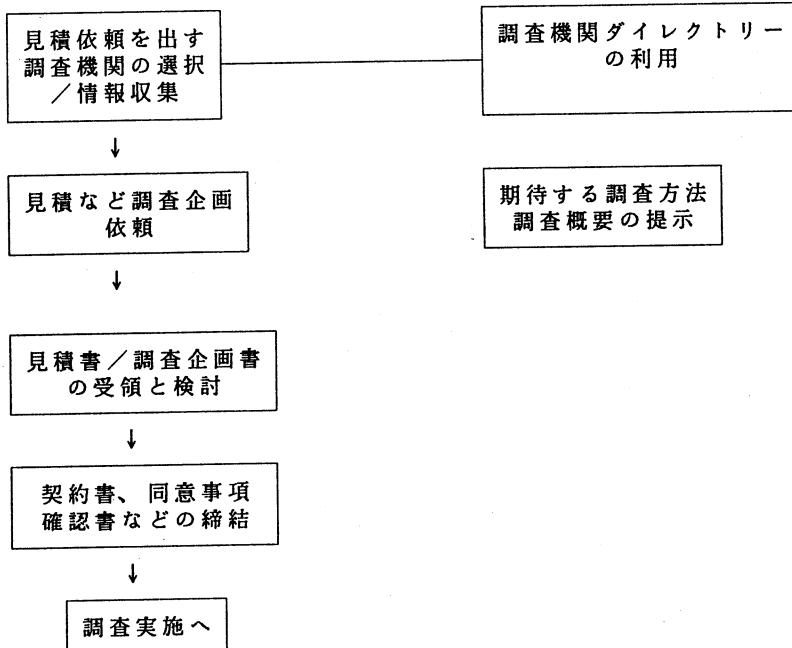
1. 海外調査の為の日本側代理店との契約について
2. オランダ調査のために調査代理店へ提示した調査仕様書
3. オランダ調査のための調査代理店との契約書
4. 米国調査票

付録 1

海外調査の為の日本側代理店との契約について

海外調査の実施は、日本側代理店を通して、海外調査機関などへの依頼によって行うことが多い。ここでは、その際の日本側代理店の立場から仕事の流れを簡単に説明しておこう。（代理店となる候補は、（財）日本世論調査協会のメンバーリストを参考に、複数の候補を探し出し、見積りを提出してもらい、検討し、決定することが考えられる。）海外とは、ファックスによる英文レターや電話を用いて接触・交渉がなされるが、基本的な流れは以下のようになる。

代理店を通して海外での実施調査をする際の 代理店の海外機関への依頼フロー



(1) 海外調査の依頼

依頼には調査企画書がいつまでに必要であるかという事項を記載し、この〆切を考慮した企画書の提示を求める。大概の依頼は、2~3日から最長で一週間程度を必要とするので、これを念頭において依頼をする。

この時、どの調査機関へ委託するか、どのレベルまで依頼するかを押さえておく必要がある。特に初めての国での実施には、既存の調査機関ダイレクトリー等を利用してのコンタクトとなる。主要なダイレクトリーとしては、米国マーケティング協会（American Marketing Association）発刊のGreen Book、ESOMAR(European Society for Opinion and Research)発刊のESOMAR加盟調査機関ダイレクトリー(Research Organisations)、英国The Market Research Society発刊のInternational Directory of Market Research Organisationsなどがあげられる。

(2) 契約書・同意事項確認書などについて

海外企業との仕事では互いの義務・責任範囲や報酬などを明確に決める必要がある。特に守秘義務・守秘事項確認書（Non-Disclosure Agreement）程度は、最低限必要である。

(3) 調査予算の支払いについて

全調査予算の半額を調査プロジェクト委託を確認したときに、残金を契約書で定めた最終製品提供・納品時に収めるのが、現在各国でほぼ受容されている形式である。(Fees payable 50% on commissioning and 50% on completion.)

調査会社が提出すべき報告書について

調査結果の報告には、最終的な報告書以外に以下のようなものがある。

- ・調査結果速報 (Flash Report) : 調査終了後、可能な限り早い段階で提出する報告書
- ・中間報告書 (Mid-term Report) : 報告書の方向を見極めるために中間的に提出する報告書

(1) 最終報告書の構成は、

一般的に次のように構成されている。

- 1) 表紙 (Cover Page/Title Page)
- 2) 目次 (Table of Contents)
- 3) 調査結果要約 (Executive Summary)
- 4) 調査の概要・フレーム (Introduction/Survey Frame)
- 5) 調査結果概要 (Findings or Detailed Research Results)
- 6) 結論および今後への提案 (Conclusions and Suggestions)
- 7) 付録 (Appendix)

(2) 各構成部分の説明

- 1) 表紙 (Cover Page/Title Page)

表紙がカバーする内容は、調査の題目・名称 (Title of the research/survey)、納品先相手 (For whom the research was prepared)、報告書作成者名 (By whom the report was written) 及び報告書作成の日付 (The completion date of the report) などである。

- 2) 目次 (Table of Contents)

- 3) 調査結果要約 (Executive Summary)

必要なポイントをすぐに理解できるようにするための要約。結論や提案を含めてポイントを示してあるもの。

- 4) 調査の概要・フレーム (Introduction/Survey Frame)

実際の調査の方法・様子を示す部分であり、これには調査実施の動機・目的 (Research Purpose/Research Objective) までを含める。最低限カバーすべき項目は以下の通りである。

- ・調査方法 (Research Methodology)

- ・調査対象 (Research Samples)

- ・標本計画 (Sample Design)

- ・調査対象サンプルのサイズ (Sample Size)

- ・調査期間 (Research/Survey Period)

- 5) 調査結果概要 (Findings or Detailed Research Results)

調査の各項目（仮説・問題意識を含む）に対する、調査結果事実に基づく詳細な情報を示す。表などを利用して、視覚を通して適切な情報が伝えられることが望ましい。

- 6) 結論および今後への提案 (Conclusions and Suggestions)

単に結果事実を示すだけでなく、結論としてまとめ、今後の展開への提案まで進められたものであること。

- 7) 付録 (Appendix)

調査に利用した調査票 (Questionnaire)、単純集計表 (Marginal Counts)、クロス集計表 (Cross-table) など。

(3) 報告書作成における技術的事項と用語

調査結果は可能な限りグラフの使い分けやカラーの利用などを考え、視覚化されていることが望ましい。

付録2
オランダ調査のために調査代理店へ提示した調査仕様書

1993. 5. 12

「意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究」
によるオランダ国調査実施要領
(調査仕様)

(調査対象)

1. 母集団 : オランダ国在住の18歳以上の者
2. 標本数 : 1000
3. 抽出法 : 地域層別二段抽出法
4. (資料) : 最近時のP T T (Post Office Board)の発行の住所録資料
5. 層別 : 全国の行政単位を層別する

イ. 範囲 全国

ロ. 第1次層別単位 Administrative regional units
地域行政単位

ハ. 層別基準 地方、都市人口規模

ニ. 第一次層 地方×人口規模

ホ. 調査地域抽出 行政単位または地域ブロックの人口規模に比例する大きさ
による確率比例抽出

ヘ. 抽出単位 地域ブロック (自治体の)

ト. 抽出枠 自治体の地域リスト

チ. 地域内の個人抽出 在宅率を考慮した地点内ランダムルート法

6. 調査対象者数の割り当て： 各層の大きさによる比例割り当て

7. 各地点におけるサンプルの割り当て： 抽出された250の各地点に1つずつ
割り当てる

※各層より複数箇所の地点を抽出すること

※個別には地点番号、地点番号のIDを必ずつけること

※サンプリングの精度、層別の効果、多段抽出の影響度等を計算できるようにすること

(調査方法)

個別面接聴取法

(調査票) (別紙調査票案参照) ※確定事項は当所の指示による

1. 一般質問項目： 80項目 (3項目自由回答法)

2. 基本属性項目：

イ. 通常の基本属性項目 (主として Eurobarometer調査の仕様による)

性

年齢 (生年月日) そのままプリコード

学歴 (何年学校に行ったか)

在学年数 そのまま及びプリコード

宗教 自由回答orプリコード

宗派 "

教会へ行くか プリコード

収入 個人 プリコード
世帯 "

支持政党 自由回答orプリコード

Ethnic Background " ※主観的

家族数 プリコード
家族構成 "

ロ. 社会・経済的属性項目

持家か (住宅形式)

主観的階層 プリコード

職業 世帯主 プリコード
本人 自由回答及びカテゴリ記入 (プリコード)
" "

労働組合に加入 プリコード

主観的階級 (Class) プリコード 実施可能かどうか
検討必要

ハ. 地域的属性項目

居住地・都市規模別 プリコード ※コーディング仕様必要

都市-農村 (Urban-Rural) " 確認・検討必要

層別基準別 "

ニ. その他 標本誤差、非標本誤差の推定、偏りの補正に必要な項目

〔作業手順〕 〔作業日程〕

1. 質問項目の翻訳、再翻訳して照合検討、調査票原案作成 (7月中)
2. プリテスト (目的) 翻訳是非、質問文の理解、質問内容の適切さ、調査実施の質

9月15日～9月25日 実施、対象標本数 30～50

9月25日～9月30日 までにチェック、検討会

検討事項

- イ. 質問文の理解と内容の適切さ：修正が必要か否か
- ロ. その他、DKの出方、取り扱い方検討
- ハ. 調査員に対する指示要領の確認
- ニ. 最終調査票原稿完成 (9月30日)

OKは 9月30日迄

3. サンプリング 調査実施準備 (9月1日～9月20日)

- イ. 調査地点の抽出
- ロ. 調査員の割り当て
- ハ. 抽出地点の一覧、抽出地点当たりの標本数 (標本属性構成) 一覧作成
- ニ. 最終調査票確定、印刷 (10月10日) 調査票作成
- ホ. 調査員インストラクション (10月10日) 指示要領作成

4. 本調査実施 (10月15日～10月31日の期間内)

5. 調査票回収、整理、点検、データチェック (クリーニング)
(11月1日～11月15日)

- イ. 「その他」回答のコーディング 仕様の検討及び作成
- ロ. 属性項目のコーディング 仕様の検討及び作成

学歴

支持政党

職業

地方

都市規模

都市～農村

収入

宗教 等

ハ. 自由回答：そのままパンチする

ニ. Multi Answer項目 0,1型にパンチする

6. データ・パンチ カード・イメージ (レコード長、ブロック長)

7. MT仕様 EBCDIC CODE 9トラック
6250BPI (1600BPI以上)

1カラム 0～9
(Multiパンチはしないこと) (MAは1カテゴリ1バイト)
テープマークなし

(納品物)

1. サンプリング仕様

- イ. 抽出地点一覧リスト 行政単位名、人口(有権者数)
第1次抽出単位の大きさ(人口、有権者数)一覧
- ロ. 層別一覧 基準 地域分け、層別地図
各層の抽出地点一覧
各層の割り当てサンプル数 (回収数)
各層の属性別一覧 (不能理由一覧)
- ハ. これらに見合う基本統計資料 オランダ統計局の国勢調査資料

2. 調査実施状況一覧

- イ. 調査地点別 属性別一覧、対象地域の範囲の確認出来る地図
各調査地点地図及びランダム・ルート図示
(拒否、不在数一覧)

- ロ. 調査可能(回収数) 不能理由一覧(地域・地点別)
地域・地点別回収数

3. M. T. 及びデータ仕様(データ・フォーマット)
(個票に層別、地点別IDナンバーを付けること)

4. コーディング仕様(各カテゴリの説明)

5. 基本コード一覧(単純集計のOUTPUT及び各カテゴリの説明)

6. 質問票をワープロで作成しているならば、そのフロッピィディスクのコピーおよび入力機種と入力ソフト名

7. 調査原票(ゼロックス、コピーでも可)

8. 自由回答部分(サンプルIDナンバーによりMerge可能にする)のサンプル別書き出し(TYPE)およびワープロ打ち込み 入力機種と入力ソフト名

9. 調査員に対する指示要領(ガイドブック等)

10. 調査実施状況の録音が可能であれば、その録音テープ

※輸送時の紛失事故 あるいは事後の問い合わせに備えて主なもののコピーを保存しておくこと

付録 3
オランダ調査のための調査代理店との契約書
(一部伏字)

請負契約書

契約件名 「意識の国際比較における連鎖的調査分析方法
の実用化に関する研究」によるオランダ国調査 追加分

契約金額 金 _____ 円也
(うち消費税額 _____ 円)

上記消費税額は、消費税法第28条第1項及び第29条の規定に基づき、
請負代金に103分の3を乗じて得た額である。

発注者 統計数理研究所 領域統計研究系 人文社会研究部門 吉野諒三 (以下「甲」という。) と請負者 株式会社 _____ 代表取締役社長 _____ (以下乙という。)との間において、別紙実施要項(「意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究」によるオランダ国調査追加分実施要項)に基づき次の通り請負契約を締結するものとする。

第1条 調査項目等は実施要項の通りとする。

第2条 契約期間は平成5年11月30日から平成6年3月31日までとする。

第3条 請求書は統計数理研究所へ送付するものとする。

第4条 請負代金の支払いは、調査完了後1回払いとし、適法な請求書を受理した日より、30日以内に支払うものとする。

なお、国外における経費の支払金額は契約時の為替レートによる金額とする。

ただし、契約時とオランダ国に対して乙が支払を完了した日の為替レートに、変動が生じたときは、その日の為替レートをもって精算をするものとする。

第5条 この契約について疑義が生じた場合には、甲、乙協議の上速やかにこれを解決するものとする。

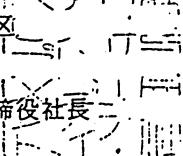
第6条 この契約に定めのない事項について、定める必要がある場合には甲、乙協議の上定めるものとする。

第7条 この契約についての必要な細目は、文部省発注工事請負等契約規則を準用するものとする。

上記契約の成立を証するため、甲乙は次に記名し印を押すものとする。
この契約書は2通作成し、双方で各1通保有するものとする。

平成5年11月30日

甲 東京都港区南麻布4-6-7
統計数理研究所 領域統計研究系
人文社会研究部門 吉野諒三 

乙 東京都中央区一丁目
株式会社 
代表取締役社長 

付録 4

米国調査票

SURVEY G088293		<p>The Gallup Survey</p> <p>Copyright 1977 The Gallup Organization, Inc., Princeton, New Jersey 08543</p>
DATE Oct. 4, 1988	101-02 = z 103-06 = id 107-09 = Z 110-11 = '01' <hr/> TIME START: _____ TIME END: _____ LENGTH: _____ 125-26	
<small>No publication, reproduction, dissemination or other use of this questionnaire or any replies thereto, written or oral, is authorized by The Gallup Organization Inc. Violators of this notice will be prosecuted to the fullest extent of the law.</small>		
<small>SUGGESTED INTRODUCTION: I'm taking a GALLUP SURVEY. I'd like YOUR opinion on some topics of interest.</small>		

113 - 115 = WT FACTOR

116 - 124 = Cross-Section

Q.1 Compared with ten years ago do you think the standard of living of Americans as a whole is... (READ)	A.1 <table> <tr> <td>1</td><td>Much better</td><td>127</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Slightly better</td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td>About the same</td><td></td></tr> <tr> <td>4</td><td>Slightly worse, or</td><td></td></tr> <tr> <td>5</td><td>Much worse</td><td></td></tr> <tr> <td>0</td><td>Don't know (DON'T READ)</td><td></td></tr> </table>	1	Much better	127	2	Slightly better		3	About the same		4	Slightly worse, or		5	Much worse		0	Don't know (DON'T READ)	
1	Much better	127																	
2	Slightly better																		
3	About the same																		
4	Slightly worse, or																		
5	Much worse																		
0	Don't know (DON'T READ)																		
Q.2 Compared with ten years ago do you think your standard of living is... (READ)	A.2 <table> <tr> <td>1</td><td>Much better</td><td>128</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Slightly better</td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td>About the same</td><td></td></tr> <tr> <td>4</td><td>Slightly worse, or</td><td></td></tr> <tr> <td>5</td><td>Much worse</td><td></td></tr> <tr> <td>0</td><td>Don't know (DON'T READ)</td><td></td></tr> </table>	1	Much better	128	2	Slightly better		3	About the same		4	Slightly worse, or		5	Much worse		0	Don't know (DON'T READ)	
1	Much better	128																	
2	Slightly better																		
3	About the same																		
4	Slightly worse, or																		
5	Much worse																		
0	Don't know (DON'T READ)																		

<p>Q.3 Over the <u>next five years</u> do you think <u>your</u> living conditions will get... (READ)</p>	<p>A.3</p> <table> <tbody> <tr><td>1</td><td>Much better</td><td>129</td></tr> <tr><td>2</td><td>Slightly better</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>About the same</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>Slightly worse, or</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>Much worse</td><td></td></tr> <tr><td>0</td><td>Don't know (DON'T KNOW)</td><td>READ</td></tr> </tbody> </table>	1	Much better	129	2	Slightly better		3	About the same		4	Slightly worse, or		5	Much worse		0	Don't know (DON'T KNOW)	READ
1	Much better	129																	
2	Slightly better																		
3	About the same																		
4	Slightly worse, or																		
5	Much worse																		
0	Don't know (DON'T KNOW)	READ																	
<p>Q.4 Do you think people, in general, will be more happy, or less happy than they are now?</p>	<p>A.4</p> <table> <tbody> <tr><td>1</td><td>More happy</td><td>130</td></tr> <tr><td>2</td><td>Less happy</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>No change</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>Other (PLEASE SPECIFY)</td><td>_____</td></tr> <tr><td>0</td><td>Don't know</td><td>_____</td></tr> </tbody> </table>	1	More happy	130	2	Less happy		3	No change		4	Other (PLEASE SPECIFY)	_____	0	Don't know	_____			
1	More happy	130																	
2	Less happy																		
3	No change																		
4	Other (PLEASE SPECIFY)	_____																	
0	Don't know	_____																	
<p>Q.5 How about people's peace of mind? Do you think it will increase or decrease?</p>	<p>A.5</p> <table> <tbody> <tr><td>1</td><td>Increase</td><td>131</td></tr> <tr><td>2</td><td>Decrease</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>Not change</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>Other (PLEASE SPECIFY)</td><td>_____</td></tr> <tr><td>0</td><td>Don't know</td><td>_____</td></tr> </tbody> </table>	1	Increase	131	2	Decrease		3	Not change		4	Other (PLEASE SPECIFY)	_____	0	Don't know	_____			
1	Increase	131																	
2	Decrease																		
3	Not change																		
4	Other (PLEASE SPECIFY)	_____																	
0	Don't know	_____																	

<p>Q.6 What about people's freedom? Do you think it will increase or decrease?</p>	<p>A.6</p> <table> <tbody> <tr><td>1</td><td>Increase</td><td> 32</td></tr> <tr><td>2</td><td>Decrease</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>Not change</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>Other (PLEASE SPECIFY)</td><td></td></tr> <tr><td>0</td><td>Don't know</td><td></td></tr> </tbody> </table>	1	Increase	32	2	Decrease		3	Not change		4	Other (PLEASE SPECIFY)		0	Don't know				
1	Increase	32																	
2	Decrease																		
3	Not change																		
4	Other (PLEASE SPECIFY)																		
0	Don't know																		
<p>Q.7 Do you think that people's health will improve in the future, or do you think it will get worse?</p>	<p>A.7</p> <table> <tbody> <tr><td>1</td><td>Improve</td><td> 33</td></tr> <tr><td>2</td><td>Get worse</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>Not change</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>Other (PLEASE SPECIFY)</td><td></td></tr> <tr><td>0</td><td>Don't know</td><td></td></tr> </tbody> </table>	1	Improve	33	2	Get worse		3	Not change		4	Other (PLEASE SPECIFY)		0	Don't know				
1	Improve	33																	
2	Get worse																		
3	Not change																		
4	Other (PLEASE SPECIFY)																		
0	Don't know																		
<p>Q.8 (HAND CARD 8) There is a lot of talk these days about what the country's goals should be for the next ten or fifteen years. On this card are listed some of the goals that different people believe should be given top priority. Which one of them do you yourself consider most important in the long run? Just call off the letter, please. (<u>ONLY ONE RESPONSE PERMITTED</u>)</p>	<p>A.8</p> <table> <tbody> <tr><td>A 1</td><td>Maintaining order in the nation</td><td> 34</td></tr> <tr><td>B 2</td><td>Giving the people more say in important government decisions</td><td></td></tr> <tr><td>C 3</td><td>Fighting rising prices</td><td></td></tr> <tr><td>D 4</td><td>Protecting freedom of speech</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>Other (PLEASE SPECIFY)</td><td></td></tr> <tr><td>0</td><td>Don't know</td><td></td></tr> </tbody> </table>	A 1	Maintaining order in the nation	34	B 2	Giving the people more say in important government decisions		C 3	Fighting rising prices		D 4	Protecting freedom of speech		5	Other (PLEASE SPECIFY)		0	Don't know	
A 1	Maintaining order in the nation	34																	
B 2	Giving the people more say in important government decisions																		
C 3	Fighting rising prices																		
D 4	Protecting freedom of speech																		
5	Other (PLEASE SPECIFY)																		
0	Don't know																		

Q.9 (HAND CARD 9) To what extent do you worry, either for yourself or for your family, about each of the following? Would you say very much, somewhat, slightly, or not at all? (READ EACH IN TURN)

	<u>Very Much</u>	<u>Somewhat</u>	<u>Slightly</u>	<u>Not at all</u>	<u>Don't know</u>	
	1	2	3	4	0	135
Serious illness						
Car accident	1	2	3	4	0	136
Unemployment	1	2	3	4	0	137
War	1	2	3	4	0	138
Nuclear power accident	1	2	3	4	0	139

Q.10 Do you or your family have to limit your spending more than you would like in any of the following areas? (READ)

	<u>Yes</u>	<u>No</u>	<u>Don't know/ Not applicable</u>	
Health care	1	2	0	140
Automobile costs	1	2	0	141
Home appliances	1	2	0	142
Food	1	2	0	143
Beauty care	1	2	0	144
Vacation and leisure	1	2	0	145
Clothes	1	2	0	146
Housing	1	2	0	147
Expenses for children	1	2	0	148
Smoking or drinking	1	2	0	149

<p>Q.11 Would you say you are, on the whole, more inclined than the average American to respect your ancestors or less?</p>	<p>A.11 150</p> <p>1 More than the average American 2 Less than the average American 3 Average 4 Other (PLEASE SPECIFY) _____ _____</p> <p>0 Don't know</p>
<p>Q.12 If you had no children, would you think it desirable to adopt a child in order to continue the family line, even if there is no blood relationship? Or do you not think this is important?</p>	<p>A.12 151</p> <p>1 Would adopt 2 Would not adopt 3 Depends 4 Other (PLEASE SPECIFY) _____ 5 <u>Not important</u> _____</p> <p>0 Don't know</p>
<p>Q.13 What do you think is the ideal number of children in a family? (DO NOT READ)</p>	<p>A.13 152</p> <p>1 One 2 Two 3 Three 4 Four 5 Five 6 More than 5 7 None 8 It depends/no ideal number 0 Don't know</p>

Q.14 During the last four weeks have you suffered from any of the following?
 (READ EACH IN TURN)

	<u>Yes</u>	<u>No</u>	<u>Don't know</u>	
Headaches/migraines	1	2	0	153
Backaches	1	2	0	154
Nervousness	1	2	0	155
Depression	1	2	0	156
Insomnia	1	2	0	157

Q.15 For your age, how satisfied are you with your health? Would you say... (READ)

- | | |
|------|--------------------------|
| A.15 | 158 |
| 1 | Very satisfied |
| 2 | Fairly satisfied |
| 3 | Fairly dissatisfied, or |
| 4 | Very dissatisfied |
| 0 | Don't know (DO NOT READ) |

Q.16 (HAND CARD 16) Using the classifications on this card, how would you classify your current standard of living? Just call off the letter, please.

- | | |
|------|--------------|
| A.16 | 159 |
| A 1 | Upper |
| B 2 | Upper middle |
| C 3 | Middle |
| D 4 | Lower middle |
| E 5 | Lower |
| 0 | Don't know |

<p>Q.17 If you had to choose, which would you prefer, more money or more free time?</p>	<p>A.17</p> <p>1 More money 160</p> <p>2 More free time</p> <p>0 Don't know</p>
<p>Q.18 If you were to get enough money to live as comfortably as you would like for the rest of your life, would you continue to work or would you stop working?</p>	<p>A.18</p> <p>1 Continue to work 161</p> <p>2 Stop working</p> <p>3 Other (PLEASE SPECIFY) _____ retired</p> <p>4 _____ do not work</p> <p>5 _____ Don't know</p>
<p>Q.19 (HAND CARD 19) Please read the two statements on this card. Which of these comes closest to your own opinion? Just call off the letter, please.</p>	<p>A.19</p> <p>A 1 No matter how much money you have, life without work is unfulfilling 162</p> <p>B 2 As long as you have money, life is fulfilling even if you don't have a job</p> <p>0 Don't know</p>

Q.20 (HAND CARD 20) Here are some of the things people usually take into account in relation to their work. Which one would you personally place first? Just call off the letter, please.

- A.20 163
- A 1 A good salary so that you do not have any worries about money
- B 2 A safe job with no risk of closing down or unemployment
- C 3 Working with people you like
- D 4 Doing an important job which gives you a feeling of accomplishment
- 5 Other (PLEASE SPECIFY) _____
- 0 Don't know

Q.21 In your weekly schedule does your work life sometimes conflict with your private life or your family life?

- A.21 164
- 1 Yes
- 2 No
- 3 Not in paid employment/not applicable
- 0 Don't know

Q.22 (HAND CARD 22) There are all sorts of attitudes toward life. Which one of the following statements would you say comes closest to your way of life? Just call off the letter, please.

- A.22 (165)
- A 1 Work hard and get rich
B 2 Study earnestly and make a name for yourself
C 3 Don't think about money or fame; just live a life that suits your own taste
D 4 Live each day as it comes, cheerfully and without worrying
E 5 Resist all evils in the world and live a pure and just life
F 6 Never think of yourself, give everything in service of society
7 Other (PLEASE SPECIFY) _____

0 Don't know

(166)

Q.23 How do you feel about the quality of life in the area where you live?
(READ)

- A.23 (167)
- 1 Very satisfied
2 Fairly satisfied
3 Fairly dissatisfied, or
4 Very dissatisfied
0 Don't know (DO NOT READ)

Q.24A (HAND CARD 24) How much of a problem is safety in your neighborhood as far as the following are concerned? First of all burglary. How serious a problem is this?

Q.24B (RETAIN HAND CARD 24) And how about personal safety, that is things like mugging? How serious a problem is this in your neighborhood?

	<u>A Serious Problem</u>	<u>A Problem</u>	<u>Not a Serious Problem</u>	<u>Not a Problem at all</u>	<u>Don't know</u>	
A.24A Burglary	1	2	3	4	0	168
A.24B Personal safety/ mugging	1	2	3	4	0	169

Q.25 (HAND CARD 25) There is a story of a lazy grasshopper and a hard-working ant in one of Aesop's fables. When winter came, the grasshopper who spent the summer singing came for help to the ant who worked all through the summer. The ant could have given either of the two replies you see on this card. Which one of the two do you think suits you best as the conclusion of the story? Just call off the letter, please.

- A.25 170
- A 1 The ant sends the grasshopper away because it is only natural that the grasshopper should suffer now.
- B 2 The ant first admonishes the grasshopper, saying, "You are to blame for having been lazy. You should work harder from now on," and then shares his food.
- 3 Other (PLEASE SPECIFY) _____

- 0 Don't know

Q.26A What is the single most important thing in life for you? Please tell me one thing only.

A.26A

- _____ 171
_____ 172
_____ 173
0 Don't know 174

Q.26B What other things are very important to you? You can mention as many things as you like. PROMPT: What else?

A.26B

- _____ 175
_____ 176
_____ 177
0 Don't know 178

179-80=Z

203-06=10
210-11=02

Q.27 (HAND CARD 27) Using this scale, where '7' is "very important," and '1' is "not important at all," can you tell me how important each of the following are to you? (READ EACH ITEM IN TURN.)

A.27	Not Important <u>at all</u>							Very <u>Important</u>		Don't know
Your immediate family and children, if you have any	1	2	3	4	5	6	7		0	212
Career and work	1	2	3	4	5	6	7		0	213
Free time and relaxation	1	2	3	4	5	6	7		0	214
Friends and acquaintances	1	2	3	4	5	6	7		0	215
Parents, brothers, sisters, and other relatives	1	2	3	4	5	6	7		0	216
Religion and church	1	2	3	4	5	6	7		0	217
Politics	1	2	3	4	5	6	7		0	218

Q.28 (HAND CARD 28) All things considered, how satisfied are you with your family life--the time you spend and the things you do with members of your family? Just call off the letter which comes closest to your feelings.

- A.28
- A 1 Completely satisfied 219
- B 2 Somewhat satisfied
- C 3 Neither completely satisfied nor completely dissatisfied (neutral)
- D 4 Somewhat dissatisfied
- E 5 Completely dissatisfied
- 6 Other (PLEASE SPECIFY) _____
- 0 Don't know

Q.29 (RETAIN HAND CARD 28) Now I want to ask about your life as a whole. How satisfied are you with your life as a whole these days? Which letter on this card comes closest to your feelings?

- A.29
- A 1 Completely satisfied 220
B 2 Somewhat satisfied
C 3 Neither completely satisfied nor completely dissatisfied (neutral)
D 4 Somewhat dissatisfied
E 5 Completely dissatisfied
F Other (PLEASE SPECIFY) _____
G _____
H Don't know

Q.30 If you look at successful people in society today, which do you think has played the largest part in their success, their ability and effort, or luck and chance?

- A.30
- 1 Ability and effort 221
2 Luck and chance
3 Other (PLEASE SPECIFY) _____
4 Both _____
5 Don't know

Q.31 (HAND CARD 31) Which of the opinions on this card comes closest to your own? Just call off the letter, please, next to the phrase which best completes this statement: "When the state provides for families whose income is insufficient..."

- A.31
- A 1 It enables them to live 222
B 2 It takes away their sense of responsibility
C 3 Other (PLEASE SPECIFY) _____
D Both _____
E Don't know

Q.32 Some people say that with the development of science and technology, life becomes more convenient, but at the same time a lot of human feeling is lost. Do you agree with this opinion or do you disagree?	<p>A.32</p> <p style="text-align: right;">223</p> <table border="0"> <tr><td>1</td><td>Agree</td></tr> <tr><td>2</td><td>Disagree</td></tr> <tr><td>3</td><td>Undecided/it depends</td></tr> <tr><td>4</td><td>Other (PLEASE SPECIFY) _____</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>0</td><td>Don't know</td></tr> </table>	1	Agree	2	Disagree	3	Undecided/it depends	4	Other (PLEASE SPECIFY) _____	<hr/>		0	Don't know
1	Agree												
2	Disagree												
3	Undecided/it depends												
4	Other (PLEASE SPECIFY) _____												
<hr/>													
0	Don't know												
Q.33 In bringing up children of elementary school age some people think that they should be taught as early as possible that money is one of the most important things in life. Do you agree with this or not?	<p>A.33</p> <p style="text-align: right;">224</p> <table border="0"> <tr><td>1</td><td>Agree</td></tr> <tr><td>2</td><td>Disagree</td></tr> <tr><td>3</td><td>Undecided/it depends</td></tr> <tr><td>4</td><td>Other (PLEASE SPECIFY) _____</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>0</td><td>Don't know</td></tr> </table>	1	Agree	2	Disagree	3	Undecided/it depends	4	Other (PLEASE SPECIFY) _____	<hr/>		0	Don't know
1	Agree												
2	Disagree												
3	Undecided/it depends												
4	Other (PLEASE SPECIFY) _____												
<hr/>													
0	Don't know												
Q.34 Some people say that if we get outstanding political leaders, the best way to improve the country is for the people to leave everything to them, rather than for the people to discuss things among themselves. Do you agree with this, or disagree?	<p>A.34</p> <p style="text-align: right;">225</p> <table border="0"> <tr><td>1</td><td>Agree</td></tr> <tr><td>2</td><td>Disagree</td></tr> <tr><td>3</td><td>Undecided/it depends</td></tr> <tr><td>4</td><td>Other (PLEASE SPECIFY) _____</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>0</td><td>Don't know</td></tr> </table>	1	Agree	2	Disagree	3	Undecided/it depends	4	Other (PLEASE SPECIFY) _____	<hr/>		0	Don't know
1	Agree												
2	Disagree												
3	Undecided/it depends												
4	Other (PLEASE SPECIFY) _____												
<hr/>													
0	Don't know												

<p>Q.35 If you think something is right, do you think you should go ahead and do it even if it is contrary to usual custom, or do you think you are less apt to make a mistake if you follow custom?</p>	<p>A.35 226</p> <p>1 Go ahead even if contrary 2 Follow custom 3 Undecided/it depends 4 Other (PLEASE SPECIFY) _____</p> <p>0 Don't know</p>
<p>Q.36 Some people say that no matter how mechanized the world gets, nothing can reduce the richness of human feelings. Do you agree with this opinion, or do you disagree?</p>	<p>A.36 227</p> <p>1 Agree 2 Disagree 3 Undecided/it depends 4 Other (PLEASE SPECIFY) _____</p> <p>0 Don't know</p>
<p>Q.37 Do you agree with the following statement: "Home is the only place where I can relax and feel good"?</p>	<p>A.37 228</p> <p>1 Yes 2 No 3 Other (PLEASE SPECIFY) _____</p> <p>0 Don't know</p>

<p>Q.38 (HAND CARD 38) Which of the statements on this card comes closest to your own opinion about marriage? Just call off the letter, please.</p>	<p>A.38</p> <table> <tbody> <tr> <td>A 1</td><td>Marriage is permanent</td><td>229</td></tr> <tr> <td>B 2</td><td>Marriage may be broken only under serious circumstances</td><td></td></tr> <tr> <td>C 3</td><td>Marriage can be broken by simple agreement of the two partners <i>+ depends on age of child</i></td><td></td></tr> <tr> <td>0</td><td>Don't know</td><td></td></tr> </tbody> </table>	A 1	Marriage is permanent	229	B 2	Marriage may be broken only under serious circumstances		C 3	Marriage can be broken by simple agreement of the two partners <i>+ depends on age of child</i>		0	Don't know				
A 1	Marriage is permanent	229														
B 2	Marriage may be broken only under serious circumstances															
C 3	Marriage can be broken by simple agreement of the two partners <i>+ depends on age of child</i>															
0	Don't know															
<p>Q.39 (HAND CARD 39) Which of the statements on this card comes closest to your own opinion about housework and child care? Just call off the letter, please.</p>	<p>A.39</p> <table> <tbody> <tr> <td>A 1</td><td>They are women's work</td><td>230</td></tr> <tr> <td>B 2</td><td>Some of the work is more suited to women</td><td></td></tr> <tr> <td>C 3</td><td>All of the work should be divided between men and women without differentiation</td><td></td></tr> <tr> <td>0</td><td>Don't know</td><td></td></tr> </tbody> </table>	A 1	They are women's work	230	B 2	Some of the work is more suited to women		C 3	All of the work should be divided between men and women without differentiation		0	Don't know				
A 1	They are women's work	230														
B 2	Some of the work is more suited to women															
C 3	All of the work should be divided between men and women without differentiation															
0	Don't know															
<p>Q.40 Suppose that a child comes home and says that he has heard a rumor that his teacher had done something to get himself into trouble, and suppose that the parent knows this to be true. Do you think it is better for the parent to tell the child the truth, or to deny it?</p>	<p>A.40</p> <table> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Tell the truth</td><td>231</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Deny it</td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td>Other (PLEASE SPECIFY)</td><td></td></tr> <tr> <td>4</td><td><i>depends on Age of child</i></td><td></td></tr> <tr> <td>0</td><td>Don't know</td><td></td></tr> </tbody> </table>	1	Tell the truth	231	2	Deny it		3	Other (PLEASE SPECIFY)		4	<i>depends on Age of child</i>		0	Don't know	
1	Tell the truth	231														
2	Deny it															
3	Other (PLEASE SPECIFY)															
4	<i>depends on Age of child</i>															
0	Don't know															

Q.41 (HAND CARD 41) Imagine this situation. Mr. A. was orphaned at an early age and was brought up by Mr. B, a kind neighbor. Mr. B gave him a good education, sent him to a university, and now Mr. A has become the president of a company. One day he gets a telegram saying that Mr. B who brought him up, is seriously ill and asking if he would come at once. This telegram arrives as he is leaving to attend an important meeting which will decide whether his firm is to go bankrupt or to survive. Which of the following do you think he should do? Just call off the letter, please.

Q.42 (HAND CARD 42) The last question supposed that Mr. B had taken him in as an orphan in his youth and brought him up. Suppose that it was his real father who was seriously ill. Which would have been your answer then?

- A.41 232
- A 1 Leave everything and go back home
- B 2 However worried he might be about Mr. B, he should go to the meeting
- 3 Other (PLEASE SPECIFY) _____
Postpone Meeting
- 4
- 0 Don't know

- A.42 233
- A 1 Leave everything and go back home
- B 2 However worried he might be about his father, he should go to the meeting
- 3 Other (PLEASE SPECIFY) _____
Postpone Meeting
- 4
- 0 Don't know

Q.43 (HAND CARD 43) Here are three opinions about man and nature. Which one of these do you think is closest to the truth? Just give me the letter.

- A.43 234
- A 1 In order to be happy, man must follow nature
- B 2 In order to be happy, man must make use of nature
- C 3 In order to be happy, man must conquer nature
- 4 Other (PLEASE SPECIFY) _____

0 Don't know

Q.44 (HAND CARD 44) Please choose from among the following statements the one with which you agree most. Just the letter, please.

- A.44 235
- A 1 If individuals are made happy, then and only then will the country as a whole improve
- B 2 If the country as a whole improves, then and only then can individuals be made happy
- C 3 Improving the country and making individuals happy are the same thing
- 4 Other (PLEASE SPECIFY) _____

0 Don't know

Q.45 (HAND CARD 45) If you were asked to choose the two most important items listed on this card, which two would you choose? Just call off the letters.

See page 37

A.45

- A 1 Respect for parents
B 2 Repaying people who have helped you in the past
C 3 Respect for the rights of the individual
D 4 Respect for the freedom of the individual
5 Other answers (PLEASE SPECIFY)

Q.46 (HAND CARD 46) Whom do you consider more desirable as a person?

A.46

237

- A 1 Mr. S. who is friendly and can be counted on to help others but is not an efficient worker
B 2 Mr. T. who is an efficient worker but is indifferent to the worries and affairs of others
3 Other (PLEASE SPECIFY)

0 Don't know

<p>Q.47 (HAND CARD 47) Which of the two people described on this card would you like best? Just read off the letter.</p>	<p>A.47 238</p> <p>A 1 A person who stresses his/her own principles rather than achieving a consensus among other group members.</p> <p>B 2 A person who stresses the importance of achieving a consensus among other group members rather than maintaining his/her own principles.</p> <p>3 Other (PLEASE SPECIFY) _____</p> <hr/> <p>0 Don't know</p>
<p>Q.48 (HAND CARD 48) Suppose that you are the president of a company. The company decides to employ one person, and then carries out an employment examination. The supervisor in charge reports to you saying, "Your relative who took the examination got the second highest grade. But I believe that either your relative or the candidate who got the highest grade would be satisfactory. What shall we do?" In such a case, which person would you employ?</p>	<p>A.48 239</p> <p>A 1 One with the highest grade</p> <p>B 2 Your relative</p> <p>3 Other (PLEASE SPECIFY) _____</p> <hr/> <p>0 Don't know</p>
<p>Q.49 (HAND CARD 49) In the last question we supposed that the one getting the second highest grade was your relative. Suppose that the one who got the second highest grade was the son of parents to whom you felt indebted. Which person would you employ?</p>	<p>A.49 240</p> <p>A 1 One with the highest grade</p> <p>B 2 Son of your benefactor</p> <p>3 Other (PLEASE SPECIFY) _____</p> <hr/> <p>0 Don't know</p>

<p>Q.50 (HAND CARD 50) Suppose you are working in a firm. Which of the following department chiefs would you prefer to work under? Just call off the letter.</p>	<p>A.50 241</p> <p>A 1 A man who always sticks to the work rules and never demands any unreasonable work, but who, on the other hand, never does anything for you personally in matters not connected with work</p> <p>B 2 A man who sometimes demands extra work in spite of rules against it, but who, on the other hand, looks after you personally in matters not connected with work</p> <p>3 Other (PLEASE SPECIFY) _____</p> <p>0 Don't know</p>
<p>Q.51 Would you say that most of the time, people try to be helpful, or that they are mostly just looking out for themselves</p>	<p>A.51 242</p> <p>1 Try to be helpful</p> <p>2 Look out for themselves</p> <p>3 Other (PLEASE SPECIFY) _____</p> <p>0 Don't know</p>
<p>Q.52 Do you think that most people would try to take advantage of you if they got the chance, or would they try to be fair?</p>	<p>A.52 243</p> <p>1 Take advantage</p> <p>2 Try to be fair</p> <p>3 Other (PLEASE SPECIFY) _____</p> <p>0 Don't know</p>

Q.53 Generally speaking, would you say that most people can be trusted or that you can't be too careful in dealing with people?

A.53

244

- 1 Can be trusted
2 Can't be too careful
3 Other (PLEASE SPECIFY) _____

0 Don't know

Q.54 (HAND CARD 54) I am going to read some things that people have said about life today. As I read each one would you tell me, using the answers on this card, how much you agree or disagree? (READ EACH IN TURN)

A.54

	<u>Strongly Agree</u>	<u>Agree to some extent</u>	<u>Disagree to some extent</u>	<u>Strongly Disagree</u>	<u>Don't know</u>	
Most people will go out of their way to help someone else	1	2	3	4	0	245
I feel I am part of a close-knit local community	1	2	3	4	0	246
Nowadays a person has to live pretty much for today and let tomorrow take care of itself	1	2	3	4	0	247
The way you earn money is more important than how much you earn	1	2	3	4	0	248
Nowadays people like me often feel lonely and cut off from the rest of society	1	2	3	4	0	249

Q.55 To what extent do you think that science and its applications bring improvements to your everyday life? Would you say... (READ)	<p>A.55</p> <table> <tbody> <tr><td>1</td><td>A lot</td><td>250</td></tr> <tr><td>2</td><td>A little bit, or</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>Not at all</td><td></td></tr> <tr><td>0</td><td>Don't know (DO NOT READ)</td><td></td></tr> </tbody> </table>	1	A lot	250	2	A little bit, or		3	Not at all		0	Don't know (DO NOT READ)	
1	A lot	250											
2	A little bit, or												
3	Not at all												
0	Don't know (DO NOT READ)												
Q.56 (HAND CARD 56) In the future, computers in general will continue to change our lives. Do you think this is... (READ)	<p>A.56</p> <table> <tbody> <tr><td>A 1</td><td>A desirable thing</td><td>251</td></tr> <tr><td>B 2</td><td>An understandable but inevitable thing, <u>or</u></td><td></td></tr> <tr><td>C 3</td><td>A regrettable and dangerous thing</td><td></td></tr> <tr><td>0</td><td>Don't know (DO NOT READ)</td><td></td></tr> </tbody> </table>	A 1	A desirable thing	251	B 2	An understandable but inevitable thing, <u>or</u>		C 3	A regrettable and dangerous thing		0	Don't know (DO NOT READ)	
A 1	A desirable thing	251											
B 2	An understandable but inevitable thing, <u>or</u>												
C 3	A regrettable and dangerous thing												
0	Don't know (DO NOT READ)												

Q.57 (HAND CARD 57) Using the answers on this card, would you tell me how much you agree or disagree with the following statements. (READ EACH IN TURN)

A.57	Strongly Agree	Agree to some extent	Disagree to some extent	Strongly Disagree	Don't know	252
There are some illnesses that are better treated by methods that modern medicine does not recognize	1	2	3	4	0	252
Some day science will permit the complete understanding of the functioning of the human mind	1	2	3	4	0	253
Most of the social and economic problems we face today will be resolved by the advancement of science and technology	1	2	3	4	0	254

Q.58 (HAND CARD 58) How likely do you think it is that we will see each of the following things in the next 25 years? Very likely, possible but not too likely, or not at all likely. (READ EACH IN TURN)

A.58	Very <u>Likely</u>	Possible but <u>not too likely</u>	Not at <u>all likely</u>	Don't know	
A safe method for the long-term storage or disposal of waste products from nuclear power plants	1	2	3	0	255
A cure for common forms of cancer	1	2	3	0	256
A cure for senility	1	2	3	0	257
People living in space stations	1	2	3	0	258

Q.59 We hear a lot about energy conservation these days. Do you feel that saving energy is.....(READ)

- A.59
- 1 Very important 259
 - 2 Important
 - 3 Not very important, or
 - 4 Not at all important
 - 0 Don't know (DO NOT READ)

Q.60 How important do you think it is to preserve the environment? Is it...(READ)

- A.60
- 1 Very important 260
 - 2 Important
 - 3 Not very important, or
 - 4 Not at all important
 - 0 Don't know (DO NOT READ)

Q.61 What first comes to your mind when you think of American culture?
Please tell me as many things as you can. PROBE: What else?

A.61

261
262
263
264

Q.62 I would now like to ask you a few questions about religion. Do you have any personal religious faith?

A.62

- 1 Yes
2 No
0 Don't know

265

Q.63 Without reference to any of the established religions, do you think a religious attitude is important, or not important?

A.63

- 1 Important
2 Not important
3 Other (PLEASE SPECIFY) _____
0 Don't know

266

Q.64 Some people say that although there are many different religions in the world, each with their own beliefs, their teachings really all amount to the same thing. Would you agree with this or disagree?

A.64

- 1 Agree
2 Disagree
3 Other (PLEASE SPECIFY) _____
0 Don't know

267

Q.65 (HAND CARD 65) In political matters people often refer to "liberals" as being on the 'left' and "conservatives" as being on the 'right'. On this scale, where '10' is the most conservative and '1' is the most liberal, where would you place yourself?

A.65

268 Left (liberal) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 Right (conservative)

269 0 Don't know

Q.66 To what extent would you say you are interested in politics? (READ)

A.66

- | | | |
|---|--------------------------|-----|
| 1 | A great deal | 270 |
| 2 | To some extent | |
| 3 | Not much, or | |
| 4 | Not at all | |
| 0 | Don't know (DO NOT READ) | |

(HAND CARD 67)
Q.67 Would you say that you have a favorable or unfavorable opinion towards each of the following ideas? (READ EACH IN TURN)

A.67

	Favorable Opinion	It depends	Unfavorable Opinion	Don't know	
Democracy	1	2	3	0	271
Capitalism	1	2	3	0	272
Socialism	1	2	3	0	273
Liberalism	1	2	3	0	274

<p>Q.68 On the whole, how satisfied are you with the way democracy works in America? Would you say...(READ)</p>	<p>A.68</p> <table> <tbody> <tr><td>1</td><td>Very satisfied</td><td>275</td></tr> <tr><td>2</td><td>Fairly satisfied</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>Not very satisfied, or</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>Not at all satisfied</td><td></td></tr> <tr><td>0</td><td>Don't know (DO NOT READ)</td><td></td></tr> </tbody> </table>	1	Very satisfied	275	2	Fairly satisfied		3	Not very satisfied, or		4	Not at all satisfied		0	Don't know (DO NOT READ)	
1	Very satisfied	275														
2	Fairly satisfied															
3	Not very satisfied, or															
4	Not at all satisfied															
0	Don't know (DO NOT READ)															
<p>Q.69 With what you know of the legal system, how well do you feel it is working in this country today? Would you say...(READ)</p>	<p>A.69</p> <table> <tbody> <tr><td>1</td><td>Very well</td><td>276</td></tr> <tr><td>2</td><td>Fairly well</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>Poorly, or</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>Very poorly</td><td></td></tr> <tr><td>0</td><td>Don't know (DO NOT READ)</td><td></td></tr> </tbody> </table>	1	Very well	276	2	Fairly well		3	Poorly, or		4	Very poorly		0	Don't know (DO NOT READ)	
1	Very well	276														
2	Fairly well															
3	Poorly, or															
4	Very poorly															
0	Don't know (DO NOT READ)															
<p>Q.70 (HAND CARD 70) On this card there are two opinions regarding the relationship between workers and employers. Which one best describes your own opinion? Just call off the letter, please.</p>	<p>A.70</p> <table> <tbody> <tr><td>A 1</td><td>Since the interests of workers and employers are completely opposed it is right and proper that they should always be in conflict with one another.</td><td>277</td></tr> <tr><td>B 2</td><td>Basically the interests of workers and employers are the same, for if a company makes money it is able to pay better wages. Therefore, they should cooperate with each other.</td><td></td></tr> <tr><td>0</td><td>Don't know</td><td></td></tr> </tbody> </table>	A 1	Since the interests of workers and employers are completely opposed it is right and proper that they should always be in conflict with one another.	277	B 2	Basically the interests of workers and employers are the same, for if a company makes money it is able to pay better wages. Therefore, they should cooperate with each other.		0	Don't know							
A 1	Since the interests of workers and employers are completely opposed it is right and proper that they should always be in conflict with one another.	277														
B 2	Basically the interests of workers and employers are the same, for if a company makes money it is able to pay better wages. Therefore, they should cooperate with each other.															
0	Don't know															

278-80=Z

303-06-10
310-11-103'

Q.71 (HAND CARD 71) On this card there are three basic attitudes concerning the society we live in. Please choose the one which best describes your own opinion. Just call off the letter, please.

- A.71
- A 1 The entire way our society is organized must be radically changed by revolutionary action 312
- B 2 Our society must be gradually improved by reform
- C 3 Our present society must be valiantly defended against all subversive forces
- 0 Don't know

Q.72A Do you think that American society in general needs to undergo a profound transformation?

- A.72A
- 1 Yes 313
- 2 No —————— SKIP TO Q.73
- 0 Don't know ——————

Q.72B To change society in the way you would like are you in favor of gradual improvements or radical change?

- A.72B
- 1 Gradual improvements 314
- 2 Radical changes
- 0 Don't know

Q.73 Which political party do you usually feel closest to?

- A.73 315
- 1 Republican _____ ASK Q.74
2 Democrat _____
3 Independent _____
4 Other _____
5 No political party _____
6 Refused to say _____ SKIP TO Q.75
0 Don't know _____

Q.74 Do you feel yourself to be very close to this party, fairly close, or not very close?

- A.74 316
- 1 Very close
2 Fairly close
3 Not very close
0 Don't know

Q.75A (HAND CARD 75) This next card is called a "feeling thermometer" and we would like to use it to measure your feelings towards various parties. If you don't feel particularly warm or cold towards a party place it at the 50 degree mark. If you have a warm feeling towards a party give it a score somewhere between 50 and 100. On the other hand, if you don't feel very favorable towards a party then place it somewhere between 0 and 50.

First the Republican Party. Where do you put them on the thermometer?

Republican

317-19
100 Don't know

Q.75B And how about the Democratic Party? Where would you put them on the thermometer.

Democrat

320-22
100 Don't know

323-28 = Z

謝 辞

本研究リポートは、文部省科学研究費・試験研究A(1)課題番号04509001「意識の国民性比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究」の成果の報告書を研究リポート用に手直ししたものである。この研究は、それまでの統計数理研究所における長年の学際的、国際的調査研究の延長上にある。これまで、文部省や財団等多方面からの大きな御援助をいただき、深く感謝いたします。

また、この研究リポート作成にあたり、宮本彩子、金田ユリ子、林玲、井上未央、水野涼子、神むつみ、釜野さおり、許綺徳の皆様にもご協力いただき、感謝いたします。

Research Report
General Series No.77

Application of Cultural Link Analysis for Comparative Social Survey

March 1995

The Institute of Statistical Mathematics
(Tōkei-Sūri Kenkyūzyo)

4-6-7 Minami-Azabu, Minato-ku
Tokyo 106, Japan